

病院年報

第 30 卷

- 2020 -



高度放射線棟

愛知県◎**豊橋市民病院**

「病院年報」

表紙題字 名誉院長 故 森 泰 樹

序



院長 浦野 文博

2020年は新型コロナウイルス感染症で始まりました。1月に国内で第1例目の感染例が報告され、2月には豪華クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」での集団感染が起き、2月14日にその患者のひとりが当院に入院しました。そのころより、マスクや手指消毒用アルコール、ガウンといった病院で医療を行ううえで必須の物品が、十分量確保できない事態が長く続きました。本来であれば、日に何枚も必要なマスクを1-3日使い続けることもありました。未だにこの感染症の終息はみられていません。そういった状況であっても、院内でこの感染症が拡がることなく、今日を迎えることができたのは、全職員がこの危機的状況を理解し、感染症管理センターが中心となり、しっかりとした感染対策がとれたからに他なりません。この紙面をお借りして感謝を申し上げます。また、管理課物品担当の努力により最低限の必要物品が確保でき、他施設よりも恵まれた環境で診療を持続できたことも忘れてはなりません。

さて、災害ともいえるコロナ禍に対応するため、南病棟1階を新型コロナウイルス感染症患者用に転用し、不急の入院検査、手術等も一時的には制限もしました。患者の受療行動も変容し、外来患者数、入院患者数の減少のみならず、紹介患者数や手術件数も減少した1年でした。また、多くの学会、講演会や会議が中止、延期となりましたが、年度後半には今まではなかなか普及しなかったWeb開催が一気に広がってきました。各診療科のデータをみると、ほとんどの科で診療実績や学会発表は減少しています。Webでの会議や研究発表は今後ともこの傾向が続き、多くの人が集まり対面で議論する機会は減ってくると思われます。オンライン診療は、いまだ多くの問題があり、普及するにはまだ時間がかかりそうですが、この環境の変化に適切に対応することが必要であり、それが今後の実績を向上させることにつながります。

今までに経験したことのない1年を振り返り、今後の新しい方向性を見出すため、この年報を役立てていただきたいと思います。

豊橋市民病院の理念

信頼に応える技術と、人に優しい思いやりのある心を持ち、
地域に開かれた安らぎのある病院を目指します。

豊橋市民病院の基本方針

1. 地域に開かれた信頼のある病院、患者に優しい思いやりのある医療を目指します。
2. 地域の基幹病院としてふさわしい高度な医療を提供するとともに、特殊医療、救急医療等を積極的に受け持ちます。
3. 基幹病院としての役割を担いながら、他の医療機関との間の有機的な連携のもとに当院の行うべき医療活動を推進します。
4. 医学及び医療技術の研鑽に努めるとともに、医学・医療の進歩に寄与します。
5. 研修医、医学部学生、看護学生、コメディカル、救急救命士などの教育を積極的に行います。
6. 地域住民の保健知識の普及に努め、健康増進活動に参加します。
7. 公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます。
8. 安全医療の推進に努めます。

患者の権利と責任

豊橋市民病院は、十分に説明され、理解し納得した上での同意を基本姿勢として、患者さんと信頼関係で結ばれた医療を目指しています。ここに患者さんの権利と責任について明らかにし、病院と患者さんが協力して理想的な医療を行うために以下のことを確認します。

1. 最善の医療を受ける権利

患者さんは、生命の尊重と人間愛に基づいた最善の医療を受ける権利を有します。

2. 知る権利

患者さんは、病名、症状、予後、検査と治療の内容と危険性、薬の効果と副作用などについて十分に理解できるまで説明を受けることができます。医師は、薬の治験など、研究途上にある医療行為を行う場合には事前に患者さんに説明をする義務があります。患者さんは、治療に要する見込みの費用や、要した費用の明細について説明を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によりご家族、代理の方に説明することがあります。

3. 自己決定の権利

患者さんは、緊急時などの場合を除き、十分な情報と医療従事者の助言を得た上で、ご自分の意志により、検査、治療などの医療行為に同意、選択或いは拒否する権利を有し、その場合に医学的にどのような結果になるかを知らされる権利を有します。

また、患者さんは担当医などの医療従事者を選択すること、紹介状を請求して別の病院にかかわること及び患者さんの求める他の医師の意見を聞くことができます。

4. プライバシーが保護される権利

患者さんは、個人の情報を直接医療にかかわる医療従事者以外の第三者に開示されない権利を有します。また、私的なことに干渉されない権利を有します。

5. 参加と共同の責任

これらの権利を守るため、患者さんは医療従事者と力を合わせて医療に参加、協力する責任があります。

目 次

I	沿革	1
II	現況	3
	1. 施設の概要	3
	2. 承認事項・診療科の状況	4
	3. 病床の状況	4
	4. 機構図	5
	5. 職員数	6
	6. 病棟別病床数	6
	7. 施設案内	7
	8. 指定医療機関及び専門医研修施設等	8
III	患者動向	11
	1. 入院科別患者数	11
	2. 外来科別患者数	12
	3. 病棟別患者数	13
	4. 救急外来センター来院方法別受診状況	13
	5. 救急外来センター受診後の動向	14
	6. 救急入院センター・集中治療センター患者数	14
	7. 地域別患者割合	14
	8. 紹介・逆紹介患者数及び率	15
	9. 手術件数	15
	9-2. 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数	16
	10. 分娩件数	16
IV	疾病統計	17
	1. 入院患者の疾病分類別（大分類）患者数	17
	2. 死亡症例	17
	3. 悪性新生物新患者数	18
V	診療業務概要、活動報告	19
	総合内科	19
	呼吸器内科・アレルギー内科	20
	消化器内科	22
	循環器内科	25
	腎臓内科	28
	糖尿病・内分泌内科	30
	脳神経内科	32
	血液・腫瘍内科	35
	一般外科・小児外科・肛門外科	38
	呼吸器外科	44
	心臓外科・血管外科	46
	移植外科	48
	整形外科	50
	リウマチ科	53
	脊椎外科	56
	脳神経外科	58
	小児科	61
	小児科（新生児部門）	64
	産婦人科	66
	産婦人科（生殖医療）	73
	女性内視鏡外科	75

耳鼻いんこう科	76
眼科	78
皮膚科	81
泌尿器科	83
放射線科	86
こころのケア科	89
麻酔科（ペインクリニック）	91
リハビリテーション科	94
病理診断科	96
臨床検査科	97
歯科口腔外科	99
健診科	102
経営企画室	103
医療安全管理室	106
診療記録管理室	109
臨床研究管理室	111
感染症管理センター	112
シミュレーション研修センター	115
卒後臨床研修センター	116
専門医研修センター	117
救急外来センター	119
救急入院センター	122
集中治療センター	124
周産期母子医療センター（母体・胎児部門）	125
周産期母子医療センター（新生児部門）	126
総合生殖医療センター	127
リハビリテーションセンター	128
血液浄化センター	129
予防医療センター	130
輸血・細胞治療センター	133
ゲノム診療センター	135
外来治療センター	136
手術センター	138
口唇口蓋裂センター	140
患者総合支援センター	141
入退院支援センター	144
一次脳卒中センター	146
診療技術局	147
放射線技術室	148
中央臨床検査室	151
リハビリテーション技術室	162
臨床工学室	165
栄養管理室	175
薬局	178
看護局	185
事務局	197
医師事務作業補助者	204
VI 研究・業績	209
VII 院内委員会の活動記録	229

I 浴 革

I 沿革

明治21(1888)年	6月	私立豊橋慈善病院として開業
明治35(1902)年	6月	社団法人豊橋病院と改組
昭和7(1932)年	6月	社団法人豊橋病院を買収して、市立豊橋病院を開院
昭和21(1946)年	7月	豊橋市立豊橋市民病院と改称
昭和26(1951)年	7月	豊橋市民病院改称(医療法による総合病院に指定)
昭和46(1971)年	3月	人工腎臓センターを設置
昭和57(1982)年	3月	救命救急センター完成(地下1階、地上6階)
	3月	リハビリテーションセンター完成(地下1階、地上3階)
平成5(1993)年	4月	「臨床研修病院」の指定
平成8(1996)年	5月	豊橋市民病院桜ヶ岡分院を統合し、青竹町地内に移転 健診センターを設置
	6月	病診連携室を設置
	11月	「地域災害医療センター」の指定(災害拠点病院の指定)
平成9(1997)年	12月	(財)日本医療機能評価機構より「病院機能評価」の認定を受ける
平成10(1998)年	4月	輸血センターを設置
	7月	「地域周産期母子医療センター」の認定を受ける
平成11(1999)年	4月	「第2種感染症指定医療機関」の指定を受ける 不妊センターを設置
平成12(2000)年	8月	許可病床数 910 床に変更
平成13(2001)年	4月	人工腎臓センターを血液浄化センターに改称
平成14(2002)年	4月	「へき地医療拠点病院」の指定を受ける 未熟児センターを新生児医療センターに改称
	8月	治験管理センターを設置
平成15(2003)年	2月	(財)日本医療機能評価機構より2回目の「病院機能評価(一般病院)」の認定を受ける
	4月	感染症管理センターを設置
	8月	「地域がん診療拠点病院」の指定を受ける
平成16(2004)年	4月	健診センターを予防医療センターに改称
平成17(2005)年	4月	機構改革により医療安全管理室の設置
	6月	「DPC(診断群分類による包括医療制度)調査協力病院」の認定を受ける
平成18(2006)年	4月	院内保育所開設
	5月	外来治療センターを設置 「DPC対象病院」に認定されDPC制度による診療報酬請求の開始 文書作成支援システム開始(各科外来)
平成19(2007)年	12月	(財)日本医療機能評価機構より3回目の「病院機能評価(審査体制区分4)」の認定を受ける
平成20(2008)年	2月	「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受ける(2回目)

平成21(2009)年	2月	「豊橋市民病院改革プラン」を策定
平成22(2010)年	4月	患者総合支援センターを設置
	5月	病院総合情報システム(電子カルテシステム)稼働
	7月	「7対1看護基準」の取得
平成23(2011)年	2月	「豊橋市民病院改革プラン(改訂版)」を策定
	12月	「NPO法人卒後臨床研修評価機構」の認定を受ける〔認定期間 2011.12.1～2013.11.30〕
平成24(2012)年	4月	許可病床数836床に変更(一般病床811床・結核病床15床・感染症病床10床)
	12月	(財)日本医療機能評価機構より4回目の「病院機能評価(審査体制区分6)」の認定を受ける
平成25(2013)年	10月	手術支援ロボットシステム「ダヴィンチ」を導入
	11月	救命救急センターを救急外来センター、救急入院センター及び集中治療センターに分化
	12月	地域連携登録医制度の導入 「NPO法人卒後臨床研修評価機構」の更新認定〔認定期間 2013.12.1～2017.11.30〕
平成26(2014)年	2月	「第2次豊橋市民病院改革プラン」を策定
	4月	許可病床数820床に変更(一般病床800床・結核病床10床・感染症病床10床) 総合周産期母子医療センター及びパースセンターを設置
	9月	「地域医療支援病院」の指定を受ける
	10月	輸血センターを輸血・細胞治療センターに改称
平成27(2015)年	3月	「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受ける(3回目)
	5月	入院支援センターを設置
平成28(2016)年	4月	許可病床数800床に変更(一般病床780床・結核病床10床・感染症病床10床) 「DPC医療機関群Ⅱ群」の指定を受ける
	10月	高度放射線棟開設
	4月	診療記録管理室、臨床研究管理室及びシミュレーション研修センターを設置
平成29(2017)年	4月	卒後臨床研修センターを初期臨床研修センター及び後期臨床研修センターに分化
	12月	(財)日本医療機能評価機構より5回目の「病院機能評価(一般病院2)」の認定を受ける 「NPO法人卒後臨床研修評価機構」の更新認定〔認定期間 2017.12.1～2019.11.30〕
	3月	厚生労働省より「がんゲノム医療連携病院」の指定を受ける
平成30(2018)年	4月	ゲノム診療センターを設置 初期臨床研修センターを卒後臨床研修センター、後期臨床研修センターを専門医研修センターに改称 入院支援センターを入退院支援センターに改称
	2月	手術センター棟しゅん工
	3月	臨床検査室認定機関国際規格「ISO15189」の認定を取得 「地域がん診療連携拠点病院」の指定(4回目)を受ける 「NPO法人卒後臨床研修評価機構」の更新認定〔認定期間 2019.12.1～2021.11.30〕
平成31(2019)年	4月	経営企画室を設置
	4月	一次脳卒中センター開設
令和2(2020)年	4月	
令和3(2021)年	3月	「第3次豊橋市民病院改革プラン」を策定

Ⅱ 現 況

Ⅱ 現 況

令和3年3月31日

1. 施設の概要

所在地	豊橋市青竹町字八間西50番地	
施設規模	敷地面積（企業会計財産）	92,204.52㎡
	建物延面積	63,130.92㎡
	建物	地上9階 鉄骨・鉄筋コンクリート造
	診療部門	13,526.74㎡
	病棟部門	21,376.79㎡
		(感染症病床422.78㎡を含む)
	救命救急センター	2,620.90㎡
		(集中治療室1,451.72㎡を含む)
	新生児医療センター	619.83㎡
	リハビリテーションセンター	818.97㎡
	血液浄化センター	418.03㎡
	予防医療センター	199.15㎡
	外来治療センター	259.30㎡
	患者総合支援センター	235.15㎡
	入退院支援センター	95.01㎡
	高度放射線棟	4,129.09㎡
	サービス部門	10,946.79㎡
	管理部門	5,542.59㎡
	特別高圧変電所	813.08㎡
	手術センター棟	1,529.50㎡

2. 承認事項・診療科の状況

(豊橋市病院事業の設置等に関する条例)

(1) 承認事項

開業開始年月日	法適用年月日	法適用区分	救急告示の有無
昭和7年6月1日	昭和39年4月1日	当然財務	有(30床) (平成29年7月18日)

(2) 診療科

内 科	呼 吸 器 内 科	消 化 器 内 科	循 環 器 内 科
ア レ ル ギ ー 科	感 染 症 内 科	腎 臓 内 科	糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科
脳 神 経 内 科	血 液 ・ 腫 瘍 内 科	外 科	呼 吸 器 外 科
心 臓 外 科	血 管 外 科	小 児 外 科	形 成 外 科
肛 門 外 科	移 植 外 科	整 形 外 科	リ ウ マ チ 科
脳 神 経 外 科	小 児 科	小 児 科 (新 生 児)	産 婦 人 科
産 婦 人 科 (生 殖 医 療)	女 性 内 視 鏡 外 科	耳 鼻 い ん こ う 科	眼 科
皮 膚 科	泌 尿 器 科	放 射 線 科	精 神 科
麻 酔 科	救 急 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	病 理 診 断 科
歯 科	口 腔 外 科		

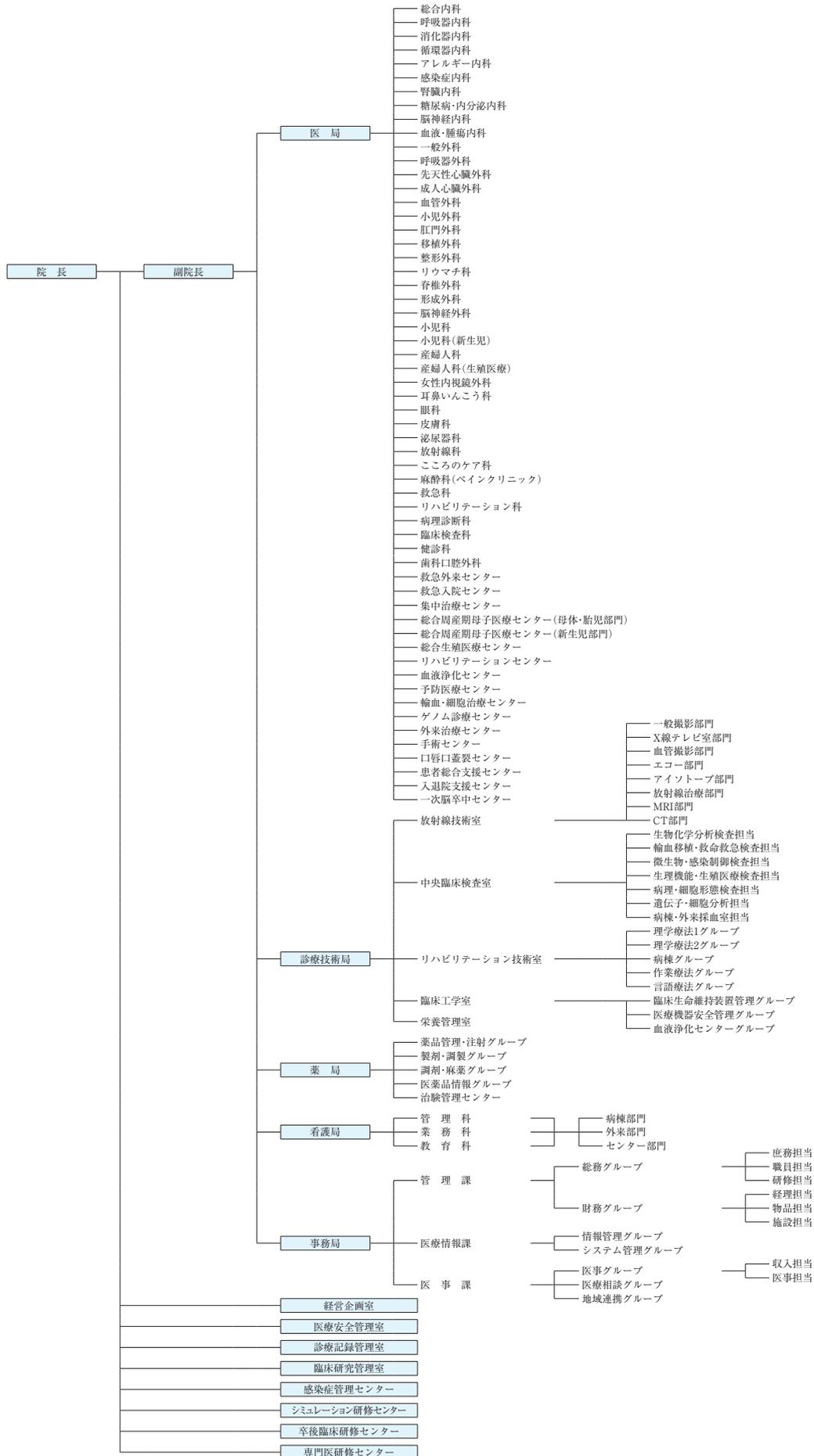
3. 病床の状況

許 可 病 床 数	一 般	精 神	結 核	感 染 症	合 計
	780床	—	10床	10床	800床

特定入院料算定病床	救急入院	ICU	MFICU	NICU	小児(NMC)	小児(東2)
	24床	6床	6床	12床	23床	43床

4. 機構図

令和3年3月31日



5. 職員数

令和3年3月31日

区 分		人数
医 師 職	医 師	195
	研 修 医	36
医 療 技 術 職	薬 剤 師	55
	臨 床 検 査 技 師	61
	臨 床 工 学 技 士	24
	放 射 線 技 師	51
	歯 科 衛 生 士	7
	理 学 療 法 士	26
	作 業 療 法 士	12
	言 語 聴 覚 士	7
	視 能 訓 練 士	6
	管 理 栄 養 士	15
公 認 心 理 師	2	

区 分		人数
看 護 保 健 職	看 護 師	851
	准 看 護 師	29
	保 健 師	2
一 般 行 政 職	管 理 課	27
	医 療 情 報 課	12
	医 事 課	22
	医 療 安 全 管 理 室	2
技 能 労 務 職	経 営 企 画 室	3
	事 務 労 務 職 助 手	2
そ の 他 臨 時 職 員	助 手 (病 棟 助 手 等)	82
	ド ク タ ー ク ラ ー ク	28
	外 来 ク ラ ー ク	21
	そ の 他 (事 務 等)	82
合 計		1,660

6. 病棟別病床数

令和3年3月31日

区 分	許可(稼働)病床	病 床 内 訳
東病棟 2階	43床	小児科 35 小児外科 4 耳鼻いんこう科(小児) 4
〃 3階	50床	循環器内科 25 呼吸器外科 8 心臓・血管外科 9 腎臓内科 8
東病棟 4階	50床	バースセンター 20 婦人科 6 MFICU 6 産科 18
西病棟 4階		
東病棟 5階	46床	一般外科 37 脳神経内科 7 移植外科 2
〃 6階	52床	消化器内科 49 総合内科 3
〃 7階	49床	呼吸器内科 34 耳鼻いんこう科 15
〃 8階	51床	整形外科・リウマチ科 51
〃 9階	47床	糖尿病・内分泌内科 12 産婦人科 20(うち生殖医療 2) 眼科 15
西病棟 2階	44床	脳神経外科 29 脳神経内科 11 耳鼻いんこう科 4
〃 3階	30床	集中治療 6 救命救急 24
〃 5階	46床	一般外科 33 皮膚科 13
〃 6階	50床	消化器内科 45 腎臓内科 5
〃 7階	52床	呼吸器内科 44 歯科口腔外科 8
〃 8階	46床	泌尿器科 35 整形外科 11
〃 9階	49床	血液・腫瘍内科 49
南病棟 1階	40床	脳神経内科 27 整形外科・リウマチ科 13
〃 2階	20床	結核 10 感染症 10
新生児医療センター	35床	NICU 12 GCU 23
計	800床	

診療科別病床数

呼 吸 器 内 科	78床	心臓外科・血管外科	9床	耳鼻いんこう科	23床
消 化 器 内 科	94	呼 吸 器 外 科	8	眼 科	15
循 環 器 内 科	25	小 児 外 科	4	皮 膚 科	13
腎 臓 内 科	13	移 植 外 科	2	泌 尿 器 科	35
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	12	整 形 外 科 ・ リウマチ科	75	歯 科 口 腔 外 科	8
脳 神 経 内 科	45	形 成 外 科	0	集 中 治 療	6
血 液 ・ 腫 瘍 内 科	49	脳 神 経 外 科	29	救 命 救 急	24
綜 合 内 科	3	小 児 科	70	感 染 症 病 床	10
一 般 外 科	70	産 婦 人 科	70	結 核 病 床	10
				計	800

7. 施設案内

令和3年3月31日

名称	各階	主 な 施 設
診 療 棟	1階	総合内科 呼吸器内科 アレルギー内科 消化器内科 循環器内科 腎臓内科 脳神経内科 血液・腫瘍内科 整形外科 脊椎外科 リウマチ科 形成外科 産婦人科（生殖医療）・総合生殖医療センター 放射線科 一般外科 小児外科 呼吸器外科 移植外科 心臓外科 血管外科 肛門外科 麻酔科（ペインクリニック） 脳神経外科 泌尿器科 救急外来センター 入院受付 外来治療センター 患者総合支援センター 入退院支援センター X線撮影室 CT室 テレビカメラ室 MRI室 内視鏡室 エコー・乳腺検査室 薬局 医事課 総合案内所 防災センター 喫茶室
	2階	こころのケア科 皮膚科 糖尿病・内分泌内科 耳鼻いんこう科 産婦人科 小児科 病理診断科 臨床検査科 歯科口腔外科・口唇口蓋裂センター 眼科 血液浄化センター 回復室 予防医療センター 中央臨床検査室 輸血・細胞治療センター 薬局 臨床工学室 中央滅菌材料室 中央倉庫 中央監視室 レストラン コンビニ
	3階	新生児医療センター 手術センター 院長室 副院長室 医局長室 看護局長室 事務局長室 経営企画室 医療安全管理室 診療記録管理室 臨床研究管理室 医局 看護局 管理課 医療情報課 医学情報室 情報研修室 講堂 応接室 会議室 当直室 仮眠室 電話交換室 職員食堂
管 理 棟	1階	院内保育所
	2階	専攻医室 レセプト点検室
	3階	研修医室
手 術 セ ン タ ー 棟	1階	委託業者等更衣室 清掃業者控室等 職員組合
	2階	大型機材室 自己採血室 幹細胞処理室 感染症管理センター 自己血採血室
	3階	ハイブリッド手術室 内視鏡手術室 ダヴィンチ専用手術室
東 病 棟	1階	栄養管理室 給食調理室
	2階	小児科 小児外科 耳鼻いんこう科（小児）
	3階	呼吸器外科 心臓外科 血管外科 循環器内科 腎臓内科
	4階	産婦人科 パースセンター
	5階	一般外科 脳神経内科 移植外科
	6階	総合内科 消化器内科
	7階	呼吸器内科 耳鼻いんこう科
	8階	整形外科 リウマチ科
	9階	糖尿病・内分泌内科 産婦人科 眼科 産婦人科（生殖医療）
西 病 棟	1階	リハビリテーションセンター 解剖室 霊安室
	2階	脳神経外科 脳神経内科 耳鼻いんこう科
	3階	集中治療センター（ICU） 救急入院センター
	4階	産婦人科 母体胎児集中治療室（MFICU）
	5階	一般外科 皮膚科
	6階	消化器内科 腎臓内科
	7階	呼吸器内科 歯科口腔外科
	8階	泌尿器科 整形外科
	9階	血液・腫瘍内科
南 病 棟	1階	整形外科 脳神経内科 リウマチ科
	2階	結核病床 感染症病床
高 度 放 射 線 棟	1階	放射線治療室 CTシミュレーター室 腔内照射室 アイソトープ検査室 PET-CT検査室 ガンマカメラ室 SPECT-CT室
	2階	シミュレーション研修センター 治験管理センター 医薬品情報室 モニタリング室 ME機材室 屋上庭園
	3階	備蓄倉庫 看護学生用学習室

8 指定医療機関及び専門医研修施設等

(1) 機関指定

- ・ 保険医療機関
- ・ 労災保険指定病院
- ・ 更生医療指定病院
- ・ 育成医療指定病院
- ・ 母体保護法指定医
- ・ 被爆者一般疾病医療機関
- ・ 児童福祉施設(助産施設)
- ・ エイズ治療拠点病院
- ・ 日本病院会・優良短期人間ドック施設
- ・ 救命救急センター
- ・ 地域がん診療連携拠点病院
- ・ 総合周産期母子医療センター
- ・ 特定不妊治療指定医療機関
- ・ 難病指定医療機関
- ・ がんゲノム医療連携病院
- ・ 救急病院
- ・ 生活保護法等指定医療機関
- ・ 養育医療指定病院
- ・ 結核指定医療機関
- ・ 身体障害者福祉法指定医
- ・ 公害医療機関
- ・ 基幹型臨床研修病院
- ・ 単独型臨床研修施設(歯科)
- ・ 災害拠点病院
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ へき地医療拠点病院
- ・ DMAT指定医療機関
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 指定小児慢性特定疾病医療機関

(2) 施設基準届出事項

○基本診療料

- ・ 一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)
- ・ 結核病棟入院基本料(7対1入院基本料)
- ・ ADL維持向上等体制加算
- ・ 総合入院体制加算3
- ・ 超急性期脳卒中加算
- ・ 診療録管理体制加算1
- ・ 医師事務作業補助体制加算2(20対1)
- ・ 急性期看護補助体制加算(50対1)
- ・ 看護職員夜間配置加算(16対1配置加算)
- ・ 療養環境加算
- ・ 重症者等療養環境特別加算
- ・ 無菌治療室管理加算1
- ・ 栄養サポートチーム加算
- ・ 医療安全対策加算1、医療安全対策地域連携加算1
- ・ 感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算
- ・ 患者サポート体制充実加算
- ・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ ハイリスク妊娠管理加算
- ・ ハイリスク分娩管理加算
- ・ 呼吸ケアチーム加算
- ・ 後発医薬品使用体制加算2
- ・ 病棟薬剤業務実施加算1
- ・ 病棟薬剤業務実施加算2
- ・ データ提出加算2(イ 200床以上)
- ・ 入退院支援加算1、入院時支援加算
- ・ 入退院支援加算3
- ・ 認知症ケア加算
- ・ 精神疾患診療体制加算
- ・ 救命救急入院料1
- ・ 特定集中治療室管理料4
- ・ 新生児特定集中治療室管理料1
- ・ 総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)
- ・ 小児入院医療管理料2
- ・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料
- ・ 歯科外来診療環境体制加算2
- ・ 歯科診療特別対応連携加算

○特掲診療料関係

- ・ 糖尿病合併症管理料
- ・ がん性疼痛緩和指導管理料
- ・ がん患者指導管理料イ
- ・ がん患者指導管理料ロ
- ・ がん患者指導管理料ハ
- ・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)
- ・ 糖尿病透析予防指導管理料
- ・ 乳腺炎重症化予防・ケア指導料
- ・ 院内トリアージ実施料
- ・ 外来放射線照射診療料
- ・ 療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算
- ・ 開放型病院共同指導料
- ・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
- ・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
- ・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
- ・ 経皮的の中隔心筋焼灼術
- ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
- ・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
- ・ 腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
- ・ 腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

- ・がん治療連携計画策定料
- ・排尿自立指導料
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・ハイリスク妊産婦連携指導料1
- ・薬剤管理指導料
- ・医療機器安全管理料1
- ・医療機器安全管理料2
- ・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
- ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
- ・遺伝学的検査
- ・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
- ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- ・検体検査管理加算(Ⅰ)
- ・遺伝カウンセリング加算
- ・検体検査管理加算(Ⅳ)
- ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・ヘッドアップテイルト試験
- ・長期継続頭蓋内脳波検査
- ・神経学的検査
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・内服・点滴誘発試験
- ・ポジトロン断層撮影
- ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
- ・CT撮影及びMRI撮影
- ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・外来化学療法加算1
- ・無菌製剤処理料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・リンパ浮腫複合的治療料
- ・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
- ・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
- ・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
- ・硬膜外自家血注入
- ・人工腎臓
- ・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
- ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ・センチネルリンパ節加算
- ・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)
- ・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る)
- ・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
- ・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
- ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
- ・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
- ・乳がんセンチネルリンパ節加算1
- ・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
- ・体外衝撃波胆石破碎術
- ・腹腔鏡下肝切除術
- ・腹腔鏡下痔腫瘍摘出術
- ・腹腔鏡下痔体尾部腫瘍切除術
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
- ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
- ・同種死体腎移植術
- ・生体腎移植術
- ・膀胱水圧拡張術
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
- ・人工尿道括約筋植込・置換術
- ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
- ・腹腔鏡下仙骨腔固定術
- ・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術(胃瘻造設術等)
- ・輸血管理料Ⅰ
- ・輸血適正使用加算
- ・貯血式自己血輸血管理体制加算
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・麻酔管理料(Ⅰ)
- ・麻酔管理料(Ⅱ)
- ・放射線治療専任加算
- ・外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- ・1回線量増加加算
- ・強度変調放射線治療(ⅠMRT)
- ・画像誘導放射線治療(ⅠGRT)
- ・定位放射線治療
- ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- ・病理診断管理加算1
- ・悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
- ・医療機器安全管理料(歯科)
- ・精密触覚機能検査
- ・歯科口腔リハビリテーション料2
- ・手術用顕微鏡加算
- ・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療に係るものに限る)、
下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療に係るものに限る)
- ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- ・歯根端切除手術の注3
- ・口腔病理診断管理加算1
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料

(3) 専門医研修施設等

- ・日本内科学会認定教育病院
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設
- ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・日本消化器がん検診学会認定指導施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本循環器学会循環器研修施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
- ・日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・日本腎臓学会認定教育施設
- ・日本透析医学会認定施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設 I
- ・日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本神経学会教育施設
- ・日本血液学会研修認定施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携施設)
- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設(認定施設)
- ・日本乳癌学会認定施設
- ・日本乳房オンコプラステックサージャリー学会インプラント実施施設(一次一期再建)
- ・日本乳房オンコプラステックサージャリー学会エキスパンダー実施施設(一次再建)
- ・呼吸器外科専門医合同委員会認定専門医研修基幹施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定関連施設
- ・日本小児外科学会認定名古屋大学小児外科教育関連施設B
- ・日本膵臓学会認定指導施設
- ・日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B
- ・日本内分泌外科学会専門医制度関連施設
- ・日本超音波医学会専門医研修施設
- ・日本認知症学会教育施設
- ・日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会認定実施施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST実地修練認定教育施設
- ・日本整形外科学会研修施設
- ・日本手外科学会認定研修施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
- ・日本脳神経外科学会専門医研修病院
- ・日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設
- ・日本頭痛協会認定施設
- ・日本小児科学会専門医研修支援施設
- ・日本産科婦人科学会専攻医指導施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期(新生児)専門医基幹研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・胎児)基幹認定施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ・日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設
- ・日本産科婦人科学会生殖補助医療実施登録施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医基幹教育施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本放射線腫瘍学会認定施設
- ・日本核医学会専門医教育病院
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本病理学会研修認定施設B
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本口腔外科学会専門医制度認定研修施設
- ・日本口腔科学会認定医制度研修施設
- ・日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
- ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設
- ・名古屋大学医学部附属病院東海圏救急科専門研修プログラム連携施設

(4) 研修施設等(名称・認定団体)

①放射線技術室

- マンモグラフィ検診施設認定
- 日本消化器がん検診学会認定指導施設
- 日本診療放射線技師会臨床研修実習指導施設

- マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
- 日本消化器がん検診学会
- 日本診療放射線技師会

②中央臨床検査室

- 日本臨床検査標準協議会精度保障施設
- 日本臨床細胞学会認定施設
- 認定臨床微生物検査技師制度研修施設
- 認定輸血検査技師制度指定施設
- 骨髓検査技師認定制度研修施設
- 日本病理学会研修認定施設
- 臨床輸血看護師制度指定研修施設
- 日本輸血・細胞治療学会I&A認証施設

- 日本臨床検査標準協議会
- 日本臨床細胞学会
- 日本臨床微生物学会
- 日本輸血細胞治療学会
- 日本検査血液学会
- 日本病理学会
- 日本輸血・細胞治療学会
- 日本輸血・細胞治療学会

③栄養管理室

- NST(栄養サポートチーム)稼働施設
- 「栄養サポートチーム専門療法士」認定教育施設
- NST稼働施設

- 日本臨床栄養代謝学会
- 日本臨床栄養代謝学会
- 日本栄養療法推進協議会

④薬局

- がん専門薬剤師研修施設
- 薬学生実務実習受入施設

- 日本医療薬学会
- 薬学教育協議会

Ⅲ 患者動向

Ⅲ 患者動向

1. 入院科別患者数

区 分	令和2年度				令和元年度				平成30年度			
	延患者数 (人)	一日平均 (人)	構成比 (%)	新患者数 (人)	延患者数 (人)	一日平均 (人)	構成比 (%)	新患者数 (人)	延患者数 (人)	一日平均 (人)	構成比 (%)	新患者数 (人)
内 科	110,106	302	47.5	7,741	120,289	328	46.4	8,031	112,006	307	44.5	7,759
総合内科	1,236	3	1.1	77	1,619	4	1.3	88	756	2	0.7	41
呼吸器内科	24,717	68	22.4	1,539	28,447	78	23.6	1,728	27,958	77	25.0	1,863
消化器内科	30,850	85	28.0	2,583	31,993	87	26.6	2,647	31,470	86	28.1	2,623
循環器内科	9,306	25	8.5	925	10,219	28	8.5	963	7,549	21	6.7	777
アレルギー内科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
感染症内科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
腎臓内科	5,743	16	5.2	389	6,359	17	5.3	455	6,124	17	5.5	463
糖尿病・内分泌内科	2,955	8	2.7	238	3,856	11	3.2	303	3,097	8	2.8	252
脳神経内科	15,584	43	14.2	954	20,003	55	16.6	1,022	17,894	49	16.0	983
血液・腫瘍内科	16,040	44	14.6	794	16,632	45	13.8	790	15,846	43	14.1	735
結核	1,345	4	1.2	21	1,016	3	0.8	17	1,312	4	1.2	22
感染症	2,330	6	2.1	221	145	0	0.1	18	0	0	0.0	0
外 科	23,145	63	10.0	1,932	24,591	67	9.5	2,192	24,440	67	9.7	2,210
呼吸器外科	1,517	4	0.7	202	1,649	5	0.6	198	2,611	7	1.0	226
心臓・血管外科	2,263	6	1.0	127	2,998	8	1.2	161	2,771	8	1.1	180
移植外科	684	2	0.3	74	524	1	0.2	55	556	2	0.2	62
整形外科	22,407	61	9.7	1,135	22,360	61	8.6	1,213	22,770	63	9.0	1,310
形成外科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
脳神経外科	15,801	43	6.8	805	16,134	44	6.2	747	15,534	43	6.2	778
小児科	14,044	38	6.1	1,469	18,508	51	7.1	1,940	18,878	52	7.5	2,050
産婦人科	16,221	44	7.0	2,159	19,938	54	7.7	2,407	19,312	53	7.7	2,405
耳鼻いんこう科	8,280	23	3.6	758	9,792	27	3.8	925	8,254	23	3.3	730
眼 科	1,478	4	0.6	269	3,817	10	1.5	768	4,208	12	1.7	853
皮膚科	3,224	9	1.4	279	4,458	12	1.7	297	5,207	14	2.1	308
泌尿器科	10,306	28	4.4	1,143	11,829	32	4.6	1,258	12,613	35	5.0	1,248
放射線科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
麻酔科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
リハビリテーション科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
こころのケア科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
歯科口腔外科	2,328	6	1.0	425	2,550	7	1.0	534	2,510	7	1.0	492
計 ①	231,804	635	100	18,518	259,437	709	100	20,726	251,670	690	100	20,611
前年度 ②	259,437	709	-	20,726	251,670	690	-	20,611	259,566	711	-	19,966
比較(①-②)	△ 27,633	△ 74	-	△ 2,208	7,767	19	-	115	△ 7,896	△ 21	-	645

2. 外来科別患者数

区 分	令和2年度				令和元年度				平成30年度			
	延患者数 (人)	一日平均 (人)	構成比 (%)	新患者数 (人)	延患者数 (人)	一日平均 (人)	構成比 (%)	新患者数 (人)	延患者数 (人)	一日平均 (人)	構成比 (%)	新患者数 (人)
内 科	159,749	657	36.2	14,729	167,114	696	34.8	14,729	161,628	662	34.2	14,513
総合内科	4,282	18	2.7	1,703	5,057	21	3.0	1,703	7,589	31	4.7	1,866
呼吸器内科	27,971	115	17.5	2,373	29,073	121	17.4	2,373	28,053	115	17.4	2,512
消化器内科	49,648	204	31.1	5,644	52,604	219	31.5	5,644	50,167	206	31.0	5,267
循環器内科	17,586	72	11.0	1,321	17,744	74	10.6	1,321	17,111	70	10.6	1,255
アレルギー内科	4	0	0.0	7	13	0	0.0	7	2	0	0.0	1
感染症内科	40	0	0.0	0	63	0	0.0	0	21	0	0.0	0
腎臓内科	8,949	37	5.6	408	10,229	43	6.1	408	9,458	39	5.9	455
糖尿病・内分泌内科	20,999	87	13.1	1,133	21,666	90	13.0	1,133	19,611	80	12.1	1,147
脳神経内科	11,758	48	7.4	1,556	12,443	52	7.4	1,556	11,929	49	7.4	1,483
血液・腫瘍内科	18,512	76	11.6	584	18,222	76	10.9	584	17,687	72	10.9	527
外 科	36,016	148	8.2	2,295	39,564	165	8.2	2,295	38,877	159	8.2	2,440
呼吸器外科	2,937	12	0.7	320	2,893	12	0.6	320	2,687	11	0.6	341
心臓・血管外科	2,979	12	0.7	166	3,108	13	0.6	166	3,005	12	0.6	202
移植外科	1,333	6	0.3	46	1,380	6	0.3	46	1,423	6	0.3	56
整形外科	35,466	146	8.0	4,437	38,657	161	8.0	4,437	40,261	165	8.5	4,491
形成外科	1,022	4	0.2	297	1,651	7	0.3	297	1,542	6	0.3	256
脳神経外科	13,147	54	3.0	1,949	13,638	57	2.8	1,949	12,791	52	2.7	1,997
小児科	24,374	100	5.5	2,763	29,031	121	6.0	2,763	29,847	122	6.3	2,897
産婦人科	37,603	155	8.5	2,619	41,244	172	8.6	2,619	41,338	169	8.8	2,537
耳鼻い んこう科	24,572	101	5.6	3,512	26,844	112	5.6	3,512	24,908	102	5.3	3,380
眼 科	15,050	62	3.4	1,434	19,547	81	4.1	1,434	22,375	92	4.7	1,999
皮膚科	24,394	101	5.5	3,012	27,624	115	5.7	3,012	27,641	113	5.9	3,179
泌尿器科	24,373	100	5.5	1,895	27,039	113	5.6	1,895	26,137	107	5.5	1,682
放射線科	16,034	66	3.6	822	15,576	65	3.2	822	15,659	64	3.3	812
こころのケア科	681	3	0.2	68	694	3	0.1	68	420	2	0.1	58
麻 酔 科	314	1	0.1	205	309	1	0.1	205	309	1	0.1	206
リハビリテーション科	4,297	18	1.0	54	6,731	28	1.4	54	5,901	24	1.3	24
歯科口腔外科	17,186	71	3.9	4,382	17,931	75	3.7	4,382	15,232	62	3.2	3,554
計 ①	441,527	1,817	100	45,005	480,575	2,002	100	45,005	471,981	1,934	100	44,624
前年度 ②	480,575	2,002	-	45,005	471,981	1,934	-	44,624	461,026	1,889	-	43,509
比較(①-②)	△ 39,048	△ 185	-	0	8,594	68	-	381	10,955	45	-	1,115

3. 病棟別患者数

区 分	令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	延患者数 (人)	1日平均 (人)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	延患者数 (人)	1日平均 (人)
東 病 棟 2 階	9,355	26	12,174	33	12,070	33
西 病 棟 2 階	15,921	44	16,215	44	15,883	44
東 病 棟 3 階	16,514	45	17,730	48	16,624	46
西 病 棟 3 階	3,605	10	4,058	11	4,006	11
東 病 棟 4 階	6,594	18	7,769	21	7,388	20
西 病 棟 4 階	5,914	16	7,512	21	7,070	19
東 病 棟 5 階	16,427	45	16,652	45	14,765	40
西 病 棟 5 階	15,109	41	15,969	44	15,776	43
東 病 棟 6 階	17,565	48	18,209	50	17,218	47
西 病 棟 6 階	17,029	47	17,777	49	16,813	46
東 病 棟 7 階	16,960	46	17,785	49	17,500	48
西 病 棟 7 階	17,151	47	18,653	51	18,396	50
東 病 棟 8 階	16,679	46	17,178	47	16,720	46
西 病 棟 8 階	15,585	43	15,839	43	16,249	45
東 病 棟 9 階	13,792	38	15,376	42	14,594	40
西 病 棟 9 階	16,028	44	16,725	46	15,928	44
新生児医療センター	7,118	19	8,649	24	8,735	24
南 病 棟 1 階	2,637	7	14,014	38	14,623	40
南 病 棟 2 階	1,821	5	1,153	3	1,312	4
計	231,804	633	259,437	709	251,670	690

4. 救急外来センター来院方法別受診状況

区 分	入外区分	令和2年度		令和元年度		平成30年度	
		患者数 (人)	合計に占める比率 (%)	患者数 (人)	合計に占める比率 (%)	患者数 (人)	合計に占める比率 (%)
救 急 車	外来	3,459	16.3	3,685	13.7	3,922	14.3
	入院	3,740	17.6	3,676	13.7	3,581	13.1
	計	7,199	33.9	7,361	27.4	7,503	27.4
ドクターヘリ 防災ヘリ	外来	20	0.1	16	0.1	19	0.1
	入院	22	0.1	20	0.1	35	0.1
	計	42	0.2	36	0.1	54	0.2
ウォークイン	外来	11,278	53.2	16,321	60.7	16,717	61.1
	入院	2,695	12.7	3,168	11.8	3,096	11.3
	計	13,973	65.9	19,489	72.5	19,813	72.4
合 計	外来	14,757	69.6	20,022	74.5	20,658	75.5
	入院	6,457	30.4	6,864	25.5	6,712	24.5
	計	21,214	100.0	26,886	100.0	27,370	100.0

5. 救急外来センター受診後の動向

区 分	令和2年度			令和元年度			平成30年度		
	患者数 (人)	うち、救急搬入数 (人)	比率	患者数 (人)	うち、救急搬入数 (人)	比率	患者数 (人)	うち、救急搬入数 (人)	比率
帰 宅	14,718	3,447	23.4%	19,993	3,679	18.4%	20,627	3,919	19.0%
入 院	6,240	3,548	56.9%	6,666	3,500	52.5%	6,521	3,428	52.6%
転 院	39	32	82.1%	29	22	75.9%	31	22	71.0%
死 亡	217	214	98.6%	198	196	99.0%	191	188	98.4%
計	21,214	7,241	34.1%	26,886	7,397	27.5%	27,370	7,557	27.6%

※救急搬入とは、救急車、ドクターヘリ、防災ヘリのこと

6. 救命救急センター患者数

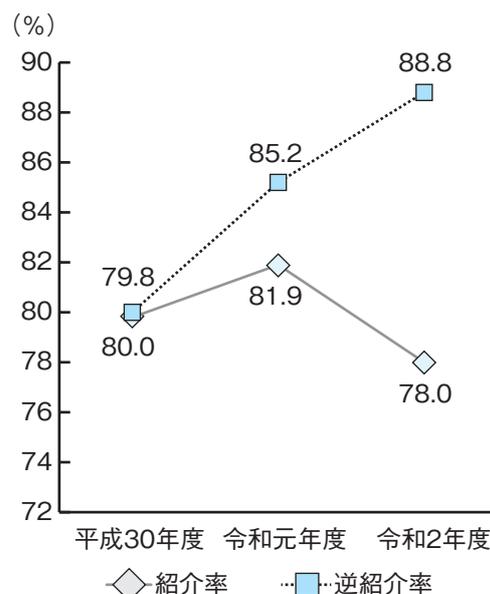
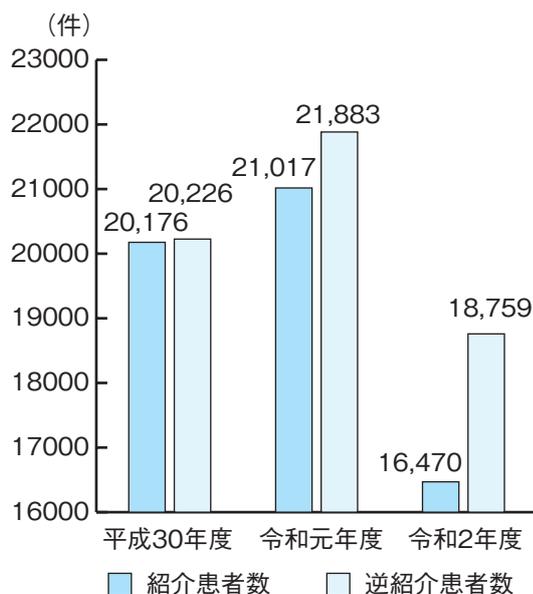
区 分	病床数 (床)	実患者数 (人)	延患者数 (人)	平均在院日数 (日)	1日あたり平均患者数 (人)
内 科	11	569	1,317	2.3	4
外 科	11	311	526	1.7	1
心臓血管・呼吸器外科	3	196	368	1.9	1
脳 神 経 外 科	5	615	1,137	1.8	3
そ の 他	-	226	473	2.1	1
計	30	1,917	3,821	2.0	10
内訳:集中治療センター	6	641	1,561	2.4	4

7. 地域別患者割合

(%)

区 分	入 院			外 来		
	令和2年度	令和元年度	平成30年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
豊 橋 市	73.8	73.7	72.1	72.9	72.1	71.9
豊 川 市	10.2	9.7	10.0	11.4	11.1	11.1
蒲 郡 市	2.3	2.7	3.5	2.9	3.1	3.3
田 原 市	6.9	7.1	7.3	7.6	7.7	7.6
新 城 市	2.8	2.8	2.6	2.3	2.4	2.4
その他	県 内	2.3	2.3	2.2	1.9	2.0
	県 外	1.7	1.7	2.4	1.6	1.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

8. 紹介・逆紹介患者数及び率



9. 手術件数

区 分	令和2年度		令和元年度		平成30年度		
	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	
外科	一般外科	1,401	87.8	1,595	98.2	1,624	106.5
	心臓血管・呼吸器外科	255	90.7	281	88.1	319	113.1
	小児外科	103	79.8	129	101.6	127	105.0
	肛門外科	19	90.5	21	91.3	23	82.1
整形外科	1,494	97.3	1,536	106.4	1,443	108.7	
リウマチ科	28	116.7	24	126.3	19	48.7	
形成外科	5	62.5	8	800.0	1	100.0	
脳神経外科	401	105.5	380	103.3	368	117.2	
産婦人科	1,377	87.4	1,575	99.6	1,581	99.4	
耳鼻いんこう科	472	77.1	612	137.8	444	104.5	
皮膚科	97	129.3	75	83.3	90	84.1	
泌尿器科	599	91.9	652	103.8	628	114.8	
眼科	438	53.7	815	92.5	881	86.7	
歯科口腔外科	389	80.0	486	108.2	449	111.1	
その他	203	118.7	171	111.0	154	113.2	
計	7,281	87.1	8,360	102.6	8,151	103.7	

9-2. 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

区 分		令和2年度		令和元年度		平成30年度	
		件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
外科	一般外科	536	96.1	558	106.7	523	117.0
	(内:ダヴィンチ)	22	62.9	35	102.9	34	178.9
	心臓血管・呼吸器外科	140	145.8	96	152.4	63	71.6
	小児外科	11	550.0	2	-	0	-
	肛門外科	54	67.5	80	117.6	68	87.2
整形外科	103	84.4	122	108.9	112	131.8	
リウマチ科	0	0.0	1	-	0	-	
産婦人科	475	97.5	487	95.1	512	116.6	
(内:先進医療、自費診療)	0	0.0	6	150.0	4	23.5	
(内:ダヴィンチ)	167	123.7	135	210.9	64	914.3	
泌尿器科	128	84.2	152	99.3	153	120.5	
(内:ダヴィンチ)	80	84.2	95	126.7	75	113.6	
その他	6	200.0	3	60.0	5	125.0	
計	1,442	96.2	1,499	104.4	1,436	113.2	

10. 分娩件数

区 分		令和2年度		令和元年度		平成30年度	
		件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
産婦人科	725	84.6	857	97.1	883	100.6	

IV 疾病統計

IV 疾病統計

1. 入院患者の疾病分類別（大分類）患者数

(人)

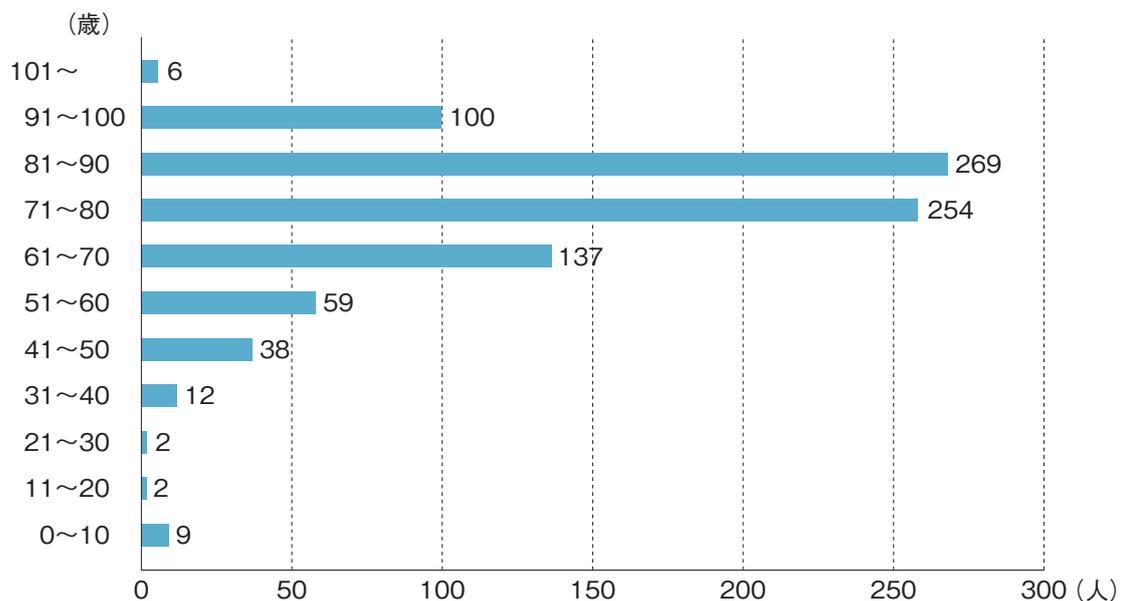
MDC2桁	疾患名	2020年	2019年	2018年
01	神経系疾患	1,553	1,546	1,541
02	眼科系疾患	405	790	880
03	耳鼻咽喉科系疾患	733	851	715
04	呼吸器系疾患	2,149	2,761	2,622
05	循環器系疾患	1,017	1,023	968
06	消化器疾患系、肝臓・胆道・膵臓疾患	4,053	4,312	4,269
07	筋骨格系疾患	592	664	670
08	皮膚・皮下組織の疾患	433	446	456
09	乳房の疾患	144	180	209
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	637	657	595
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	1,687	1,755	1,710
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	1,700	1,850	1,904
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	959	854	834
14	新生児疾患、先天性奇形	533	597	642
15	小児疾患	58	95	113
16	外傷・熱傷・中毒	809	946	894
17	精神疾患	12	16	18
18	その他	355	220	187
計		17,829	19,563	19,227

※EVE抽出データより集計しています。

2. 死亡症例

(1) 年代別年間死亡患者数

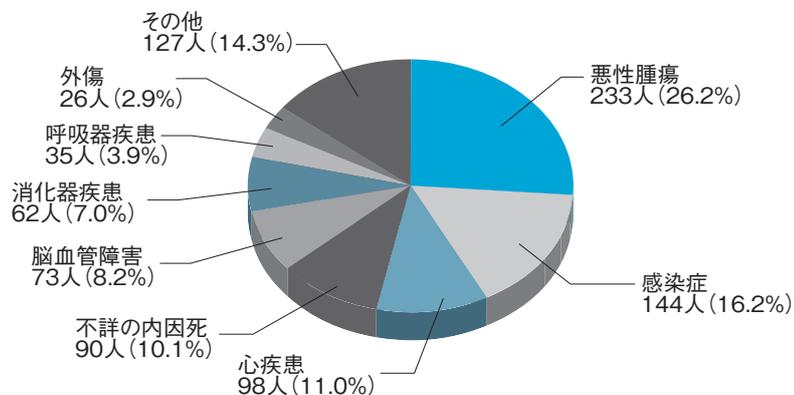
総数：888人



(2) 24時間以内死亡患者数 132人

(3) 死亡要因上位件数

総患者 888件



3. 悪性新生物新患者数

部 位	診断年症例(件)		
	2020年	2019年	2018年
口腔咽頭	87	89	74
食道	50	67	47
胃	234	222	246
大腸	362	401	371
(結腸)	(234)	(259)	(241)
(直腸)	(128)	(142)	(130)
肝臓	65	77	50
胆嚢胆管	43	36	37
膵臓	93	80	80
喉頭	17	20	25
肺	311	324	306
骨軟部	14	7	8
皮膚	121	100	105
乳房	173	182	213
子宮頸部	136	141	117
子宮体部	71	73	77
子宮	0	0	0
卵巣	53	39	50
前立腺	169	193	187
膀胱	101	93	85
腎尿路	79	111	86
脳神経	83	65	55
甲状腺	34	45	37
悪性リンパ腫	52	53	44
多発性骨髄腫	23	22	23
白血病	58	57	55
他の造血器腫瘍	58	66	59
その他	108	90	114
総 数	2,596	2,653	2,551

※がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計への報告件数

V 診療業務概要・ 活動報告

～解説～

①概要について

1年間の活動内容等を掲載しています。

②新規登録疾患について

2020年に登録した病名を診療科別に抽出し、ICD-10（国際疾病分類）3桁で集計を行い円グラフで掲載しています。

抽出条件

- (1) 2020年1月1日から2020年12月31日までに受診した患者。
- (2) 診療科別で対象患者に主病名登録した病名（疑いは除外）を抽出。
- (3) ICD-10 3桁で集計、上位を表記し、それ以下はその他と表記。

留意事項

- (1) 複数の病名が登録されている患者については病名ごとに集計（延べ）。
- (2) 比率については小数点第2位 四捨五入。

③活動報告について

この項目は、各々の希望に応じた資料を掲載しています。

V 診療業務概要・活動報告

総合内科

1. 概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は、狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患の強力な危険因子である。これまで総合内科では、糖尿病を中心に、内臓脂肪の過剰蓄積・耐糖能障害・高血圧症・高中性脂肪血症を併せ持つメタボリックシンドロームや高尿酸血症を含め、積極的に診療を行ってきた。

1996年以来、総合内科では永らく上記の外来診療や糖尿病体験入院などを行ってきたが、2010年の糖尿病・内分泌内科の新設にともない、糖尿病外来や糖尿病教育入院はおもに同科で行われるようになった。それ以降、総合内科では、新規を除く糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの外来診療を継続するとともに、原因不明の発熱など専門診療科にすぐには振り分けられない患者の診療を行っている。

総合内科の病床は2012年からなくなっていたが、不明熱の入院精査などのため、2018年4月から3床が復活した。

2018年に始まった新専門医制度において、「総合診療専門医」が基本領域のひとつとなっている。当院は、名古屋大学医学部附属病院総合診療専門医養成プログラム（基幹施設：名古屋大学医学部附属病院総合診療科）および愛知県東三河総合診療科専門研修プログラム（基幹施設：新城市民病院総合診療科）の連携施設となっており、総合診療専門医を育成する使命も帯びている。2020年度には1名の専攻医が当院で研修を行った。

（部長 稲垣 大輔）

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	1,400人	年間外来新患者数	1,593人
年間入院患者数	4,766人	年間入院新患者数	80人

呼吸器内科・アレルギー内科

1. 概要

2020年度は部長が牧野に交代となった。大学と連携し、前年に比べ増員を果たすことができ、計7名の常勤医と2名の非常勤医により診療を行うことができた。

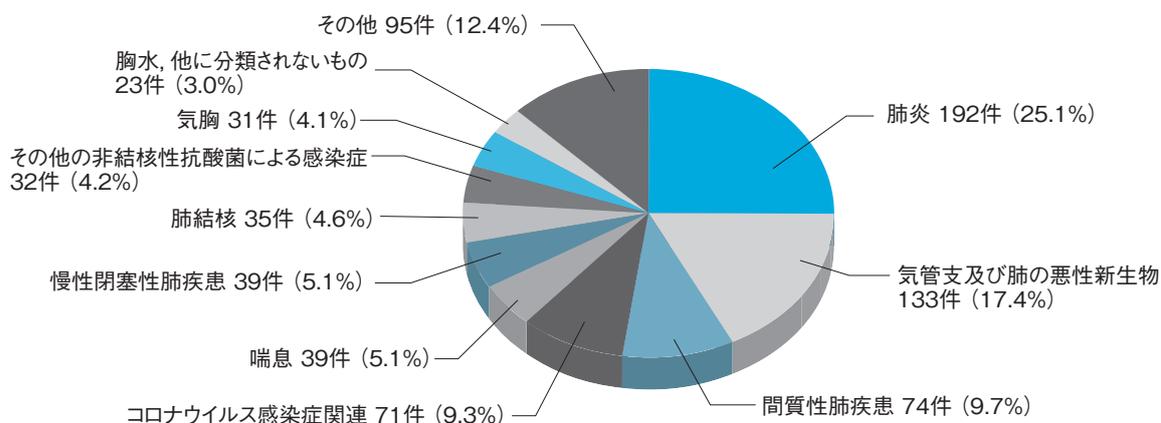
科としては改革を行い、まず、カンファレンスを週2回に増やし、全入院患者の把握および検討を行うようにした。また、毎朝、ブリーフィングを行い、重要事項の周知および情報共有を図った。さらには、研修医、専攻医の教育にも力をいれたいと考え、小セミナーを毎週定期的に施行するようにした。皆で、相談、確認しながら診療し、また若い医師の教育に注力していくという姿勢が定着しつつある。

実際の診療では、ともかく、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）にすべて振り回された1年であった。入院患者は当科を中心に、2021年3月までに180名程度を担当した。当科の医師たちは、精神的にもとてもつらい仕事をよく我慢し対応してくれている。COVID-19が終息するまで、まだ時間がかかりそうであるが、南病棟の看護師をはじめとした様々な職種の医療従事者や、協力してくれる他科の医師と力を合わせて、この異常時を乗り切りたいと考えている。

(部長 牧野 靖)

2. 新規登録疾患

総数：764件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
肺炎	肺炎,詳細不明	115	J189
	食物及び吐物による肺臓炎	36	J690
気管支及び肺の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物,気管支又は肺,部位不明	106	C349
	気管支及び肺の悪性新生物,上葉,気管支又は肺	13	C341
間質性肺疾患	間質性肺疾患,詳細不明	49	J849
	肺線維症を伴うその他の間質性肺疾患	17	J841
コロナウイルス感染症関連	COVID-19	71	U071
喘息	喘息,詳細不明	34	J459
慢性閉塞性肺疾患	慢性閉塞性肺疾患,詳細不明	27	J449
肺結核	肺結核,細菌学的又は組織学的確認の記載がないもの	24	A162
その他の非結核性抗酸菌による感染症	非結核性抗酸菌感染症,詳細不明	28	A319
気胸	その他の自然気胸	20	J931
胸水,他に分類されないもの	胸水,他に分類されないもの	23	J90

3. 活動報告

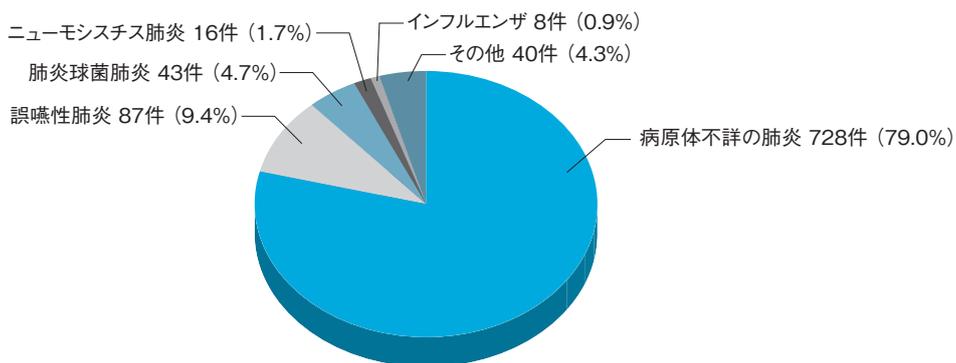
(1) 患者状況

年間外来患者数 27,686人 年間外来新患者数 1,944人

年間入院患者数 25,777人 年間入院新患者数 1,522人

(2) 肺炎別頻度

総数：922件



(3) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	肺炎	922	4	気管支喘息	275
2	肺癌	411	5	慢性閉塞性肺疾患	225
3	間質性肺炎	398		計	2,231

消化器内科

1. 概要

浦野院長を筆頭とする6名のスタッフ、専攻医6名、後期研修医1～2名で診療に従事している。

山田、山本、服部が消化管、浦野、内藤が肝臓、松原が胆道・膵臓を担当し、

- ①消化器癌のX線・内視鏡・US診断
- ②食道・胃・大腸腫瘍に対する、ESDをはじめとする内視鏡的治療
- ③IBDに対する内科的治療
- ④胆道・膵疾患に対するEUS (-FNA)、造影US・EUS、ERCP (-IDUS) の診断成績
- ⑤ERCP後膵炎の予防
- ⑥閉塞性黄疸に対するERCP（経乳頭的内視鏡）下と、EUS（超音波内視鏡）下治療
- ⑦ウイルス性肝炎の治療と長期経過
- ⑧肝癌の画像診断と内科的治療-TACE、RFA、リザーバーを用いた化学療法など

を主な研究テーマとしている。

一方、全消化器領域に対応すべく日常診療を行っており、嚥下困難患者に対する内視鏡的胃瘻造設術の依頼にも随時対応している。

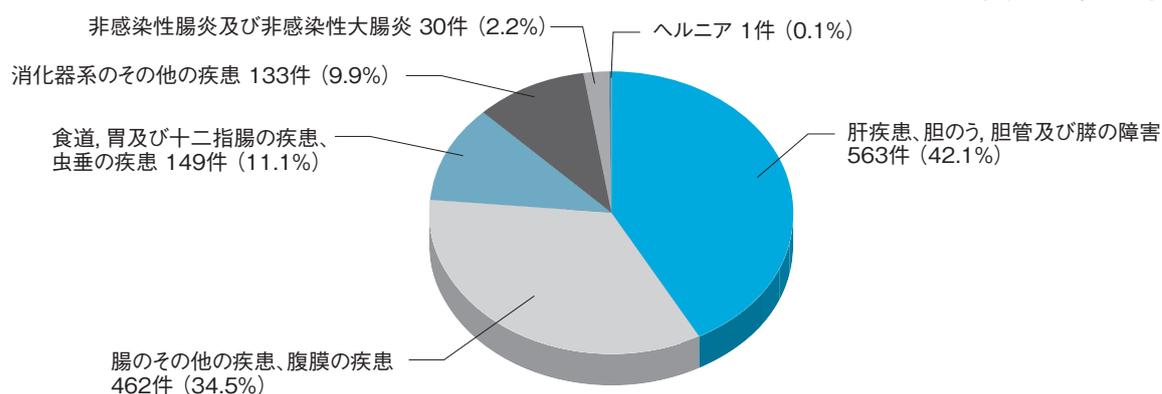
この他、食道胃静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、大腸憩室などからの急性消化管出血に対するEIS、EVLやクリッピング止血、内因性肝出血や壊死性膵炎に対するIVR、急性胆道炎に対するERCP、PTBD、PTGBD、EUS下ドレナージ、そして劇症肝炎や重症急性膵炎など重症消化器疾患に対する集中治療を積極的に行い、地域の救命救急医療に貢献している。

(第一部長 松原 浩)

2. 新規登録疾患

(1) 新生物以外

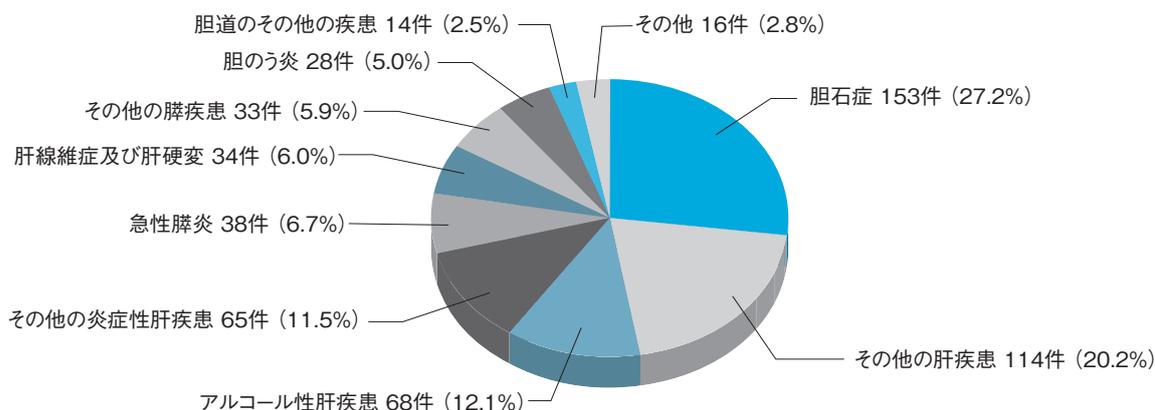
総数：1,338件



上位3位の詳細

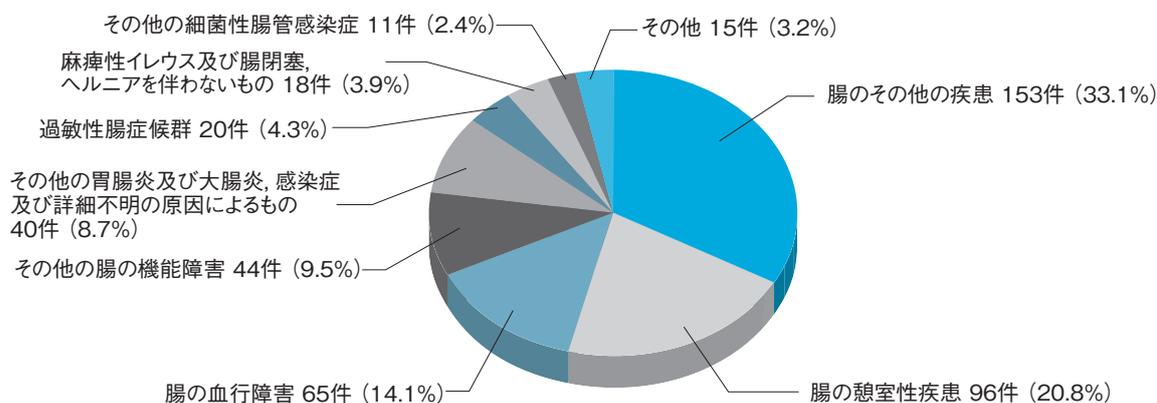
①肝疾患、胆のう、胆管及び膵の障害

総数：563件



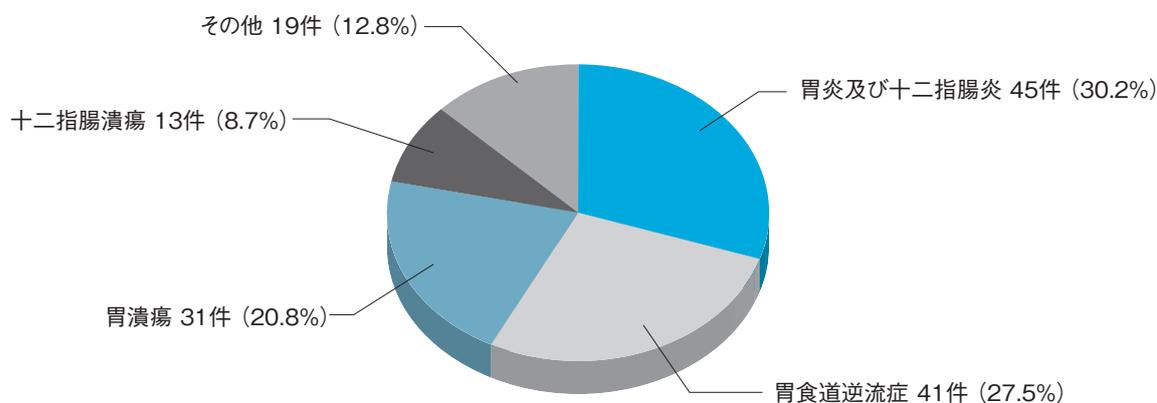
②腸のその他の疾患、腹膜の疾患

総数：462件



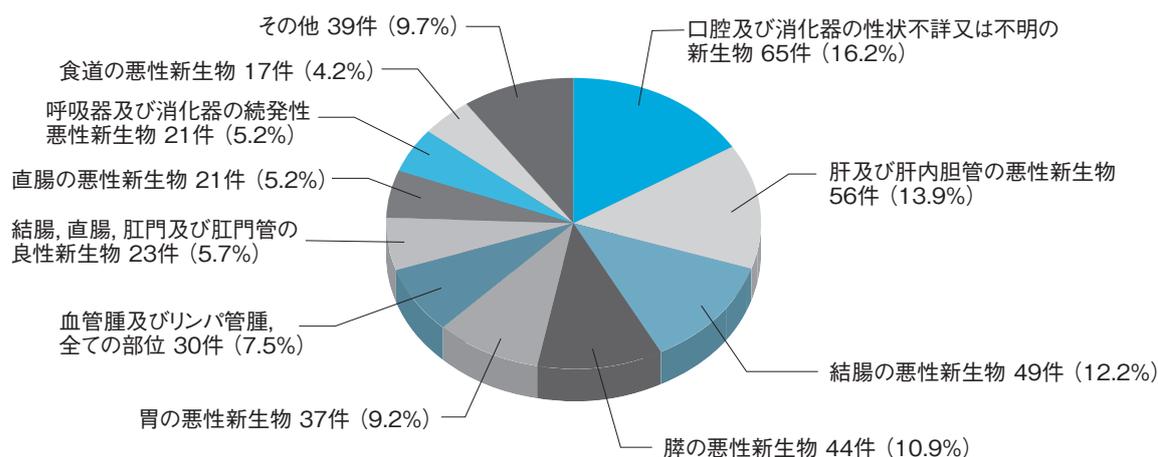
③食道、胃及び十二指腸の疾患、虫垂の疾患

総数：149件



(2) 新生物

総数：402件



3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	49,798人	年間外来新患者数	4,972人
年間入院患者数	31,485人	年間入院新患者数	2,613人

(2) 主な検査治療実績

胃内視鏡検査	6,157件
大腸内視鏡検査	3,954件
小腸内視鏡検査	バルーン内視鏡 27件
	カプセル内視鏡 77件
消化管超音波内視鏡検査	上部 98件
	下部 6件 (うち穿刺生検 10件)
内視鏡的粘膜下層切開剥離術	食道/胃 106件
	大腸 58件
胆膵超音波内視鏡検査	259件 (うち穿刺生検 74件)
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	512件
腹部血管造影検査	55件
うち 動脈塞栓術	35件
動注化学療法	5件
リザーバー留置による動注化学療法	2件
ラジオ波焼灼術	35件

循環器内科

1. 概要

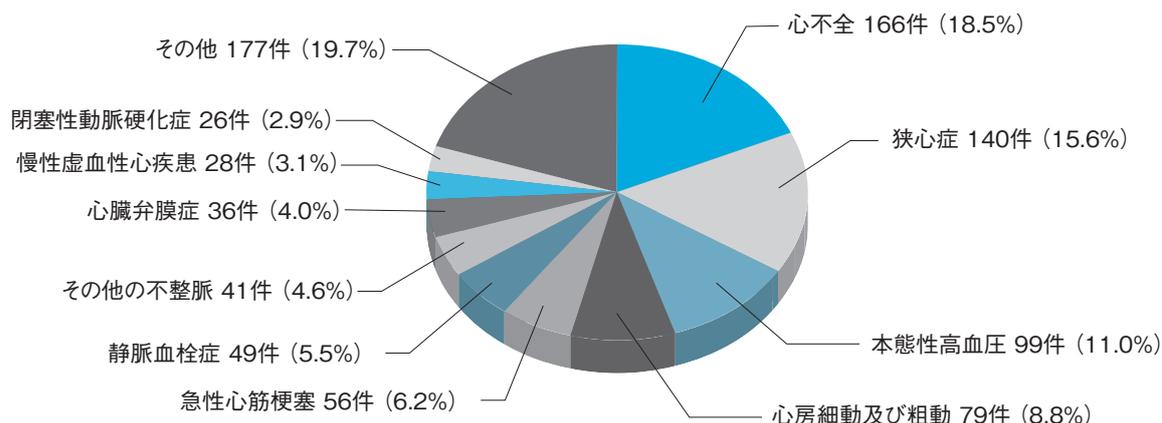
2020年は、心血管カテーテル検査を777件（うち緊急検査196件）に施行した。経皮的冠動脈インターベンションは265例（成功率95.8%）で、その内、血管内超音波を246例に、ステント留置術は226例に施行した。再狭窄防止のための薬剤溶出性バルーンは15件に使用した。観血的虚血評価のため、圧ワイヤー検査を57件に施行した。また、血行動態の悪い症例には、大動脈内パンピングを38例に施行した。心原性ショック例・心停止例（来院時心肺停止も含む）には、経皮的心肺補助装置を装着した（18例）。一方、不整脈診断の為の心臓電気生理学的検査を60例に、カテーテルアブレーションを48例（心房細動に対するもの36例）に施行した。さらに多列検出器CTによる冠動脈CT検査を194例に施行した。

2020年より、心不全患者に対する多職種カンファレンスを開始した。

（第一部長 成瀬 賢伸）

2. 新規登録疾患

総数：897件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
心不全	うっ血性心不全	109	1500
	心不全, 詳細不明	48	1509
狭心症	その他の型の狭心症	66	1208
	狭心症, 詳細不明	50	1209
本態性高血圧	本態性(原発性)高血圧(症)	99	110
心房細動及び粗動	心房細動及び心房粗動, 詳細不明	45	1489
	発作性心房細動	30	1480
急性心筋梗塞	前壁の急性貫壁性心筋梗塞	32	1210
	下壁の急性貫壁性心筋梗塞	18	1211
静脈血栓症	下肢のその他の深在血管の静脈炎及び血栓(性)静脈炎	49	1802
その他の不整脈	心室性早期脱分極	18	1493
心臓弁膜症	大動脈弁狭窄(症)	26	1350
慢性虚血性心疾患	陳旧性心筋梗塞	19	1252
閉塞性動脈硬化症	全身性及び詳細不明のアテローム硬化(症)	19	1709

3. 活動報告

(1) 患者状況

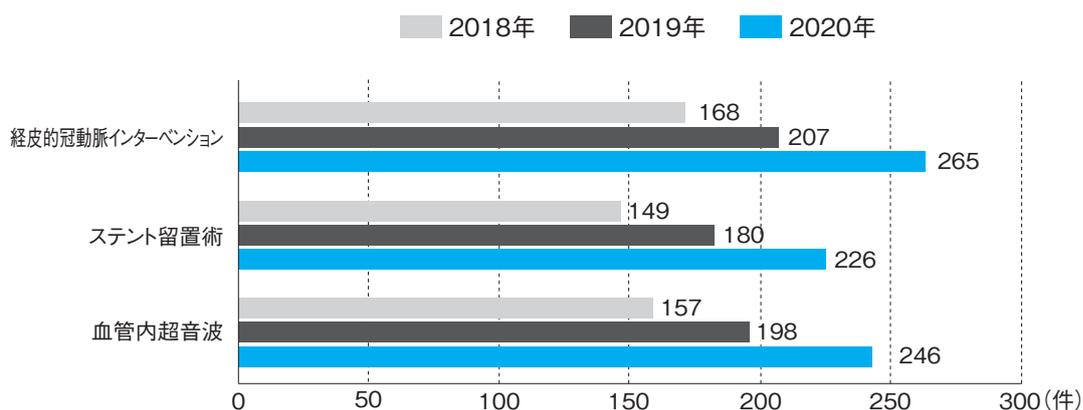
年間外来患者数 17,433人 年間外来新患者数 1,216人
年間入院患者数 9,334人 年間入院新患者数 906人

(2) 科指定4疾患

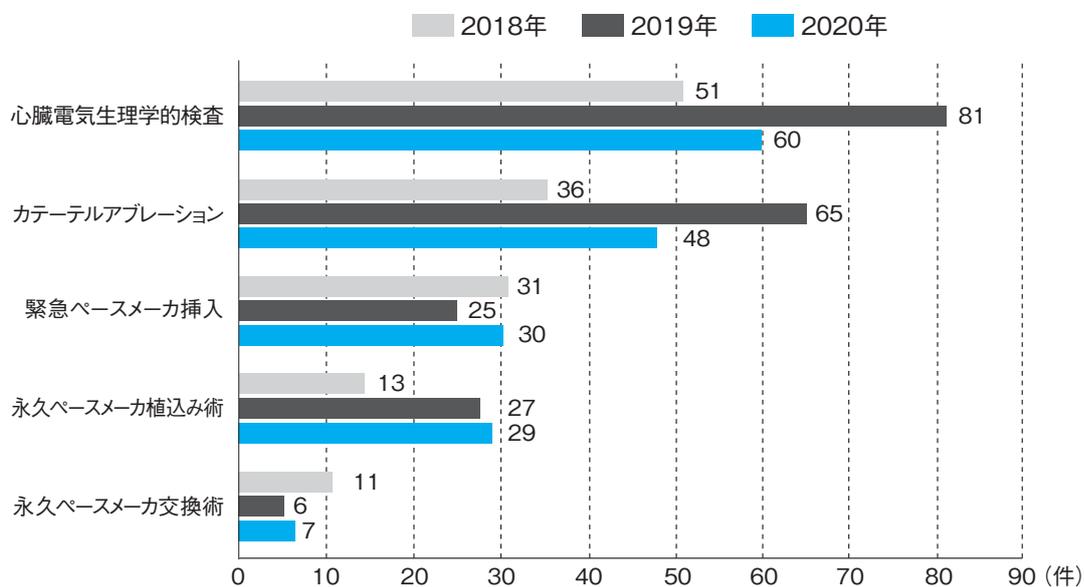
	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	心不全	747	4	肺血栓塞栓症	33
2	狭心症	444		計	1,370
3	急性心筋梗塞	146			

(3) 治療実績

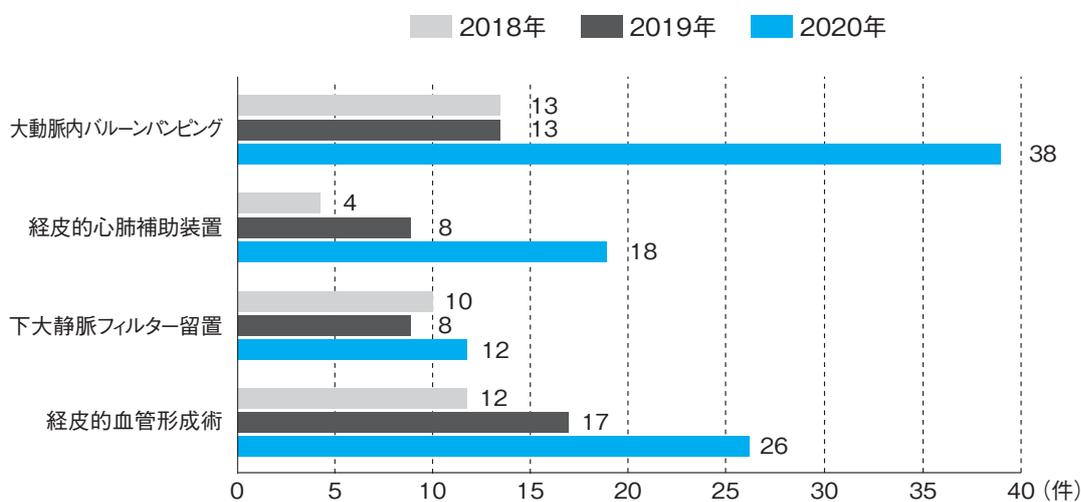
①虚血性心疾患治療



②不整脈治療



③その他の観血的治療



腎臓内科

1. 概要

当科の主な診療領域は、腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全（腎後性腎不全は除く）等の内科的腎臓病の他に、透析を含む血液浄化である。尿路結石・腫瘍・感染症は、取り扱っていない。また、透析患者のシャントトラブルも扱っていない。

当院は東三河地域の基幹病院であるが、その中で常勤医師数からして最も小さな科の一つであるものの、多種多様な病態の診療に携わっている。

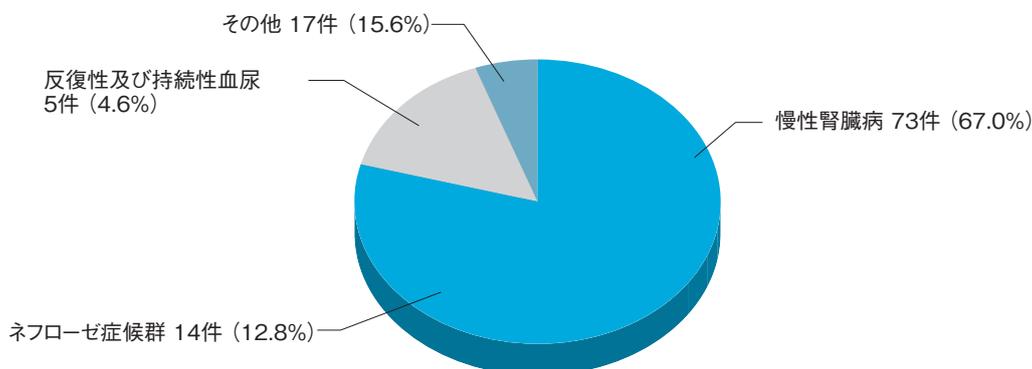
急性腎不全（AKI）をはじめとする重症患者の血液浄化の依頼やコンサルトは多く、院内他科からの紹介患者数は県下有数であると自負している。これらには、臨床工学士（ME）や看護師の協力により、血漿交換・免疫吸着・持続的血液ろ過透析（CHDF）等を病態にあわせて施行している。腎炎やネフローゼ症候群には、名古屋大学腎臓内科の御支援の下、積極的に腎生検を行い、診断・治療に役立てている。さらに、維持透析患者の合併症や保存期の慢性腎不全（CKD）患者の治療にも関わっている。

また、末期腎不全に対しては、スタッフ不足から新規の通院透析患者は受け入れられないものの、移植外科と連携して腎移植に対応している。

（部長 山川 大志）

2. 新規登録疾患

総数：109件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
慢性腎臓病	慢性腎臓病, 詳細不明	64	N189
ネフローゼ症候群	ネフローゼ症候群, 詳細不明	14	N049
反復性及び持続性血尿	反復性及び持続性血尿, その他	5	N028

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 9,052人 年間外来新患者数 367人
年間入院患者数 5,822人 年間入院新患者数 398人

(2) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	慢性腎不全	432	4	急速進行性糸球体腎炎	16
2	ネフローゼ症候群	91	5	IgA腎症	10
3	急性腎不全	64		計	613

糖尿病・内分泌内科

1. 概要

当科の診療内容は、糖尿病と各種内分泌・代謝疾患である。糖尿病看護認定看護師、透析看護認定看護師の他、日本糖尿病療養指導士 13 名や愛知県糖尿病療養指導士 4 名等の協力で、糖尿病教育入院や療養指導外来、フットケア外来、糖尿病透析予防指導外来を設置している。インスリンポンプ療法(CSII)とSAP(CGMつきCSII)療法は20数名が継続している。うち1名が他院で腎臓同時移植を受け、SAP療法を離脱した。2週間連続で血糖値を記録できるFlash Glucose Monitoring式のCGMも引き続き数十名が利用している。12月には数年来の懸案であった血糖・インスリン管理システムを電子カルテに実装・稼働した。これにより、より安全・確実なインスリン療法が可能となった。

日本糖尿病協会の支部として友の会があり、例年は毎年11月の全国糖尿病週間に合わせて院内での講演会や啓発活動を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、これを休止した。

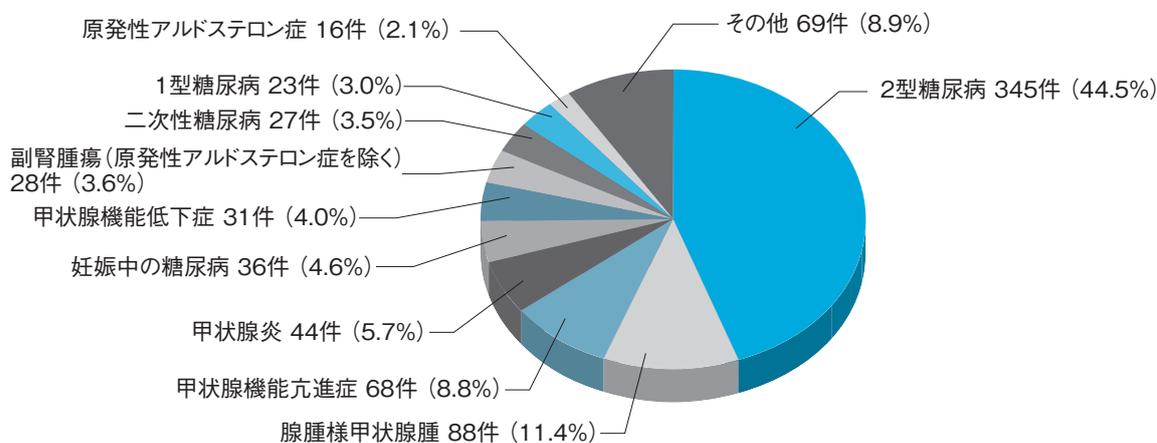
各種内分泌疾患に対しては各種負荷試験、画像診断を元に正確な診断を行い、一般外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、移植外科、脳神経外科、放射線科などとの密接な連携の下に治療を行っている。放射線科には原発性アルドステロン症に対する選択的副腎静脈サンプリングも依頼している。

人事面では動きがなかった。

(部長 山守 育雄)

2. 新規登録疾患

総数：775件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
2型糖尿病	2型糖尿病	233	E11
	2型糖尿病, 多発合併症を伴うもの	42	E117
腺腫様甲状腺腫	非中毒性甲状腺腫, 詳細不明	72	E049
甲状腺機能亢進症	びまん性甲状腺腫を伴う甲状腺中毒症	58	E050
	甲状腺中毒症, 詳細不明	10	E059
甲状腺炎	自己免疫性甲状腺炎	37	E063
妊娠中の糖尿病	妊娠中に発生した糖尿病	35	O244
甲状腺機能低下症	甲状腺機能低下症, 詳細不明	31	E039
副腎腫瘍(原発性アルドステロン症を除く)	内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物, 副腎	22	D441
二次性糖尿病	その他の明示された糖尿病	23	E13
1型糖尿病	1型糖尿病	19	E10
原発性アルドステロン症	原発性アルドステロン症	15	E260

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	21,148人	年間外来新患者数	1,140人
年間入院患者数	3,175人	年間入院新患者数	256人

脳神経内科

1. 概要

2020年のスタッフは、関連医局である名古屋大学脳神経内科の人事異動により、2020年3月に小林が異動、同年4月前田が赴任し、5名体制継続であった。同年6月に前田は異動、同年7月に松本が赴任となった。また、小野田の赴任も得られた。松本については同年12月までの勤務となった。

年々増加していた総入院患者数は、新型コロナウイルス感染症による社会情勢・医療情勢の影響もあり、2020年は978人と前年よりわずかに減少した（2019年1,010人、2018年985人、2017年911人、2016年795人）。

定床40床をオーバーすることが常態化していたため、配分見直しが行われ、定数45床に増床、収容については緩和された。しかし、新型コロナウイルス感染症関連により、南1階病棟が使えなくなったため、多くの病棟に入院患者が分散となり、回診に時間を要した。

2020年の主なトピックは、以下のとおりである。

- ①東病棟5階および東病棟9階など従来と異なる病棟への入棟が増えた。
- ②比較的重症の患者さんに限り、西病棟2階での管理となった。
- ③前年同様、高齢患者の軽症脳梗塞や一過性脳虚血発作が目立った。
- ④高齢者のてんかん関連、意識障害関連の入院も変わらず目立った。
- ⑤慢性炎症性脱髄性多発神経炎の患者、γグロブリン維持療法反復入院が多い。
- ⑥家族背景や社会的背景の難しい患者が多く、安定後の療養先について患者や家族への早期説明の実施や、患者総合支援センターによる介入が多かった。

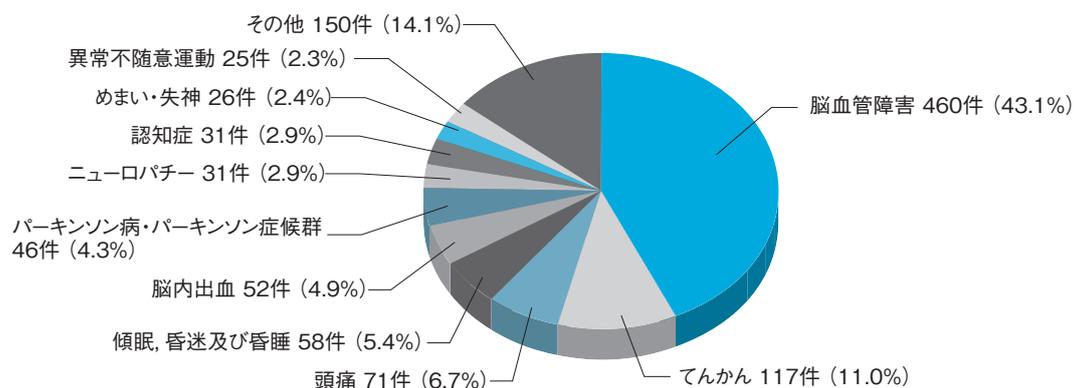
外来診療においては、空野前部長が勇退され、非常勤医2人の応援を得て診療を行っている。外来の年間受診者総数は、12,443人で前年の11,929人と比べて500人余増加、また初診患者数は1,070人と前年の1,186人と比べて100人余減少した。MCR体制に加え、紹介状持参での予約外患者も多いが、診察数等を増やし、可能な範囲で対応している。

日本神経学会の決定を受け、当科においても2019年4月より「脳神経内科」と標榜し、なじんできたと思っている（当院では1975年の「神経内科」標榜が端緒）。

（部長 岩井 克成）

2. 新規登録疾患

総数：1,067件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
脳血管障害	脳動脈の血栓症による脳梗塞	220	I633
	脳梗塞の続発・後遺症	58	I693
てんかん	その他のてんかん	52	G408
	てんかん, 詳細不明	51	G409
頭痛	頭痛	52	R51
	緊張性頭痛	12	G442
傾眠, 昏迷及び昏睡	昏睡, 詳細不明	58	R402
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	22	I610
	脳内出血, 詳細不明	20	I619
パーキンソン病・パーキンソン症候群	パーキンソン病	42	G20
ニューロパチー	多発(性)ニューロパチー, 詳細不明	22	G629
認知症	アルツハイマー病, 詳細不明	18	G309
めまい・失神	めまい感及びよろめき感	25	R42
異常不随意運動	(有痛性)けいれん	15	R252

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	11,618人	年間外来新患者数	1,396人
年間入院患者数	16,595人	年間入院新患者数	955人

(2) 神経難病6疾患

	疾患名	件数(件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	42
2	重症筋無力症	12
3	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	10
4	脊髄小脳変性症	5
5	多発性硬化症	4
6	多系統萎縮症	3
	計	76

血液・腫瘍内科

1. 概要

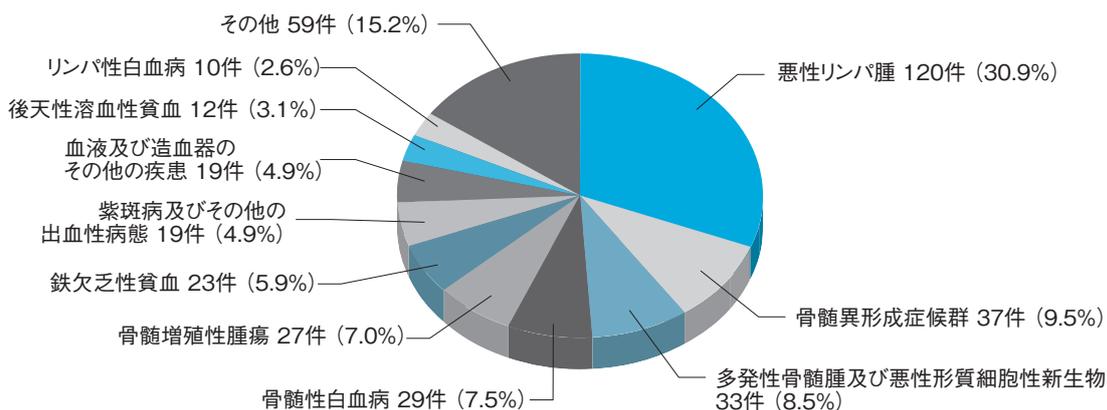
東三河地域の中核施設として、血液悪性疾患に対する化学療法、自家および同種造血幹細胞移植、血液良性疾患に対する免疫療法や補充療法、血栓・止血疾患に対する治療など、血液疾患の治療ほぼ全てに対応している。本年度も東三河全域や静岡県西部などから、多くの患者さんが来院された。2020年度は5から7名のスタッフにて、1日平均約45人の入院と、同様に約75人の外来患者に対する診療を行った。

造血幹細胞移植は、本年度は24例に施行した。そのうち同種造血幹細胞移植は15例で、うち臍帯血移植が7例と最多であった。適切な時期に移植を行うことが重要であり、そのため全てのドナーソースに対応できるよう、体制を整えている。また、比較的高齢であっても適応があり、かつ全身状態が良好であれば同種造血幹細胞移植を検討しており、本年度も60歳代の複数例に施行した。

(部長 倉橋 信悟)

2. 新規登録疾患

総数：388件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
悪性リンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	59	C833
骨髄異形成症候群	骨髄異形成症候群, 詳細不明	35	D469
多発性骨髄腫及び 悪性形質細胞性新生物	多発性骨髄腫	24	C900
骨髄性白血病	急性骨髄芽球性白血病[AML]	21	C920
骨髄増殖性腫瘍	真性赤血球増加症	8	D45
	骨髄線維症	6	D474
鉄欠乏性貧血	鉄欠乏性貧血, 詳細不明	23	D509
紫斑病及びその他の出血性病態	特発性血小板減少性紫斑病	19	D693
血液及び造血器のその他の疾患	続発性赤血球増加症	16	D751
後天性溶血性貧血	その他の自己免疫性溶血性貧血	8	D591
リンパ性白血病	急性リンパ芽球性白血病[ALL]	6	C910

3. 活動報告

(1) 患者状況

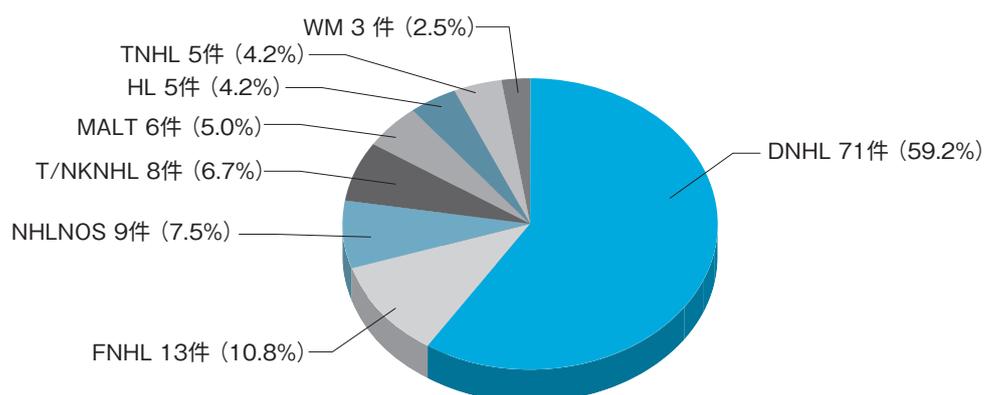
年間外来患者数	18,503人	年間外来新患者数	509人
年間入院患者数	16,781人	年間入院新患者数	815人

(2) 造血幹細胞移植

種 類		件 数(件)	
自家移植		9	
同種移植	血縁者間	同胞	3(骨髄:2 末梢血:1)
		半合致	0
	非血縁者間	骨髄バンク	5
		臍帯血バンク	7

(3) 悪性リンパ腫の組織分類 (ICD10 C81-C88)

総数：120件



略 語	疾 患 名
DNHL	びまん性非ホジキンリンパ腫
FNHL	ろ胞性[結節性]非ホジキンリンパ腫
NHLNOS	非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型
T/NKNHL	T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型
MALT	MALTリンパ腫
HL	ホジキン病
TNHL	末梢性及び皮膚T細胞リンパ腫
WM	ワルデンシュトレームマクログロブリン血症

一般外科・小児外科・肛門外科

1. 概要

(1) 一般外科・小児外科

2020年はコロナ禍の影響を受け、手術総数は1,584件で、2019年の1,724件と比べ140件（-8.1%）の大幅な減少となった。そのうち15歳以下の小児手術は135件、全緊急手術は325件（325/1,584、20.5%）でこれは逆に2019年の19.7%（総数339件）と比べ若干増加した。このうち鏡視下手術は134件（134/325、41.2%、昨年118件、34.8%、一昨年101件 30%）で昨年より大幅に増加していた。

全症例について総覧すると対象疾患は、当院の性格上、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から甲状腺（24件）・消化器・乳腺（112件）まで幅広い。しかしいずれも去年の実績よりは減少していた。

腹腔鏡下手術は、胃癌手術26件（26/80 32.5%、昨年32%、一昨年28%）でその割合は徐々に増加し、大腸癌切除では88件（88/174、50.6%、昨年48%、一昨年33%）とこちらも割合を増加させ続けている。腹腔鏡下肝部分切除9件（9/23、39%、昨年48%、一昨年58%）は若干数も割合も下げたが、腹腔鏡下膵体尾部切除は3件（3/12、25%、昨年6.7%）が行われ、その割合を増加した。虫垂や成人鼠径ヘルニアに対してもさらに積極的に腹腔鏡を導入し、虫垂炎手術で93件（93/108、86%、昨年63%、一昨年40%）、鼠径ヘルニア手術40件（40/175、22.8%、昨年16%、一昨年16%）と件数、割合とも増加させていた。最近では腹壁癒痕ヘルニアに対しても腹腔鏡下Tension free repairを用い、2020年にも3件（3/26件、11.5%）に行った。

2014年11月より直腸癌に対するロボット支援下手術を臨床研究として開始し一昨年までは順調に症例を伸ばしたが、昨年はコロナ禍で、2019年の16件に対して2020年は14件と減少した。2015年4月から早期胃癌に対して行っているロボット支援手術も、2019年の17件に対し2020年は12件と減少した。

乳癌手術もコロナ禍の影響を受けて91件（昨年131件、一昨年138件）と減少した。乳房温存手術は74件（74/91、81%、昨年65%、一昨年41%）、センチネルリンパ節生検陰性は74件で、昨年とほぼ同様の傾向であった。肝切除は35件（昨年40件）で、疾患別内訳は、原発性肝癌 9件、胆管細胞癌4件、転移性肝癌 19件、胆道癌 3件。膵頭十二指腸切除は18件行われた。この疾患別内訳は、膵癌 14件、胆嚢・胆管癌 1件、乳頭部癌 1件、IPMC 2件。またIPMCに対して膵全摘を1件行った。食道悪性腫瘍は5件に根治手術が行われ、すべて3領域郭清であった。上部消化管潰瘍穿孔18件のうち非手術的保存療法は7件（39%）だった。腸閉塞入院は158件のうち51件（32.3%）に手術が施行された。小児外科手術は名古屋大学小児外科と連携して治療に当たっており2020年は135件で、新生児手術は3件であった。一般外科全体の入院総数はこちらもコロナ禍の影響を受け2,099人と去年の2,353人より10.8%減少し、平均入院期間は10.9日で去年の9.8日よりわずかに増加した。

（第一部長 平松 和洋）

(2) 肛門外科

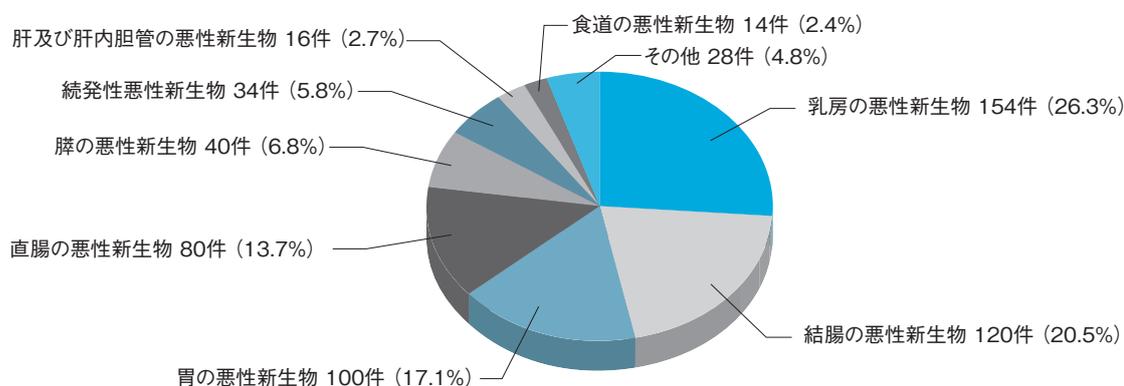
肛門外科は当院移転新設に伴い、単科標榜された。現在は厚生労働省の標榜指導にて『肛門外科』だが、診療・治療は一般外科と共同での運営である。外科外来診療における統計では、悪性疾患治療を除くと痔核を筆頭とした肛門疾患、肛門に関する症状にて受診される患者が多い。多くの施設がそうであるように外科外来当番医が対応していることもあるが、肛門というデリケートな部分で専門性を必要とするため、やはり専門家での診療・治療を希望される方も多く、日本大腸肛門病学会の専門医として診療にあたっている。近隣の診療施設からの紹介も多く、肛門外科標榜は木曜日の一日であるが、常勤で外科診療に携わっている利点から、日々時間が許す限り診察や治療に当たることが可能である。外来診察の際は、専門性を求めて来られる方が安心して受診できるような対応を心掛け、診察で不自由・不快な思いを持たれないように努力している。肛門疾患に対しては、一般的な対応を主として、外来処置や生活指導・薬物療法など保存治療に重きを置き、症状によって、また患者さんのQOLの面から手術適応を決めている。近年大腸がんも増加傾向にあり、肛門症状で受診された患者には大腸検査を受けていただくようにしている。専門外来として“ストーマ外来”を認定看護師とともに行っている。

（部長 柴田 佳久）

2. 新規登録疾患

(1) 悪性新生物

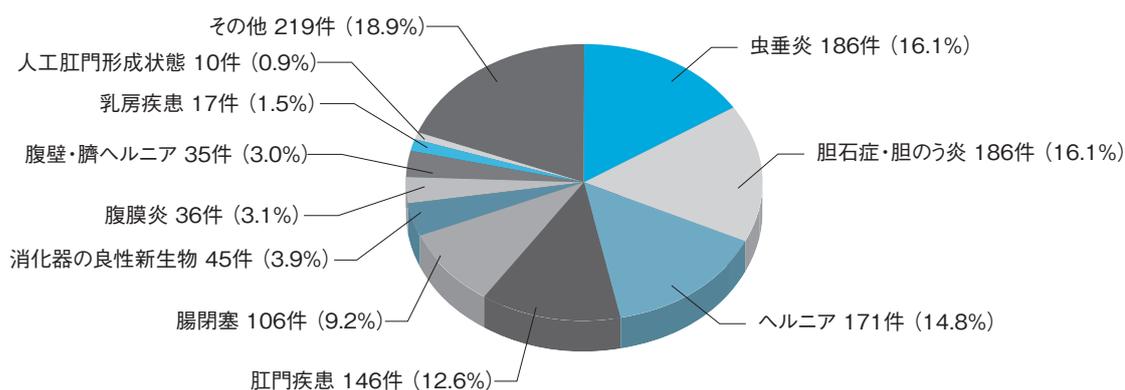
総数：586件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4 分の 1	52	C504
	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	49	C509
結腸の悪性新生物	結腸の悪性新生物, 上行結腸	41	C182
	結腸の悪性新生物, S 状結腸	41	C187
胃の悪性新生物	胃の悪性新生物, 胃, 部位不明	70	C169
	胃の悪性新生物, 胃体部	10	C162
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	80	C20
膵の悪性新生物	膵の悪性新生物, 膵頭部	15	C250
	膵の悪性新生物, 膵管	8	C253
続発性悪性新生物	肝及び肝内胆管の続発性悪性新生物	23	C787
	後腹膜及び腹膜の続発性悪性新生物	6	C786
肝及び肝内胆管の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物, 肝細胞癌	10	C220
	肝及び肝内胆管の悪性新生物, 肝内胆管癌	6	C221
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 食道, 部位不明	5	C159
	食道の悪性新生物, 胸部食道	4	C151

(2) 悪性新生物以外

総数：1,157件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
虫垂炎	急性虫垂炎, その他及び詳細不明	142	K358
	詳細不明の虫垂炎	21	K37
胆石症・胆のう炎	胆のう炎を伴わない胆のう結石	111	K802
	急性胆のう炎	34	K810
ヘルニア	一側性又は患側不明のそけいヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	146	K409
	一側性又は患側不明のそけいヘルニア, 閉塞を伴い, え疽を伴わないもの	12	K403
肛門疾患	痔核, 詳細不明	82	K649
	裂肛, 詳細不明	15	K602
腸閉塞	閉塞を伴う腸癒着[索条物]、イレウス, 詳細不明	43	K565, K567
	その他及び詳細不明の腸閉塞	29	K566
消化器の良性新生物	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, その他の消化器	10	D377
腹膜炎	急性腹膜炎	32	K650
腹壁・臍ヘルニア	臍ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	17	K429
	癒痕ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	11	K432
乳房疾患	乳房の良性新生物	17	D24
人工肛門形成状態	人工肛門造設状態	8	Z933

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 36,186人 年間外来新患者数 2,005人
 年間入院患者数 23,530人 年間入院新患者数 1,990人

(2) 2020年1月～12月入院概要 (全2,099人、平均入院期間10.9日、未退院0人)

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 日数(日)
イレウス	手術	51	22.8
	保存療法	107	8.3
外傷	手術	5(1:医原)	40.9
	IVR	1	12
	保存療法	10	9.1
血管系緊急 (塞栓・解離など)	手術	2	17
	IVR	6	11.3
	保存	11	9.9
合併症治療 (感染性)	手術	1	10
	IVR	1	7
	保存療法	24	14.1
合併症治療 (出血性)	IVR	1	36
合併症治療 (その他)	手術	3	9.3
	IVR	2	9.0
	保存療法	9	16.3
抗がん剤有害事象	保存療法	52	9
	緩和療法	1	27
その他	IVR	1	9
	保存治療	32	8.2
	予定手術	21	7.9
	緊急手術	2	10
	緩和療法	1	48
その他/悪性	保存治療	1	19.0
	緊急手術	1	1
	予定手術	7	24.8
	緩和療法	1	11
甲状腺/良性	手術	16	5.2
甲状腺/悪性	手術	10	7.8
副腎良性	予定手術	0	-
新生児	緊急手術	0	-
非新生児	予定手術	69	2.3
	緊急手術	7	3.4
	保存療法(検査)	7	3.7
	手術中止	1	1
腹腔内癌再発	手術	7	15.9
	保存・緩和療法	7	26.4
腹膜炎	手術	29	24.2
	IVR	1	46.0
	保存療法	24	13.9
ヘルニア	手術	224	3.1
	保存療法	3	7
	手術中止	1	2.0
痔核・痔瘻	手術	13	6.8
	保存療法	1	4
	手術中止	1	1
虫垂	待機手術	29	5.2
	緊急手術	101	4.9
	保存療法	30	6.7

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 日数(日)
胃十二指腸/良性	予定手術	6	22
	緊急手術	11	16
	IVR	2	11.5
	保存治療	7	27.3
肥満症	予定手術	13	13.5
胃十二指腸/悪性	予定手術	97	18.3
	化学療法	8	3.6
	放射線治療	1	15.0
	緩和療法	6	12.3
	保存療法	32	15.7
	IVR	4	29.5
	手術中止	1	7.0
肝胆膵脾	予定手術	233	10.3
	緊急手術	31	6.6
	IVR	2	4.0
	保存療法	22	11.3
	手術中止	5	7.4
小・大腸/悪性	予定手術	185	17.2
	緊急手術	22	20.7
	保存療法	75	12.6
	緩和療法	21	10.6
	放射線治療・IVR	6	19.2
	化学療法	1	5.0
小・大腸/良性	予定手術	52	14.6
	緊急手術	3	11.3
	保存療法	5	10.6
	手術中止	1	0.0
食道/悪性	予定手術	5	26.2
	保存療法	12	13.4
	化学療法	14	10.1
	放射線治療・IVR	3	28.0
乳腺/その他	予定手術	9	3.1
乳腺/悪性	予定手術	92	5.9
	保存療法	53	17.2
	緩和療法	5	5.2
	化学療法	1	16
	放射線治療・IVR	11	20.5
CVポート関連	保存療法	1	4
	予定手術	70	4.5
	緊急手術	3	17
術後後遺症その他	保存療法	41	15.4
	IVR	2	30.5
	緊急手術	1	1

(3) 一般外科・小児外科手術数 (2020年) 1,584例

①一般外科	1,584	(オ)小腸・大腸	
全身麻酔	1,298	a良性疾患	124
脊髄麻酔	33	(a)小腸切除	27(2)
局部麻酔	253	(b)腸瘻造設	6
(ア)甲状腺	24	(c)腸瘻閉鎖	40
a良性疾患		(d)腸吻合	2
(a)部分切除	0	(e)結腸直腸切除	21(6)
(b)葉切、亜全摘、全摘	16	(f)大腸亜全摘	0
b悪性疾患		(g)癒着剥離	28(1)
(a)部分切除、亜全摘、他	2	(h)経肛門/経仙骨	0
(b)全摘	4	(i)単開腹/その他	0
(c)その他	2	a悪性疾患	221
(イ)乳腺	112	(a)腸瘻造設	32(5)
a良性疾患	11	(b)腸吻合	1
摘出	9	(c)小腸切除	4
腺管区域切除	2	(d)結腸切除	118(54)
b悪性疾患	91	(e)直腸切除(高位、低位)	44(28、ロボット12)
(a)定型乳切	0	(f)直腸切断	12(6、ロボット2)
(b)非定型乳切(Bt+Ax)	17	(g)経肛門/仙骨的切除	0
(c)Bt±SLNB	47	(h)骨盤内臓全摘	9
(d)乳房温存手術±SLNB	27	(i)大腸亜全摘	1
(e)Tm他	0	(j)単開腹/その他	0
(ウ)食道	5	(カ)虫垂炎(虫垂/回盲部切除)	108(93)
a良性疾患	0	(キ)肝/胆/膵/脾	
b悪性疾患		(a)肝部分切除	23(9)
(a)胸部食道切除	5	(b)肝区域/葉切除	12
(b)その他	0	(c)胆嚢床切除	0
(エ)胃・十二指腸		(d)開腹胆嚢摘出術	13
a良性疾患	25	(e)腹腔鏡下胆嚢摘出術	174
(a)胃切除、胃全摘	1	(f)開腹胆管切開術	3
(b)体網充填	11	(g)胆管消化管吻合	0
(c)スリーブ状胃切除	13(13)	(h)胆管切除	1
b悪性疾患	98	(i)膵頭十二指腸切除(PD)	1
(a)幽門側胃切除	52(23、ロボット11)	(j)亜全胃温存PD	17
(b)胃全摘	28(3、ロボット1)	(k)膵体尾部切除	12(3)
(c)噴門側胃切除	4(1)	(l)膵全摘	1
(d)胃腸吻合	2	(m)膵部分切除	0
(e)楔状切除/十二指腸切除	9(5、LECS0)	(n)膵管空腸吻合	0
(f)PD	0	(o)脾摘	1(1)
(g)試験開腹/その他	3	(p)胃腸吻合	1
		(q)単開腹/その他	2

(ク)内分泌	(ソ)その他
(a)副甲状腺 …………… 0	(a)非悪性 …………… 34(4)
(b)副腎 …………… 0	(b)悪性 …………… 11
(ケ)ヘルニア	②小児外科(全例全身麻酔)…………… 135
(a)鼠径大腿 …………… 175(40)	(ア)新生児手術…………… 3(1)
(b)腹壁・臍・閉鎖孔など …………… 26(3)	(イ)鼠径ヘルニア…………… 50(48)
(コ)痔核痔瘻…………… 13	(ウ)虫垂切除…………… 29(25)
(サ)局麻手術…………… 140	(エ)精巣固定…………… 17
(a)摘出、生検…………… 16	臍形成…………… 10
(b)CVポート …………… 123	(オ)幽門筋切開…………… 0
(c)その他 …………… 1	(カ)その他…………… 26(6)
(シ)外傷/医原性 …………… 15	(キ)局麻手術…………… 0
(ス)腹膜炎…………… 46(1)	
(セ)腹腔内癌再発…………… 18	()はその内の鏡視下手術件数、ロボット支援手術

呼吸器外科

1. 概要

当科は、東三河地区の重要な基幹病院として、肺癌などの悪性疾患、気胸のような良性疾患、胸部外傷など、地域医療に必要とされる胸部外科疾患を幅広く取り扱い、体への負担が少ない低侵襲手術を積極的に実施している。

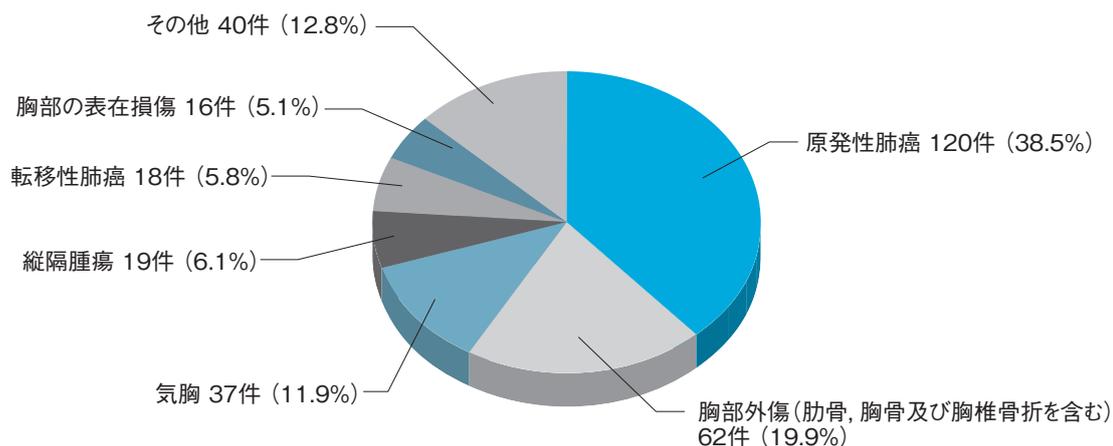
早期肺癌の標準術式は肺葉切除だが、ごく早期の肺癌もしくは低肺機能の患者には、より切除範囲が小さく呼吸機能を温存できる肺区域切除や部分切除を検討する。また、肺葉切除に関しても、従来行われてきた標準的な開胸手術や胸腔鏡下手術だけでなく、できるかぎり体に負担の少ない低侵襲手術を適応することができるか十分に検討し、治療を提案している。

毎週定期的に開催するカンファレンスでは、呼吸器内科や放射線科とともに症例検討を行い、患者さんに応じた治療を複数の医師で検討している。

(部長 成田 久仁夫)

2. 新規登録疾患

総数：312件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
原発性肺癌	気管支及び肺の悪性新生物, 気管支又は肺, 部位不明	108	C349
胸部外傷(肋骨, 胸骨及び胸椎骨折を含む)	肋骨骨折	19	S2230
	外傷性血胸	13	S271
気胸	自然気胸	21	J931
	続発性気胸	13	J938
縦隔腫瘍	その他及び部位不明の胸腔内臓器の良性新生物, 胸腺	9	D150
	中耳, 呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物, 縦隔	6	D383
転移性肺癌	肺の続発性悪性新生物	18	C780
胸部の表在損傷	胸部の挫傷	16	S202

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 2,858人 年間外来新患者数 301人
年間入院患者数 1,403人 年間入院新患者数 201人

心臓外科・血管外科

1. 概要

先天性心疾患：NMCにおいて1kgに満たない小さな子たちに救命的な手術を行っている。以前より一貫して将来を見越した胸筋温存による手術を行っており、この術式を取り入れている施設は全国でもごくわずかである。それ以外の症例については他院へお連れして手術を行っている。

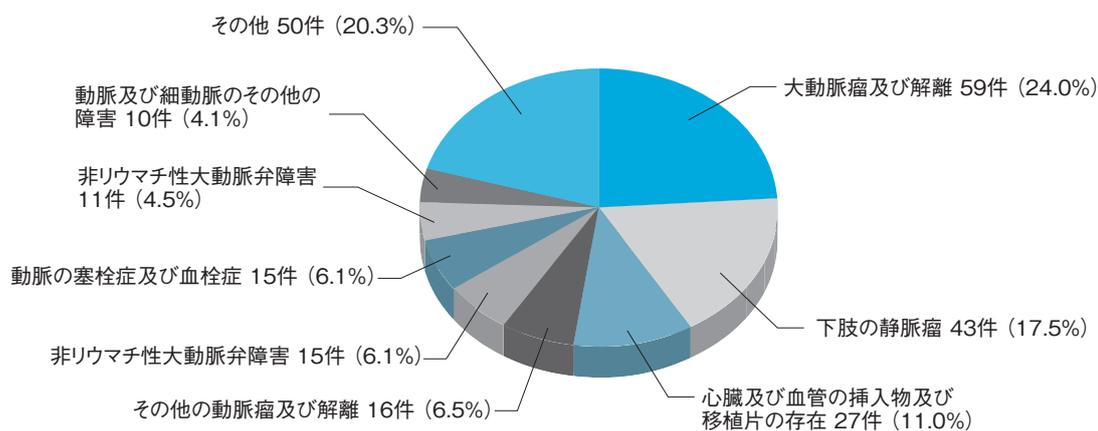
成人心疾患：症例数が少なく、チームの練度が上がらないのが現状であるが、日々のカンファレンスを充実させ一步一步進んでいる。

血管外科：下肢静脈瘤に対して血管内焼灼手術を取り入れてから、5年以上が経ち、多数の方々に施行してきたが、静脈瘤の再開通例はなく、海外のデータと比較してもよい成績であると自負している。より安全で早期回復を目指した手術を行うよう、スタッフともども進めていく所存である。

(部長 中山 雅人)

2. 新規登録疾患

総数：246件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
大動脈瘤及び解離	腹部大動脈瘤, 破裂の記載がないもの	35	I714
	大動脈の解離[各部位]	14	I710
下肢の静脈瘤	潰瘍又は炎症を伴わない下肢の静脈瘤	36	I839
心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	その他の心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	23	Z958
その他の動脈瘤及び解離	部位不明の動脈瘤及び解離	10	I729
非リウマチ性大動脈弁障害	大動脈弁閉鎖不全(症)	13	I351
動脈の塞栓症及び血栓症	詳細不明の動脈の塞栓症及び血栓症	11	I749
非リウマチ性僧帽弁障害	僧帽弁閉鎖不全(症)	11	I340
動脈及び細動脈のその他の障害	動脈の狭窄	10	I771

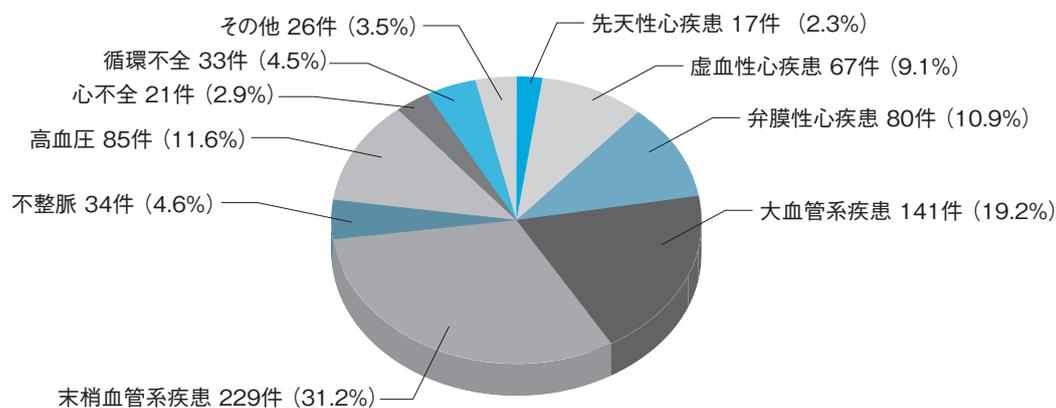
3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 3,017人 年間外来新患者数 136人
 年間入院患者数 2,496人 年間入院新患者数 140人

(2) 疾患別頻度

総数：733件



移植外科

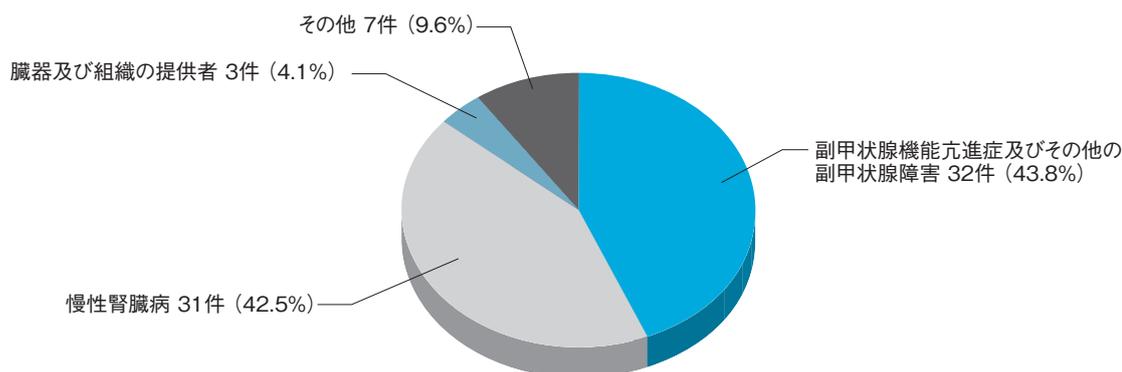
1. 概要

2010年4月に移植外科が標榜され、2012年5月に大塚聡樹医師（15年間勤務）が異動し、2021年3月に岩瀬勇斗医師が新しく赴任した。2012年10月からは東三河地域において唯一の腎移植認定施設となってしまったため、当地域の献腎移植登録患者の待機期間中のフォローアップは当院のみで行っている（常勤2人、非常勤1人体制）。また他院で移植された腎移植患者や肝臓・膵臓移植患者の定期通院も受け入れており、愛知県だけでなく全国の移植施設との間で病診連携がなされている。生体腎移植希望患者は年々増加しており今後、腎移植症例はさらに増えてゆくものと思われる。また長期透析に伴い骨代謝異常をおこす続発性副甲状腺機能亢進症に対する外科的手術（副甲状腺全摘出術+前腕筋肉内自家移植術）件数も増加しており、昨年は名古屋第二赤十字病院に次ぎ全国で二番目に多い症例数となった。副甲状腺手術症例も県をまたいで、より遠方からの紹介も増えている。

（部長 長坂 隆治）

2. 新規登録疾患

総数：73件



3. 活動報告

(1) 患者状況

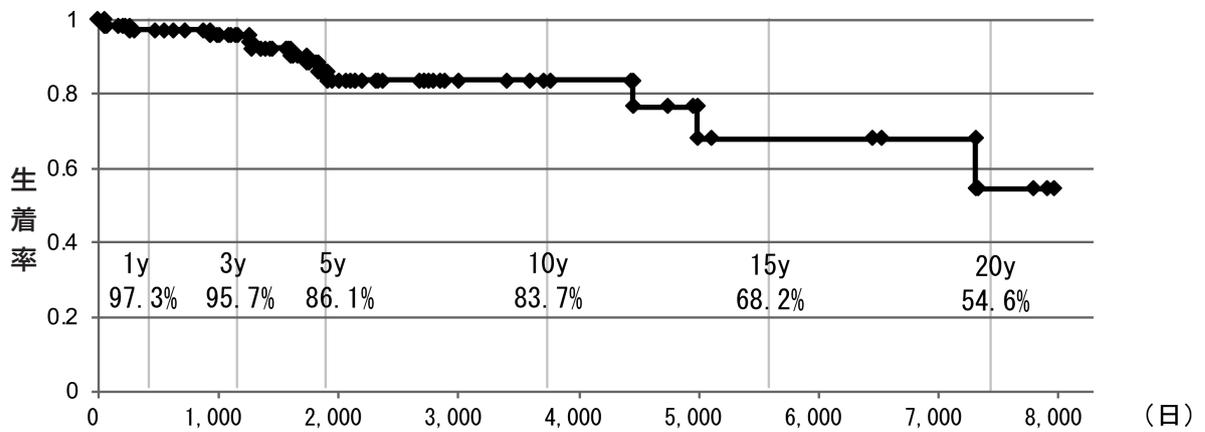
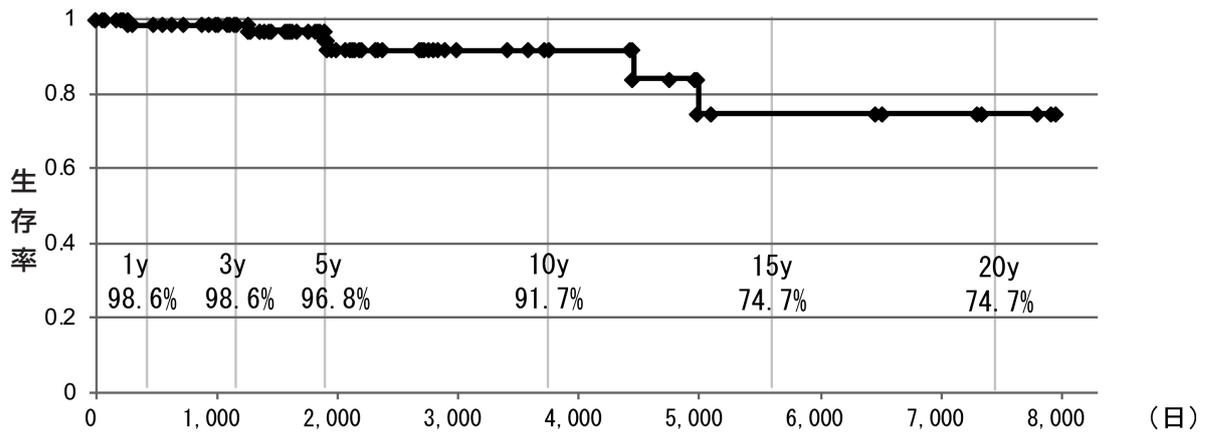
年間外来患者数	1,321人	年間外来新患者数	53人
年間入院患者数	619人	年間入院新患者数	66人

(2) 外来患者の状況

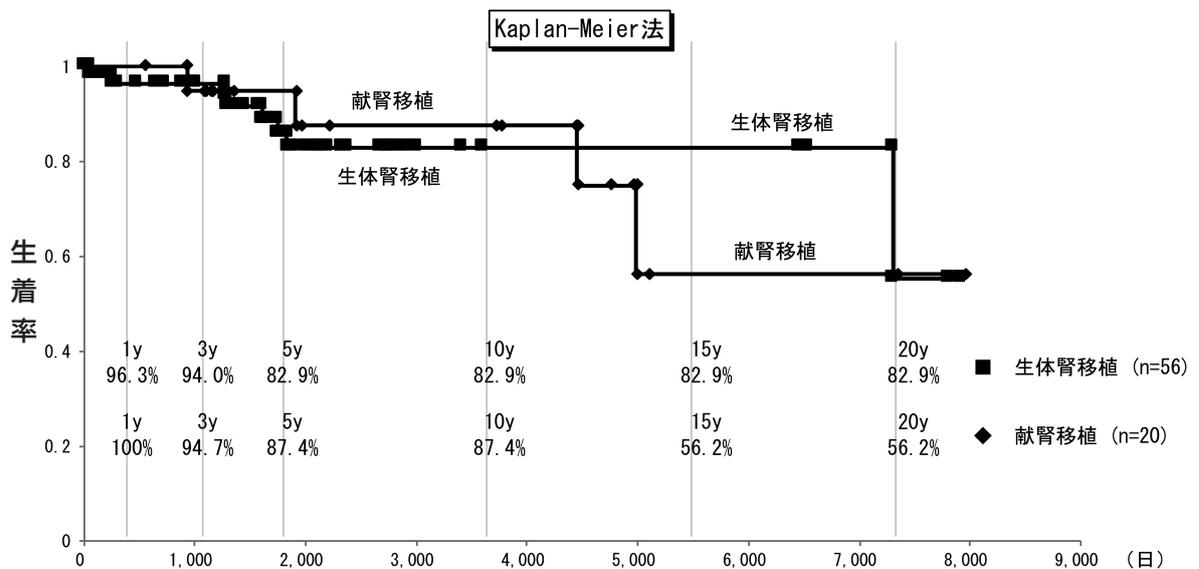
	疾患名	件数(件)
1	献腎移植登録外来	101
2	腎移植後	93
3	生体移植ドナー術後（肝臓、腎臓、膵臓）（当院外患者）	71
4	副甲状腺手術後	63
5	肝移植後	9
6	膵移植後	1

（2021年3月1日現在）

(3) 当院腎移植症例の生着率と生存率 (2021年4月現在, N=76)



(4) 当院腎移植症例の生着率 (生体腎移植 vs 献腎移植) (2021年3月現在, n=76)



整形外科

1. 概要

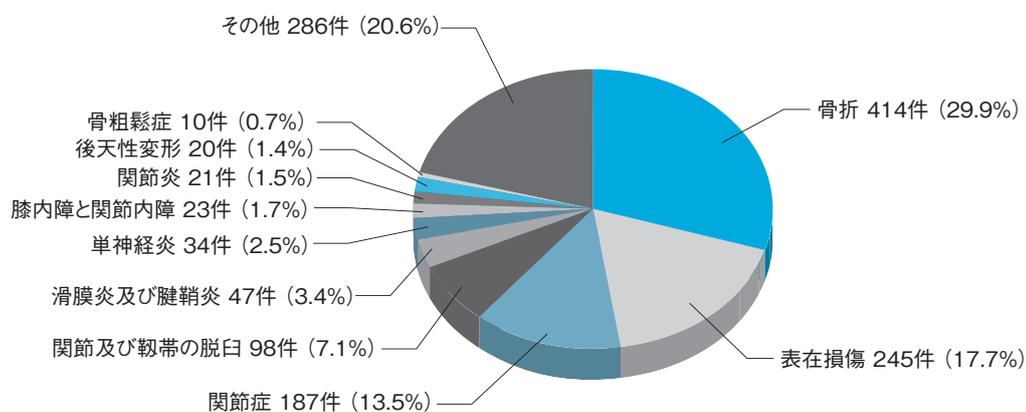
2020年12月31日時点での構成は常勤医（山内健一、藤田護、三矢聡、武田真輔、三矢未来、福井順）と専攻医である。専門外来は股関節（山内）、膝・肩関節（藤田、福井）、上肢、骨盤外傷（三矢聡）、上肢（武田）を担当している。腫瘍については全員で診療をおこない、毎月第2月曜日に名古屋大学整形外科腫瘍グループに骨軟部腫瘍外来をご協力いただいている。

年2回（2月、8月）豊橋整形外科研修セミナーを主催、また毎月東三河整形外科医会に参加し研修、および近隣の医療機関の医師との交流に努めている。

（部長 山内 健一）

2. 新規登録疾患

総数：1,385件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
骨折	大腿骨頸部骨折	51	S7200
	橈骨遠位端骨折	40	S5250
表在損傷	頸部の表在損傷, 部位不明	40	S109
	膝の挫傷	20	S800
関節症	その他の原発性膝関節症	79	M171
	股関節症, 詳細不明	58	M169
関節及び靭帯の脱臼	半月裂傷, 新鮮損傷	34	S832
	膝の(前)(後)十字靭帯の捻挫及びストレイン	20	S835
滑膜炎及び腱鞘炎	ばね指	18	M6534
	滑膜炎及び腱鞘炎, 詳細不明	14	M6599
単神経炎	尺骨神経の病変	12	G562
膝内障と関節内障	膝内障, 詳細不明	10	M2399
関節炎	化膿性関節炎, 詳細不明	3	M0099
	単(発性)関節炎, 他に分類されないもの	3	M1313
後天性変形	指の変形	14	M200
骨粗鬆症	骨折の骨癒合不全[偽関節]	3	M8416

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	23,851人	年間外来新患者数	3,594人
年間入院患者数	21,859人	年間入院新患者数	1,123人

(2) 骨折頻度

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	大腿骨	96	5	手首及び手	57
2	前腕	70	6	その他	46
3	肩及び上腕	63	7	足 (足首を除く)	23
4	下腿 (足首を含む)	59		計	414

(3) 手術実績

- ①手術症例件数 1,316件
 ②麻酔別症例件数 (重複あり)

名 称	件 数(件)
全身麻酔	204
腰椎麻酔	499
伝達麻酔	564
局所麻酔	464
その他	67
計	1,798

③分野別症例件数（重複あり）

(ア) 関節外科

a 人工関節

名 称	件 数(件)
人工股関節	80
人工骨頭股関節	38
人工膝関節	37
人工肩関節	2
人工肘関節	1
計	158

b 関節形成術

名 称	件 数(件)
股関節	4
膝関節	2
肩関節	3
足関節	8
計	17

c 関節鏡視下手術

名 称	件 数(件)
手関節	51
膝関節	46
肩関節	5
足関節	3
計	105

a+b+c 280件

(イ) 手の外科

名 称	件 数(件)
肘・前腕	132
手指	177
手関節	26
マイクロサージャリー	29
足趾、多合指(趾)	11
計	375

(ウ) 骨軟部外傷

名 称	件 数(件)
骨盤	13
大腿骨近位部	147
大腿	10
膝	26
下腿	91
足関節-足	63
鎖骨-上腕	68
抜釘	169
計	587

(エ)切断術(手指を除く) 34件

(オ)骨髄炎・感染症 39件

(カ)腫瘍 21件

(キ)その他 95件

計 1,431件

リウマチ科

1. 概要

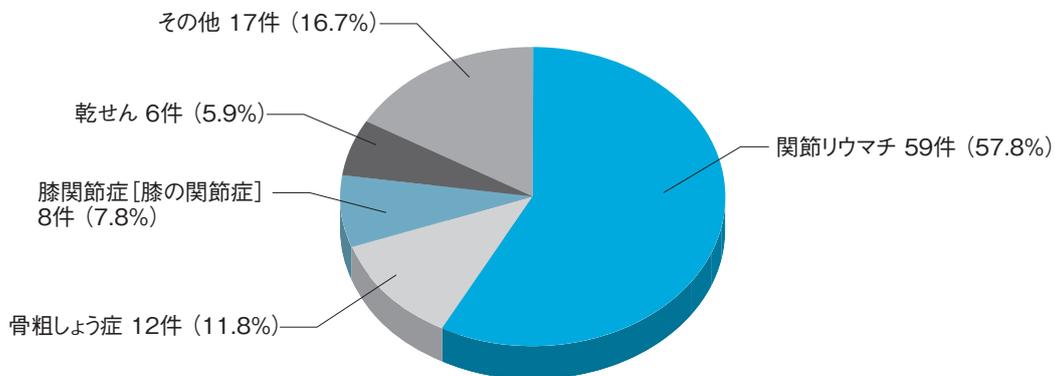
当科は内科的治療を基本としているが、整形外科より発展したため外科的治療も行っている。当科の診療の4本柱について記す。2020年は平野、小杉山、長谷川、大石（代務医師）で診療を行ってきた。2人のリウマチ科常勤医を中心に、代務医師、研修中の整形外科若手医師、他院勤務医師の助けも借りて診療を行った。

- ① 関節リウマチ（RA）の薬物治療：MTXを中心とした古典的抗リウマチ薬を早期から使用し、効果不十分例には生物学的製剤やJAK阻害剤を導入し関節破壊の防止に努めている。新薬の治験も行っている。
- ② 各種リウマチ性疾患（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、SAPHO症候群、分類不能の脊椎関節炎、RS3PE症候群、炎症性腸疾患関連関節炎、好酸球性筋膜炎）：比較的珍しい疾患群であるが対応し、疾患ごとの適切な治療を行っている。
- ③ 骨粗鬆症の診療：古典的薬剤に加え、新規薬剤（テリパラチド、デノスマブ、ロモソズマブ）が出現し、パラダイムシフトが起こっている。骨折診療の潮流は治療から予防に向かっている。
- ④ RAの外科的治療：長期罹病RA患者には外科的治療が必要であり、薬物治療とのコンビネーションこそが最高の結果をもたらす。人工関節置換術、関節固定術、関節形成術を行っている。

（部長 平野 裕司）

2. 新規登録疾患

総数：102件



3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	12,053人	年間外来新患者数	162人
年間入院患者数	583人	年間入院新患者数	29人

(2) 実績

関節リウマチ患者背景		
症例数(例)		1011
新患者数(人)		74
性別	男(人)	249
	女(人)	762
	女性率(%)	75.4
平均年齢(歳)		67.1
平均罹病期間(年)		13.8
罹病期間分類(%)	2年以下	13.6
	3年～9年	29.7
	10年以上	56.7
Stage(%)	I	26.2
	II	14.1
	III	25.7
	IV	34.1
Class(%)	1	43.5
	2	44.0
	3	10.0
	4	2.5
RF陽性率(%)		78.1
ACPA陽性率(%)		76.4

関節リウマチ薬物治療	
MTX投与者(例)	619
MTX投与率(%)	61.2
投与例の平均MTX投与量(mg/w)	7.4
GST投与者(例)	17
GST投与率(%)	1.7
SASP投与者(例)	187
SASP投与率(%)	18.5
TAC投与者(例)	163
TAC投与率(%)	16.1
IGU投与者(例)	151
IGU投与率(%)	14.9
BUC投与者(例)	9
BUC投与率(%)	0.9
PSL投与率(%)	14
投与例の平均PSL投与量(mg/day)	4.7
生物学的製剤経験者(例)	420.0
生物学的製剤経験率(%)	41.5

手術件数	
人工膝関節全置換術(件)	1
人工膝関節単顆置換術(件)	3
人工股関節置換術(件)	3
足趾形成術(件)	3
RA手関節手術(件)	0
足関節固定術(件)	7
その他(件)	28
合計手術件数(件)	11

関節リウマチ患者の骨粗鬆症治療		
骨粗鬆症治療の施行(例)	あり	457
	なし	554
骨粗鬆症治療の施行率(%)		45.2
ビタミンD製剤(例)	エディロール	252
	<i>a</i> カルシドール	49
	ロカルトロール	0
	デノタス	57
ビスホスホネート製剤(例)	アクトネル	52
	ボノテオ	160
	ボナロンゼリー	9
	ボンビバ	5
	リクラスト	35
SERM(例)	エビスタ	11
	ビビアント	5
PTH製剤(例)	フォルテオ(投与中)	0
	フォルテオ(延べ数)	81
	テリパラチドBS	3
	テリパラチドBS(延べ数)	3
抗RANKL抗体(例)	プラリア(投与中)	109
	プラリア(延べ数)	145
抗スクロスチン抗体(例)	イベニティ(投与中)	19
	イベニティ(延べ数)	22
その他(例)	グラケー	2

関節リウマチ臨床成績		
平均CRP(mg/dl)	0.54	
平均DAS28(ESR)	3.02	
DAS28(ESR)疾患活動性分類(%)	High	5.3
	Moderate	32.3
	Low	25.0
	Remission	37.4
平均SDAI	5.1	
SDAI疾患活動性分類(%)	High	2.2
	Moderate	11.0
	Low	32.4
	Remission	54.5
Boolean4(%)	46.6	
平均mHAQ	0.324	
mHAQ<0.5(%)	73.9	

関節リウマチ類縁疾患	累計	通院中
強直性脊椎炎(例)	13	9
乾癬性関節炎(例)	55	34
リウマチ性多発筋痛症(例)	132	49
SAPHO症候群(例)	31	15
RS3PE症候群(例)	30	10
炎症性腸疾患関連関節炎(例)	5	3

関節リウマチ患者の通院中断		
死亡(例)	18	
連絡無く通院中断(例)	5	
他医紹介	通院困難(例)	27
	関節リウマチ以外の病気の転院に伴って(例)	11
	遠方への転居(例)	7
	患者希望で紹介(転居通院困難以外)(例)	17
関節リウマチから他疾患に診断変更(例)	7	
寛解などで終了(例)	2	
その他・分類不能(例)	5	
計	99	

関節リウマチ以外の患者の骨粗鬆症診療	
閉経後骨粗鬆症(例)	79
ステロイド性骨粗鬆症(例)	83
性腺機能不全による骨粗鬆症(例)	10
妊娠後骨粗鬆症(例)	3
男性骨粗鬆症(例)	10
内分泌性骨粗鬆症(例)	1
廃用性骨粗鬆症(例)	4
分類不能の骨粗鬆症(例)	1
計	191

※通院中の患者数

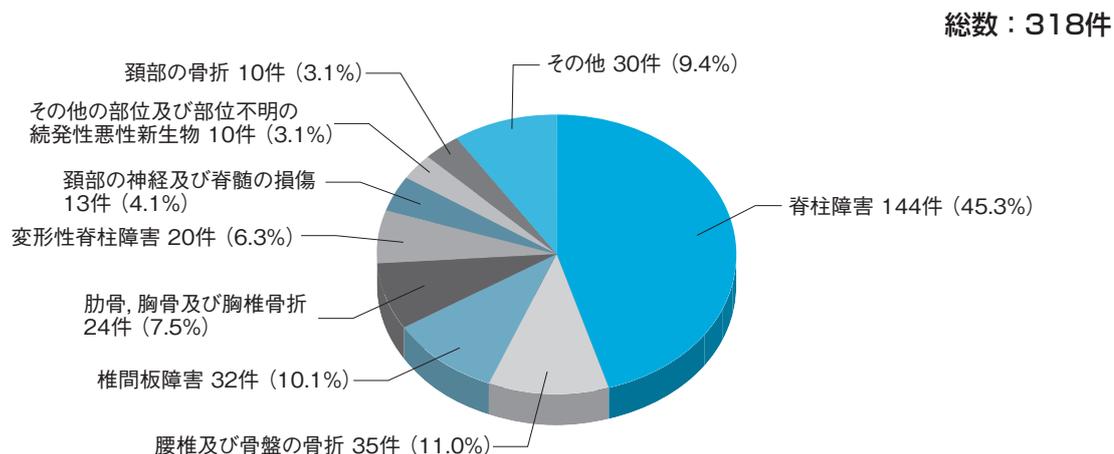
脊椎外科

1. 概要

脊椎外科は2005年4月1日より院内標榜科として新設された。2020年の脊椎外科医は吉原（部長 専門医、指導医）、岡田、館の3人であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行い、年間200件程の手術治療を行っている。主な疾患は、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアであるが、当院が3次救急病院であるため、脊椎外傷の治療も精力的に行っている。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら治療を行っている。2014年から手術室にO-arm CTとナビゲーション機器を導入し、より安全性を向上させた。また、高齢化に伴い増加している骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対してはセメント治療（BKP）も導入を始めた。また腰椎椎間板ヘルニアに対しては、保存療法として椎間板酵素注入療法も開始した。2021年からは脊椎脊髄外科専門医の増員を予定しており、より積極的かつ安全な治療を提供していく。

（部長 吉原 永武）

2. 新規登録疾患



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
脊柱障害	脊柱管狭窄(症)	55	M4806
	その他の脊椎症	37	M4782
腰椎及び骨盤の骨折	腰椎骨折	35	S3200
椎間板障害	その他の明示された椎間板ヘルニア	25	M512
肋骨, 胸骨及び胸椎骨折	胸椎骨折	22	S2200
変形性脊柱障害	脊椎すべり症	9	M4316
頸部の神経及び脊髄の損傷	頸髄のその他及び詳細不明の損傷	13	S141
その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物	骨及び骨髄の続発性悪性新生物	10	C795
頸部の骨折	頸部の骨折, 部位不明	9	S1290

3. 活動報告

(1) 主な対象疾患

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頸椎症性頸髄症 腰椎迂り症・分離症 頸椎椎間板ヘルニア 後縦靭帯骨化症・黄色靭帯骨化症・黄色靭帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍 脊椎感染症 脊椎外傷 その他

(2) 手術実績

術式	件数(件)
頸椎椎弓形成術	37
頸椎椎間孔拡大術	2
頸椎前方除圧固定	1
頸椎後方固定術	21
胸椎除圧固定	3
胸椎椎弓切除	10
椎間板ヘルニア摘出	28
椎弓切除(腰椎除圧術)	65
脊椎固定術	44
XLIF	1
胸腰椎前方固定	1
胸腰椎後方固定	17
胸腰椎前方後方同時固定	1
脊椎脊髄腫瘍	3
その他	35
計	269

脳神経外科

1. 概要

当科では新生児から超高齢者まで脳神経外科疾患のほぼ全ての領域を対象に、高侵襲な手術から、血管内治療や神経内視鏡手術などの低侵襲かつ最先端の治療を導入して可能な限り当院にて治療が完結できるよう努めている。手術件数は年々増加し、2019年に初めて400件を超え、2020年のコロナ禍以降も手術件数を維持している。hybrid手術室も稼働し、より難易度の高い脳血管障害を中心とした手術の適応拡大を図っている。

当科の該当疾患は、脳血管障害、脳腫瘍、外傷、先天性疾患、感染など多岐にわたるが、その中で脳卒中に於いては2019年に施行された「脳卒中・循環器病対策基本法」に基づき、脳神経内科と連携・協力して脳卒中ケアユニットを設置し、2020年4月からは一次脳卒中センターを開設した。専門医も増員され、需要が高まる血栓回収療法などの高度医療の提供に積極的に努めている。

また地域医療では東三河地域の関連施設とともに構築してきた「穂の国脳卒中連携パス」を今後も検討・改訂しながら、急性期から回復期および維持期医療への円滑な地域連携を引き続き図っていききたい。

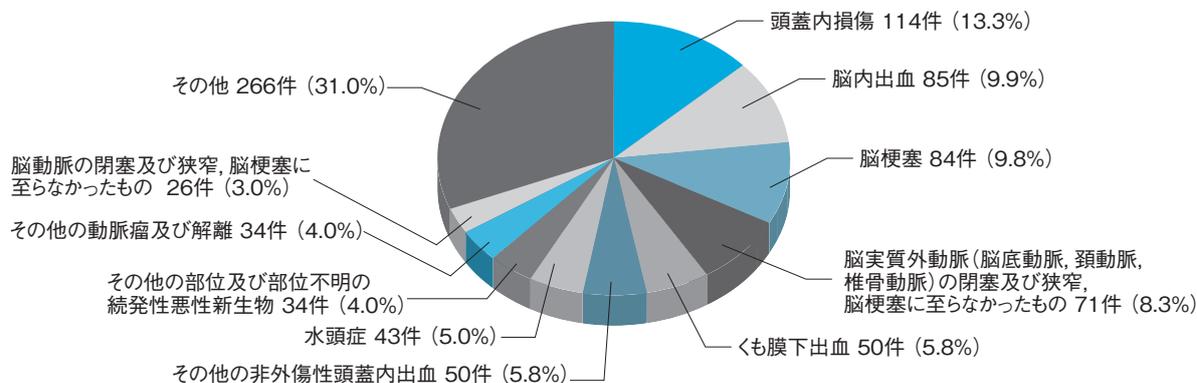
少子高齢化時代の中で、スタッフ一同、迅速・安全・確実な診療を心掛け、地域の皆様に信頼され広く親しまれる病院を目指して努力する所存である。

(第一部長 雄山 博文)

(文責 第二部長 若林 健一)

2. 新規登録疾患

総数：857件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
頭蓋内損傷	外傷性硬膜下出血	25	S065
	びまん性脳損傷	15	S062
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	64	I610
脳梗塞	脳梗塞, 詳細不明	39	I639
	脳動脈の血栓症による脳梗塞	16	I633
脳実質外動脈(脳底動脈, 頸動脈, 椎骨動脈)の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	頸動脈の閉塞及び狭窄	67	I652
くも膜下出血	くも膜下出血, 詳細不明	14	I609
	前交通動脈からのくも膜下出血	10	I602
その他の非外傷性頭蓋内出血	硬膜下出血(急性)(非外傷性)	50	I620
水頭症	水頭症, 詳細不明	21	G919
	正常圧水頭症	13	G912
その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物	脳及び脳髄膜の続発性悪性新生物	34	C793
その他の動脈瘤及び解離	頸動脈瘤及び解離	16	I720
	椎骨動脈の動脈瘤及び解離	15	I726
脳動脈の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	中大脳動脈の閉塞及び狭窄	23	I660

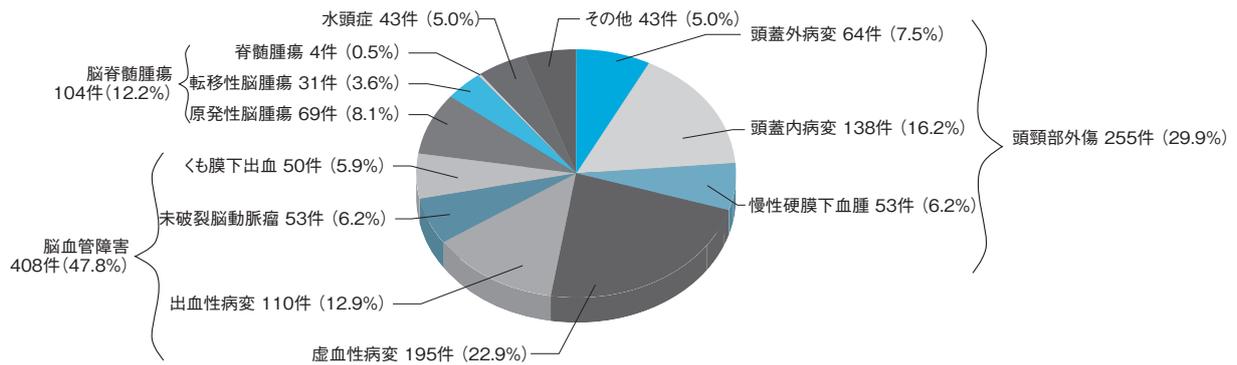
3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	13,234人	年間外来新患者数	1,722人
年間入院患者数	15,454人	年間入院新患者数	785人

(2) 疾患群別に見た症例数

総数：853件



(3) 血管内手術件数

術式	件数(件)
経皮的血管形成術	29
急性期再開通療法	55
脳動脈瘤塞栓術	36
硬膜静脈瘻塞栓術	6
脳動静脈奇形塞栓術	1
その他の血管内手術	25
計	152

小児科

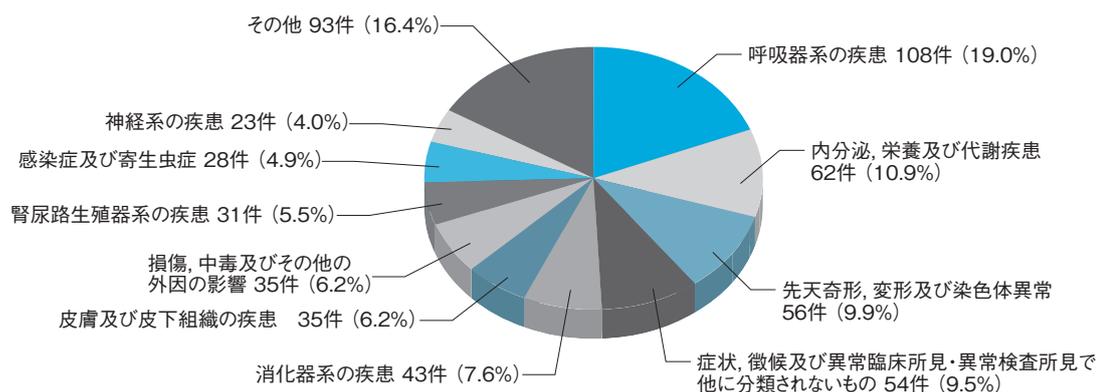
1. 概要

小児科病棟スタッフは皆、東三河地域の最後の砦を担うという緊張感を持って対応している。小児科内のサブスペシャリティとしてはアレルギー疾患、神経疾患、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患、血液腫瘍疾患をカバーし、高度特殊医療を除けば各分野ともに専門施設と比べても引けを取らない医療レベルを提供できている。また、患者には最善の医療を提供すべく、各分野で対応困難な症例については専門施設との連携をとって対応している。このような体制を維持する意義は、東三河地域で医療が完結することが患者家族への最高のサービスになることにある。特に長期入院を必要とする場合や、月に何度も専門外来にかかる必要がある時には患者家族に大きな負担となり切実な問題となる。一方で東三河地域の小児医療は、一次医療、二次医療、休日夜間診療所の業務、健診医療などの充実に支えられており、当院が二次、三次医療に集中することが可能であるということも忘れてはならない。

(第一部長 村松 幹司)

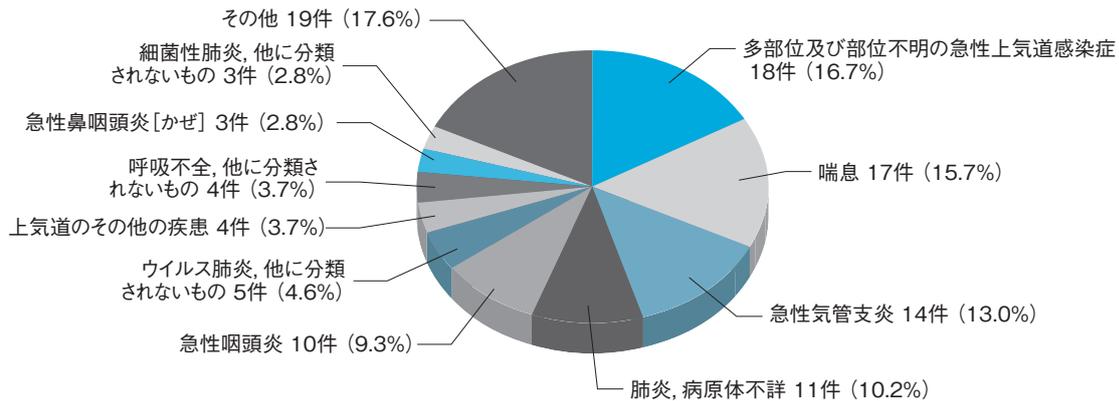
2. 新規登録疾患

総数：568件

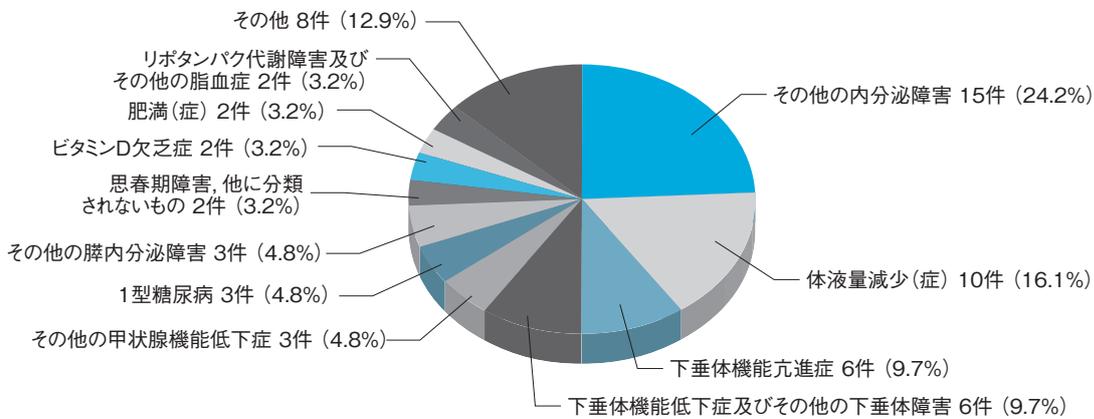


上位3位の詳細

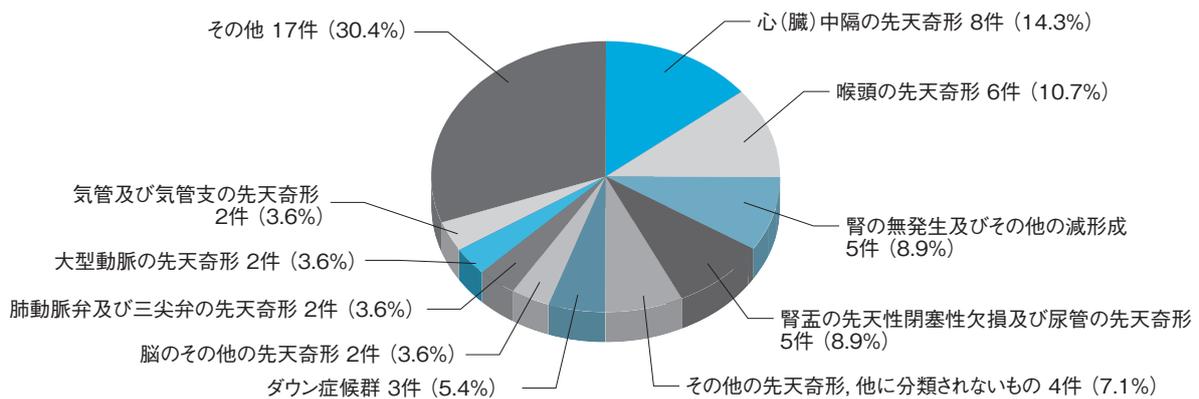
(1) 呼吸器系の疾患：108件



(2) 内分泌, 栄養及び代謝疾患：62件



(3) 先天奇形, 変形及び染色体異常：56件



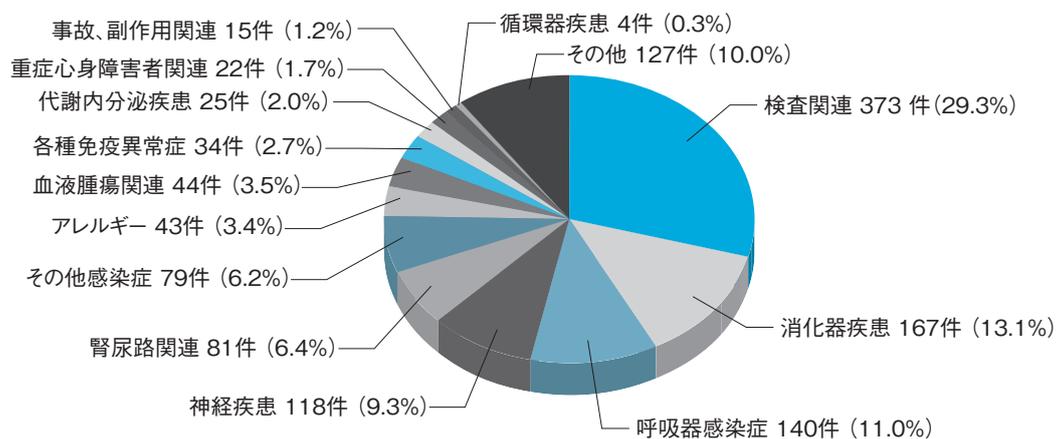
3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	24,877人	年間外来新患者数	1,952人
年間入院患者数	15,073人	年間入院新患者数	1,557人

(2) 入院患者疾患別頻度

総数：1,272件



小児科（新生児部門）

1. 概要

豊橋市民病院新生児医療センターは、東三河地区唯一の総合周産期母子医療センターに指定されている。

2020年の入院数は386例で内266例は院内出生であった。120例の院外出生例においては医師が救急車に同乗して搬送しており、診察依頼があった全ての新生児に対し24時間体制で集中治療を迅速に提供している。一部の外科的治療が必要な例は他施設への搬送を要する例もあるが、その場合も医師が同乗する等、責任をもって搬送にあっている。2020年の死亡例は2例であった。新生児期の医療面のみではなく、患児発達支援や、両親の心のサポートを医師、看護師、理学療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカーが共同して提供している。近隣産科医院への出張を含めた新生児蘇生講習会を定期開催し、地域の周産期医療レベルの向上にも努めている。また本年度より気管気管支鏡検査を積極的に実施し、気道病変の診断・治療に対してより高度な医療を提供できる体制となった。

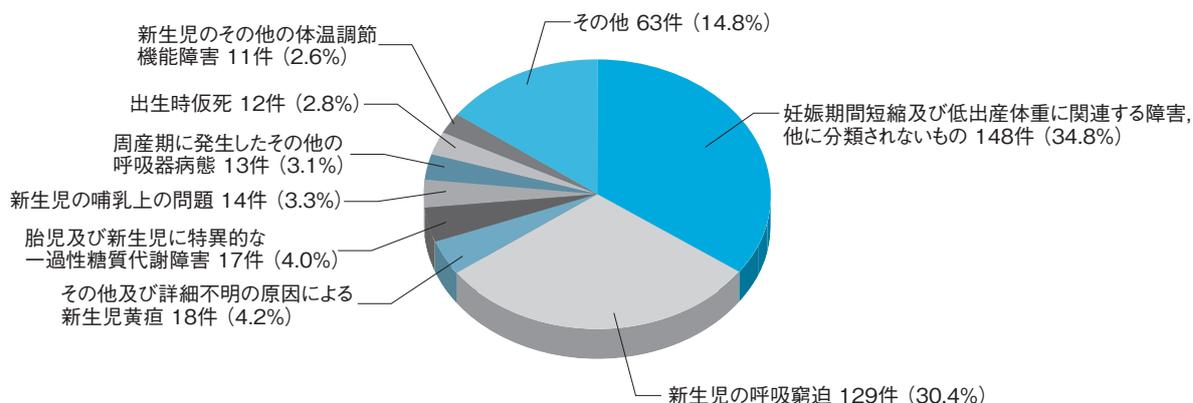
加えて当センターは周産期（新生児）専門医の基幹研修施設に指定されており、現在1名の専門医を育成中である。

（第一部長 村松 幹司）

（文責 第二部長 杉浦 崇浩）

2. 新規登録疾患

総件数：425件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害,他に分類されないもの	その他の低出産体重(児)	73	P071b
	その他の早産児	55	P073
新生児の呼吸窮迫	新生児一過性頻呼吸	110	P221
	新生児呼吸窮迫症候群	19	P220
その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸	新生児黄疸, 詳細不明	17	P599
胎児及び新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	その他の新生児低血糖	17	P704
新生児の哺乳上の問題	新生児嘔吐	13	P920
周産期に発生したその他の呼吸器病態	新生児のその他の無呼吸	11	P284
出生時仮死	重度出生時仮死	9	P210
	出生時仮死, 詳細不明	3	P219
新生児のその他の体温調節機能障害	新生児の体温調節機能障害, 詳細不明	11	P819

産婦人科

1. 概要

周産期部門では、近年の分娩件数の減少と新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う里帰り分娩の制限とあいまって分娩数が減少した。感染症管理センター・保健所と連携し新型コロナ陽性および濃厚接触妊婦の健診や分娩を担当した。

婦人科手術については、当院に2台目となる手術支援ロボット、ダ・ヴィンチXiが導入され一段とロボット手術が増加した。新型コロナウイルス感染症の影響で施設見学者の受け入れは減少したが、当院にはロボット手術の指導者（プロクター）が2名在籍しており、他施設へ指導に出向いた。

薬物療法は卵巣癌において新たなコンパニオン診断・治療薬が適応となり個別化治療が進んだ。子宮筋腫、子宮内膜症をはじめとした良性疾患についてはホルモン製剤の選択肢が増加した。個々の患者のライフスケジュールを考慮した手術術式・実施時期を内分泌療法も組み合わせて、症例により総合生殖医療センターと共同して方針を決定している。

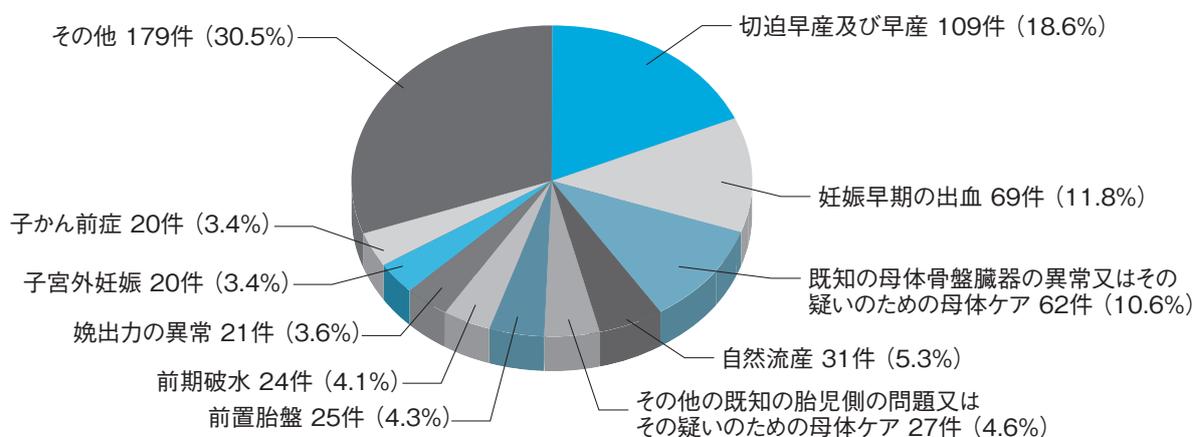
産婦人科（生殖医療含む）医師は2021年4月現在15名、うち産婦人科専攻医4名。周産期、腫瘍、生殖、女性ヘルスケアの産婦人科主要4分野プラス内視鏡について充実した研修体制を提供している

（第二部長 岡田 真由美）

2. 新規登録疾患

(1) 産科（分娩を除く）

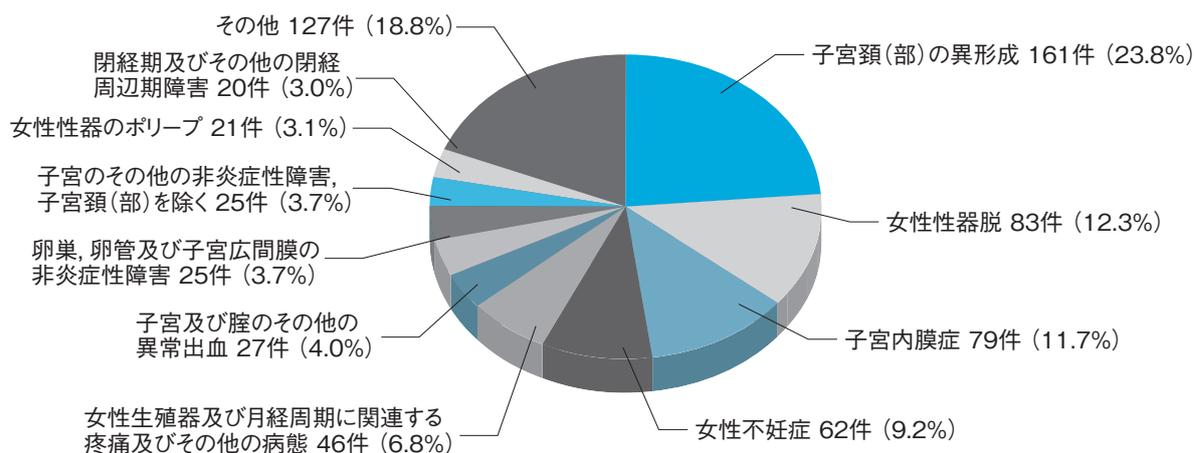
総数：587件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
切迫早産及び早産	切迫早産	106	O600
妊娠早期の出血	切迫流産	65	O200
既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	既往手術による子宮癒痕による母体ケア	54	O342
自然流産	自然流産, 完全流産又は詳細不明の流産, 合併症を伴わないもの	26	O039
その他の既知の胎児側の問題又はその疑いのための母体ケア	子宮内胎児死亡のための母体ケア	11	O364
前置胎盤	出血を伴う前置胎盤	25	O441
前期破水	前期破水, 詳細不明	23	O429
娩出力の異常	その他の微弱陣痛	18	O622
子宮外妊娠	子宮外妊娠, 詳細不明	11	O009
子かん前症	重症子かん前症	11	O141

(2) 婦人科

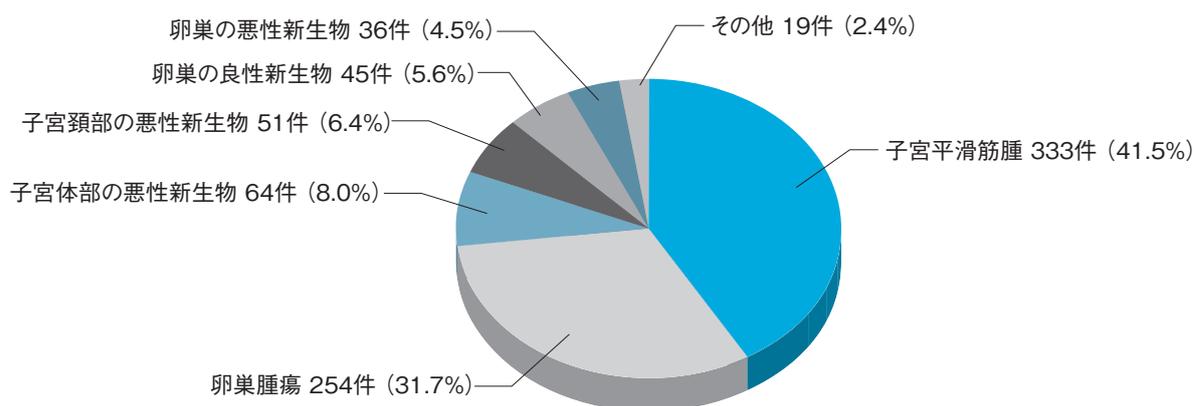
総数：676件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
子宮頸(部)の異形成	子宮頸(部)の異形成, 詳細不明	111	N879
	高度子宮頸(部)の異形成,他に分類されないもの	41	N872
女性性器脱	子宮腔脱, 詳細不明	45	N814
	完全子宮腔脱	16	N813
子宮内膜症	子宮の子宮内膜症	30	N800
	子宮内膜症, 詳細不明	30	N809
女性不妊症	女性不妊症, 詳細不明	62	N979
女性生殖器及び月経周期に関連する疼痛及びその他の病態	月経困難症, 詳細不明	35	N946
子宮及び腔のその他の異常出血	子宮及び腔の異常出血, 詳細不明	27	N939
卵巣, 卵管及び子宮広間膜の非炎症性障害	卵巣, 卵管及び広間膜のその他の非炎症性障害	19	N838
子宮のその他の非炎症性障害, 子宮頸(部)を除く	子宮内膜腺様のう胞性増殖症	12	N850
女性性器のポリープ	子宮頸(部)ポリープ	16	N841
閉経期及びその他の閉経周辺期障害	閉経期及び女性更年期状態	13	N951

(3) 新生物

総数：802件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
子宮平滑筋腫	子宮平滑筋腫, 部位不明	326	D259
卵巣腫瘍	女性生殖器の性状不詳又は不明の新生物, 卵巣	254	D391
子宮体部の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物, 子宮体部, 部位不明	48	C549
	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	15	C541
子宮頸部の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物, 子宮頸(部), 部位不明	51	C539
卵巣の良性新生物	卵巣の良性新生物	45	D27
卵巣の悪性新生物	卵巣の悪性新生物	36	C56

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	38,381人	年間外来新患者数	2,312人
年間入院患者数	16,896人	年間入院新患者数	2,217人

(2) 実績

分娩統計(2020.1-12)(件)	
正常	369
選択帝王切開	175
緊急帝王切開	133
超緊急帝王切開	5
死産緊急帝王切開	1
鉗子分娩	2
吸引分娩	26
死産	7
自宅分娩	0
車中分娩	1
未受診正常	0
未受診自宅分娩	2
車中分娩搬送	1
未受診VBAC	0
双胎選択帝王切開	17
双胎緊急帝王切開	10
双胎超緊急帝王切開	0
双胎一児IUFD・超緊急帝王切開	0
双胎一児IUFD・正常分娩	0
品胎選択帝王切開	0
計	749
中期中絶	14
中期流産	7
中期子宮破裂SA	1
双胎流産	0
双胎一児IUFD中絶	0
計	22
母体搬送	205

産婦人科悪性腫瘍治療症例数(2020.1-12)(件)	
◎子宮頸癌	計37例
①手術症例	21
I A期	1
I A1期	1
I A2期	1
I B1期	12
I B2期	6
②CCRT(同時化学放射線療法 放射線科と共同治療)	13
II B期	4
III B期	4
IV A期	1
IV B期	4
③放射線療法(主に放射線科で治療)	3
I B1期	1
II A1期	1
IV B期	1
◎子宮体癌手術	計59例
IA期	48
IB期	4
III A期	1
III C期	3
IV B期	3
◎外陰癌手術	計2例
III A期	1
IV B期	1
◎卵巣癌手術	計40例
I A期	11
I B期	1
I C1期	8
I C2期	1
I C3期	1
II B期	2
III A1期	2
III B期	3
III C期	6
IV A期	2
IV B期	3

◎子宮肉腫手術	計2例
1b期	2
◎癌肉腫手術	計1例
4b期	1

化学療法

卵巣癌	78人	のべ454コース
子宮頸癌	49人	のべ203コース
子宮体癌	33人	のべ159コース
腹膜癌	10人	のべ 88コース
卵管癌	5人	のべ 28コース
平滑筋肉腫	3人	のべ 21コース
外陰癌	2人	のべ 5コース
原発不明癌	2人	のべ 10コース
計	182人	に対してのべ968コース施行 (内服抗がん剤は除く)

手術総件数(2020.1-12)(件)

産科

帝王切開術	315
前置胎盤を伴う帝王切開術	13
分娩後子宮全摘術	1
会陰部裂傷縫合・腔壁血腫除去術	7
子宮内反整復術	0
子宮頸管縫縮術	8
その他	3

開腹術(良性)

単純子宮全摘術(腔上部含む)	31
筋腫核出術	8
子宮付属器手術	42
異所性妊娠手術	1
その他	3

開腹術(悪性)

子宮悪性腫瘍手術	30
うち広汎子宮全摘術	10
うち拡大子宮全摘術	3
子宮付属器悪性腫瘍手術	46
その他(試験開腹術含む)	5

経腔的・外陰部手術

腔式子宮全摘術(前後会陰形成術含む)	15
経腔的子宮筋腫核出術	0
円錐切除術(蒸散含む)	69
子宮内膜全面搔把術	17
子宮内容除去術(流産手術)	11
子宮内容除去術(人工妊娠中絶術)	12
胞状奇胎娩出術	2
その他	13

内視鏡手術

子宮鏡手術	3
腹腔鏡(補助)下子宮悪性腫瘍手術	20
うち子宮頸癌	9
うち子宮体癌	11
うち広汎子宮全摘術	3
うち拡大子宮全摘術	4
腹腔鏡(補助)下子宮全摘術(良性)	52
腹腔鏡(補助)下子宮筋腫核出術	25
腹腔鏡(補助)下子宮付属器手術	130
腹腔鏡下異所性妊娠手術	35

腹腔鏡下仙骨腔固定術	8
腹腔鏡下手術(その他)	5
ロボット支援下手術	162
うち良性疾患	119
うち子宮頸癌	6
うち子宮体癌	37
うち広汎子宮全摘	4
うち拡大子宮全摘	1
計	1,299

産婦人科（生殖医療）

1. 概要

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るった1年であったが、生殖医療に対する当院の治療指針は、何ら変更する必要もなく的確に対応できた。第1に、生殖周産期医療は地域に根ざしたものであるべきという理想を実現すべく、地元東三河に在住または生活拠点を置く患者さんのみを治療対象とする10年来の方針は、地域感染拡大時でも安心して受診してもらえる環境の維持に寄与した。当院は国内有数規模の感染症指定病院でもあり、必要十分で無駄のない感染症対策が行われていたが、日常診療や体外受精説明会でも感染症や感染対策についての患者教育を徹底して行った。第2に、何人の子どもを望み、最後の子どもを西暦何年・何歳で出産するかを目標を明確にし、そこから逆算して実際の治療プランを立てるファミリープランニングという当院の掲げる方式は、感染拡大期には採卵実施後に新鮮胚移植を行わず胚（受精卵）を凍結する全胚凍結も治療選択できるように対応して乗り切った。第3に、「コロナ禍でも、できる取り組みから行おう」という合言葉で、当院不妊症患者に多い子宮内膜症や子宮筋腫などの合併症に対する薬物治療や、感染症重症化で注目された亜鉛欠乏治療（不妊症との関連が注目されている）、そもそも不妊症に対しても健康長寿にも有効な食事、運動、睡眠、心理的ストレスの生活習慣4つのテーマにご夫婦でしっかり取り組んでもらい、難しい不妊症の患者さんたちに素晴らしい結果をもたらすことができた。第4に、当院の表看板でもある体外受精などの生殖補助医療（ART）におけるタイムラプス胚培養も14年目となり、2018、19年に導入した人工知能搭載タイプの新機種が、すべての胚（受精卵）に客観的5段階で評価を与えてくれるようになったので、たとえばこれだけ凍結できれば2人の子どもを持てる可能性は95%以上というように、感染拡大下でも安心感が得られるようになった。

おそらく当院で生殖医療を受ければ、新型コロナウイルス感染症で如何なる状況になっても、的確な指導が受けられ時間を無駄にせず子を持ちたいという強い覚悟を持ち続けられることを実感していただけたと確信する。

（部長 安藤 寿夫）

2. 活動報告

(1) 生殖補助医療

(件)

2020年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	13	12	7	7	2	14	3
2月	13	13	4	6	2	11	2
3月	8	6	2	2	0	7	1
4月	18	13	9	3	1	7	0
5月	8	8	5	1	0	7	2
6月	15	14	5	8	1	8	3
7月	10	8	5	2	1	11	4
8月	11	6	3	2	0	8	3
9月	8	6	4	3	0	13	4
10月	16	12	6	10	4	11	4
11月	17	16	9	9	2	4	0
12月	6	4	4	3	1	11	3
計	143	118	63	56	14	112	29
妊娠率					25.0%		25.9%

単胚移植率100%。多胎は0例。異所性妊娠1例。

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

(2) 不妊症妊娠例（カッコ内は多胎妊娠例）

区分	件数(件)
体外受精-新鮮胚移植	15(0)
融解胚移植	30(0)
排卵誘発	2(0)
人工授精	1(0)
習慣流産	3(0)
タイミング法・その他	14(0)
計(重複例を除く)	60(0)

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

女性内視鏡外科

1. 概要

産婦人科における手術治療のうち、主に腹腔鏡下手術やロボット支援下手術に関わる診療を担当している。従来の開腹術と比べ、早期退院、社会復帰が可能であり患者にとって負担が少ない手術法である。2020年度には、約440件の腹腔鏡下手術を行い、ロボット支援下手術は162件施行した。良性疾患だけでなく、悪性腫瘍疾患に対しても積極的に本術式を導入し、子宮体癌や子宮頸癌に対する低侵襲手術を行った。

2020年度には、骨盤臓器脱に対してロボット支援下仙骨腔固定術が保険適応となり、当院でも導入を開始した。通常の腹腔鏡下手術と比較して、より精密に手術が可能となった。

当院は、日本で4か所目のロボット支援下手術認定証発行施設でもあり、全国から多くの医師が手術見学のため来院する。また、東三河唯一の産婦人科内視鏡技術認定医研修施設であり、多くの若手医師が技術認定医を目指して日々修練している。技術認定医の資格を得るには数多くの腹腔鏡下手術の件数やビデオ審査があるが、直近3年間で当院から5人の合格者を輩出している。

現在、腹腔鏡下手術やロボット支援下手術の指導者として全国多岐にわたり、講演や手術技術指導を行っており、今後もさらなる低侵襲化手術の普及に努める。

(部長 梅村 康太)

耳鼻いんこう科

1. 概要

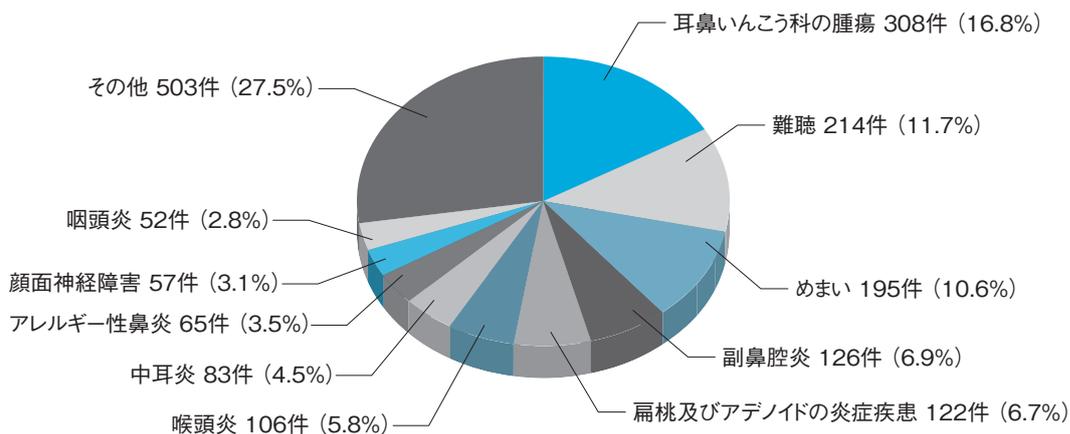
中耳炎、めまい、難聴、顔面神経麻痺に対して投薬治療を行い、改善を認めない場合は当院にて外科的治療を行っている。また、耳鳴り専門外来を設置し、専門的な治療を行っている。

アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症に対して、患者の病態や希望にあった治療（手術療法や投薬治療）を行った。慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群に対して、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を行った。また鼻出血、急性扁桃炎、喉頭蓋炎等の救急疾患については、重症度に合わせて入院治療を行った。咽頭・喉頭・甲状腺・唾液腺等の良性腫瘍に対しては、適応を定めて手術療法を行った。悪性腫瘍に対しては、それぞれの患者の状況に合わせて、根治と機能温存のバランスを取り、手術療法、化学療法、放射線療法の3者を組み合わせて治療を行った。再建を必要とする様な症例も積極的に当院で行った。

(部長 小澤 泰次郎)

2. 新規登録疾患

総数：1,831件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
耳鼻いんこう科の腫瘍	内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物, 甲状腺	86	D440
	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, 口唇, 口腔及び咽頭	73	D370
難聴	感音難聴, 詳細不明	110	H905
	難聴, 詳細不明	45	H919
めまい	その他の末梢性めまい	129	H813
	メニエール病	42	H810
副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎, 詳細不明	120	J329
扁桃及びアデノイドの炎症疾患	急性扁桃炎, 詳細不明	40	J039
	扁桃肥大	38	J351
喉頭炎	慢性喉頭炎	106	J370
中耳炎	中耳炎, 詳細不明	40	H669
	非化膿性中耳炎, 詳細不明	34	H659
アレルギー性鼻炎	アレルギー性鼻炎, 詳細不明	64	J304
顔面神経障害	ベル麻痺	57	G510
咽頭炎	急性喉頭咽頭炎	37	J060
	急性咽頭炎, 詳細不明	12	J029

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	24,646人	年間外来新患者数	2,908人
年間入院患者数	8,770人	年間入院新患者数	801人

(2) 入院患者の状況

①主な救急疾患（入院加療を要した）

疾患名	件数(件)
急性扁桃炎・扁桃周囲の腫瘍	56
めまい	20
急性喉頭蓋炎・喉頭炎	15
突発性難聴	14
顔面神経麻痺	14
鼻出血	5
計	124

②主な手術療法（手術室使用）

術式	件数(件)
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術	199
内視鏡下副鼻腔手術	63
リンパ節摘出術	56
気管切開術	54
甲状腺腫瘍手術	43
頸部郭清術	36
鼓膜チューブ留置術	32
耳下腺腫瘍手術	24
喉頭微細手術	21
咽頭悪性腫瘍手術	18
顎下腺摘出術	8
喉頭全摘術	5
計	559

眼科

1. 概要

白内障手術においては、最新機械を導入した。+1.5D加入眼内レンズおよびトーリック眼内レンズ（乱視矯正用眼内レンズ）の使用が増加した。多焦点眼内レンズも使用開始した。

また、日帰り外来白内障手術件数は増加した。今後も、白内障手術については順次、入院手術から外来手術への移行を図る予定である。

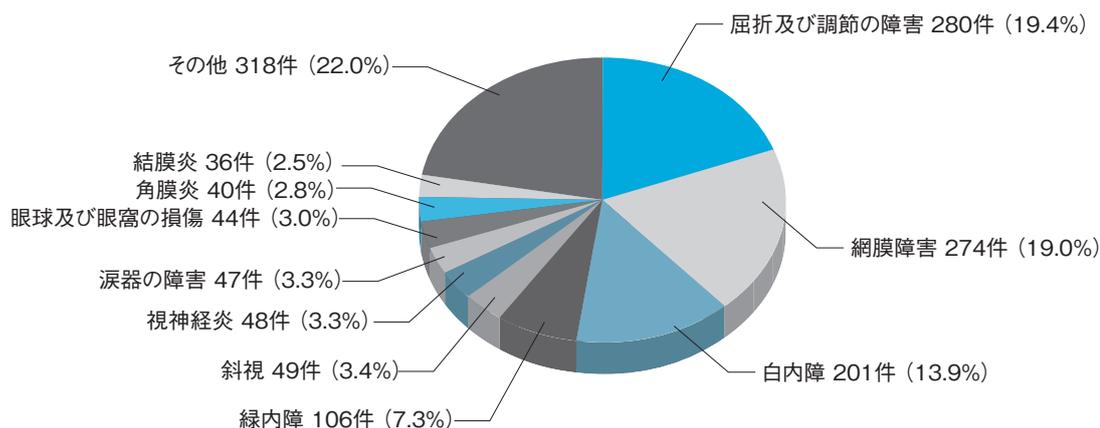
緑内障手術についてはMIGSの適応が拡大し、マイクロフックを用いた線維柱帯切開術の手術件数が増加した。硝子体手術とともに、低侵襲手術化がすすんでいる。

手術室において看護師・臨床工学士と協力してさらなる業務の効率化を検討中である。眼科外来においては、新しいレーザー装置の導入により、従来の網膜光凝固に加え、パターンレーザーが施行可能となった。

（部長 佐川 宏恵）

2. 新規登録疾患

総数：1,443件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
屈折及び調節の障害	乱視	272	H522
網膜障害	詳細不明の糖尿病, 眼合併症を伴うもの	142	E143
	黄斑及び後極の変性	66	H353
白内障	老人性白内障, 詳細不明	99	H259
	白内障, 詳細不明	30	H269
緑内障	緑内障, 詳細不明	46	H409
	原発開放隅角緑内障	19	H401
斜視	共同性外斜視	10	H501
	間欠性斜視	10	H503
視神経炎	視神経炎	48	H46
涙器の障害	涙腺のその他の障害	39	H041
眼球及び眼窩の損傷	眼球及び眼窩組織の挫傷	39	S051
角膜炎	角膜炎, 詳細不明	14	H169
結膜炎	結膜炎, 詳細不明	24	H109

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	15,441人	年間外来新患者数	983人
年間入院患者数	2,188人	年間入院新患者数	389人

(2) 入院時の疾患内訳

疾患名	件数(件)	疾患名	件数(件)
白内障	221	眼内レンズ脱臼	3
糖尿病網膜症	47	斜視	3
緑内障	41	結膜腫瘍	2
網膜前膜	25	硝子体黄斑牽引症候群	2
網膜剥離	17	眼窩蜂窩織炎	1
視神経症	9	急性網膜壊死	1
黄斑円孔	8	増殖硝子体網膜症	1
硝子体出血・混濁	5	未熟児網膜症	1
角膜穿孔	4	計	391

(3) 手術・検査数

①外来手術数

術式	件数(件)
硝子体注射・テノン嚢下注射	459
網膜光凝固術(PHC)	101
レーザー後発白内障切開術(YAG)	53
レーザー虹彩切開術(LI)	28
レーザー線維柱帯形成術(LTP/SLT)	5
涙点プラグ挿入	2
霰粒腫摘出術	2
計	650

②外来特殊検査件数

術式	件数(件)
光干渉断層撮影(OCT)	8,502
動的量の視野検査	715
静的量の視野検査	444
蛍光眼底撮影	202
眼鏡処方	130
計	9,993

③手術センター手術数

術式	件数(件)
白内障手術	452
硝子体茎顕微鏡下離断術	105
流出路再建術	22
濾過胞再建術	16
翼状片手術	11
結膜肉芽腫摘除術	7
斜視手術	7
緑内障治療用インプラント挿入術	7
縫着レンズ挿入	5
角膜・強膜異物除去術	3
角膜・強膜縫合術	3
眼瞼下垂症手術	3
眼瞼腫瘍切除術	3
内反症手術	3
前房、虹彩内異物除去術	2
結膜嚢形成手術	1
硝子体注入・吸引術	1
網膜光凝固術	1
計	652

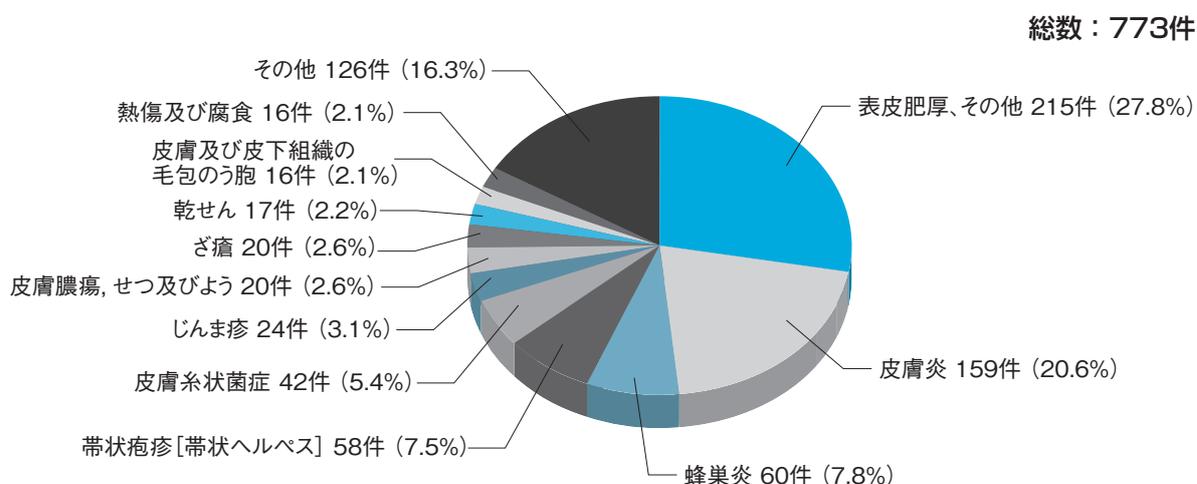
皮膚科

1. 概要

2020年の皮膚科は山田、藤城、大田、岩田、今井の5名体制であった。2020年は、コロナウイルス感染症が蔓延し、緊急事態宣言が発令された。その影響もあると考えられるが、3～4月頃からは外来、入院患者数ともに減少した。入院患者数は蜂窩織炎や褥瘡感染などの感染症が多かった。また、入院患者数の減少に比例して悪性腫瘍症例も少なかった。重傷熱傷は前年と同じく少なかった印象がある。

(部長 山田 元人)

2. 新規登録疾患



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
表皮肥厚、その他	皮膚乾燥症	92	L853
	皮膚の慢性潰瘍, 他に分類されないもの	59	L984
皮膚炎	皮膚炎, 詳細不明	67	L309
	アトピー性皮膚炎, 詳細不明	39	L209
蜂巣炎	蜂巣炎, 詳細不明	30	L039
	(四)肢のその他の部位の蜂巣炎	23	L031
帯状疱疹[帯状ヘルペス]	帯状疱疹, 合併症を伴わないもの	52	B029
皮膚糸状菌症	爪白せん	13	B351
	(陰)股部白せん	12	B356
じんま疹	じんま疹, 詳細不明	21	L509
皮膚膿瘍, せつ及びびよう	皮膚膿瘍, せつ及びびよう, 部位不明	20	L029
ざ瘡	尋常性ざ瘡	20	L700
乾せん	尋常性乾せん	15	L400
皮膚及び皮下組織の毛包のう胞	表皮のう胞	16	L720
熱傷及び腐食	部位不明の熱傷, 程度不明	12	T300

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 25,064人 年間外来新患者数 2,652人
年間入院患者数 3,438人 年間入院新患者数 283人

(2) 悪性新生物

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	基底細胞癌	54	4	バジェット病	2
2	有棘細胞癌	25	5	その他	41
3	悪性黒色腫	9		計	131

(3) 良性腫瘍、熱傷、膠原病

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	良性腫瘍	998	6	全身性エリテマトーデス	5
2	熱傷	71	7	シェーグレン症候群	2
3	血管炎	37	8	混合性結合組織病	1
4	皮膚筋炎	18		計	1,144
5	全身性強皮症	12			

泌尿器科

1. 概要

2020年、東三河地区における当院への一極集中状況に大きな変化はなく、コロナ禍においても相変わらず忙しい日々を送っている。受診控えが増えるなかでも泌尿器悪性腫瘍に対する低侵襲手術は小切開手術、腹腔鏡手術を中心に相変わらず月単位の手術待機をお願いする状況である。

ロボット支援下手術は、前立腺癌における前立腺全摘術、腎癌に対する腎部分切除術、膀胱癌に対する膀胱全摘術が標準治療になり、当科における日常的な手術の一つとなっている。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤等の新規薬剤を含むがん薬物療法の症例も増加の一途をたどるなど、泌尿器科悪性腫瘍の分野においてよりよい医療を提供する努力を引き続き続けている。

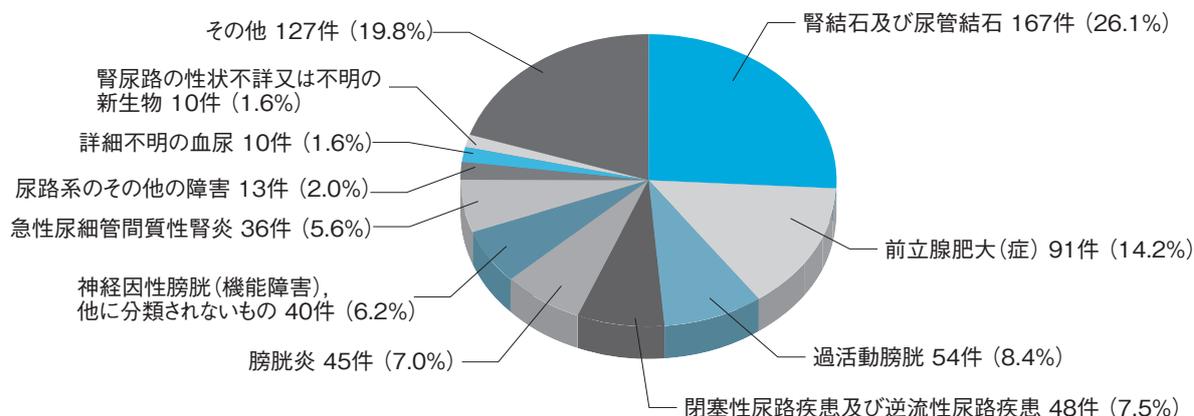
4月から部長不在と常勤医の減少という危機的な状況になってしまったが、それを乗り越えるワンチームが出来上がった一年でもあった。

(部長 寺島 康浩)

2. 新規登録疾患

(1) 悪性新生物以外

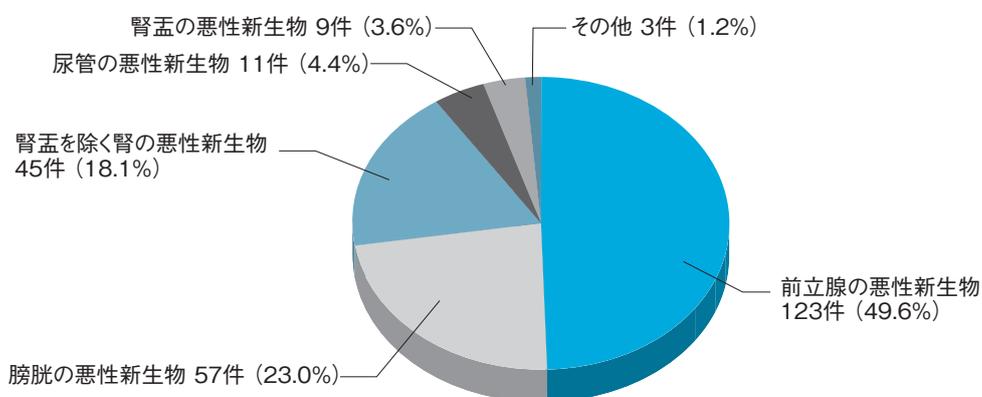
総数：641件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
腎結石及び尿管結石	尿管結石	118	N201
	尿路結石, 詳細不明	27	N209
前立腺肥大(症)	前立腺肥大(症)	91	N40
過活動膀胱	過活動膀胱	54	N328
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	尿管狭窄を伴う水腎症, 他に分類されないもの	27	N131
膀胱炎	急性膀胱炎	19	N300
	膀胱炎, 詳細不明	16	N309
神経因性膀胱(機能障害), 他に分類されないもの	神経因性膀胱(機能障害), 詳細不明	40	N319
急性尿細管間質性腎炎	急性尿細管間質性腎炎	36	N10
尿路系のその他の障害	尿路感染症, 部位不明	8	N390
	緊張性尿失禁	5	N393
詳細不明の血尿	詳細不明の血尿	10	R31
腎尿路の性状不詳又は不明の新生物	腎尿路の性状不詳又は不明の新生物, 腎	9	D410

(2) 悪性新生物

総数：248件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
前立腺の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	123	C61
膀胱の悪性新生物	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	57	C679
腎盂を除く腎の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	45	C64
尿管の悪性新生物	尿管の悪性新生物	11	C66
腎盂の悪性新生物	腎盂の悪性新生物	9	C65

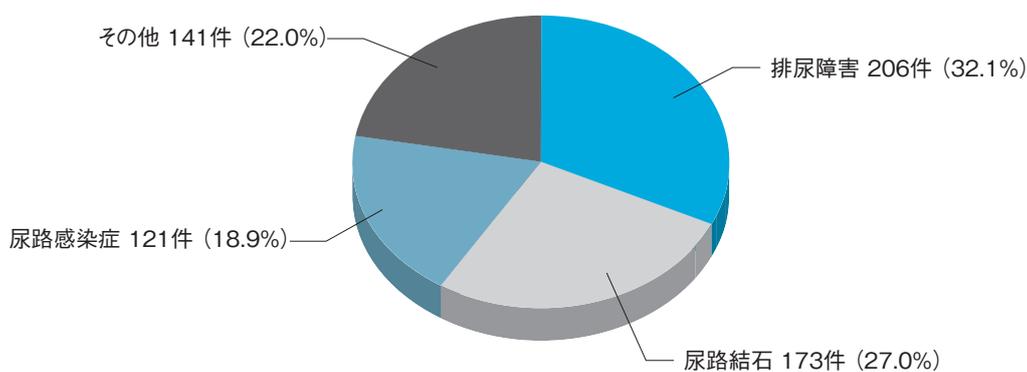
3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	24,725人	年間外来新患者数	1,738人
年間入院患者数	11,224人	年間入院新患者数	1,211人

(2) 悪性新生物以外の疾患別頻度

総数：641件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
排尿障害	前立腺肥大(症)	91	N40
	過活動膀胱	54	N328
尿路結石	尿管結石	118	N201
	尿路結石,詳細不明	27	N209
尿路感染症	急性尿細管間質性腎炎	36	N10
	急性膀胱炎	19	N300

放射線科

1. 概要

2020年1月には石原、高田、馬越、山田、島本の5人であった。7月に馬越の異動、伊藤の赴任があった。専攻医として4月から9月は長井が加わり、10月から佐々木が加わった。2020年12月には石原、高田、山田、島本、伊藤、佐々木の6人で診療している。画像診断は高田、島本、伊藤の3人、放射線治療は石原、山田の2人が担当し、佐々木は両分野を担当している。

2020年の業務実績は、読影が35,719件（CT25,425件、MRI8,395件、アイソトープ805件、PET-CT1,094件）であった。その他、血管造影・IVR156件、甲状腺機能亢進症に対するヨード内療法10件、去勢抵抗性前立腺癌の骨転移に対する塩化ラジウム治療1件、放射線治療の新患505件であった。

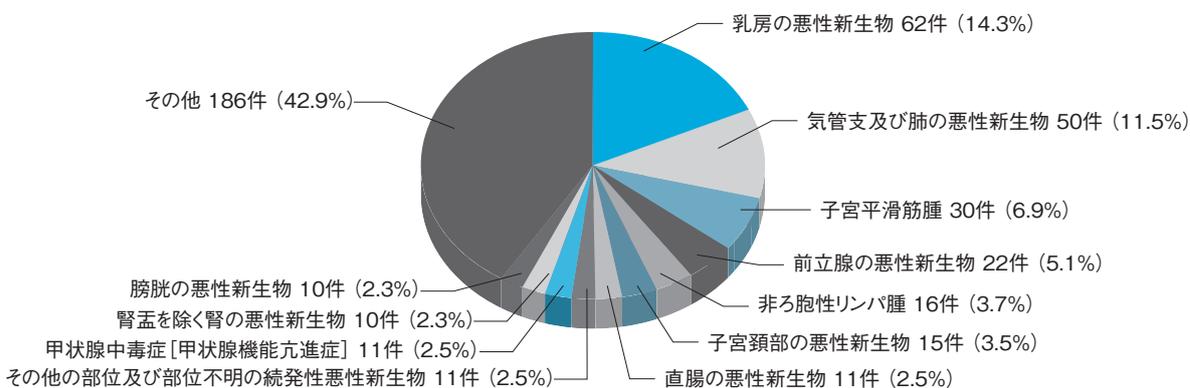
2020年はコロナ禍の1年であり、春の緊急事態宣言中は検査件数の落ち込みが見られた。社会的にテレワークへの移行が推進されており、画像診断においてもテレワークの導入について検討を行った。救急外来で用いるCTの更新に向けて検討を行った。

（第一部長 石原 俊一）

（文責 第二部長 高田 章）

2. 新規登録疾患

総数：434件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	25	C509
	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4 分の 1	17	C504
気管支及び肺の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 上葉, 気管支又は肺	24	C341
	気管支及び肺の悪性新生物, 下葉, 気管支又は肺	17	C343
子宮平滑筋腫	子宮平滑筋腫, 部位不明	30	D259
前立腺の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	22	C61
非ろ胞性リンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	16	C833
子宮頸部の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物, 子宮頸(部), 部位不明	15	C539
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	11	C20
その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物	脳及び脳髄膜の続発性悪性新生物	8	C793
	骨及び骨髄の続発性悪性新生物	3	C795
甲状腺中毒症[甲状腺機能亢進症]	びまん性甲状腺腫を伴う甲状腺中毒症	8	E050
	甲状腺中毒症, 詳細不明	2	E059
腎盂を除く腎の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	10	C64
膀胱の悪性新生物	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	10	C679

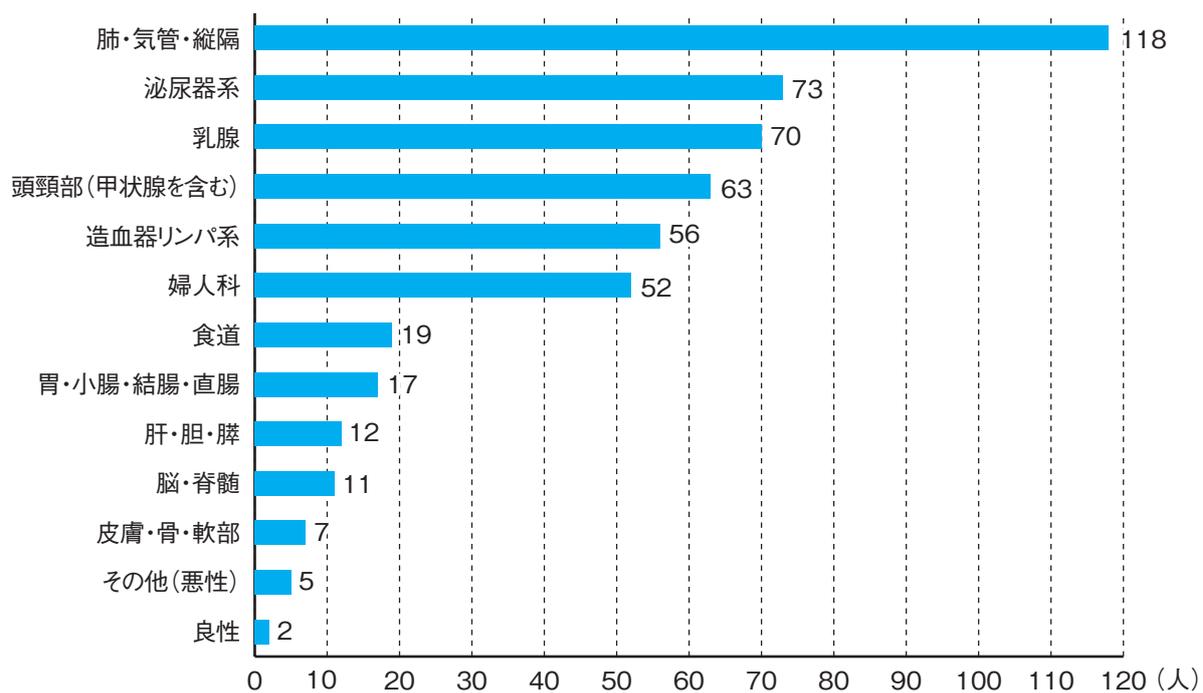
3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	15,473人	年間外来新患者数	764人
年間入院患者数	0人	年間入院新患者数	0人

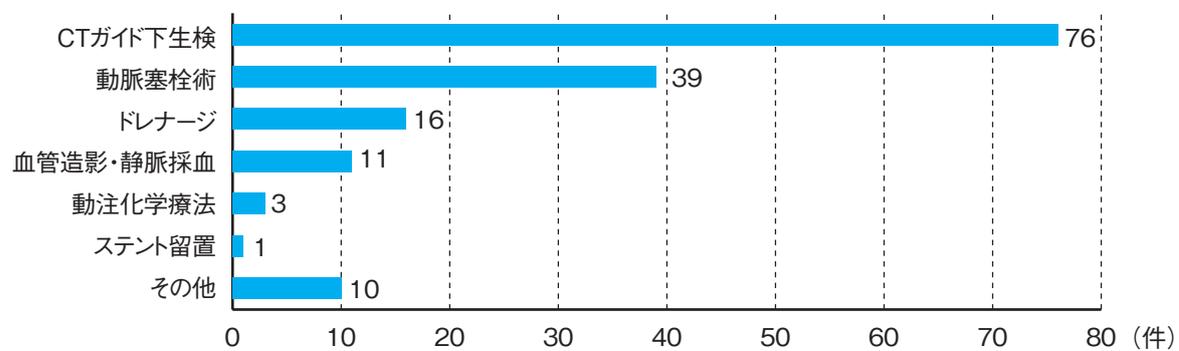
(2) 放射線治療原発部位別患者数

総患者数：505人



(3) 血管造影・IVR手技別件数

総件数：156件



こころのケア科

1. 概要

当院こころのケア科は、外来診療は行っておらず、院内での入院患者への対応が主たる業務である。業務の主な内容は、1) 入院中の患者のメンタル面に関連した副科業務 2) 緩和ケアチームの一員として、精神的ケアが必要な患者へのメンタル面でのサポート 3) 認知症チームの一員としての活動、の三点である。最も多いのがせん妄への対応であるが、他にも不眠・抑うつ・不安などに対しても依頼があれば対応している。自殺企図によって入院となった患者への入院中の診察、退院後の通院先の紹介等の対応も行っている。

また、もともと精神疾患のある方が、身体疾患治療のため当院入院となった場合の診察・処方調整・かかりつけ医への報告などの対応も行っている。緩和ケアチームの業務としては、週1回のカンファレンスと回診、それ以外でも依頼があれば随時対応する。認知症チームとしては週1回の回診に同行し、処方や対応の助言を行っている。

当科の活動には、院内院外の各部門部署との連携が必須であり、今後も連絡を密にしてゆきたい。

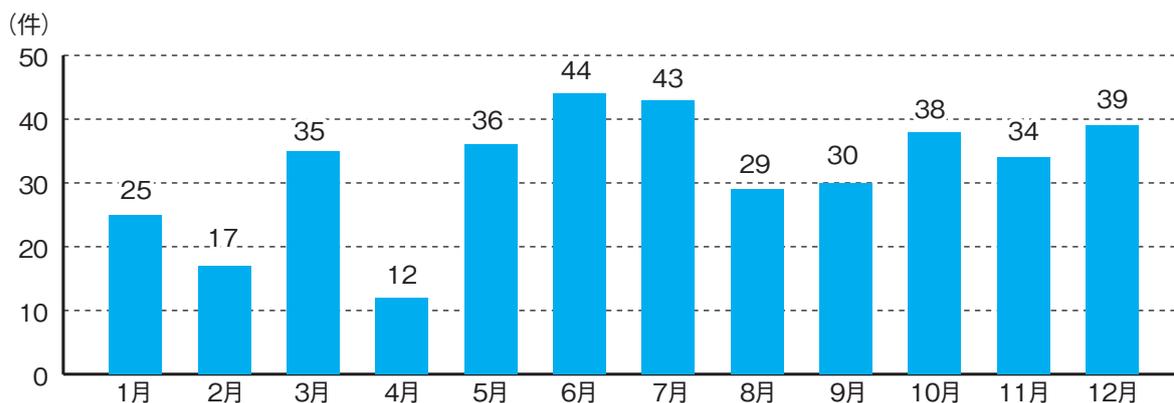
(部長 古水 克明)

2. 活動報告

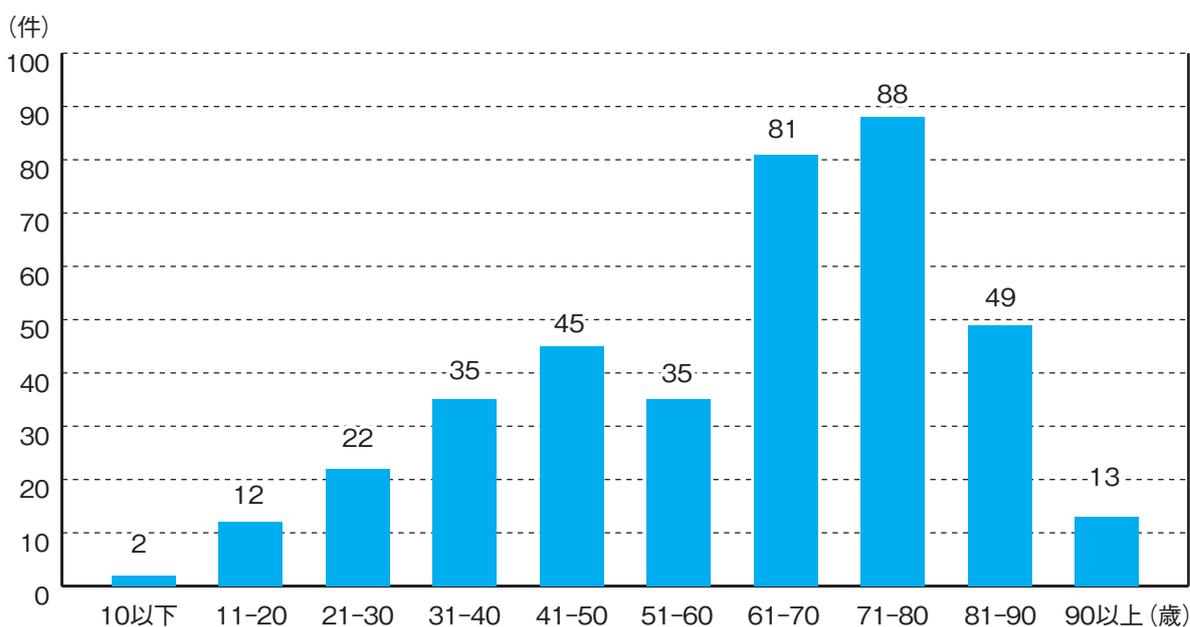
(1) 患者状況

年間副科対応新患者数 382人

(2) 月別依頼患者数



(3) 年齢別依頼数



2020年度に対応した副科診察依頼は総計で382人であった。男女はほぼ同数（男性194人、女性188人）となっている。年齢別では60代以降が多いが、各年齢にわたっており、未成年患者の依頼もある。

診断としてはせん妄（および、せん妄の症状としての不穏）が最も多いが、対応した病名としては、統合失調症などの精神病圏、うつ病・双極性障害など気分障害圏、適応障害・パニック障害・不安障害など神経症圏、認知症・器質性精神障害、また10代の摂食障害など、多岐にわたっている。

(4) 当科関連企画

第73回豊橋がん診療フォーラム

2020年12月4日開催

特別講演『がん患者の精神症状のケア』

講師 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野

明智龍男 教授

令和2年度 第1回 認知症研修会

2020年8月18日開催

『認知症ケアについて 非薬物的ケアを中心に』

講師 こころのケア科部長 古水克明

麻酔科（ペインクリニック）

1. 概要

2020年には他院からの赴任も他院へ異動もなかったが、当院研修医からの入局が1名あった。

年間の総手術件数は7,641件であり、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少した。全身麻酔件数は3,820件であった。麻酔科管理症例は2,882件であり、そのうち麻酔科管理の全身麻酔は2,662件であった。全麻件数は若干減ったが、高齢化に伴うハイリスク症例が増え続けており、麻酔難易度は大きく上がった。麻酔科管理の緊急症例は510件と大きく増えた。特に超緊急手術にはFull PPEでの対応が必要であり、担当麻酔科医の負担は非常に大きかった。

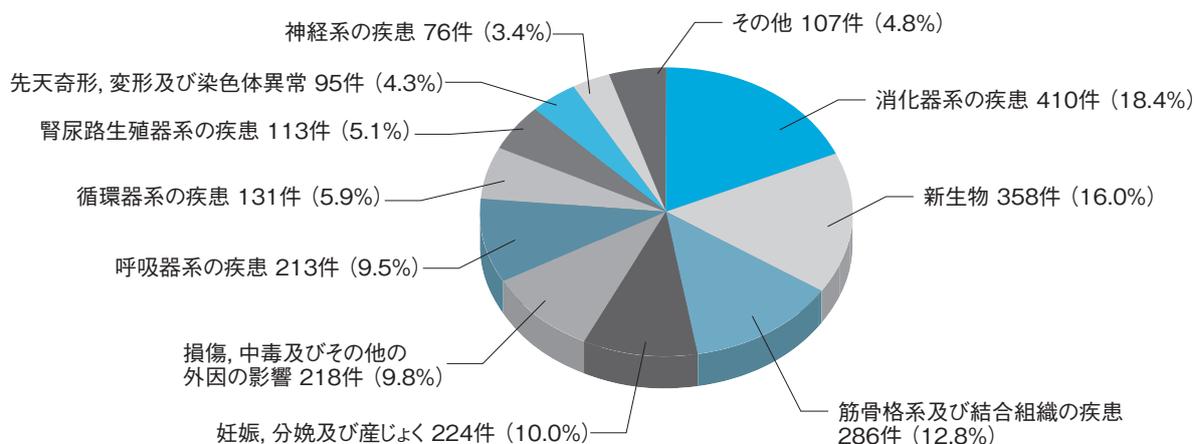
挿管困難対策機器や筋弛緩モニタを更新することで麻酔の安全性を高めることができた。新型コロナウイルス感染症対策による病院体制の度重なる変更により、手術室運営が非常に難しい1年であった。2021年には産休育休取得者が1名いるが、4月から当院研修医から1名と他院から医長1名が入局し、麻酔科麻酔の安全性がさらに高まる予定である。

（第一部長 寺本 友三）

2. 新規登録疾患

(1) 悪性新生物以外

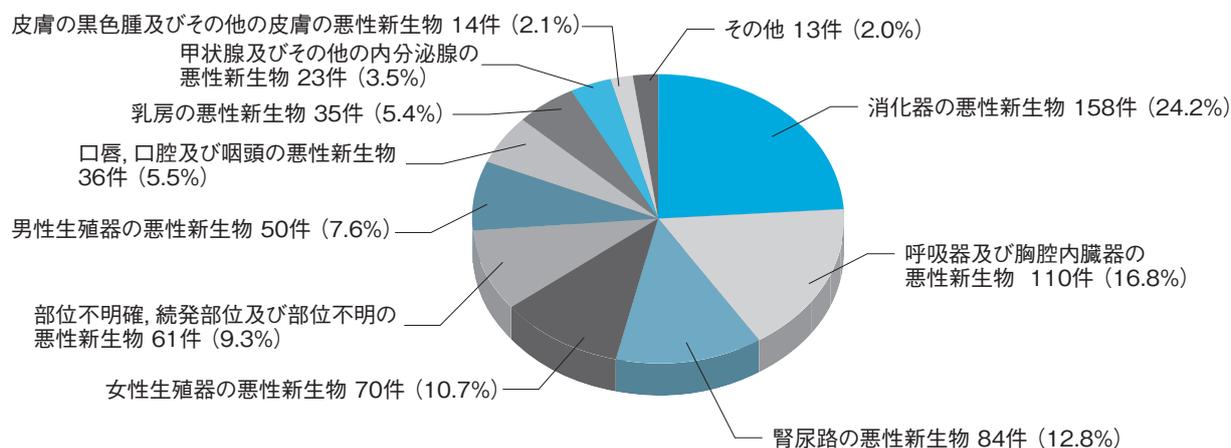
総数：2,231件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
消化器系の疾患	口腔, 唾液腺及び顎の疾患	117	K00-K14
	ヘルニア	75	K40-K46
新生物	性状不詳又は不明の新生物	231	D37-D48
	良性新生物	127	D10-D36
筋骨格系及び結合組織の疾患	脊柱障害	134	M40-M54
	関節障害	127	M00-M25
妊娠, 分娩及び産じょく	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	137	O30-O48
	分娩の合併症	38	O60-O75
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	頭部損傷	35	S00-S09
	腹部, 下背部, 腰椎及び骨盤部の損傷	34	S30-S39
呼吸器系の疾患	上気道のその他の疾患	157	J30-J39
	胸膜のその他の疾患	33	J90-J94
循環器系の疾患	脳血管疾患	71	I60-I69
	動脈, 細動脈及び毛細血管の疾患	33	I70-I79
腎尿路生殖器系の疾患	女性生殖器の非炎症性障害	70	N80-N98
	男性生殖器の疾患	16	N40-N51
先天奇形, 変形及び染色体異常	唇裂及び口蓋裂	30	Q35-Q37
	生殖器の先天奇形	19	Q50-Q56
神経系の疾患	挿間性及び発作性障害	45	G40-G47
	神経系のその他の障害	22	G90-G99

(2) 悪性新生物

総数：654件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
消化器の悪性新生物	直腸の悪性新生物	30	C20
	結腸の悪性新生物, S状結腸	24	C187
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 上葉, 気管支又は肺	58	C341
	気管支及び肺の悪性新生物, 下葉, 気管支又は肺	33	C343
腎尿路の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	38	C64
	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	23	C679
女性生殖器の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	40	C541
	卵巣の悪性新生物	15	C56
部位不明確, 続発部位及び部位不明の悪性新生物	肝及び肝内胆管の続発性悪性新生物	14	C787
	リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物, 頭部, 顔面及び頸部リンパ節	13	C770
男性生殖器の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	50	C61
口唇, 口腔及び咽頭の悪性新生物	舌のその他及び部位不明の悪性新生物, 舌, 部位不明	5	C029
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4分の1	13	C504
	乳房の悪性新生物, 乳房上内側 4分の1	11	C502
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	甲状腺の悪性新生物	22	C73
皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物	皮膚のその他の悪性新生物, その他及び部位不明の顔面の皮膚	3	C443
	皮膚のその他の悪性新生物, 皮膚の悪性新生物, 部位不明	3	C449

リハビリテーション科

1. 概要

リハビリテーション科の診療は、リハビリテーションセンターと院内各病棟のベッドサイドで行っている。

外来診療は、市内の病院・医院では行っていない小児の運動・言語発達遅滞及び神経難病が主な対象疾患である。また、当院入院中のリハビリを外来で継続する場合もある。

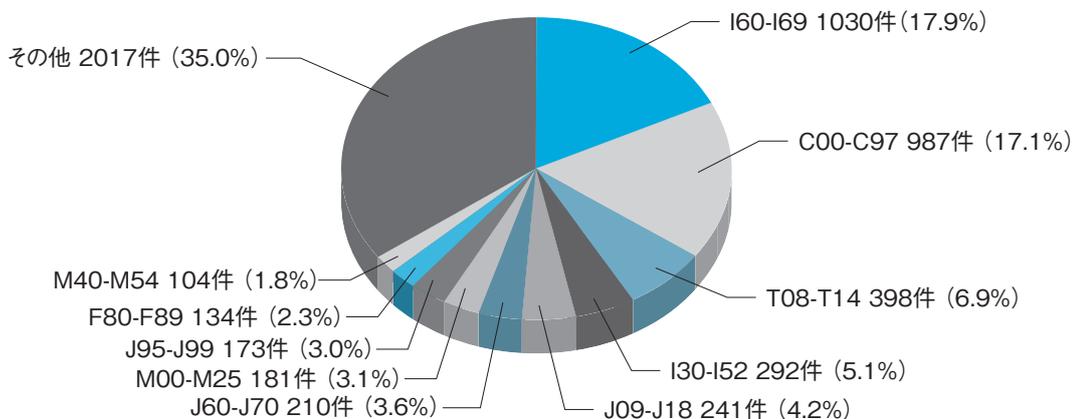
入院診療では、脳卒中、頭部外傷、脳神経・脊髄神経疾患の脳血管リハビリ、骨・関節の外傷や疾患への運動器リハビリ、虚血性心疾患や心不全に対する心大血管リハビリ、肺炎・慢性閉塞性肺疾患等の呼吸器リハビリ、嚥下障害への嚥下リハビリを行っている。また、がん治療の入院患者に行う、がん患者リハビリにも対応している。当院の診療は急性期リハビリが中心であり、地域連携パスを通じて回復期リハビリ病棟を持つ病院に転院できるシステムが整えられている。

2018年から1病棟で行っていた入院患者の日常生活活動の維持・向上を目的としたリハビリを2020年から2病棟に増やし、リハビリ内容の充実を図っている。

(部長 石川 知志)

2. 新規登録疾患

総数：5,767件



ICD-10 中間分類項目
I60-I69:脳血管疾患
C00-C97:悪性新生物
T08-T14:部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷
I30-I52:その他の型の心疾患
J09-J18:インフルエンザ及び肺炎
J60-J70:外的因子による肺疾患
M00-M25:関節障害
J95-J99:呼吸器系のその他の疾患
F80-F89:心理的発達の障害
M40-M54:脊柱障害

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	4,643人	年間外来新患者数	32人
年間入院患者数	0人	年間入院新患者数	0人

病理診断科

1. 概要

病理診断科は生検や手術検体の病理組織診断、術中迅速診断、細胞診検査、病理解剖を行っている。また病理診断科を選択した研修医の実習・教育および臨床各科から依頼された学術報告への協力、院内カンファレンスへの参加も同時に行っている。これらの業務を常勤病理医2名（10月より）と非常勤病理医5名で行った。非常勤病理医は名古屋大学から2名、浜松医科大学から1名、藤田医科大学から1名、愛知医科大学から1名派遣された。

2020年の病理組織検査の依頼件数は11,217件で、そのうち術中迅速診断は546件であった。病理解剖は17件で、定期的にCPCを開催し、臨床各科を交えて、症例の診断・治療、病態・死因についての詳細な検討を行った。CPCは研修医の教育の場としても重要で、研修医が一例以上を担当し、症例の発表・報告を行った。提示症例は貴重例が多く、教育的効果は大きいと考える。さらに剖検診断結果は日本病理学会が刊行している日本病理剖検輯報に掲載され、広く医学に貢献している。

例年実施している浜松医科大学と名古屋大学の6年次生臨床実習は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止された。

（部長 新井 義文）

臨床検査科

1. 概要

2012年8月より臨床検査科が開設され、検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）算定の許可を受けている。2014年度に日本臨床検査医学会 臨床検査管理医を取得している。急性期医療・高度医療に対応する、精度が高く、かつ信頼性のある臨床検査サービスを検査を利用する関係者に安全に提供し、診療の質の向上に貢献することを目的としている。

臨床検査の精度の維持・向上のため、内部精度管理、外部精度管理の充実を行っている。外部精度管理として日本医師会・愛知県臨床検査技師会の精度管理調査に参加している。

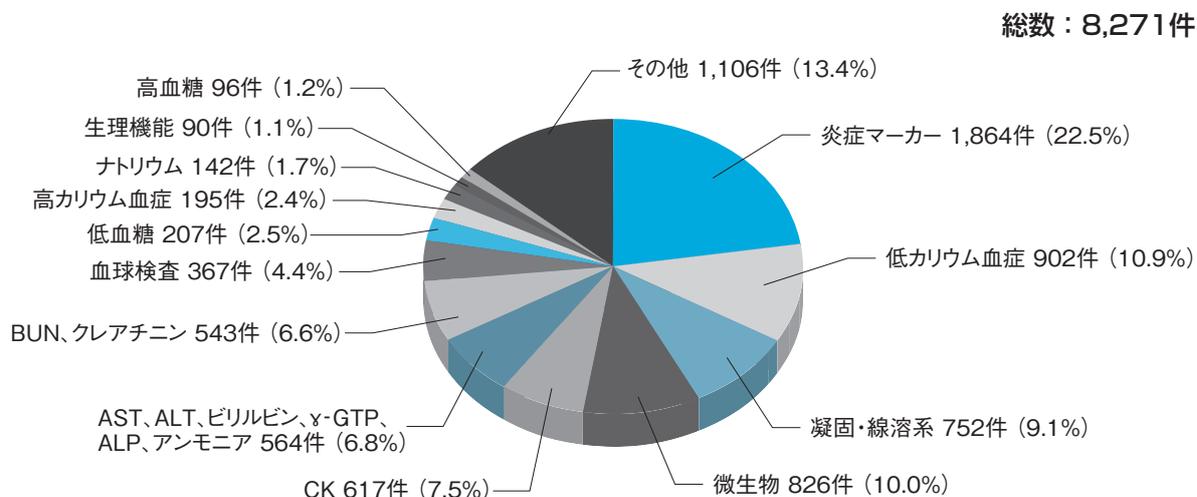
2019年3月15日付で、臨床検査室に特化した、品質と能力に関する国際規格であるISO15189の認定施設となり、国際標準検査管理加算の算定が可能となった。ISO15189の認定は、4年毎に更新審査があり、その前にサーベイランス定期審査がある。2020年2月にISO15189の第1回サーベイランス定期審査があった。

また、パニック値は直ちに臨床側に報告され、迅速で適切な対応に協力している。パニック値報告は増加した。

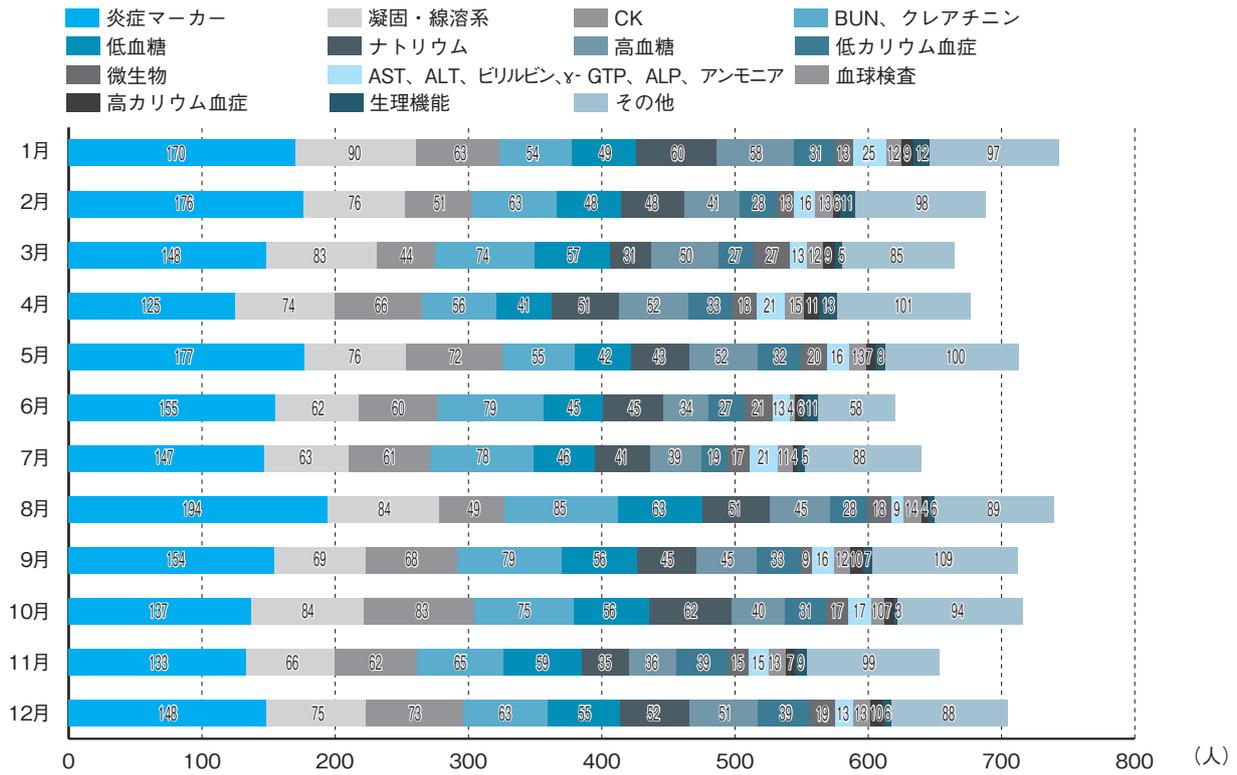
(副部長 出井 里佳)

2. 新規登録疾患

(1) パニック値頻度



(2) 月別パニック値報告



歯科口腔外科

1. 概要

当科は地域医療支援病院としての口腔外科の役割を果たすため、密な病診連携の下、豊橋市内外の医科や歯科から多くの紹介をいただきながら、顎口腔領域及び歯科領域の外科治療、ならびに周術期口腔機能管理を行っている。本年も口腔外科的疾患の各分野においてほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

顎顔面外傷においては、早期対応をモットーに関連各科との医療連携により質の高い医療を提供し、早期治療・早期社会復帰を心掛けている。

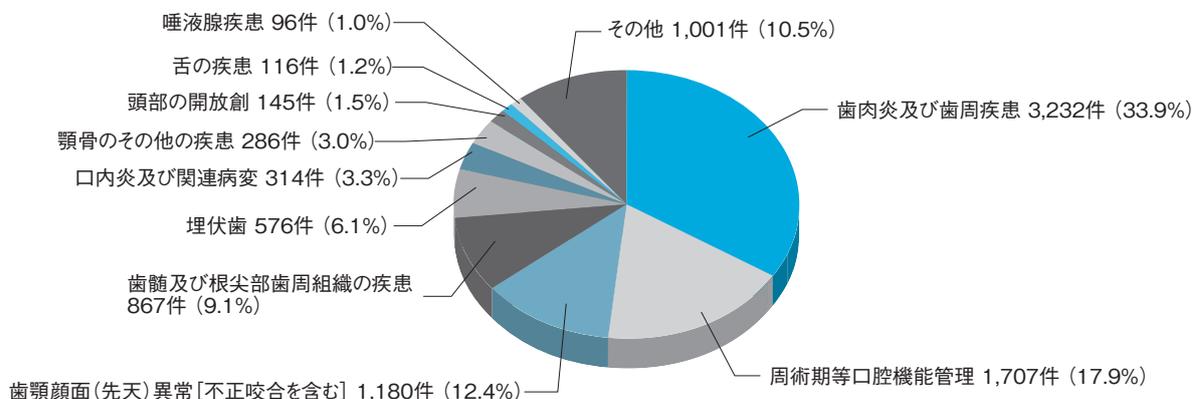
口腔がん治療ではEBMを重視し、根治と機能温存の両面から手術を中心に他科とのカンファレンスのもと、集学的治療を提供している。さらに個々の患者の状況に合わせQOLの維持・向上を視野に入れた対応を行っている。

歯科的分野においては、以前にも増して院内患者の周術期等口腔機能管理の依頼件数が増加している。診療報酬改定でその適応範囲がさらに拡大されたこともあり、今後もさらなる増加が見込まれると予想される。2020年4月には入退院支援センター内に歯科衛生士による支援業務が加わり、より必要度の高い患者様へのきめ細かな対応ができるよう体制を整備している。周術期における口腔の合併症予防のためにも密でシームレスな医療連携を基本に、今後も進めていく予定である。

(第一部長 嘉悦 淳男)

2. 新規登録疾患

総数：9,520件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
歯肉炎及び歯周疾患	慢性歯周炎	3223	K053
周術期等口腔機能管理	その他の明示された医学的ケア	1500	Z518
	健康状態改善以外を目的とするその他の処置	207	Z418
歯顎顔面(先天)異常[不正咬合を含む]	歯の位置異常	951	K073
	顎関節障害	212	K076
歯髓及び根尖部歯周組織の疾患	慢性根尖性歯周炎	780	K045
	歯根のう胞	38	K048
埋伏歯	埋伏歯<impacted teeth>	564	K011
	埋伏歯<embedded teeth>	12	K010
口内炎及び関連病変	その他の型の口内炎	264	K121
	口腔粘膜炎(潰瘍性)	40	K123
顎骨のその他の疾患	炎症性顎骨病態	275	K102
頭部の開放創	口唇及び口腔の開放創	114	S015
	頭部のその他の部位の開放創	15	S018
舌の疾患	舌痛	77	K146
	舌炎	22	K140
唾液腺疾患	唾液腺粘液のう胞	56	K116
	唾液の分泌障害	24	K117

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	17,243人	年間外来新患者数	3,068人
年間入院患者数	2,259人	年間入院新患者数	453人

(2) 外来・入院症例数

①外来初診

疾患名	件数(件)
口腔管理	2567
口腔歯の形態異常	1176
一般歯科疾患	591
粘膜疾患	269
外傷	253
良性腫瘍	109
炎症感染症	114
嚢胞	122
顎関節疾患	92
神経疾患	57
唾液腺疾患	40
顎顔面の形態異常	54
悪性腫瘍	30
口腔機能疾患	18
唇顎口蓋裂	12
その他	0
計	5,504

②入院

疾患名	件数(件)
口腔歯の形態異常	249
悪性腫瘍	39
嚢胞	38
良性腫瘍	25
唇顎口蓋裂	31
外傷	14
一般歯科疾患	23
顎顔面の形態異常	22
炎症感染症	21
唾液腺疾患	6
粘膜疾患	4
顎関節疾患	1
その他	0
計	473

健診科

1. 概要

健診科（予防医療センター）は、故瀬川元院長が東三河総合健診センターの後継的役割を果たす目的で整備・拡張された事に始まる。受診者は自治体職員や各種企業と個人等である。年齢が進むにつれ、持病を持つ方も多い。

健診診察は、大橋と鳥居が担当。常勤医不在時は予防医療副センター長内藤による迅速サポートを受けている。午前診察は新しい疾患を見つけ出す事もあるが、主な業務は既往歴、現病歴、治療状況の聴取や受診者自ら選択健診コースの確認と必要時コース変更をすること、内服薬をお薬手帳で確認、安全に検査を受けていただくことである。また、診察中、全身に及ぶ質問を受ける事も多く、わかる範囲で返答、適切な専門医受診を助言している。健診一次検査とその判定は各診療科専門医が担当し、中央臨床検査室と放射線技術局の協力を得ている。二次検査とその判定、必要時の治療と経過観察関連はほぼ全科に及ぶ。

当院健診は、関係各科の忙しい診療の中、その妨げとならぬ範囲で行われ、量より質を重視し、医師を始め実に多くの院内職員協力により成立している。その中で、有意義な健診を受診者に提供すべく予防医療センターは院内のハブ的役割を担っている。各専門医実臨床に立脚した高い精度健診成果の一端として、最近11年間に発見された癌は、胃癌（NET 1例、胃神経鞘腫 1例を含む）80例、大腸癌（NET 2例を含む）57例、前立腺癌39例、肺癌13例、食道癌13例、乳癌14例、腎臓癌（IgG4腎腫瘍 1例を含む）14例、血液悪性腫瘍（ML3例、CLL1例、CML3例、ATL1例）8例、十二指腸癌（乳頭部癌1例、NET1例を含む）5例、子宮癌3例、肝臓癌3例、膀胱癌2例、転移性肝臓癌（上腕平滑筋肉腫1例、GIST 1例）2例、縦隔腫瘍2例、尿管癌1例、胆のう癌 1例、胆管癌1例、膵癌1例、膵癌術後の胃転移1例、後腹膜腫瘍1例、甲状腺癌1例、副腎腫瘍1例、転移性肺腫瘍（軟口蓋悪性腫瘍）1例の計264例である。そのほとんどは早期で発見され、治療予後は良好である。

最後に健診受付と会計業務は受付事務員、健診に関わる団体契約、広報、個人情報データ関連等は医事課と医療情報課による支援を受けている。最終結果判定と説明は医師が実施。当センター看護師が各科との連携・調整やデータ取り寄せ、その確認と健診システム最終登録。受診者の問い合わせや精査・外来予約等の中核的業務を担っている。コロナ禍でも健康を守る一助としての健診業務を粛々と実施している。

（部長 大橋 信治）

経営企画室

1. 概要

経営企画室は、2019年4月に組織横断的な経営方針の策定や経営改善策を企画、提案し、迅速に実施するため院長直轄の部署として設置された。2年目となる本年は、看護師1名を専従の室長補佐、兼務の管理栄養士を迎え、副院長の室長を筆頭に5名の専従職員と7名の兼務職員で業務を推進した。

[メンバー]	室長	副院長兼務	副室長	専従
	室長補佐	専従、医療情報課長補佐兼務、放射線技術室長補佐兼務		
	主査	専従、中央臨床検査室主査兼務、リハビリテーション技術室主査兼務、栄養管理室主査兼務、薬局主査兼務		
	担当	専従、会計年度任用職員		

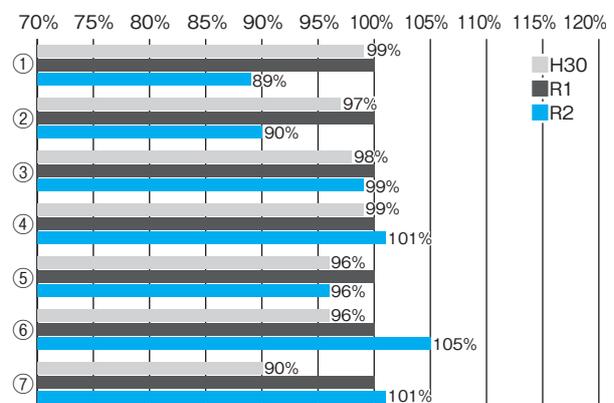
今年度は、第2次豊橋市民病院改革プランの計画期間終了に伴い、令和3年度からの5年間で計画期間とする「第3次豊橋市民病院改革プラン」の策定に加え、DPC特定病院群（大学病院本院に準ずる高度な機能を有すると評価された病院群）の指定継続に向けた取り組みを行った。また、診療科別の分析結果を基に医師等現場スタッフと意見交換を行うことで課題への相互理解や、改善に向けた積極的な協議につなげ、改善提案を行った。次年度以降も更に活動の範囲を拡げ、より効果的な経営改善に取り組んでいきたい。

(室長 成瀬 賢伸)

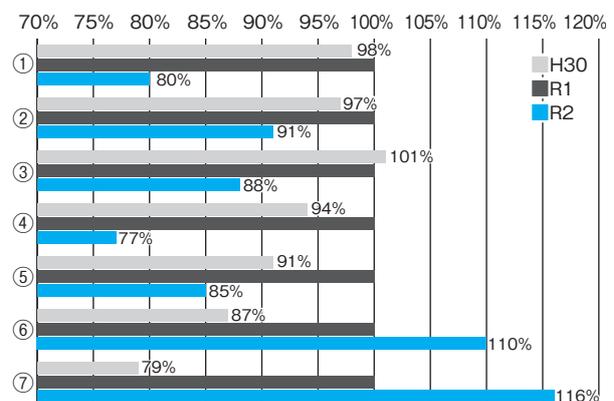
2. 活動報告

(1) 重要経営指標

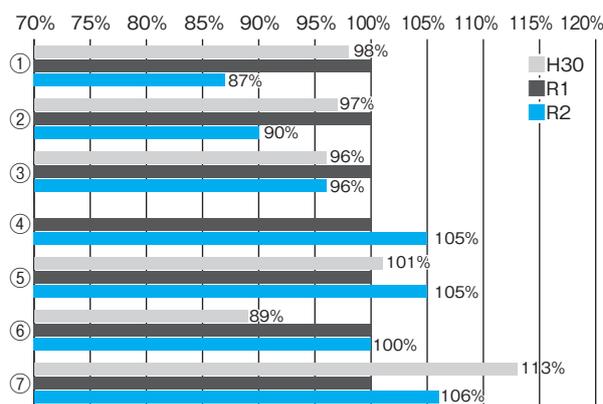
入院指標	H30	R1	R2
①新入院患者数/月(人)	1,718	1,727	1,543
②1日平均入院患者数(人)	690	709	635
③平均在院日数(日)	11.5	11.7	11.6
④DPC期間Ⅱ以内率(%)	66.9	67.7	68.6
⑤パス適用率(%)	42.0	43.5	41.9
⑥入院単価/日(円)	65,912	68,361	71,981
⑦ [⊥] 薬剤(出来高+包括)/日(円)	6,277	6,950	7,022



外来指標	H30	R1	R2
①新患者数/日(人)	183	188	149
②1日平均外来患者数(人)	1,934	2,002	1,817
③ [⊥] 新患者比率(%)	9.5	9.4	8.2
④紹介患者数/日(人)	82.7	87.6	67.8
⑤逆紹介患者数/日(人)	82.9	91.2	77.2
⑥外来単価/日(円)	20,745	23,739	26,225
⑦ [⊥] 投薬・注射/日(円)	10,737	13,527	15,651

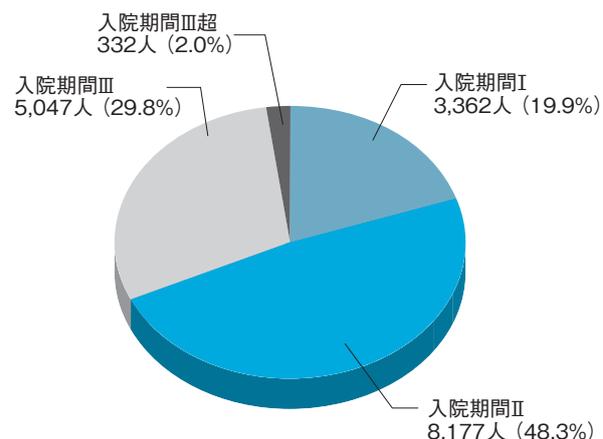


手術・外来治療センター	H30	R1	R2
①手術件数／月(人)	679	697	607
②全麻件数／月(人)	335	344	310
③内視鏡下手術／月(人)	120	125	120
④ダヴィンチ手術／月(人)	14.4	22.3	23.3
⑤外保連手術指数／手術症例	15.0	14.9	15.7
⑥外来治療センター件数(痛)／月(人)	745	840	837
⑦外来治療センター件数(他)／月(人)	152	134	143



(2) DPC入院期間比率

	H30	R1	R2
DPC症例数(人)※出来高除外	18,865	18,869	16,918
DPC平均在院日数(日)	12.5	12.8	12.9
DPC入院期間Ⅱ以内率(%)	66.9	67.7	68.2
入院期間Ⅰ(人)	3,564	3,660	3,362
入院期間Ⅱ(人)	9,064	9,115	8,177
入院期間Ⅲ(人)	5,847	5,705	5,047
入院期間Ⅲ超(人)	390	389	332
出来高症例(人)	499	582	520



(3) 定例会議題

回	日付	内容
1	4月2日	①第3次豊橋市民病院改革プラン策定スケジュール ②第2次豊橋市民病院改革プラン改訂版の説明 ③救急医療管理加算のレセプト記載
2	4月30日	①白内障手術の外来移行及び在院日数の短縮 ②クリニカルパスの進捗状況 ③薬剤管理指導料の算定状況 ④特別食加算及び入院栄養食事指導料の算定状況 ⑤看護必要度Ⅱ移行に向けてのベンチマーク評価 ⑥エコー検査機器の管理状況 ⑦令和元年度診療科別重要経営指標 ⑧令和元年度診療科別DPC入院期間比率
3	5月28日	①看護必要度Ⅱ移行に伴う処置入力 of 徹底 ②入退院支援センターでの管理栄養士業務 ③退院時リハビリテーション指導料算定率向上の取組み ④ADL維持向上等体制加算の対象病棟拡大 ⑤早期離床・リハビリテーション加算に向けた取組み
4	6月11日	①令和元年度 第2次豊橋市民病院改革プラン取組状況報告 ②第3次豊橋市民病院改革プランの策定 ③地域医療構想
5	6月18日	①令和元年度 第2次豊橋市民病院改革プラン取組状況報告 ②第3次豊橋市民病院改革プランの策定 ③地域医療構想

回	日 付	内 容
6	6月25日	① 地域医療構想 ② 新型コロナウイルスによる影響 ③ 画像診断管理加算2の施設基準算定に向けて
7	7月30日	① 令和2年度診療科別重要経営指標(4-6月) ② 令和2年度診療科別DPC入院期間比率(4-6月) ③ 入退院支援センター新規配置職種実績(4-6月) ④ 薬剤管理指導料算定状況(平成30-令和2年度)
8	8月27日	① ポータブルエコーの適切な管理 ② 第3次豊橋市民病院改革プラン骨子
9	9月24日	① 看護必要度Ⅱに関する医師及び看護師の入力状況 ② ポータブルエコーの管理及び汎用ファイリングシステム接続状況 ③ 管理栄養士による特別食提案と医師の承認状況 ④ クリニカルパスへの特別食の登録状況 ⑤ 入退院支援センター歯科衛生士の業務状況と現状の課題
10	10月29日	① 令和2年度診療科別重要経営指標(4-9月) ② 令和2年度診療科別DPC入院期間比率(4-9月) ③ ポータブルエコーの画像管理及び救急外来での算定状況 ④ せん妄ハイリスク患者ケア加算の算定に向けて
11	11月26日	① 入退院支援センター管理栄養士及び歯科衛生士の業務状況と現状の課題 ② 人工股関節置換術パスのリハビリ改定による効果の検証 ③ 西病棟6階リハビリ療法士病棟専従化に向けて ④ 紹介状返書管理における課題と現状の取組み
12	12月24日	① 看護必要度Ⅱにおける各項目の相関とA項目平均点の推移 ② 紹介患者の退院時診療情報提供書の作成状況と現状の課題 ③ 本年度の病床稼働状況を鑑みた施設基準届出
13	1月28日	① 診療科分析(一般外科) ② 看護必要度Ⅱにおける各病棟のA項目平均点の推移 ③ 入退院支援センター管理栄養士の業務状況と現状の課題
14	2月25日	① 早期栄養介入管理加算の対象患者 ② 西病棟6階ADL維持向上等体制加算の経過報告と収益効果 ③ 救急医療管理加算の算定件数向上による影響調査
15	3月25日	① 本年度の課題整理 ② 診療科分析(一般外科)の報告結果 ③ DPC特定病院群実績要件の現状

医療安全管理室

1. 概要

医療安全管理室は、2005年4月に医療安全の推進を図るため、院長直属の専門部署として設置された。現在は、副院長である室長を筆頭に、6名の専従職員と、6名の兼務職員の計13名の組織となっている。

2018年度診療報酬改定において「医療安全対策地域連携加算」が新設され、取り組みを開始した他施設との連携・相互チェックも3年目を迎えた。引き続き他施設での取り組みも参考に、医療安全の推進及び体制整備を行っている。

(室長 河井 通泰)

(文責 副室長 宇田あゆみ)

2. 活動報告

2020年度は、医療安全重点目標として、①チェックバック（復唱）を徹底する ②相手にわかりやすい説明をする を掲げた。①については78%、②については93%の部署が実施できていると回答したが、「説明を聞いていなかった」という苦情の報告は相変わらずあった。確認行動の習慣化と、相手の理解度を確認しながらわかりやすい説明を行うことは、今後も継続課題と考える。

「医療安全推進週間」の活動は、コロナ禍ということもあり院内職員を対象とした活動となった。医療安全に関するポスターの公募を行い、計14作品の応募があった。職員による一次審査、幹部職員による二次審査の結果、『一期一会 人には丁寧な逢ってこそ』を最優秀作品に選出し、優秀作品『相手にわかりやすい説明を』と合わせて表彰した。患者にとって安全な医療の提供につなげるためには、職員一人ひとりが自らの行動で示していくことが重要である。

2020年度の主な取り組み

2020.10月～ 深部静脈血栓塞栓症予防リスクアセスメント開始

2021. 2月～ 栄養関連分野コネクタ変更

(1) 医療安全管理たより (24通配信)

配信日	タイトル
4月13日	令和2年度 医療安全重点目標について
4月13日	VPシャント術後患者のMRI検査時の注意
5月7日	輸血セットを正しく使おう
5月8日	脳深部刺激装置等装着者の検査時の注意事項
5月8日	インスリンポンプ・持続グルコース測定器装着者の検査時の注意事項
6月19日	持参薬から入院処方薬へ切り替える際の注意
6月29日	MRI室への磁性体(金属製品)の持ち込みについて
7月29日	「配合剤」には注意をしましょう！
8月3日	CVカテーテル挿入に関する注意
9月23日	DNAR情報入力・確認場所の変更について
10月9日	院内の電源設備・ライフライン講習会の質問にお答えします！
10月20日	手術・検査前の内服中止指示について
10月20日	ベッド移動時のトラブル
11月10日	点滴の投与経路の間違い
11月26日	MRIに潜む危険性・医療放射線研修の質問にお答えします！
12月16日	医療安全推進週間 医療安全に関するポスター入賞者発表
12月21日	MRI検査前に剥がす必要のある貼付薬について
1月13日	アレルギー情報の入力をお忘れなく
1月27日	外来・病棟で施錠管理が必要な薬品
3月1日	筋弛緩薬を使用する際の注意
3月2日	患者間違い多発注意！
3月9日	危険な『倍量処方』はやめましょう！
3月17日	人工呼吸器使用中のチェックリスト改訂と様式追加について
3月19日	外用薬処方入力時の注意

(2) 院内安全ラウンド (22回実施)

回	日付	訪問病棟
1	5月19日	東西2階・東3階
2	5月26日	西3階・東西5階
3	6月 9日	東西6階・東7階
4	6月23日	西7階・東西8階
5	7月14日	東西9階・南病棟
6	7月28日	病棟4階・NMC・手術センター
7	8月18日	救急外来・血液浄化センター
8	8月25日	内科外来・外来1階・外来2階
9	9月 8日	放射線技術室・リハビリテーション技術室
10	9月15日	中央臨床検査室・薬局
11	10月20日	東西2階・東3階
12	10月27日	西3階・東西5階
13	11月10日	東西6階・東7階
14	11月17日	西7階・東西8階
15	12月 1日	【内部監査】
16	12月 8日	東西9階・南病棟
17	12月22日	病棟4階・NMC・手術センター
18	1月14日	救急外来・血液浄化センター
19	1月19日	内科外来・外来1階・外来2階
20	1月26日	放射線技術室・リハビリテーション技術室
21	2月 9日	中央臨床検査室・薬局
22	2月16日	【フォローアップ監査】

(3) 医療安全地域連携相互チェック

日程	チェック対象病院	チェック実施病院
9月18日	豊橋医療センター	豊橋市民病院
10月14日	弥生病院	豊橋市民病院
10月30日	豊橋市民病院	豊橋医療センター
11月27日	長屋病院	豊橋市民病院

診療記録管理室

1. 概要

診療記録管理室は、カルテの点検、診療記録監査、紙カルテの貸出管理を主な業務としており、カルテの点検では重点的に「入院診療計画書」「入院時記録」「退院時サマリ」の点検を行っている。

診療記録の質の向上を図るため、医師及び研修医の診療記録を対象に当院独自の評価基準項目により2段階で診療記録監査を行っている。令和2年度は監査実施方針を策定し、「入院時記録及び退院時サマりに、アレルギー情報が記載されているか重点的に点検を行う。」とした。監査結果は診療記録管理委員会に報告後、監査対象者に通知している。

紙カルテ貸出管理として、平成8年から平成22年4月分までの紙カルテを管理している。電子カルテに移行後10年経過しても、診療情報提供や症例の研究・調査、診断書作成等の理由により、外来カルテは年1,500件程、入院カルテは年220件程度、貸出の依頼がある。

今年度は、「診療記録Letter」を発行し、診療記録に関する情報の院内周知を精力的に行った。今後も診療記録管理室副室長等とともに、さらなる活動を進めていく。

(室長 岩井 克成)

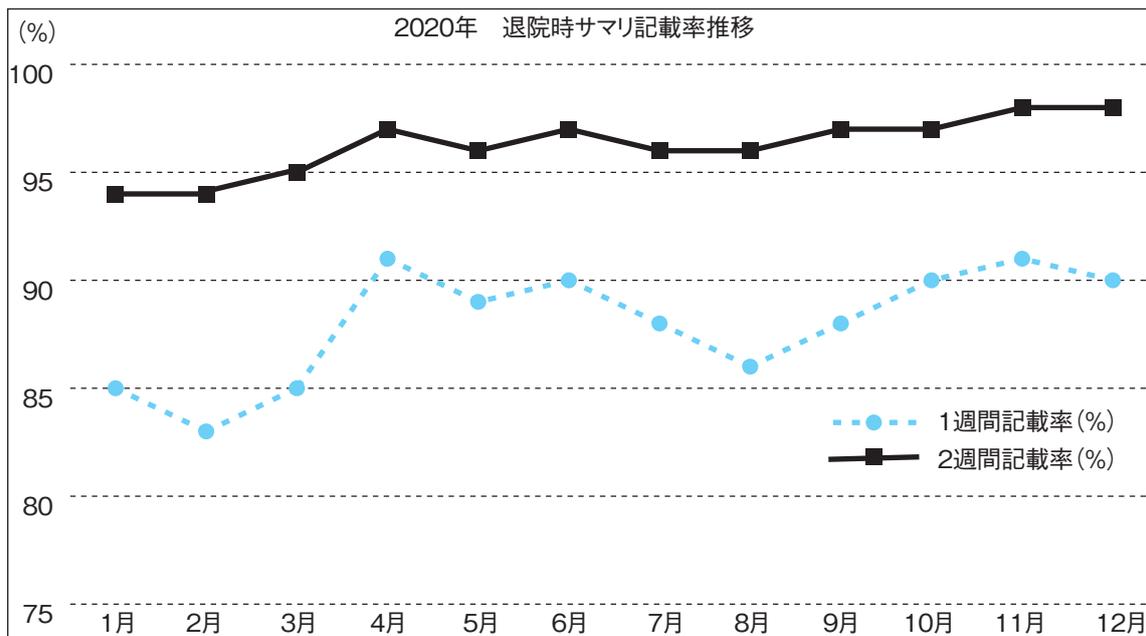
2. 活動報告

(1) 診療記録監査

(件)

		第1回		第2回		第3回	
		医師	研修医	医師	研修医	医師	研修医
平成30年度	一次監査監査対象	46	24	46	24	46	24
	二次監査監査対象	5	3	6	1	0	2
	診療記録管理委員会 <基準点以下報告> 医師:70点 研修医:75点	5	0	5	0	0	2
令和元年度	一次監査監査対象	46	24	46	24	46	24
	二次監査監査対象	4	1	1	0	0	0
	診療記録管理委員会 <基準点以下報告> 医師:70点 研修医:75点	2	1	1	0	0	0
令和2年度	一次監査監査対象	72	20	65	17	/	/
	二次監査監査対象	2	1	3	0		
	診療記録管理委員会 <基準点以下報告> 医師:70点 研修医:75点	2	0	1	0		

(2) 退院時サマリ



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1週間記載率(%)	85	83	85	91	89	90	88	86	88	90	91	90
2週間記載率(%)	94	94	95	97	96	97	96	96	97	97	98	98

臨床研究管理室

1. 概要

2020年度は室長、顧問、副室長(2名)、事務(5名)の計9名で活動した。主な業務内容は下記の4つである。

- ①臨床研究審査書類の作成補助
- ②臨床研究審査委員会の運営
- ③実施中の臨床研究の進捗管理
- ④申請様式等の管理

2020年度は臨床研究審査申請システムが導入された。申請者・事務局双方の負担軽減により、より安定した臨床研究業務の遂行、より質の高い臨床研究の実施の支援ができると期待されている。

進捗管理については、システムのアラート機能を活用し、年1回の一斉調査に加え、各研究の終了予定日前に研究者に通知を行い、終了報告書の提出もしくは期間延長(変更申請)の手続きを求め、適正な研究管理に努めたい。

また、臨床研究に関する教育の履修に対応したeラーニング教育「ICR臨床研究入門(ICRweb)」について、システム導入を機に、申請者は指定講義を修了することを研究申請の要件とした。継続研修講座等を活用し、研究者等の教育・研修の充実を図っていく。

(室長 河井 通泰)

2. 活動報告

(1) 書類受付実績

(件)

	新規申請			変更申請			特定臨床研究	計
	介入試験	観察研究	指針外	介入試験	観察研究	指針外		
平成30年度	5	61	—	8	6	—	13	93
令和元年度	2	61	5	2	21	—	13	104
令和2年度	2	67	6	7	45	2	14	143

(2) 審査委員会開催実績

(回)

名称	平成30年度	令和元年度	令和2年度
臨床研究事前審査会	12	13	15
臨床研究審査委員会	6	6	6

(3) 実施中の臨床研究

(件)

登録前	登録中	登録終了	観察終了	計
12	160	30	6	208

令和3年3月31日時点

感染症管理センター

1. 概要

感染症管理センターは、医師・看護師・薬剤師・微生物検査技師・事務職員と協同し、患者と医療従事者の双方を医療関連感染から守る活動を行っている院長直属の部門である。抗菌薬適正使用支援チーム（AST）と感染対策チーム（ICT）があり、それぞれ活動を行っている。近年問題となっている薬剤耐性菌（AMR）対策として、ASTが抗菌薬使用状況を定期的に監視し、また血液培養陽性者を早期からモニタリングし広域抗菌薬の適正使用を勧めている。ICTとしては、週1回定期的に院内の巡回ラウンドを行い、院内感染対策事例の把握を行うとともに感染対策防止策の実施状況の把握・指導を行っている。

がん診療連携拠点病院として多くの手術を行っている当院は、手術部位感染（SSI）サーベイランスを実施し発生率の改善に取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は持続しており、感染症病棟を持つ当院の役割は大きく、中等症から重症の陽性患者の受入れをしている。また、発熱患者のCOVID-19を疑い、専用診察室や検体採取場所を設けた。来院患者に対し、COVID-19スクリーニング体制を整えるなど、院内での感染防止対策を実施している。

（センター長 小山 典久）

（文責 伊藤 賀代子）

2. 活動報告

(1) 感染症発生動向調査

①全数報告

(件)

類型	疾患名	2020年度	2019年度	2018年度
二類	結核	44	36	49
三類	コレラ	1	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	2	3	4
	パラチフス	0	0	0
四類	A型肝炎	0	1	2
	つつが虫病	0	1	0
	デング熱	0	1	0
	マラリア	0	0	0
	レジオネラ症	7	8	9
	狂犬病	1	0	0
五類	アメーバ赤痢	0	0	0
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	0	1	3
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	1
	急性脳炎	0	2	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	2	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0
	後天性免疫不全症候群	0	2	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	6	2
	侵襲性髄膜炎感染症	0	1	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	14	11
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る)	2	3	3
	梅毒	3	5	2
	播種性クリプトコックス症	4	3	1
	破傷風	1	1	0
	百日咳	0	14	3
	風しん	0	0	2
	麻しん	0	0	3
	新型コロナウイルス感染症	106	0	-

②小児科定点報告

(件)

	疾患名	2020年度	2019年度	2018年度
週報	RSウイルス	7	134	89
	咽頭結膜熱	0	1	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	56	64
	感染性胃腸炎	502	867	903
	水痘	4	3	11
	手足口病	0	43	5
	伝染性紅斑	0	5	2
	突発性発疹	4	5	6
	ヘルパンギーナ	1	13	11
	流行性耳下腺炎	0	1	1

※百日咳は2018年1月1日より全数報告

③基幹定点報告

(件)

	疾患名	2020年度	2019年度	2018年度
週報	細菌性髄膜炎	1	3	1
	無菌性髄膜炎	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎	1	2	0
	クラミジア肺炎	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	19	6
月報	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	167	147	133
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0

④インフルエンザ定点報告

(件)

	疾患名	2020年度	2019年度	2018年度
週報	インフルエンザ	0	377	1,083

⑤インフルエンザによる入院患者報告

(件)

	疾患名	2020年度	2019年度	2018年度
週報	インフルエンザ(入院患者)	0	60	139

⑥職員の感染曝露

(件)

	2020年度	2019年度	2018年度
針刺し・切創 (EPI-Net A)	52	67	41
皮膚・粘膜汚染 (EPI-Net B)	8	16	12
院内結核曝露	11	8	7

⑦職員健康外来

(件)

	2020年度	2019年度	2018年度
延べ受診者数	50	93	49

※2017年9月末より院内職員の針刺し事故等被災者の受診基準一部変更

シミュレーション研修センター

1. 概要

2016年10月に開設されたシミュレーション研修センターの2020年度年間利用実績は、スキルスラボ299件、セミナー室944件であった。目的別としては医師対象の主なものはカンファレンス115件、ICLS7件、CVC5件があった。看護師やコメディカル対象の主なものとして、看護師補助者研修6件、NCPR6件、BLS&AED8件等が行われた。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定されていた多くの研修会が開催中止となってしまった。しかしながら、セミナー室はインターネット、プロジェクター、スクリーンが完備されていることから、オンラインでの会議やセミナーの会場としての活用も見込まれる。

今後も、医師のみならず看護師やその他の医療従事者の勉強する場として、より一層の運営の改善と設備の充実を目指したい。

(センター長 富田 崇仁)

卒後臨床研修センター

1. 概要

2020年度は臨床研修制度の見直しがあったため、新たなガイドラインに沿った研修を開始した。

①卒後臨床研修医用オンライン臨床教育評価システム（EPOC2）の利用開始。

②担当した患者の病歴要約として「研修サマリー」の記載。

③内科・外科・小児科にて、一般外来研修の開始。

採用関係では、毎年5月に開催されている東海北陸地区臨床研修病院合同説明会が中止となったため、レジナビFairオンラインへの参加や、レジナビやマイナビレジデントなどの情報検索サイトの活用に加え、InstagramやTwitterなどのSNSへ積極的に投稿を行い、全国に向け情報発信した。また、7月には院内病院説明会を開催し、医学生との直接交流を行った。

2021年度は小児科・産婦人科プログラムの開始と臨床研修評価の受審、歯科臨床研修制度の変更に伴う研修プログラムの修正などが予定されている。

(センター長 小山 典久)

2. 活動報告

(1) 定期委員会

令和2年7月～令和3年3月	研修管理委員会	*全3回
令和2年5月～令和3年2月	研修委員会	*全3回
令和2年5月～令和2年12月	研修医ミーティング	*全4回

(2) 行事

令和2年4月1日～9日	初期臨床研修医オリエンテーション
令和2年4月～令和2年9月	救急医学講座 *全21講座
令和2年7月11日	医学生向け 病院説明会(院内) *参加者 45人
令和2年8月9日、10日、22日	令和3年度採用初期臨床研修医採用試験 *受験者数 医科 39人 歯科 5人 *マッチング数 医科 19人 (フルマッチ) 歯科 1人 (フルマッチ)
令和2年9月25日	指導医ミーティング開催 *参加指導医数 22人
令和2年11月9日	レジナビフェアWeb説明会参加
令和3年1月20日、29日	基本的臨床能力評価試験 *受験者数 1年次15名、2年次17名
令和3年3月26日	平成31年卒初期臨床研修修了 *進路 院内 医科 12人、歯科 1人 院外 医科 6人

専門医研修センター

1. 概要

2017年度に後期臨床研修センターが発足し、各種申請等の準備を行い、2018年度に新専門医制度の開始に合わせて専門医研修センターに発展した。当院は基本19領域のうち、内科、外科、小児科、産婦人科の4領域で基幹施設として認定を受けており、その他領域では連携施設となっている。様々な病院と連携することで、高次機能病院での稀な症例をはじめ、地域病院での高齢者医療等の症例も学ぶことができ、多彩で偏りのない充実した研修が可能となっている。

当センターは、新専門医制度での専門研修がスムーズに進むように基幹の各4領域と連携を取りながら、指導者による多職種評価や内科では「J-OSLER（専攻医登録評価システム）」、外科では「NCD登録・日本外科学会研修実績管理システム」、小児科では「小児科専門医臨床研修手帳」、産婦人科では「産婦人科研修管理システム」などの評価ツールにおいて、専攻医の進捗状況を把握し専門医取得の手助けをしていく。

また、日本専門医機構認定共通講習を開催し、院内開催の医療倫理・感染対策・医療安全の必修講習でも受講証明書を発行可能とした。

(センター長 河井 通泰)

2. 活動報告

(1) 定期委員会

令和2年4月～令和3年3月

内科専門研修プログラム管理委員会	全2回
外科専門研修プログラム管理委員会	全1回
小児科研修医（専攻医）プログラム管理委員会	全2回
産婦人科研修プログラム管理委員会	全1回

(2) 行事

令和2年11月4日～11月16日

令和2年11月23日

令和3年度4月採用専攻医(専門研修プログラム)募集

令和3年度採用専攻医採用試験

基幹4領域	受験者数	採用者数
内科	4	4
外科	5	5
小児科	1	1
産婦人科	3	3

令和2年11月21日

JMECC 開催 受講者数6人

豊橋市民病院が基幹施設となる専門領域

領域	連携施設	募集人数	プログラム
内科	愛知厚生連渥美病院 豊橋医療センター 岡崎市民病院 刈谷豊田総合病院 名古屋大学医学部附属病院 新城市民病院(特別連携)	12人	豊橋市民病院内科専門研修プログラム
外科	JA静岡厚生連遠州病院 中東遠総合医療センター JA静岡厚生連静岡厚生病院 静岡済生会総合病院 愛知厚生連安城更生病院 名古屋大学医学部附属病院 愛知医科大学病院	6人	豊橋市民病院外科専門研修プログラム
小児科	名古屋市立大学病院 あいち小児保健医療総合センター 豊川市民病院 蒲郡市民病院 愛知厚生連渥美病院 【関連施設】 豊橋医療センター 新城市民病院 豊橋市こども発達センター 豊橋市保健所保健センター 豊橋市休日夜間急病診療所	5人	豊橋市民病院小児科研修医(専攻医)プログラム
産婦人科	名古屋第二赤十字病院 名古屋記念病院 刈谷豊田総合病院 豊田厚生病院 名古屋掖済会病院 津島市民病院	4人	豊橋市民病院産婦人科研修プログラム

救急外来センター

1. 概要

当院救命救急センターは、東三河の1次から3次までのあらゆる救急患者に対応している。病院からはドクターカーを出動させ、心肺停止や、高エネルギー外傷に対して病院前から積極的治療を展開している。またヘリポートを併設しているため、東三河全域より、ドクターヘリで重症救急患者を受け入れているのが特徴である。

救急外来センターでは、医学生、研修医、地域の救急救命士等に対して毎朝勉強会を行い、また月例のICLSコース（突然の心停止に対して直ちに行う処置）を開催しており、院内医療スタッフ、地域救急隊員とともに、質の向上を目指している。

2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながらも重症救急患者の受け入れを続け、厚生労働省が行う救命救急センターの充実度評価において、「重篤な患者」は1,448名/年で愛知県24センター中7位、総合点は65点満点中54点で同じく7位の実績であった。

（センター長 平松 和洋）

2. 活動報告

(1) 年齢区分別救急外来受診患者数

診療科	15歳未満		15歳以上65歳未満		65歳以上		計
	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	
総合内科	8	0.6%	852	58.9%	587	40.6%	1,447
呼吸器内科	2	0.2%	334	30.3%	767	69.5%	1,103
消化器内科	7	0.3%	1,207	43.2%	1,580	56.5%	2,794
循環器内科	0	0.0%	327	28.0%	842	72.0%	1,169
腎臓内科	0	0.0%	51	21.1%	191	78.9%	242
糖尿病・内分泌内科	0	0.0%	91	41.9%	126	58.1%	217
脳神経内科	3	0.2%	554	38.1%	897	61.7%	1,454
血液・腫瘍内科	0	0.0%	61	20.9%	231	79.1%	292
一般外科	46	4.7%	435	44.9%	488	50.4%	969
小児外科	12	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	12
肛門外科	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
呼吸器外科	0	0.0%	86	50.3%	85	49.7%	171
心臓外科・血管外科	0	0.0%	15	23.1%	50	76.9%	65
移植外科	0	0.0%	14	73.7%	5	26.3%	19
整形外科	313	12.2%	1,273	49.8%	970	37.9%	2,556
リウマチ科	0	0.0%	2	15.4%	11	84.6%	13
形成外科	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	2
脳神経外科	479	28.8%	475	28.6%	707	42.6%	1,661
小児科	1,812	96.0%	76	4.0%	0	0.0%	1,888
産婦人科	10	1.1%	812	91.6%	64	7.2%	886
耳鼻いんこう科	142	11.9%	591	49.7%	456	38.4%	1,189
眼科	56	18.7%	183	61.0%	61	20.3%	300
皮膚科	165	14.8%	611	54.9%	336	30.2%	1,112
泌尿器科	27	2.2%	551	44.5%	659	53.3%	1,237
歯科口腔外科	79	30.3%	122	46.7%	60	23.0%	261
こころのケア科	0	0.0%	81	52.6%	73	47.4%	154
アレルギー内科	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	1
計	3,161	14.9%	8,807	41.5%	9,246	43.6%	21,214

(2) 救急救命センター「重篤な患者数」実績

病態	患者数(人)
病院外心停止	240
重症急性冠症候群	110
重症大動脈疾患	35
重症脳血管障害	189
重症外傷	402
指肢切断	12
重症熱傷	1
重症急性中毒	12
重症消化管出血	186
敗血症	113
敗血症のうち、敗血症性ショック	52
重症体温異常(熱中症、偶発性低体温)	30
特殊感染症(壊死性筋膜炎、破傷風等)	10
重症呼吸不全	36
重症急性心不全	31
重症意識障害	16
重篤な急性腎不全	20
その他の重症病態	1
合計	1,448

(2020.1 ~ 12)

救急入院センター

1. 概要

救急入院センターは2013年度より設置され、センター長 富田 崇仁（循環器内科兼任）、副センター長 中島 基晶（麻酔科兼任）、青葉 太郎（一般外科兼任）で運営し、現在に至っている。当センターはICUに隣接し、ICU適応以外の夜間・休日の救急入院患者の受け皿として機能している。基本的に各科主治医が患者の診療を行い、センターメンバーは主に本センターの管理・運営を主体として活動している。実働病床は2013年以来、継続して12床で運営してきている。2020年4月～2021年3月までの各月の推移は以下の表のごとくである。病床利用率は、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、昨年度より減少し、42.6%であった。今年度も引き続き入院数増加に努めている。特定救命救急病床加算算定件数においては、2019年度には1,206件であったのに対し、2020年度は1,866件と大幅に増加した。

例年どおり本センターの当直体制はセンターのメンバーだけでなく、各科部長にも委託して行い、夜間入院患者の救急処置に当たってきたが、2020年度は特に大きな問題なく経過した。

（センター長 富田 崇仁）

2. 活動報告

(1) 年齢別入院患者数

診療科 区分	内科		外科		心臓血管・呼吸器外科		脳神経外科		その他		計	
	延患者数 (人)	構成比 (%)										
80歳以上	274	20.8	151	28.7	43	11.7	208	18.3	64	13.6	740	19.4
70～79歳	425	32.3	158	30.0	185	50.3	346	30.4	87	18.4	1,201	31.4
60～69歳	218	16.6	100	19.0	70	19.0	196	17.2	91	19.3	675	17.7
50～59歳	163	12.4	65	12.3	38	10.3	178	15.7	66	14.0	510	13.3
40～49歳	121	9.2	30	5.7	28	7.6	106	9.3	44	9.3	329	8.6
30～39歳	96	7.3	14	2.7	3	0.8	39	3.4	63	13.3	215	5.6
20～29歳	18	1.4	3	0.6	0	0.0	10	0.9	12	2.5	43	1.1
10～19歳	2	0.2	6	1.1	1	0.3	28	2.5	22	4.7	59	1.5
0～9歳	0	0.0	0	0.0	0	0.0	26	2.3	23	4.9	49	1.3
計	1,317	100	527	100	368	100	1,137	100	472	100	3,821	100

(2) 病床利用率

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
営業日数 A	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
病床数 B	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
日数×病床数 C(A×B)	360	372	360	372	372	360	372	360	372	372	336	372	4,380

救急ベッド (12床)

	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日 あたり
2017 年度	在室人数 D	272	257	219	266	244	242	220	232	242	271	214	237	2,916	8.0
	利用率 D/C	75.6%	69.1%	60.8%	71.5%	65.6%	67.2%	59.1%	64.4%	65.1%	72.8%	63.7%	63.7%	66.6%	-
	特定入院料算定 件数 E	112	100	75	109	107	98	93	78	81	89	71	80	1,093	3.0
	特定入院料算定 率 E/D	41.2%	38.9%	34.2%	41.0%	43.9%	40.5%	42.3%	33.6%	33.5%	32.8%	33.2%	33.8%	37.5%	-
2018 年度	在室人数 D	150	152	176	214	183	181	235	196	227	248	192	226	2,380	6.5
	利用率 D/C	41.7%	40.9%	48.9%	57.5%	49.2%	50.3%	63.2%	54.4%	61.0%	66.7%	57.1%	60.8%	54.3%	-
	特定入院料算定 件数 E	68	82	98	127	103	98	116	100	121	143	103	108	1,267	3.5
	特定入院料算定 率 E/D	45.3%	53.9%	55.7%	59.3%	56.3%	54.1%	49.4%	51.0%	53.3%	57.7%	53.6%	47.8%	53.2%	-
2019 年度	在室人数 D	175	196	180	202	220	209	167	214	200	250	190	155	2,358	6.5
	利用率 D/C	48.6%	52.7%	50.0%	54.3%	59.1%	58.1%	44.9%	59.4%	53.8%	67.2%	56.5%	41.7%	53.8%	-
	特定入院料算定 件数 E	89	113	85	97	127	83	63	82	117	137	101	112	1,206	3.3
	特定入院料算定 率 E/D	50.9%	57.7%	47.2%	48.0%	57.7%	39.7%	37.7%	38.3%	58.5%	54.8%	53.2%	72.3%	51.1%	-
2020 年度	在室人数 D	125	138	137	136	140	174	191	166	190	176	127	166	1,866	5.1
	利用率 D/C	34.7%	37.1%	38.1%	36.6%	37.6%	48.3%	51.3%	46.1%	51.1%	47.3%	37.8%	44.6%	42.6%	-
	特定入院料算定 件数 E	84	95	69	83	91	84	103	108	117	85	71	62	1,052	2.9
	特定入院料算定 率 E/D	67.2%	68.8%	50.4%	61.0%	65.0%	48.3%	53.9%	65.1%	61.6%	48.3%	55.9%	37.3%	56.4%	-

集中治療センター

1. 概要

当院は、東三河地域の急性期病院として位置付けられている。その中でも、集中治療センターは最重症患者を診ることのできる設備を有しており、地域における「最後の砦」といっても過言ではない場所であると考えている。医師を中心とした多職種間での集中したカンファレンスを積極的に行い、患者様の早期回復や離床を目指し日々の診療に勤めていく所存である。

(センター長 中山 雅人)

2. 活動報告

(1) 入院患者の主病名分類

大分類	件
感染症および寄生虫症(A00-B99)	68
新生物(C00-D48)	423
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構障害(D50-D89)	15
内分泌、栄養および代謝疾患(E00-E90)	18
精神および行動の障害(F00-F99)	0
神経系の疾患(G00-G99)	62
眼および付属器の疾患(H00-H59)	0
耳および付属器の疾患(H60-H95)	0
循環器系の疾患(I00-I99)	564
呼吸器系の疾患(J00-J99)	67
消化器系の疾患(K00-K93)	123
皮膚および皮下組織の疾患(L00-L99)	1
筋骨格系および結合組織の疾患(M00-M99)	79
腎尿路生殖器系の疾患(N00-N99)	13
妊娠、分娩および産褥(O00-O99)	3
周産期に発生した病態(P00-P96)	0
先天奇形、変形および染色体異常(Q00-Q99)	6
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	35
損傷、中毒およびその他の外因の影響(S00-T98)	101
傷病および死亡の原因(V01-Y98)	0
健康状態に影響をおよぼす要因および保険サービスの利用(Z00-Z99)	0
計	1,578

総合周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

1. 概要

東三河唯一の総合周産期母子医療センターとして新生児部門と連携し妊娠中の母体・児の診断・管理・治療を行っている。本年は新型コロナウイルス感染拡大予防のため里帰り分娩の制限を行った。出生数の減少もあり分娩数は顕著に減少した。新型コロナウイルスの感染拡大以降、院内では全身麻酔の手術は全例術前に新型コロナウイルス感染症のスクリーニング検査を行っているが、超緊急帝王切開ではこの検査を事前に行うことができないため新型コロナウイルス感染防御を行った上で手術を行わざるを得ない。シミュレーションを行い30分以内に児を娩出できるよう努めている。東三河地域では新型コロナウイルス感染妊婦の対応を行っているのは当院のみとなっており、感染確認および濃厚接触妊婦の対応を行った。

母体搬送は分娩数の減少にもかかわらず、205件を維持し全例応需を原則としている。

当院ではハイリスク妊婦が集中しているため妊娠初期より助産師が主導するバースセンター分娩の対象となるローリスク妊婦は非常に少ない。医師主導の健診の後36週以降リスクが低いと判断された妊婦に対し助産師が積極的にかかわる“セミバース”分娩として妊婦のバースプランを尊重した分娩に対応している。

産後ケアプランは豊橋市外の妊婦も対象となり、分娩後の家族のケアが受けられない妊婦やハイリスク分娩のため、新生児医療センターに入院した児が自宅に退院する前の育児習得を目的として利用者が増加した。

（センター長 岡田 真由美）

総合周産期母子医療センター（新生児部門）

1. 概要

新生児医療センターは、NICU12床を擁し、東三河唯一の総合周産期母子医療センター（新生児部門）に指定され、新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。

当院は、地域中核災害拠点病院に指定されており、産婦人科とともに広域災害訓練に参加するなど、周産期における災害対策にも取り組んでいる。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重要な役割と考え、周産期医療に携わる医師、助産師、救急隊員等を対象に新生児蘇生法講習会や周産期センター報告会・講演会を開催している。

（センター長 村松 幹司）

総合生殖医療センター

1. 概要

2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るった1年であったが、生殖医療の理想を求め続けて発展してきた当センターの歴史が正しかったことが実感できる1年であった。

当院で体外受精などの生殖補助医療（ART）がスタートしたのは1996年6月であり、2020年は23年目を迎えた。2007年12月タイムラプスインキュベーター（TLI）の世界初全例導入後も様々な最新医療機器と共にHigh Quality ARTに取り組んできた。2018年には、胚画像情報を中心に74項目の特性を人工知能（AI）的に分析して良好胚選択を行う最新型TLIを導入、2019年には2台目も配備が完了してAI-ARTに完全移行できた。

その一方で、地域の患者さんのみを治療対象、夫婦単位での初診とART説明会参加の徹底、単胚移植、出産・育児の開始まで一貫して管理、そのための病的状態の是正など理想を目指した取り組みを2020年も実践してきた。

“先進的で唯一無二の生殖医療を東三河に”を合言葉に、健全な家族形成を地域での医療で完結するという生殖周産期医療の理想を旗印として、生まれてくる子どものことを第一に考えた基本軸のしっかりした医療を実践すべく、難しいケースにも的確に対応できるよう日々研鑽を重ねている。

（センター長 安藤 寿夫）

リハビリテーションセンター

1. 概要

リハビリテーションセンターは診療部門、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚療法部門で構成され、脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、心大血管疾患、がん患者へのリハビリに対応している。また、これら疾患別リハビリに加え、入院患者の日常生活活動の維持・向上を目的としたリハビリも行っている。診療部門では、診察、リハビリ処方を行う。理学療法部門では、日常生活上の基本的動作能力回復目的の運動療法及び呼吸器・循環器疾患や術後の機能回復を目指した運動療法を行う。また筋電図、筋力測定、心肺運動負荷試験等の身体機能を評価する。作業療法部門では、生活における動作の獲得、家事動作や職業への復帰目的の訓練・援助、上肢の機能および高次脳機能の評価、訓練を行う。言語聴覚療法部門では、脳血管疾患や脳の外傷、あるいは発声器官の障害により生じた失語症や構音障害の患者、言語発達の遅れや口唇口蓋裂の小児に対する言語訓練を行う。また、摂食・嚥下障害の機能回復目的の訓練・指導も行っている。

(センター長 石川 知志)

2. 活動報告

(1) 利用状況

区分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
延患者数(人)	99,473	110,992	107,073
1日平均(人)	409.4	462.5	438.8
外来開院日数	243日	240日	244日

※病院事業収支及び活動状況（報告）

血液浄化センター

1. 概要

当センターの診療内容は、一般的な透析業務（末期腎不全の透析導入、入院患者の維持透析、急性腎不全の血液浄化）のみではない。血漿交換・免疫吸着等も病態に応じて行っている。最近では、腎不全以外の膠原病・HUS/TTP・ギランバレー症候群・炎症性腸疾患等で、院内の多くの科から血液浄化の依頼が増えている。

当然、腎臓内科医だけでは業務を遂行できず、移植外科からも多大な支援を受けている。また、臨床工学技士や看護師（血液浄化センターのみならず、外来やICUをはじめとする病棟も）等の医療従事者の協力なくしては、当センターの運営が成り立たない事は言うまでもない。

入院透析患者は外来維持透析患者に比し、膨大な医療資源を費やすことから、現状では受け入れに限界があることは認めざるを得ないが、基幹病院としてその責務を果たすべく、今後もスタッフ一同最善を尽くす所存である。

（センター長 山川 大志）

予防医療センター

1. 概要

予防医療センターでは、主に消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、眼科、口腔外科など各科専門医のもと、一般的な人間ドック（二日ドック、日帰りドック）を精度高く行い、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病やがんなどの悪性腫瘍早期発見・早期介入に努めている。脳ドック、女性ドック（乳がん、子宮がん）、肺がん検診は、それぞれ脳神経外科、一般外科、産婦人科、呼吸器内科・放射線科の専門医と連携して行っている。さらに、PET-CT検診が放射線科専門医の協力を得て開始され、がん早期発見環境がより整備された。

また、就職、進学、海外留学・海外出張、免許取得、施設入所時などの健康診断、被爆者健診、企業の定期健康診断、有機溶剤等健康診断、当院職員の院内健診など様々な健康診断を各科と連携しながら行っている。

さらに、予防医療として、インフルエンザワクチン、B型肝炎ワクチン、破傷風ワクチンをはじめとする各種ワクチンの接種を実施している。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大により4月に緊急事態宣言が発令され、ゴールデンウィークまで健診業務を一時中止とした。その後も感染防止対策の徹底、3密を回避するため受診者数制限を余儀なくされ、毎年開催の「健康教室」も延期となった。

(センター長 大橋 信治)

2. 活動報告

(1) コース別受診者数

コース名	受診者数(人)
二日ドック	54
日帰り人間ドック	2,129
脳ドック	224
肺がん検診	9
胃がん検診	29
女性の健康ドック	19
P E T - C T 検診	21
個人健康診断	527
予防接種	399
全国健康保険協会生活習慣病予防健診 (旧 政府管掌生活習慣病予防健診)	1,455
原爆被爆者健診	38
企業団体健診(注1)	850

注1： 企業団体契約、その他を含む

(2) 受診対象者の内訳

①二日ドック

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	54	7	3	0
胸部X線	54	2	2	0
胃部X線	5	0	0	0
胃カメラ	48	5	4	3
腹部エコー	54	1	1	0
安静時心電図	54	7	6	1
負荷心電図	41	2	2	1
便潜血	52	5	2	2

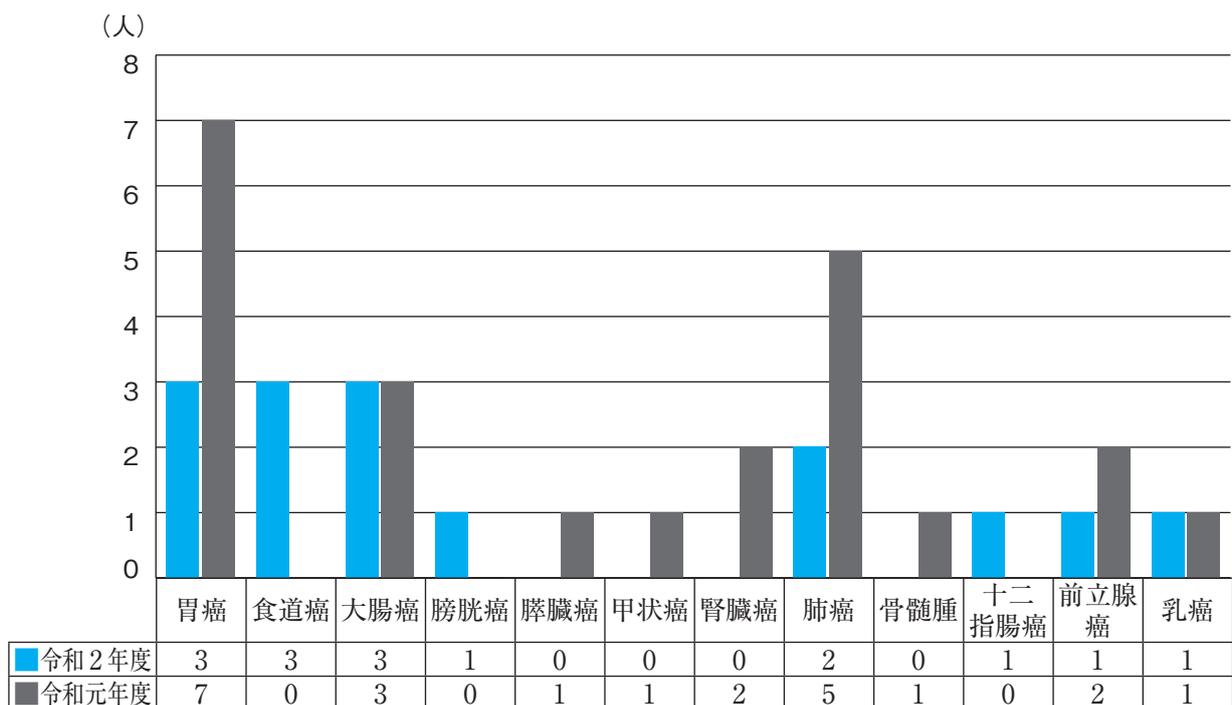
②日帰りドック

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	2,126	307	136	9
胸部X線	2,123	54	29	1
胃部X線	1,297	160	78	20
胃カメラ	751	36	20	14
腹部エコー	1,969	82	41	1
安静時心電図	2,129	69	35	3
便潜血	2,085	100	53	19

③生活習慣病予防健診

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	77	12	6	0
胸部X線	1,415	43	26	1
胃部X線	1,095	136	72	13
胃カメラ	207	13	10	4
腹部エコー	63	1	1	0
安静時心電図	1,421	47	13	1
便潜血	1,398	76	26	11

(3) 悪性新生物発見数



(4) メタボリック判定実施者

(人)

区分	令和2年度	令和元年度
①基準該当	708	833
②予備軍該当	525	666
③非該当	2,363	4,299

輸血・細胞治療センター

1. 概要

輸血・細胞治療センターでは、年6回の輸血療法委員会の開催、年2回の輸血療法院内監査の実施を行い、院内の輸血療法が安全かつ適切に運用されるよう管理している。

2020年は、輸血療法実施規約および輸血療法同意書の改定を行った。またHBV、HCV、HIVの輸血後感染症検査に関する対応について日本輸血・細胞治療学会の方針に従い、輸血前検体保管が全例で必須となった。

2021年は、迅速フィブリノゲン測定機器の導入を行う。フィブリノゲン値はクリオプレシピテート投与のタイミングを決定するのに非常に重要である。今回の機器導入で報告時間が短縮されることにより、クリオプレシピテートの適正使用につながると考える。またI&A（輸血機能評価認定制度）更新のための準備を行う。

今後も院内の輸血療法が安全かつ適正に行われるよう管理していく。

（センター長 倉橋 信悟）

2.活動報告

(1) 定期委員会

輸血療法委員会開催（2か月毎予定） *6回実施

(2) 輸血療法院内監査

輸血療法院内監査実施 *2回実施

臨時 輸血療法院内監査実施 *1回実施

(3) センター業務実績

①輸血関連検査件数

検査項目	総件数(件)	前年比
血液型	18,100	0.84
不規則抗体スクリーニング	12,752	0.83
交差適合試験	5,916	0.97

②血液製剤使用状況

製剤種	総単位数(単位)	前年比
赤血球液(RBC)	11,695	0.96
新鮮凍結血漿(FFP)	4,204	1.07
濃厚血小板(PC)	19,600	0.92

③アルブミン（ALB）製剤使用状況

製剤種	総本数(本数)	前年比
ALB 25% 50mL	2,104	1.16
ALB 5% 250mL	1,285	0.93

* ALB使用単位数：14,121単位

* ALB/RBC=1.04 管理料 I 算定基準：2未満

④製剤廃棄率

製剤種	廃棄率(%)	前年比
赤血球液(RBC)	0.42	4.16
新鮮凍結血漿(FFP)	0.46	0.15
濃厚血小板(PC)	0.25	0.90

⑤副作用集計報告

製剤種	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球(RBC)	61	44
新鮮凍結血漿(FFP)	86	22
濃厚血小板(PC)	86	39

ゲノム診療センター

1. 概要

臨床検査部門、病理診断科、患者総合支援センターを中心に院内のがん遺伝子パネル検査体制を構築し、2020年は2件の検査を提出した。

2020年はがんゲノム医療推進のために遺伝性腫瘍カウンセリング加算が新規に保険収載された。一定の基準を満たす患者に対するHBOC（遺伝性乳癌卵巣癌症候群）確定のためのBRCA1/2遺伝子検査やがん既発症者に対する対側乳房や、卵巣・卵管予防切除が保険適応となった。BRCA1/2遺伝子検査は2020年12月に膵臓癌、前立腺癌も適応拡大となり今後検査対象患者の増加が見込まれる。

網羅的に多数の遺伝子を調べるがん遺伝子パネル検査やコンパニオン診断としての遺伝子診断をきっかけとして遺伝性腫瘍の可能性が示唆されることがある。

2020年はHBOC関連での姉妹のカウンセリングや他院で確定診断された娘のシングルサイト検査に対応した。リンチ症候群に関しても遺伝子検査やカウンセリング（自費）を行った。専門医が少ないため検査前のカウンセリングの全例対応はできていないが、検査に迷われる方、不安の強い症例については個別に対応している。検査後のカウンセリングや家族の確定診断についてもできる限り対応している。周産期分野における母体血を用いた出生前遺伝学的検査（NIPT：non-invasive prenatal genetic testing）は2020年、40件の検査を行った。本検査については学会よりの指針改定が凍結しているため旧来の基準で検査を継続している。

（センター長 岡田 真由美）

外来治療センター

1. 概要

2020年度の年間利用者の延べ数は、11,756人（うち癌治療10,049人）で、2019年度の10,649人（同10,065人）と、新型コロナウイルス感染症の影響下でも減少は見られない。癌に関する治療数は変わらない一方で、癌以外の治療数は増加している。1日の平均利用者数も、2019年度も2020年度もほぼ同程度となった。

扱うレジメン数は増加しており、外来治療センターで扱うレジメン数は2020年度には368と、増加している（2019年度は299）。使用しなくなったレジメンの削除を、各科に依頼しているが、扱う治療の複雑性は増している。新規レジメンは治療時間が従来より長時間にわたるものが多いので、治療センターは混雑している。これに対応すべく、2020年度には、外来治療センターはサテライト（4床）を開設して32床に増床した。

増加する患者数・扱うレジメン数に対応する人員は、看護師12名/日、薬剤師8～9名/日である。以上の体制で、治療レジメンに応じたスケジュールの組み立て、など各スタッフの努力により、安全に治療を遂行している。

（センター長 藤井 正宏）

2. 活動報告

(1) 治療実績 月別集計表

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	
平均年齢(歳)		65.7	65.9	66.1	65.6	65.8	65.6	66.1	64.5	65.5	65.7	66.2	66.2		65.7	
男(人)		538	472	545	575	524	508	536	462	496	538	456	586	6,236	519.7	
女(人)		469	413	456	479	442	466	493	463	469	428	442	500	5,520	460	
がんに関する治療(人)	内科	377	362	394	447	383	394	409	357	387	401	357	414	4,682	390.2	
	外科	300	219	274	259	262	242	259	243	255	260	234	293	3,100	258.3	
	泌尿器科	65	61	64	66	78	77	78	61	49	51	47	67	764	63.7	
	耳鼻いんこう科	52	48	51	42	30	42	45	45	44	38	41	56	534	44.5	
	婦人科	60	57	64	79	70	67	74	74	74	70	74	83	846	70.5	
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	その他	9	3	11	14	5	11	16	7	12	11	11	13	123	10.3	
	計	863	750	858	907	828	833	881	787	821	831	764	926	10,049	837.4	
	初回	64	78	71	87	67	72	70	74	66	63	69	85	866	72.2	
	乳腺	136	72	101	85	88	84	99	101	95	104	94	115	1,174	97.8	
	大腸	134	119	134	141	125	99	124	101	113	121	108	131	1,450	120.8	
	血液	105	119	130	149	114	122	138	129	130	128	114	122	1,500	125.0	
	肺	160	126	145	163	150	149	163	110	121	135	121	150	1,693	141.1	
	胆膵	80	84	86	99	87	102	90	80	92	96	86	103	1,085	90.4	
	胃	47	42	57	51	56	60	47	60	66	61	53	66	666	55.5	
	前立腺	13	9	12	20	13	11	11	8	6	11	7	8	129	10.8	
	その他	188	179	193	199	195	206	209	198	198	175	181	231	2,352	196.0	
	がん以外の治療(人)	内科	45	45	45	56	47	51	57	53	49	60	43	63	614	51.2
		整形外科	2	1	2	1	2	1	1	0	2	1	2	1	16	1.3
リウマチ科		94	86	91	87	85	86	85	82	91	70	85	90	1,032	86.0	
皮膚科		2	2	4	2	3	3	4	3	2	4	2	4	35	2.9	
その他		1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	2	2	10	0.8	
計			135	143	147	138	141	148	138	144	135	134	160	1,707	142.3	
合計(人)		1,007	885	1,001	1,054	966	974	1,029	925	965	966	898	1,086	11,756	979.7	
1日平均(人)		47.9	49.1	45.5	50.2	48.3	48.7	46.8	48.7	48.3	50.8	49.9	47.2	581.4	48.5	

手術センター

1. 概要

手術センターは、一人一人の患者さんに最良の手術が行われるよう各診療科および麻酔科の医師・臨床工学技士・病棟及び手術センターの看護師が連携を図っている。当センターは、地域や患者のニーズに応えるべく以下の特徴及び設備を整えている。

また、超緊急枠を設け、全科の超緊急手術に対応できるようにしている。

- ① 高度先進医療の施行
 - a 内視鏡下手術：腹腔鏡、胸腔鏡、膀胱鏡、関節鏡、耳鼻科内視鏡、神経内視鏡
 - b ロボット支援下手術：一般外科、婦人科、泌尿器科、呼吸器外科
 - c 大動脈瘤に対するステント留置術
 - d O-arm透視下に行う脊椎等の整形外科手術
 - e 不妊症に対する産婦人科生殖手術
 - f 移植手術：腎移植、副甲状腺移植
 - g 顕微鏡下手術：脳神経外科、耳鼻いんこう科、眼科、整形外科
 - h ナビゲーション支援下手術：脳神経外科、耳鼻いんこう科、整形外科
 - i 脳死臓器提供手術
- ② 総合周産期母子医療センターの要望に応じ、手術決定後30分以内に胎児娩出を行う超緊急手術に対応
- ③ 心臓病、肺疾患、肝疾患、腎疾患等重い合併症を有するハイリスク患者手術に対応
- ④ 研修機関病院として、研修医、医学生、看護学生、救命救急士等の見学や実習
- ⑤ 手術診療科 18（内科、一般外科、小児外科、呼吸器外科、心臓外科・血管外科、移植外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、産婦人科（生殖医療）、耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科）
- ⑥ 手術室 16（バイオクリーン・ルーム1室、採卵室1室、ハイブリッド手術室1室、ダヴィンチ手術室1室、内視鏡手術室1室）
- ⑦ 空気清浄度
 - a クラス100（1室）：整形外科で使用
 - b クラス1000（1室）：呼吸器外科、心臓外科・血管外科で使用
 - c クラス10000（14室）
- ⑧ スタッフ 看護師54名（2交代制で、夜勤者2名、待機2名、遅番2名体制）

また、2020年10月より手術支援ロボットシステム（ダヴィンチ）を1台増設し、2台体制となった。2020年度の主な実績としては、ロボット支援下手術を計181例、ハイブリッド手術を15例施行した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で全体の手術実施数は減少した。

（センター長 雄山 博文）

2. 活動報告

(1) 手術件数

疾患名	件数(件)
一般外科	1,437
呼吸器外科	167
心臓血管外科	90
小児外科	108
移植外科	62
整形外科	1,494
リウマチ科	28
形成外科	5
脳神経外科	403
産婦人科	1,095
耳鼻いんこう科	473
皮膚科	97
泌尿器科	599
眼科	438
歯科口腔外科	389
生殖医療	285
内科	108
小児科	5
計	7,283

疾患名	件数(件)
全身麻酔	3,723
静脈麻酔	175
腰椎麻酔	1,220
局所麻酔	1,700
伝達麻酔	174
無麻酔	271
その他	28
計	7,291
(うち緊急手術)	1,165
割合	15.98%

(2) 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

疾患名	件数(件)
一般外科	536
うち、ロボット支援下直腸悪性腫瘍手術	10
うち、ロボット支援下胃悪性腫瘍手術	12
呼吸器外科	140
うち、ロボット支援下肺悪性腫瘍手術	11
小児外科	54
整形外科	103
リウマチ科	0
産婦人科	475
うち、腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術(先進医療)	0
うち、腹腔鏡下広汎子宮頸部摘出術(先進医療)	0
うち、ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	43
うち、ロボット支援下腔式子宮全摘出手術	102
泌尿器科	128
うち、ロボット支援下前立腺悪性腫瘍手術	62
うち、ロボット支援下腎悪性腫瘍手術	17
うち、ロボット支援下膀胱悪性腫瘍手術	1
その他	6
計	1,442

口唇口蓋裂センター

1. 概要

当センターは口唇口蓋裂を含む口腔の先天性疾患、顎発育異常等に対する治療を担当している。豊橋市内外から多くの患者の紹介を頂いており、院内の産婦人科、小児科からの紹介も多い。

口唇口蓋裂は長期の治療期間を要するため、出生してから成人するまでそれぞれの成長発育段階における様々な病態に合わせた治療を行っている。当センターでは出生直後より小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科をはじめ関連他科の協力を仰ぎながら治療を行っている。また院内はもとより、市中の医科歯科関連の医療施設と密接に連携を保ちながら、円滑に治療が進むよう当センターが中核となってその対応を行っている。一次症例だけでなく、他院で治療を受けた二次症例でも積極的に対応しており、外来初診症例数や入院症例数は、ともにほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

(センター長 嘉悦 淳男)

2. 活動報告

①外来初診症例数

疾患名	件数(件)
唇(顎)裂	2
口蓋裂	4
唇顎口蓋裂	5
その他の唇顎口蓋裂	1
計	12

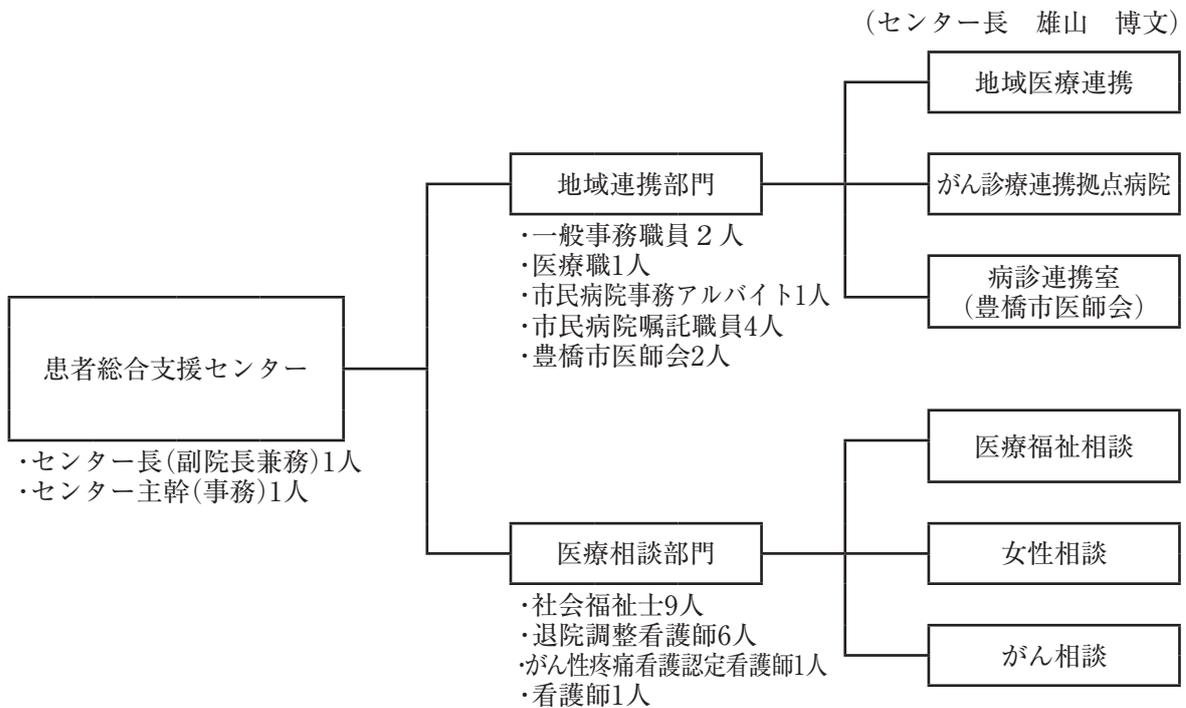
②入院症例数

疾患名	件数(件)
唇(顎)裂	2
口蓋裂	2
唇顎口蓋裂	27
その他の唇顎口蓋裂	0
計	31

患者総合支援センター

1. 概要

2010年4月1日、副院長をセンター長として開設した当センターは、患者に対して効率的で質のよい医療を提供するため、地域の医療機関や介護事業者との相互連携を図る「地域連携部門」と、医療を通じて発生する種々の問題に対して、患者に安心して治療に当たってもらえるよう支援を行う「医療相談部門」で構成されている。



2. 活動報告

(1) 地域連携部門

①地域医療支援委員会

委員 29人 (院外 17人、院内 12人)

第1回 令和2年 5月26日開催 (書面会議)

第2回 令和2年 8月13日開催

第3回 令和2年11月12日開催

第4回 令和3年 2月18日開催

②地域連携登録医登録者数

512人 (令和3年3月末現在)

③豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

委員 8人 (豊橋市医師会 2人、豊橋市民病院 6人)

事務局 4人 (豊橋市医師会 1人、豊橋市民病院 3人)

(ア)病診連携協議会

第86回病診連携協議会 令和2年 5月29日開催

(イ)MCRフォーラム

第46回MCRフォーラム 令和2年 10月14日開催

「呼吸器外科における現状と将来展望」 参加人数 35人

(ウ)病院・転床施設連携懇談会

第24回病院・転床施設連携懇談会 中止（*関係施設へ資料配布）

令和元年度の転床入院実績報告

④紹介・逆紹介実績

(ア)紹介・逆紹介率

紹介率	逆紹介率
78.0%	88.8%

(イ)病診連携室取扱実績

内訳			件数(件)	
病診連携室経由の受診予約数	医 科	市 内	8,778	
		市 外	3,015	
	歯 科	市 内	1,211	
		市 外	200	
	保 健 所 保 健 セ ン タ ー			238
	そ の 他			58
	キ ャ ン セ ル			△429
	計			13,701
時 間 外 (再 掲)			704	
病診連携室経由の転院先状況	申 込 数		2,316	
	内 訳	有 床 診 療 所	5	
		病 院	1,639	
		キ ャ ン セ ル	664	
		転 院 予 約 中	8	

(2) 医療相談部門

①医療相談件数 38,671件 *入退院支援センターの実績件数も含む。

病気やケガ等で生活上の課題を抱えた患者が安心して医療が受けられるよう、経済的なこと、在宅での療養や介護、転院先の選定などについて、地域の医療・福祉・介護等の関係機関と連携して、社会福祉士や看護師が支援を行っている。

②がん相談件数 1,329件

地域がん診療連携拠点病院指定を受けている当院は、がん相談支援センターを設置し、国のがん専門相談員研修を修了した相談員ががんに関する情報提供や、療養生活、就労、がんゲノム、セカンドオピニオン等に関する相談支援を行っている。

③女性相談件数 16件

女性特有の悩みや受診先について女性看護師が対応している。

入退院支援センター

1. 概要

入退院支援センターでは、患者さんが安心して入院生活を送り、退院後も地域で安心して生活するための支援を行っている。入院支援では、昨年度より管理栄養士と歯科衛生士を迎え、入院前からの栄養評価や指導、歯科口腔ケアのスクリーニングを行い、かかりつけ歯科医師との連携を図っている。退院支援では、MSW（医療相談員）と退院調整看護師が各病棟を担当し、医療的な課題と社会的な側面に対して柔軟に介入し、患者が住み慣れた地域に戻れるよう支援している。

入院支援、退院支援の業務は以下のとおりである。

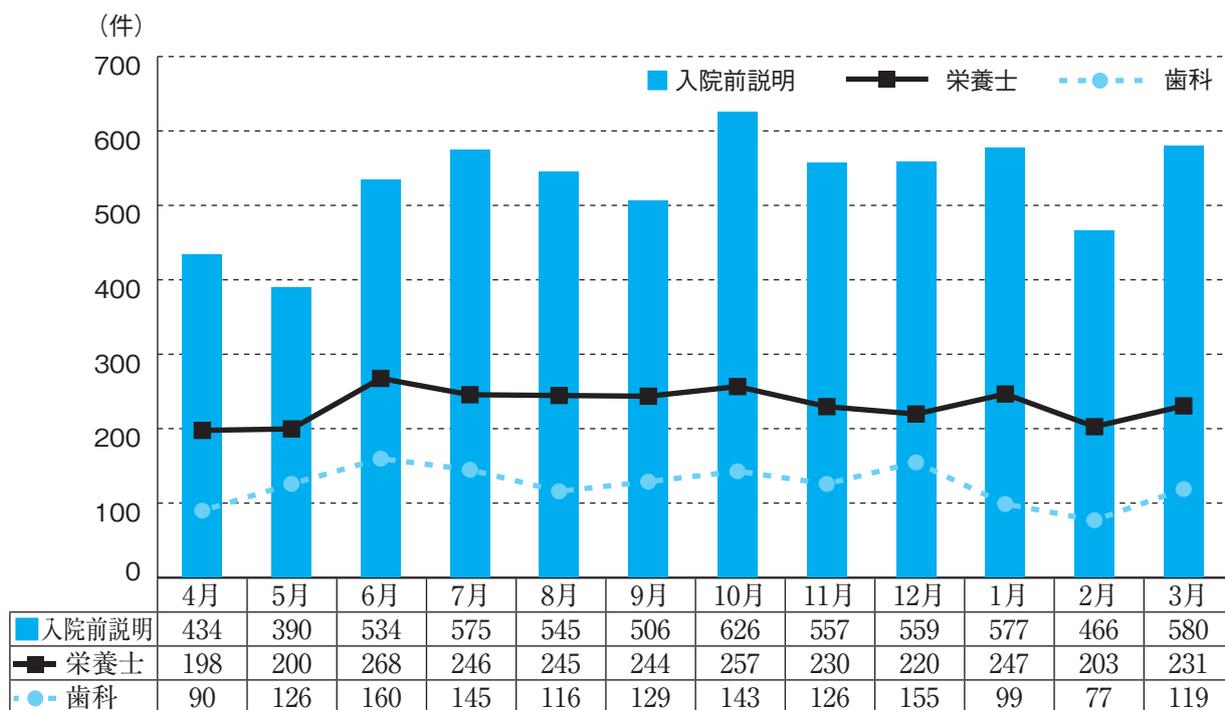
- ①入院や手術に対して抱えている不安を少しでも軽減し、安心して入院・手術が受けられるように援助する。
- ②リスクのある患者をスクリーニングして安全に手術が受けられるようにする。
- ③退院困難要因のある入院患者に早期から介入し、その人らしい暮らしに戻れるように支援する。
- ④院内外多職種との連携を図り、速やかな退院支援を展開する
- ⑤退院前訪問、退院後訪問の実施、訪問看護ステーションとの連携を図る

（センター長 間瀬 有奈）

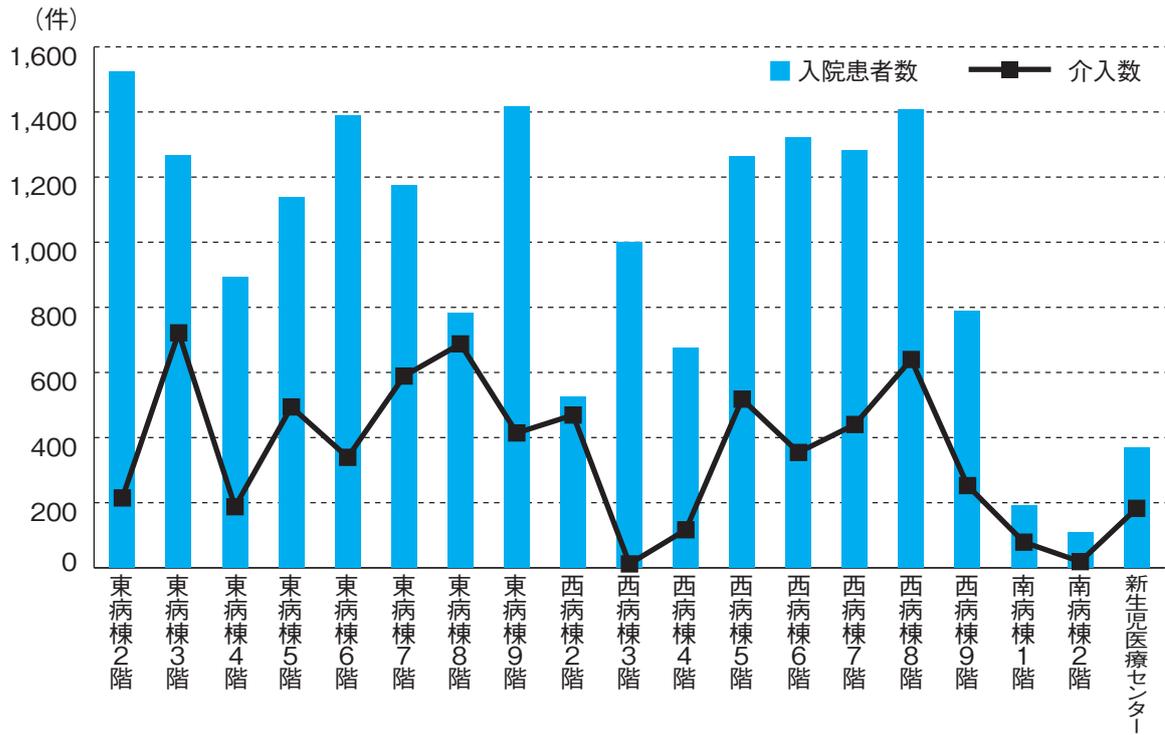
（文責 副センター長 伊藤 恵子）

2. 活動報告

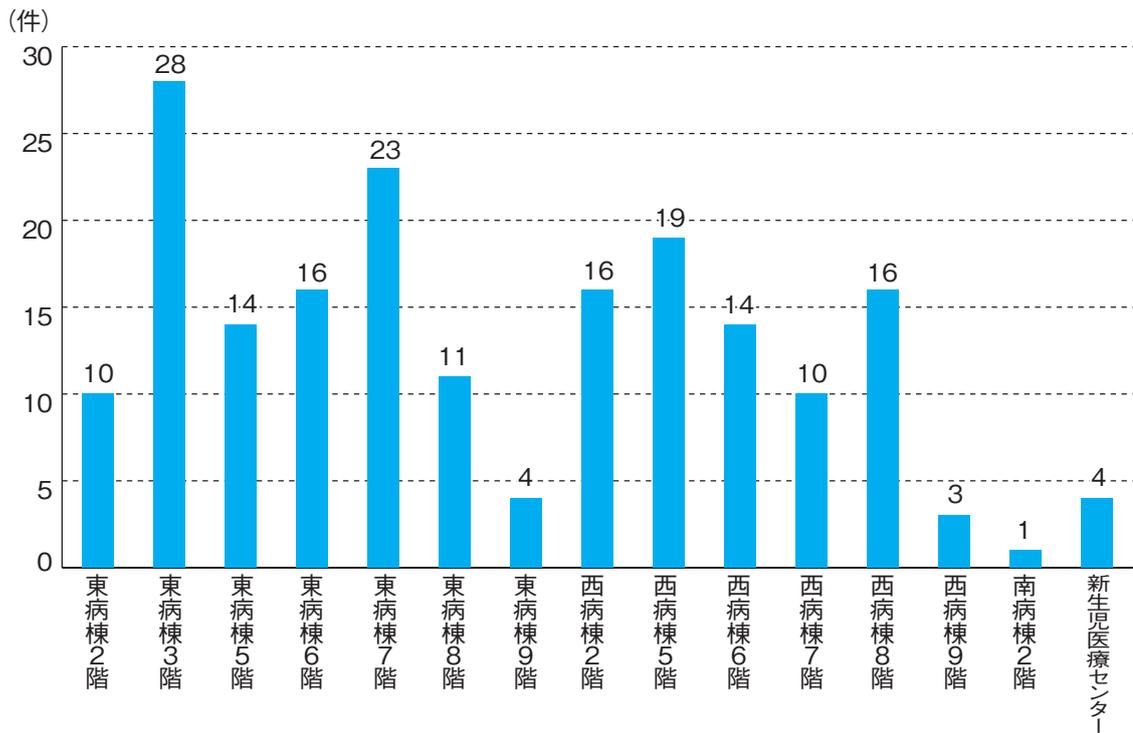
（1）入院支援実績



(2) 介入実績



(3) 退院前カンファレンス実績



一次脳卒中センター

1. 概要

地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療救急医が患者搬入後、可及的速やかに診療（rt-PA静注療法含む）を開始できる施設が地域医療に必要とされるため、一般社団法人日本脳卒中学会のPSC（Primary Stroke Center）として申請を行い、認定された。

これは、2016年に日本脳卒中学会と日本循環器学会が共同で作成した「脳卒中と循環器病克服5カ年計画」において充実した医療体制の構築を目的として、一定の施設要件を満たした医療機関を認定するものである。

毎週月曜日夕方、多職種による症例カンファレンスを行っている。毎週2-3例を取り上げて診断・治療・今後の方針等について検討している。

（センター長 岩井 克成）

診療技術局

診療技術局には、放射線技術室、中央臨床検査室、リハビリテーション技術室、臨床工学室、栄養管理室の5部門（7職種）で、医療関係の国家資格を有した約180名および事務職員によって構成されている。病院事業（診療・経営の質の向上）への貢献はもちろんのこと、医療技術職のステータスの向上と職種の垣根を越え、共通の方針、計画、施策の立案などにより、より効率的な運営に努めている。病院の方針の浸透と現場の意見からのボトムアップ、医療技術職の横断的意思疎通の促進がさらなる活性化につながると考えている。COVID-19検査を積極的に取り入れ、病院玄関での発熱トリージ業務も従事した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、局内の集合的な研修会を取りやめた。また、毎年開催していた「高校生職場見学会」についても中止した。

代わりにこれまで様々な企画を実施してきた「診療技術局企画委員会」の内規・細則を作成し、運用内容や構成などを委員で話し合いまとめた。

東三河地域における当院の役割は、様々な勉強会や研修会を積極的に開催し、地域医療に貢献することである。また、コメディカルの医療レベルが現在の医療レベルに直結することと考え、業務を遂行したいと考えている。

（局長 山口 育男）

放射線技術室

1. 概要

この1年は、やはりコロナ禍の影響を強く受けた年であった。当院での外来予約診療の制限や手術の制限等で放射線技術室にも検査数が前年度同月80%まで減少した月があった。また、救命救急外来でのコロナ疑い患者の対応にも当初は混乱があり職員の安全を確保しながら与えられた検査を確実に実施しなくてはならず慎重な対応が必要となった。また、減少した検査数を取り戻すために新たな検査項目を提案する職員や毎週時間外にまでかかるTV室での検査を今まで使われていない時間枠に分散する提案もあり、さらには、4月からMRI検査を主体とする物忘れ脳ドックがあらたに募集開始される。この厳しいコロナ禍であっても、頼もしく感じられた一面であった。また、今年度はCT装置を更新し、三河地区では初めての320列高性能CT装置を救命救急に配置することにより、今後の救急医療にも役立てていければと考えている。

(室長 坂口 哲基)

「在籍技師が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
第1種放射線取扱主任者	原子力安全技術センター・文部科学省	医学物理士	医学物理士認定機構
放射線管理士	日本放射線技師会	放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門放射線技師認定機構
放射線機器管理士	日本放射線技師会	放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構
医療情報技師	日本医療情報学会	核医学専門技師	日本核医学専門技師認定機構
医療画像情報精度管理士	日本診療放射線技師会	核医学専門技術者	日本核医学技術学会
診療情報管理士	四病院団体協議会	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
医療安全管理者	日本病院会	乳腺甲状腺超音波診断委員会認定技師	日本乳腺甲状腺超音波診断会議
臨床実習指導教員	日本診療放射線技師会	乳房超音波	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
X線作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省	超音波検査士(健診)	日本超音波医学会
γ線透過写真撮影作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省	超音波検査士(体表臓器)	日本超音波医学会
X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構	超音波検査士(消化器)	日本超音波医学会
血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構	医療被ばく相談員	日本放射線技師会
日本磁気共鳴専門技師	日本磁気共鳴専門技師者認定機構	小腸カプセル内視鏡読影支援技師	日本カプセル内視鏡学会
救急撮影認定技師	日本救急撮影技師認定機構		

2. 活動報告

(1) 放射線技術室実績

(件)

区分		令和2年度	令和元年度
一般撮影	頭部	2,833	4,268
	胸部	69,269	74,305
	腹部	12,209	13,490
	四肢	42,265	46,862
	椎体	16,803	19,032
	計	143,379	157,957
	骨塩量測定	2,208	2,260
	ポータブル	26,321	27,664

エコー室	単純	12,079	13,274
	造影	160	146
	計	12,239	13,420

CT	単純	28,754	27,311
	造影	17,806	18,657
	計	46,560	45,968

MRI	単純	10,042	10,397
	造影	5,623	5,408
	計	15,665	15,805

血管撮影	心臓	769	794
	頭頸部	266	265
	胸部	129	106
	腹部	210	194
	四肢	60	57
	計	1,434	1,416

TV	UGI(胃)	2,669	2,953
	CG(大腸)	93	198
	透視下内視鏡	1,269	1,300
	透視下検査・治療	2,274	2,239
	計	6,305	6,690

RI	核医学SPECT	558	548
	核医学静態	127	160
	核医学動態	40	52
	核医学全身	379	699
	PET/CT	1,082	1,183
	計	2,186	2,642

放射線治療	体外照射	12,610	12,053
	定位照射	427	325
	腔内照射	92	53
	IMRT	3,148	1,641
	全身照射	40	38
	計	16,317	14,110

(2) 令和2年度 豊橋市民病院放射線技術研修会

	演題名	演者名	年月日
第1回	核医学画像の画質評価	市川 肇	令和3年2月5日

中央臨床検査室

1. 概要

2019年3月に「ISO15189：臨床検査における国際規格」を取得し2年が経過した。「ISO 15189」におけるPDCAサイクルの円滑な運用が、中央臨床検査室での質の高い検査結果を提供できることと考えている。その結果、2019年度精度管理調査（3団体）において、優秀な成績を残すことができた。

業務件数は、3.2%減少（2019年度比）であり、ほとんどの部門において減少であった。これは、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う患者数の減少が原因と考えられた。

COVID-19検査については、いち早く準備し、5月に迅速型PCR検査装置を導入した。9月末に多検体処理可能なPCR検査装置を追加し、12月には抗原定量検査を導入し24時間対応とした。また、12月初旬から開設された「発熱外来」において、検体採取業務に従事し、陽性患者のスクリーニングに寄与した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、検査室内の集会的な勉強会を取りやめた。また、学会中止等などにより自己研鑽の場が減少した。しかし、年度後半になるとWEB開催が主流ではあるが、これまで時間の制約などにより参加できなかった技師が研修会参加した報告を多く受けた。移動・参加からWEBによる履修に変わりつつあることを実感した。

新型コロナウイルス感染症対応の1年であった。迅速性が求められるCOVID-19検査を院内導入すること、臨床の希望に即した運用などで病院運営に寄与できたと自負している。

（室長 山口 育男）

「在籍技師が取得している主な認定資格」

認定資格名称	認定団体及び学会	認定資格名称	認定団体及び学会
認定血液検査技師	日本検査血液学会	超音波検査士(体表臓器領域)	日本超音波医学会
骨髄検査技師	日本検査血液学会	認定心電検査技師	日本心電学会
認定サイトメトリ-技術者	日本サイトメトリ-技術者認定協議会	ソノグラファー	日本リウマチ学会
認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	専門技師(脳波分野)	日本臨床神経生理学会
感染制御認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	体外受精コーディネーター	日本不妊カウンセリング学会
認定輸血検査技師	認定輸血検査技師制度協議会	認定臨床エンブリオロジスト	日本臨床エンブリオロジスト学会
認定病理検査技師	日本臨床衛生検査技師会	生殖補助医療胚培養士	日本卵子学会
細胞検査士	日本臨床細胞学会	糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構
超音波検査士(循環器領域)	日本超音波医学会	栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会
超音波検査士(健診領域)	日本超音波医学会	遺伝子分析科学認定士	日本臨床検査医学会
超音波検査士(消化器領域)	日本超音波医学会	緊急臨床検査士	日本臨床検査医学会
超音波検査士(血管領域)	日本超音波医学会	認定認知症領域検査技師	日本臨床衛生検査技師会

2. 活動報告

(1) 検査実施件数

(件)

区 分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
院内検査実施件数	5,675,045	5,864,465	5,655,630
委託検査件数	117,980	124,482	117,680
検査判断料件数	413,593	428,770	422,646
輸血管理料1	2,984	2,889	2,584
外来迅速検体検査加算件数	262,950	271,492	265,918
病理診断管理加算	13,485	15,096	15,681
検体検査管理料加算 I 件数	107,884	112,467	112,017
入院時初回加算件数	12,495	13,291	13,066
時間外緊急院内検査加算件数	9,614	11,463	12,417
採血加算件数	105,521	111,175	107,495

(2) 検査判断料件数

(件)

区 分		令和2年度	令和元年度	平成30年度
尿・糞便等検査判断料	外来	20,187	19,029	18,339
	入院	4,726	3,567	3,560
血液学の検査判断料	外来	96,734	100,174	98,935
	入院	16,622	18,194	18,026
生化学の検査(I)判断料	外来	96,972	100,074	98,680
	入院	16,622	18,261	18,151
生化学の検査(II)判断料	外来	26,257	26,286	25,242
	入院	5,629	5,235	4,623
免疫学の検査判断料	外来	73,222	76,635	75,616
	入院	15,714	17,215	16,912
微生物学の検査判断料	外来	11,577	11,623	11,428
	入院	7,216	7,758	7,779
病理学の検査判断料	外来	2,356	2,176	2,179
	入院	42	31	36
呼吸機能検査等判断料	外来	3,567	4,273	4,161
	入院	553	664	772
脳波検査判断料	外来	1,040	1,046	983
	入院	797	1,043	1,267
神経・筋検査判断料	外来	391	406	369
	入院	173	225	183
組織診断料	外来	5,062	5,948	6,132
	入院	4,442	4,855	4,905
細胞診断料	外来	2,635	2,880	3,032
	入院	1,286	1,172	1,336

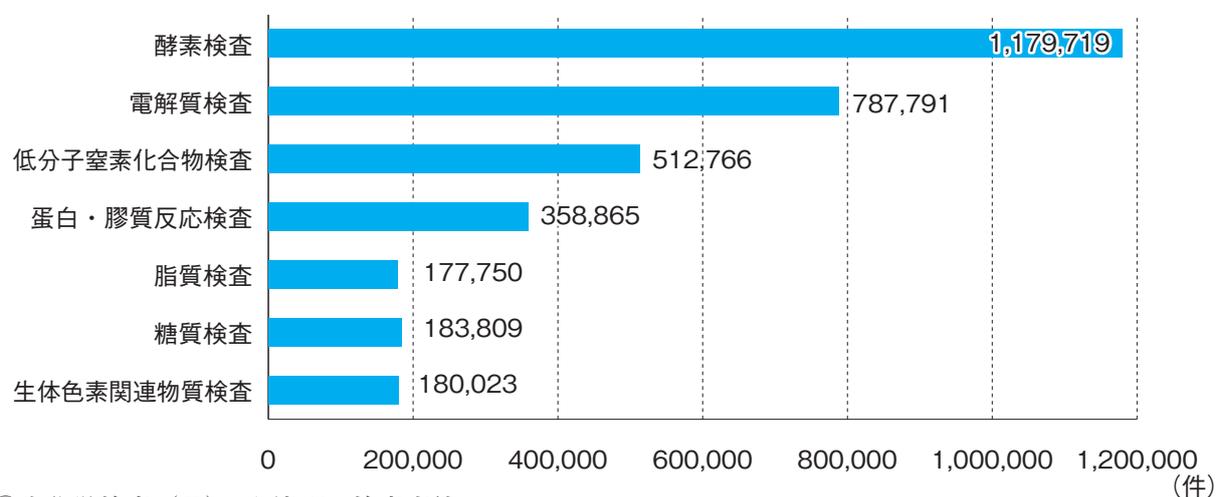
(3) 部門別実績

(件)

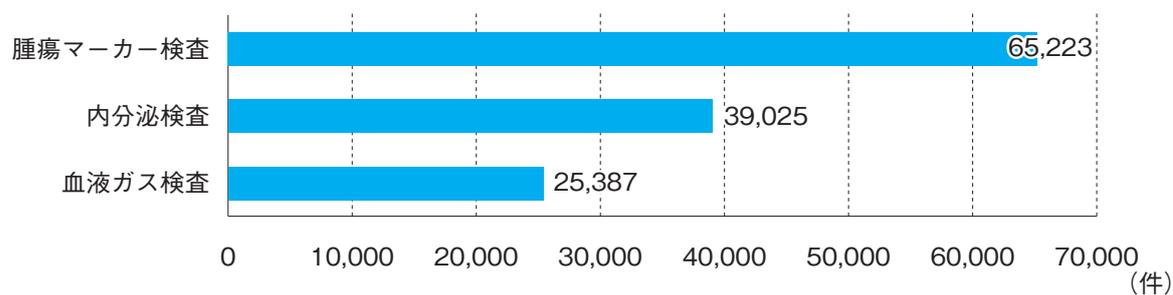
区 分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
尿・糞便等検査	115,028	114,758	112,794
血液学的検査	943,951	964,170	934,102
生化学的検査	3,996,756	4,134,904	3,973,743
免疫学的検査	394,268	401,115	392,705
微生物学的検査	88,586	95,932	92,766
輸血関連検査	55,904	65,761	60,188
生理機能学的検査	57,306	63,443	63,881
病理学的検査	22,503	23,565	24,599
生殖医療学的検査	743	817	852

(4) 生物化学分析検査

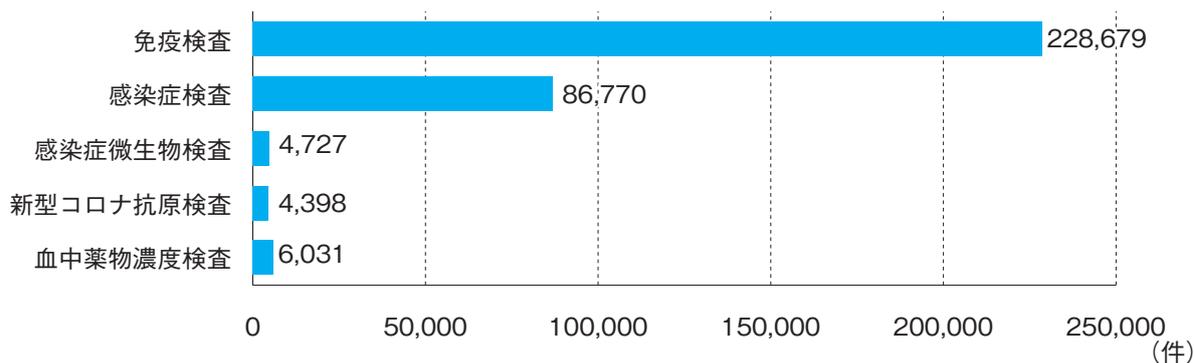
① 生化学検査（Ⅰ）検査実績



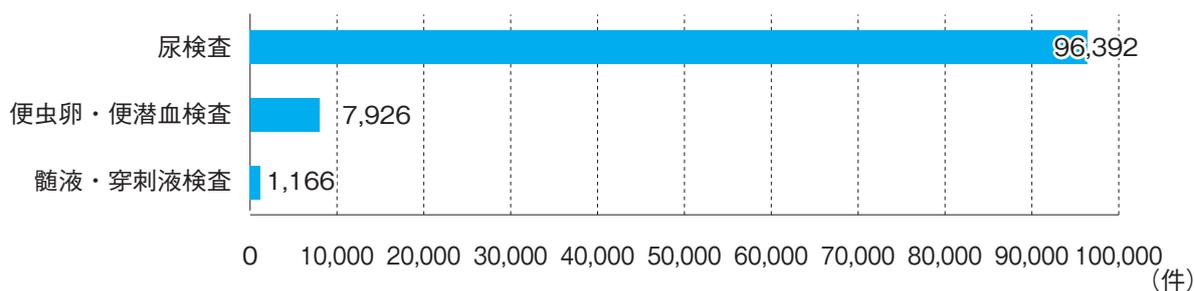
② 生化学検査（Ⅱ）・血液ガス検査実績



③免疫学的・薬物検査実績



④一般検査 検査実績



⑤患者検査説明業務実績

(件)

区分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
患者検査説明業務	818	914	963

患者説明業務とは、蓄尿、糖負荷検査（OGTT）、生理検査などの検査方法を患者に対して説明する業務である。

●説明検査項目

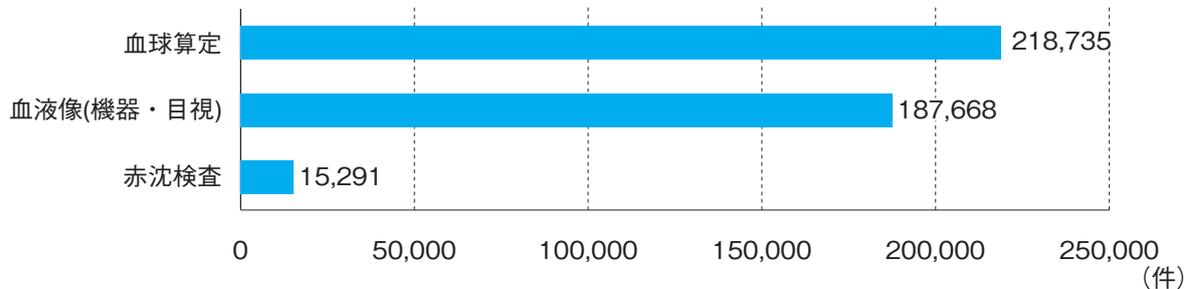
尿検査など：蓄尿・酸性蓄尿・糖負荷検査OGTT・クレアチニンクリアランス・早朝尿

生理検査：超音波検査・ホルター心電図・トレッドミル・24時間血圧測定・負荷サーモグラフィー・

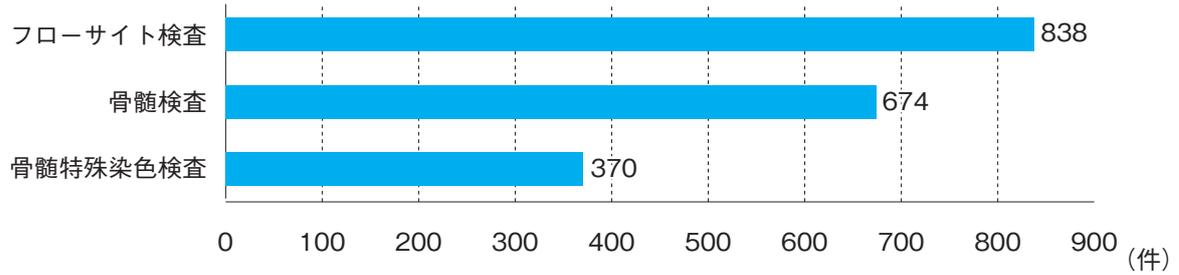
吸入誘発試験・脳波・聴性脳幹反応・終夜睡眠ポリグラフィー

⑥血液学的検査実績

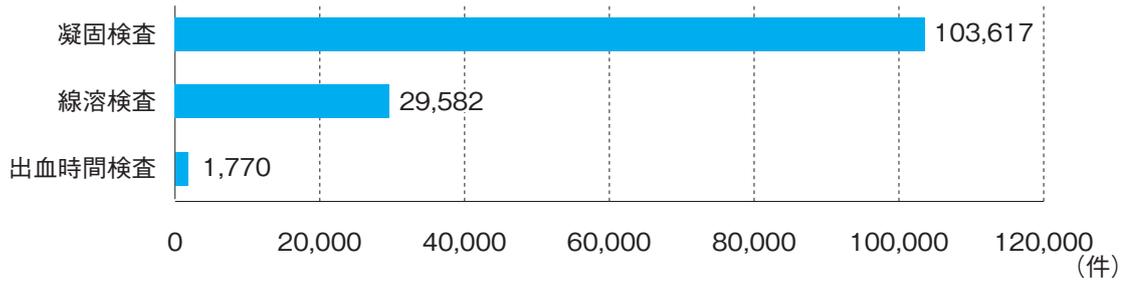
(ア)血液検査



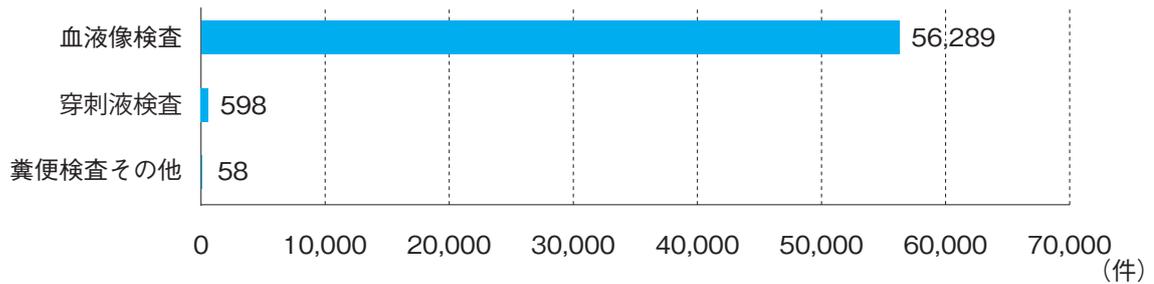
(イ)骨髄検査



(ウ)凝固・線溶検査



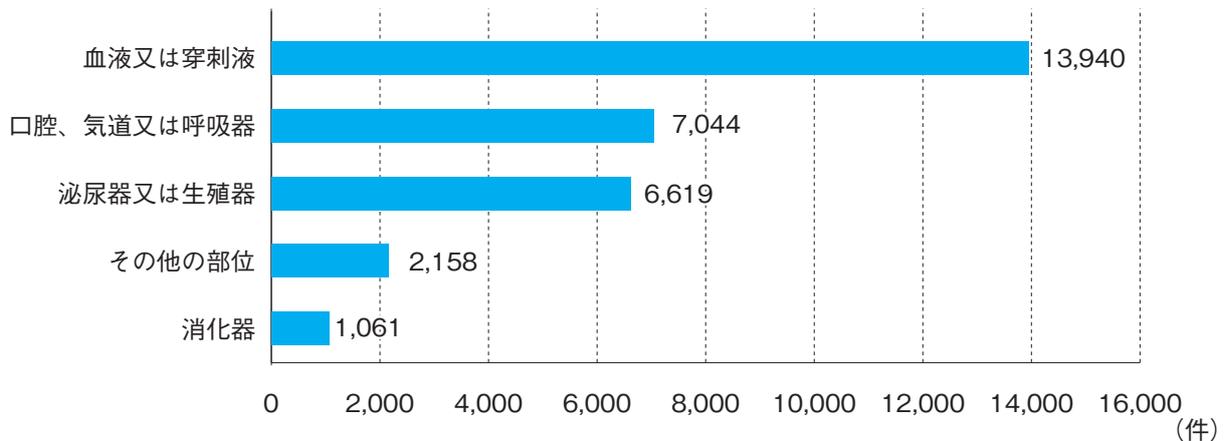
⑦顕微鏡検査実績



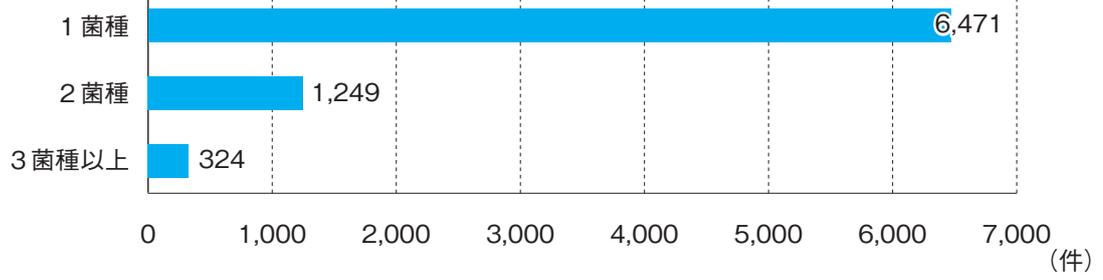
(5) 微生物・感染制御検査

①一般細菌

(ア)培養同定検査実績

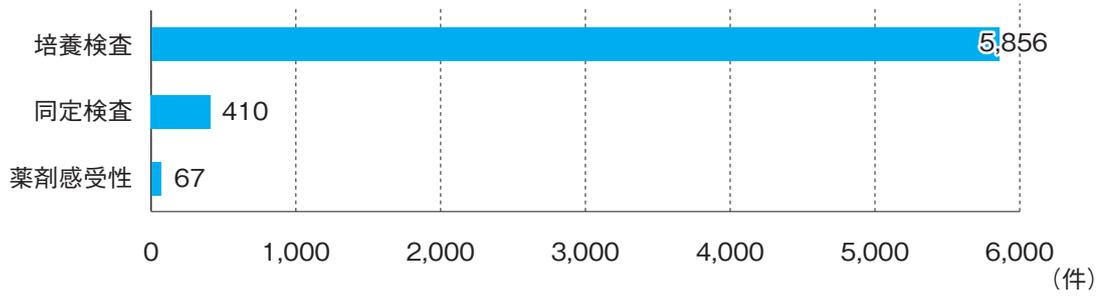


(イ)薬剤感受性検査実績

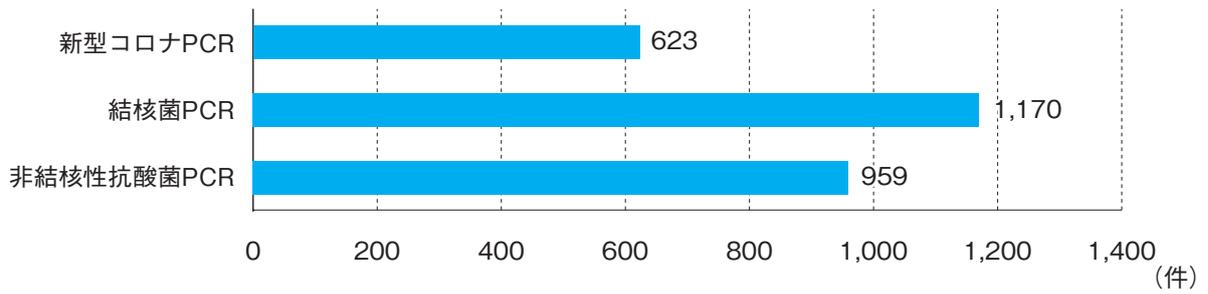


②抗酸菌

(ア)培養同定検査実績

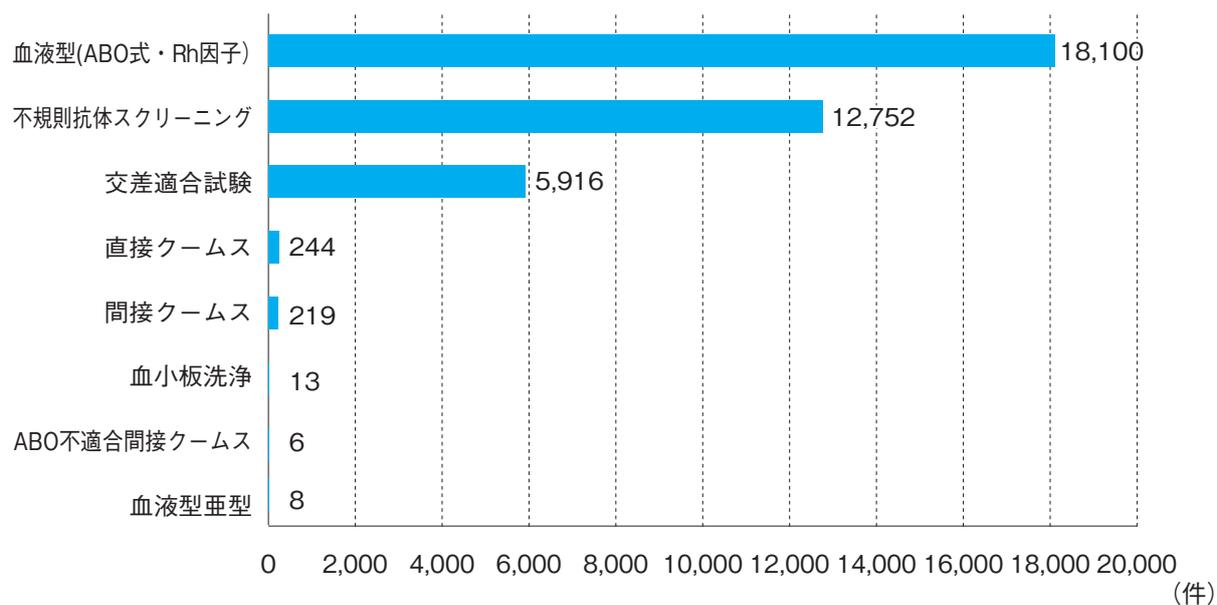


(イ)遺伝子検査 (PCR) 実績

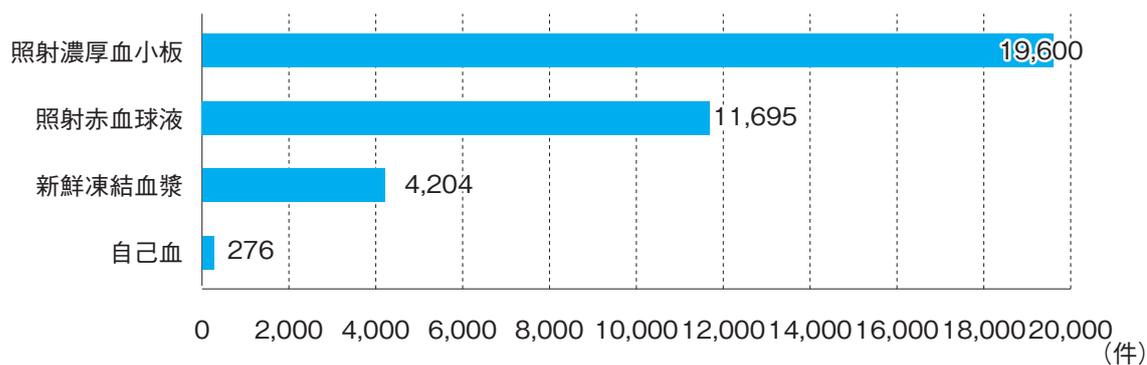


(6) 輸血移植・救命救急検査

①輸血関連検査実績



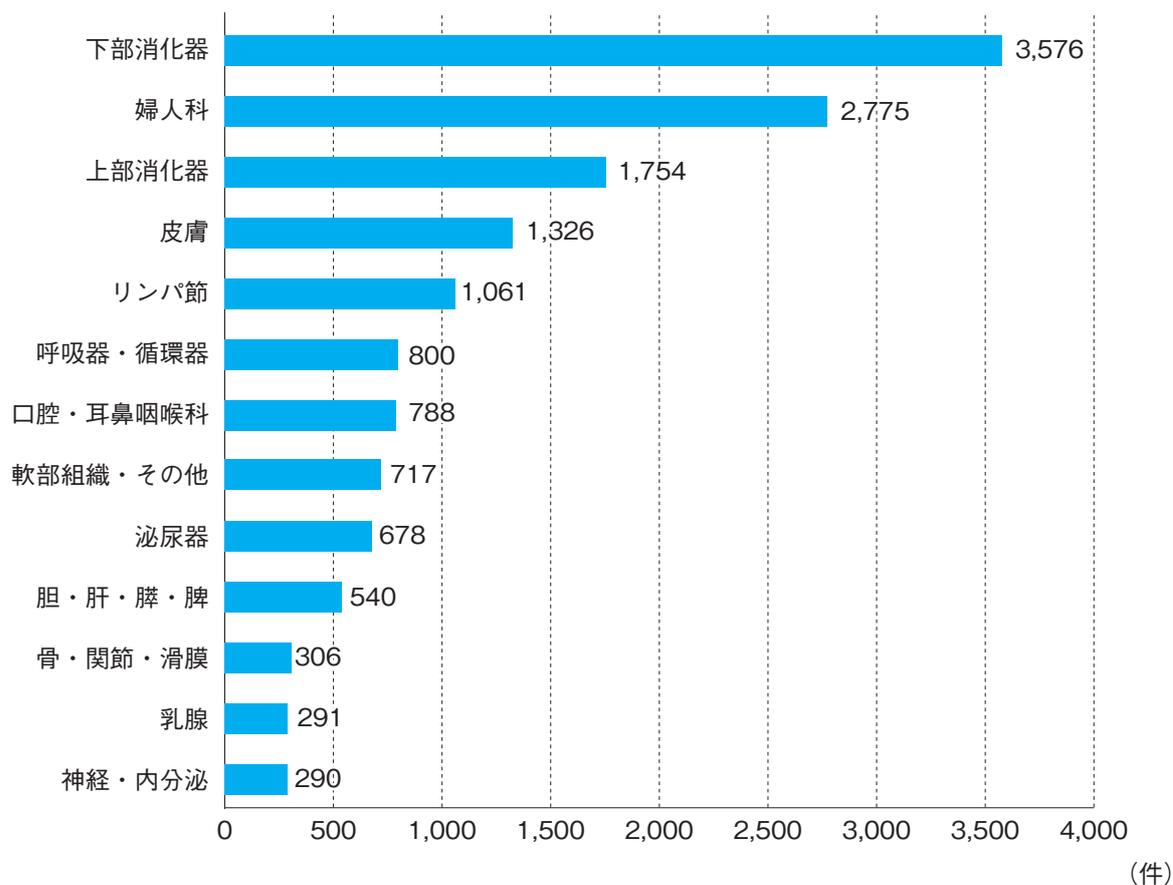
②血液製剤使用状況



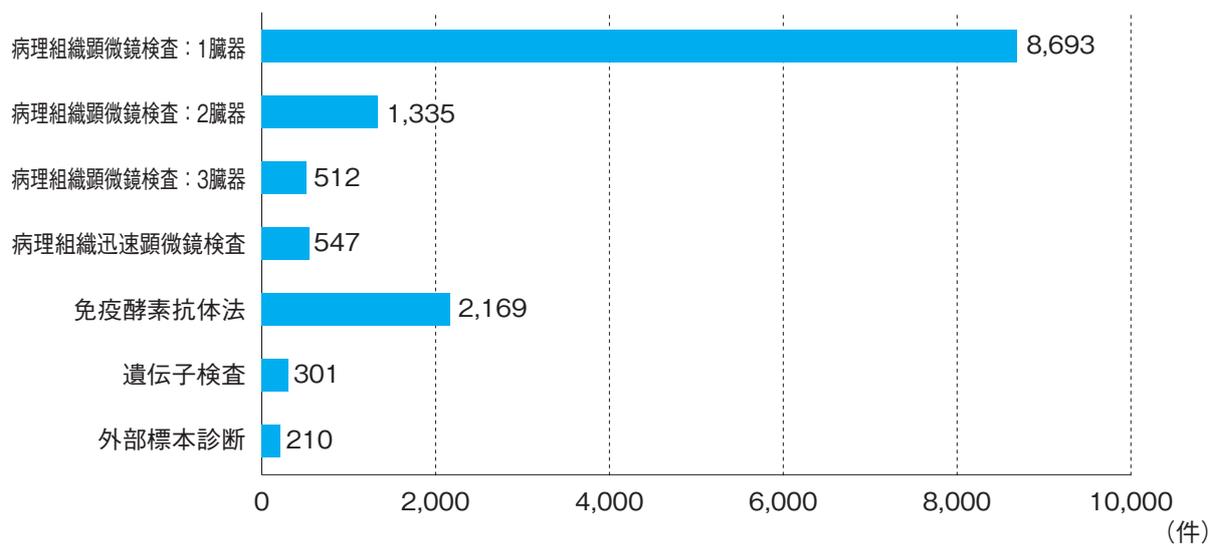
(7) 病理・細胞形態検査

① 病理学的・細胞診検査実績

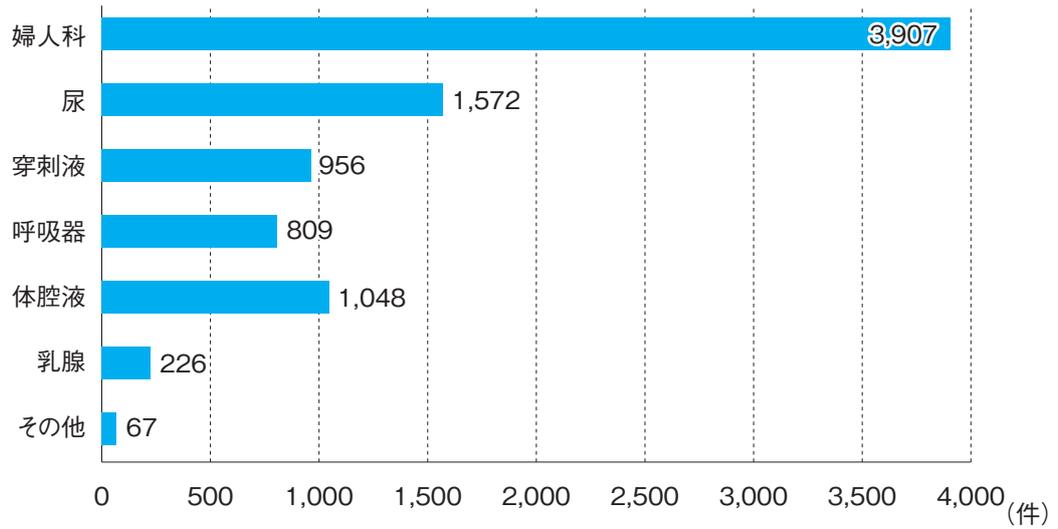
(ア) 病理組織検査材料別件数



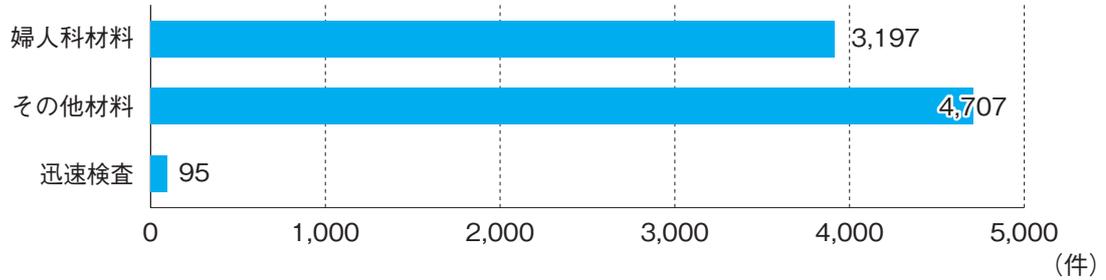
(イ) 病理組織検査件数



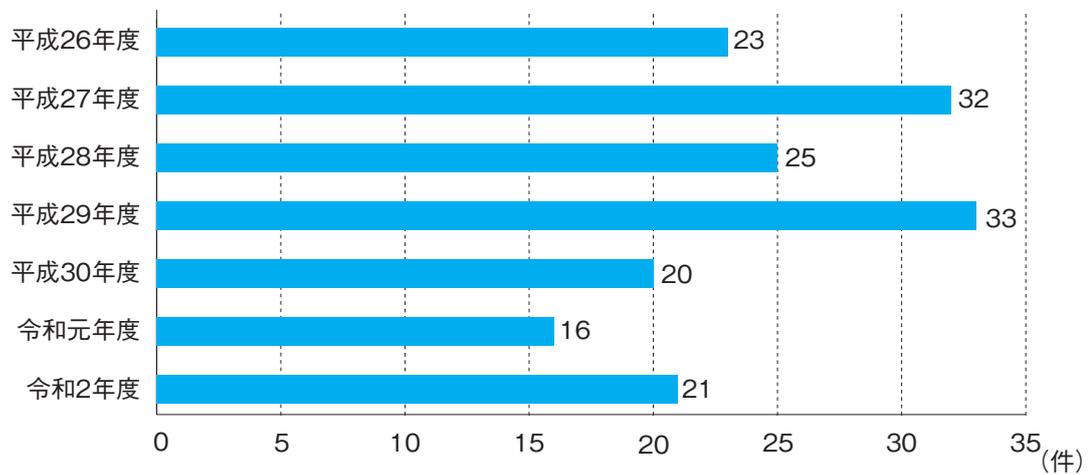
(ウ)細胞診検査材料別件数



(エ)細胞診検査件数



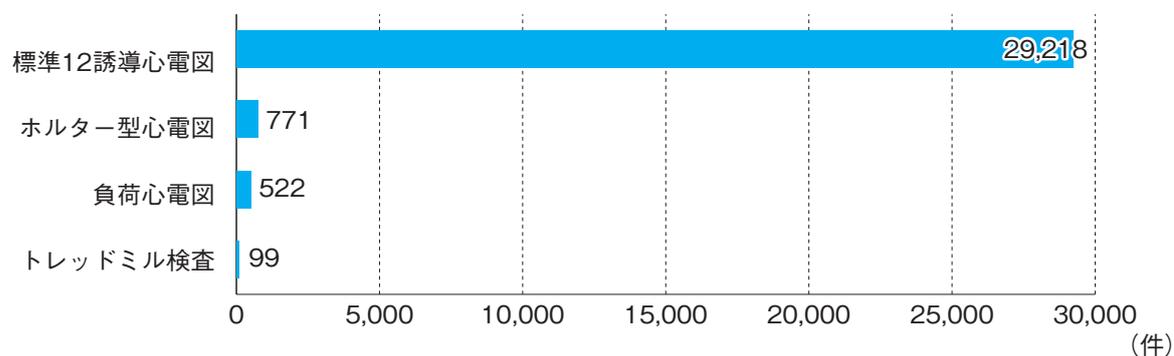
②病理解剖件数



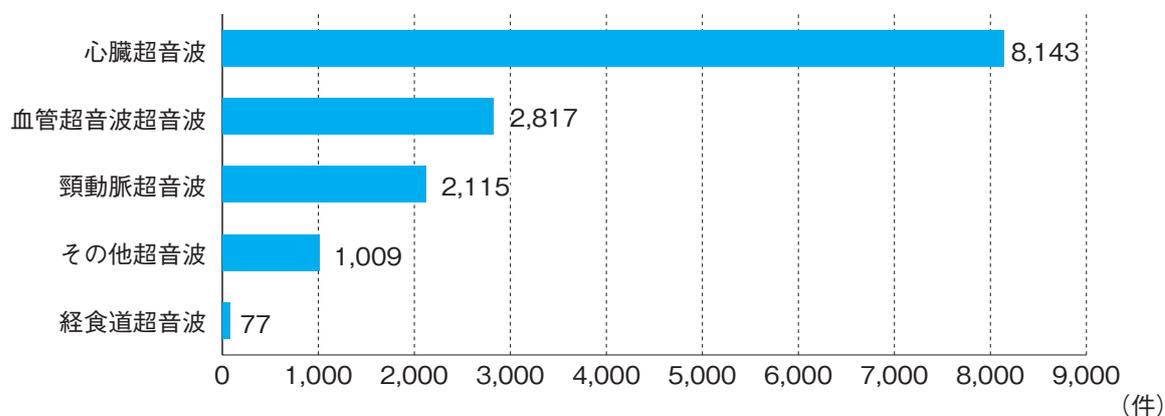
(8) 生理機能・生殖医療検査

①生理機能・画像検査 検査実績

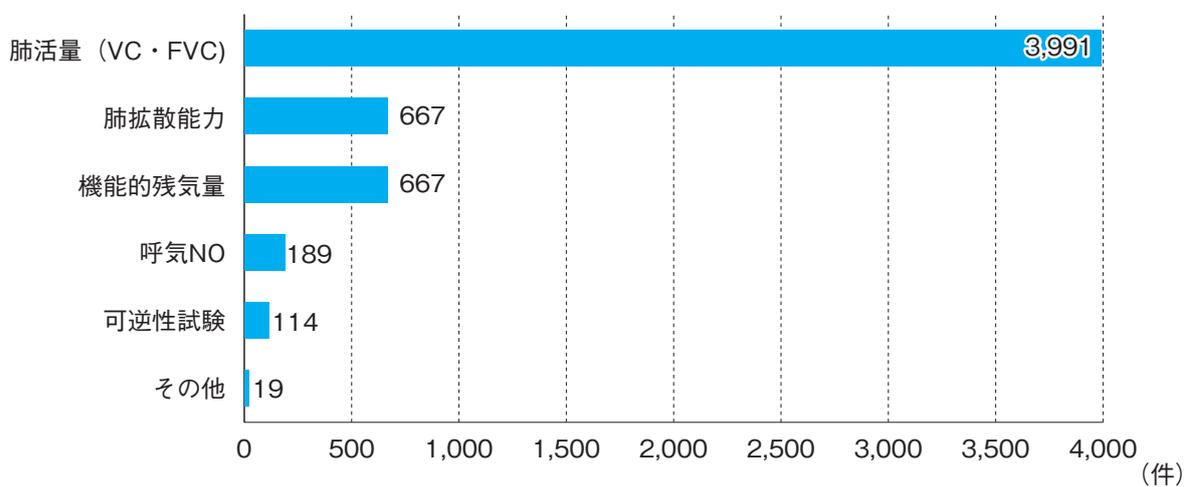
(ア)心電図検査実績



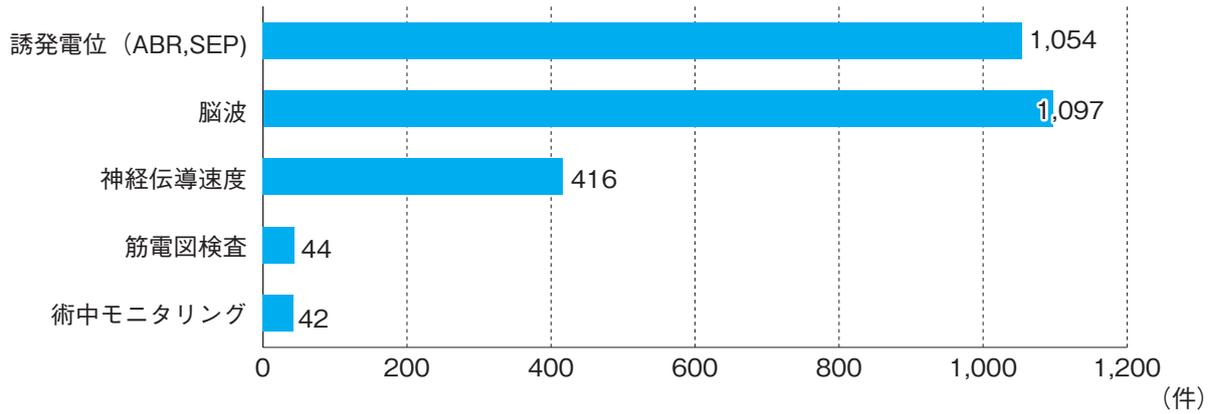
(イ)超音波検査実績



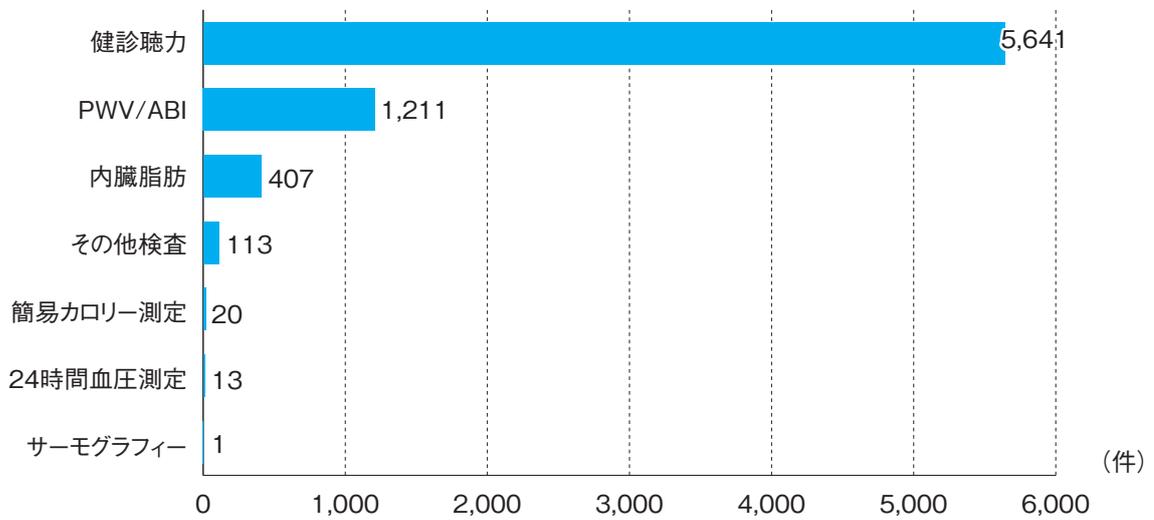
(ウ)肺機能検査実績



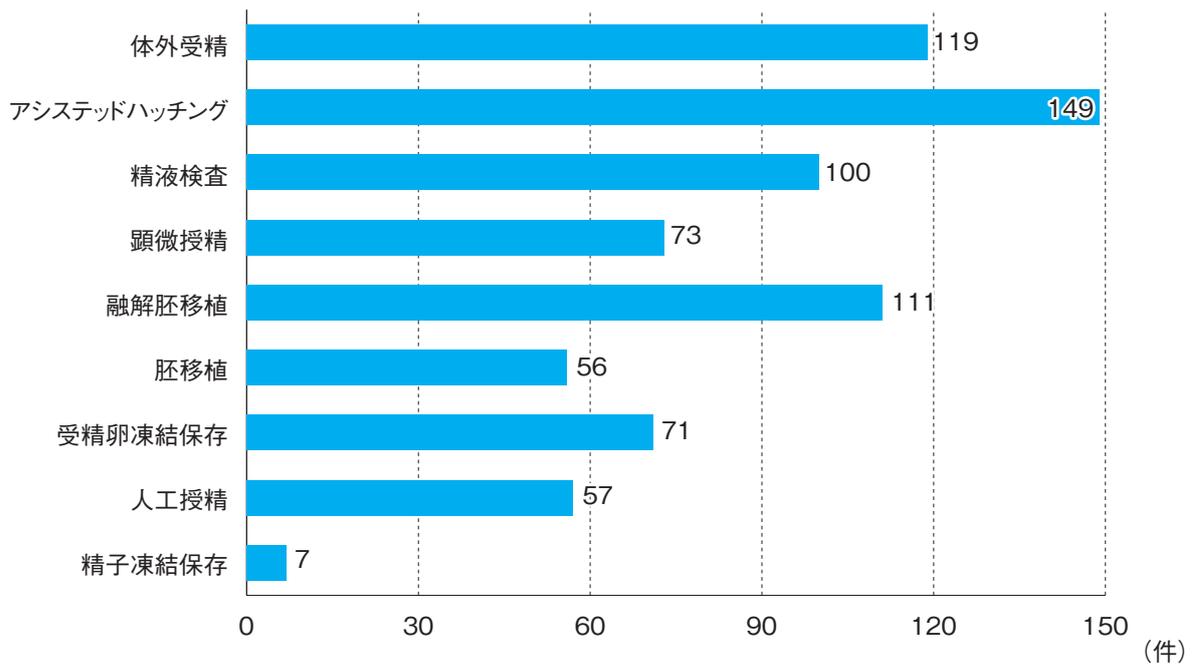
(エ)脳・神経検査実績



(オ)その他検査実績



②生殖医療関連検査実績



リハビリテーション技術室

1. 概要

リハビリテーション技術室は理学療法部門、作業療法部門、言語療法部門より構成される。運動器・脳血管・呼吸・心大血管・がん患者を対象に総合的にリハビリテーションが実施できるよう施設基準を有している。2018年3月からはADL維持向上等体制加算を取得し、2020年3月から病棟を増やし東病棟5階と西病棟6階の2病棟で療法士による病棟専従化を行っている。早期リハビリテーションとして2019年5月からチームの一員として特定集中治療室での早期離床・リハビリテーション加算に関する業務の一端を担っている。さらに栄養、呼吸、褥瘡、認知症、排尿ケア、嚥下等のチーム医療にも積極的に参加している。

1987年より開始した地域病院間のリハビリテーション連絡会は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属する施設で構成され、各機能別施設における専門分野からの情報提供や症例検討を行っている。病診や病病連携一体のシステムは、29施設を数え、リハビリテーション分野からの市民サービスの充実を図っている。

2020年度は新型コロナウイルス感染症蔓延化の影響と産育休所得者増加による実職員減少影響を受け実施患者数は減少しているが、コロナウイルス陽性患者に対する理学療法を積極的に行っており、感染症対応病院におけるリハビリテーション機能を果たしている。

(室長 森嶋 直人)

2. 活動報告

(1) 外来入院別単位数

延べ患者件数は117,289件、その内訳として理学療法72,526件、作業療法27,699件、言語療法17,064件であった。

(件)

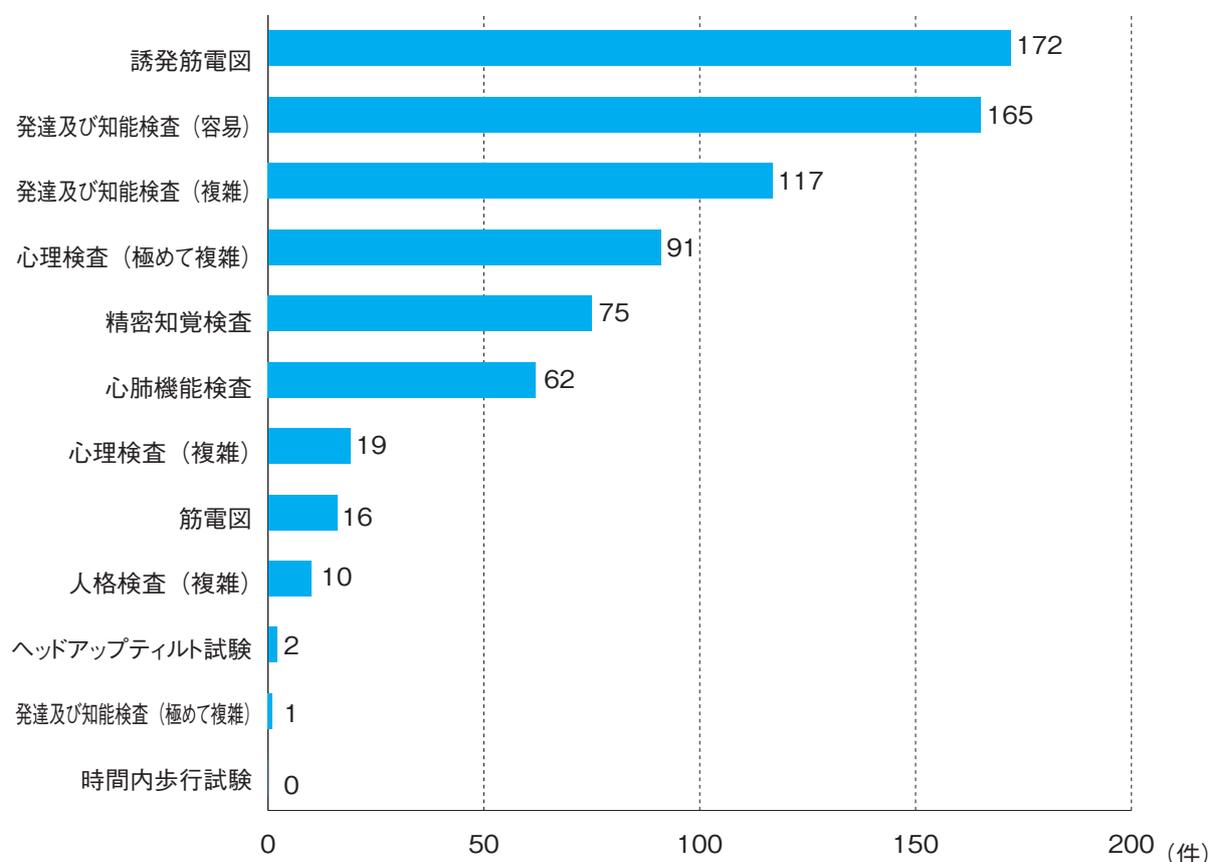
内 容	入外	令和2年度	令和元年度	平成30年度
理学療法	入院	67,635	72,703	72,822
	外来	4,891	7,158	5,685
作業療法	入院	25,690	25,956	29,424
	外来	2,009	3,407	3,364
言語療法	入院	15,464	17,145	17,578
	外来	1,600	2,660	3,419
合計	入院	108,789	115,804	119,824
	外来	8,500	13,225	12,468
計		117,289	129,029	132,292

(2) 疾患別件数

大分類疾患		代表的小分類疾患	
①脳疾患	1,119件	ア)脳梗塞	520件
		イ)脳出血	187件
		ウ)くも膜下出血	77件
		エ)小脳出血・小脳梗塞	16件
		オ)頭部外傷	86件
		カ)パーキンソン病	3件
		キ)その他	230件
②脳性麻痺	11件		
③発達障害	134件		
④脊髄疾患	46件	ア)脊髄損傷	15件
		イ)脊髄症	31件
⑤神経疾患	256件	ア)顔面神経麻痺	75件
		イ)多発神経炎	31件
		ウ)変性疾患	79件
		ウ)その他	71件
⑥先天性異常	10件		
⑦骨疾患	541件	ア)上肢骨折	18件
		イ)下肢骨折	288件
		ウ)脊椎骨折	62件
		エ)脊椎症	58件
		オ)脊柱靱帯骨化	5件
		カ)無腐性壊死	8件
		キ)椎間板疾患	41件
		ク)その他	61件
⑧関節疾患	201件	ア)変形性関節症	113件
		イ)膝内障	43件
		ウ)肩関節疾患	3件
		エ)筋腱断裂	0件
		オ)その他	42件
⑨関節リウマチ	22件		
⑩切断	15件		
⑪手の外傷	72件		
⑫筋疾患	23件		
⑬循環器疾患	472件	ア)心筋梗塞	72件
		イ)心不全	292件
		ウ)狭心症	16件
		エ)その他循環器疾患	92件
⑭呼吸器疾患	754件	ア)肺炎	241件
		イ)誤嚥性肺炎	210件
		ウ)間質性肺炎	94件
		エ)COPD	36件
		オ)その他呼吸器疾患	173件

⑮腫瘍	987件	ア)頭頸部	48件
		イ)甲状腺	3件
		ウ)食道	28件
		エ)胃	43件
		オ)大腸	92件
		カ)肝臓	34件
		キ)胆道系	20件
		ク)膵臓	48件
		ケ)肺	222件
		コ)骨	11件
		サ)乳腺	37件
		シ)婦人科	28件
		ス)泌尿器	27件
		セ)脳腫瘍	85件
		ソ)小児腫瘍	0件
タ)造血器	227件		
チ)その他の腫瘍	34件		
⑯その他	1,104件	ア)廃用症候群・運動器不安定症	4件
		イ)その他	1,100件

(3) リハビリテーションセンター内検査実施件数



臨床工学室

1. 概要

臨床工学室は病院理念と基本方針に基づき、市民の財産である院内の医療機器を安全且つ良好な状態で臨床提供を行い、公共性と経済性を考慮し効率的な運用を行っている。

生命維持管理装置を用いた手術、治療支援並びにそれに付帯する一切の医療安全業務に携ることが使命である。人員は正規職員21名、パート職員3名、事務職員1名で、医療機器安全管理グループ、血液浄化センターグループ、生命維持装置管理グループの3グループ体制としている。

医療機器管理グループでは、医療機器安全管理責任者の下に医療機器の保守管理計画、研修計画及び研修実施記録管理、更新・増設・廃棄業務支援を行っている。地域医療連携においては主治医を中心に、在宅で医療機器を使用する患者・家族への操作指導や退院後のフォローも行っている。多職種間の密な連携協力や計画的な研修・カンファレンスを行いながら、患者の安全・安心を第一に考えた医療技術の提供と診療支援に努めている。

血液浄化センターグループでは、一般的な血液透析から特殊血液浄化全般までを臨床工学技士と看護師で協働して対応している。基幹病院として、近隣病院より手術目的で紹介される患者の受け入れや、より重篤な透析患者の入院透析を中心に対応している。

生命維持管理装置といった高度医療機器の多くは手術センターで主に使用されている。そのため生命維持装置管理グループは、2017年から手術センターに常駐の臨床工学技士として配置し、医師のサポート、医療機器の適正使用に貢献している。

手術支援ロボット・ダヴィンチについては、2013年10月に泌尿器科領域から開始し、その後、外科、婦人科、呼吸器外科領域に適応が拡大された。2019年4月からは手術支援ロボット・ダヴィンチ専用の手術室が増設、2020年からは手術支援ロボット・ダヴィンチの2台体制となり、コロナ禍の影響もあったが臨床工学技士の年間立ち合い件数は、2019年度の268件から2020年度280件と増加し、先進医療に貢献している。

(室長 山口 育男)

(文責 室長補佐 後藤 成利)

「在籍技士が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
臨床ME専門認定士	日本生体医工学会	透析技術認定士	日本透析医学会 4学会透析療法合同専門 委員会認定資格
体外循環技術認定士	日本人工臓器学会 日本体外循環医学会 日本心臓血管外科学会他	呼吸療法認定士	日本呼吸器学会 日本麻酔科学会 日本胸部外科学会
第1種ME技術者	日本生体医工学会	特定高圧ガス取扱主任者	高圧ガス保安協会
第2種ME技術者	日本生体医工学会	第一種衛生管理者免許	厚生労働大臣指定安全 衛生技術試験協会
院内移植コーディネータ	愛知県 愛知腎臓財団	医療安全認定コーチ： MCCS	国際医療リスクマネー ジメント学会
認定集中治療関連 臨床工学技士	日本臨床工学技士会	認定血液浄化 臨床工学技士	日本臨床工学技士会
埋め込み型心臓デバイス 技士	日本不整脈心電学会		

2. 活動報告

(1) 治療手術業務件数 緊急血液浄化・血液成分分離・末梢血幹細胞採数

※HD、HDF、HF、ECUM、PEは血液浄化センターでの施行症例を除く

(件または回)

区分 内訳	令和2年度	令和元年度	平成30年度
血液浄化療法			
症例件数合計	57	96	88
血液浄化回数合計	367	242	219
HD件数	4	62	51
HD回数	194	155	85
HDF件数	2	7	1
HDF回数	2	9	3
HF件数	0	0	0
HF回数	0	0	0
ECUM件数	20	7	11
ECUM回数	33	13	23
CHD件数	0	0	0
CHD回数	0	0	0
小児CHD件数	0	0	0
小児CHD回数	0	0	0
CHDF件数	15	12	10
CHDF回数	55	43	17
CHF件数	0	1	1
CHF回数	0	1	1
PE件数	14	4	3
PE回数	79	12	11
小児PE件数	1	3	0
小児PE回数	3	9	3
CPE件数	0	0	0
CPE回数	0	0	0
DFPP件数	4	1	4
DFPP回数	31	3	22
免疫吸着件数	3	0	0
免疫吸着回数	16	0	0
LDL吸着件数	0	1	0
LDL吸着回数	0	5	0
薬物吸着件数	1	0	0
薬物吸着回数	1	0	0
ET吸着件数	0	0	0

ET吸着回数	0	0	0
L-CAP件数	1	5	3
L-CAP回数	6	36	23
G-CAP件数	1	2	4
G-CAP回数	10	13	31
末梢血幹細胞採取・骨髄移植関連			
症例件数合計	18	18	15
施行回数合計	22	26	20
PBSC成人件数	12	13	12
PBSC成人回数	15	19	16
PBSC小児件数	0	1	1
PBSC小児回数	0	2	1
健常人 ドナーPBSC件数	2	1	1
健常人 ドナーPBSC回数	3	2	2
健常人 ドナーリンパ球採取件数	2	1	0
健常人 ドナーリンパ球採取回数	2	1	0
骨髄濃縮件数	2	2	2
骨髄濃縮回数	2	2	2
顆粒球採取件数	0	0	0
顆粒球採取回数	0	0	0
白血球採取件数	0	0	0
白血球採取回数	0	0	0
その他			
腹水濾過濃縮再静注業務症例数	28	29	20
腹水濾過濃縮再静注業務回数	67	95	53

(2) 人工心肺、補助循環、手術支援業務件数

(件)

区分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
人工心肺装置業務(開心術)			
成人人工心肺症例数	28	32	27
Off Pump CABG 手術立会い症例数	2	1	1
小児人工心肺症例数	0	0	0
計	30	33	28
補助人工心肺装置管理業務			
PCPS症例数	16	8	6
ECMO症例数	0	0	0
計	16	8	6
手術支援業務			
自己血回収装置操作			
心臓血管外科	4	5	8
整形外科	8	4	8
計	12	9	16
Navigation手術支援			
脳神経外科	86	77	76
耳鼻いんこう科	13	8	9
計	99	85	85
daVinci手術支援			
泌尿器科daVinci症例数 (前立腺全摘除)	62	62	61
泌尿器科daVinci症例数 (腎部分切除)	17	22	8
泌尿器科daVinci症例数 (膀胱全摘除)	1	11	7
婦人科daVinci症例数 (子宮全摘出)	145	136	64
婦人科daVinci症例数 (仙骨鏝固定術)	23	-	-
外科daVinci症例数 (胃切除)	12	16	19
外科daVinci症例数 (大腸切除)	10	19	16
呼吸器外科daVinci症例数 (肺切除)	9	2	-
呼吸器外科daVinci症例数 (縦隔腫瘍切除)	2	-	-
計	281	268	175

内視鏡手術等支援			
婦人科	246	265	538
呼吸器外科	154	157	
一般外科	499	447	
泌尿器科	90	106	
小児外科	48	27	
整形外科	59	49	
脳神経外科	6		
計	1102	1051	538
眼科手術補助(装置セッティング)			
白内障手術装置(インフィニティ)	317	579	622
硝子体手術装置(コンステレーション)	83	180	
計	400	759	622
臓器移植支援			
生体腎移植術腎還流	6	4	4
献腎移植術腎還流	2	1	2
計	8	5	6
ステントグラフト挿入術支援			
心臓血管外科 EVER	15	14	-
計	15	14	-

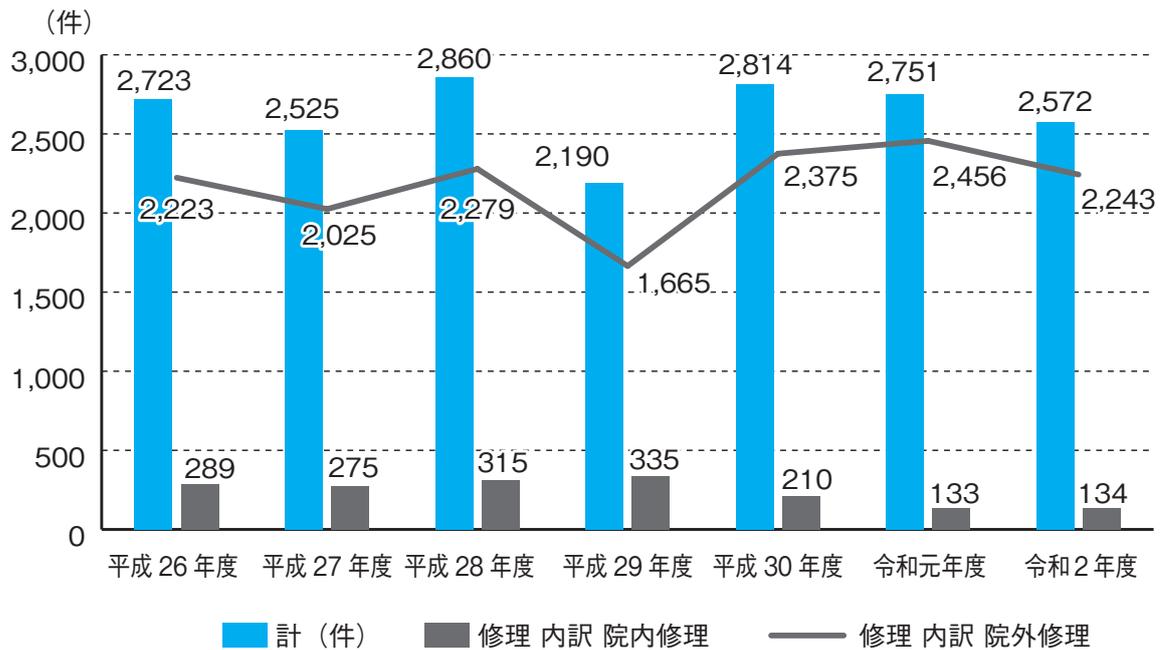
(3) 医療機器管理、修理件数

(件)

区分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
循環器device対応支援			
PM・CRT・ICD 新規植込 立会い	26	39	23
PM・CRT・ICD 電池交換 立会い	10	12	8
PM・CRT・ICD リード交換等 立会い	0	0	0
PM・CRT・ICD 設定術中/CT/MRI対応	93	102	63
ICM 新規植込 立会い	4	5	5
PM・CRT・ICD・ICM遠隔モニタリング件数	149	124	63
計	282	282	162
呼吸療法関連業務			
成人用 人工呼吸器回路組立件数	701	453	518
新生児用 人工呼吸器回路組立件数	233	295	321
計	934	748	839
NOガス使用症例数	6	11	7
N2ガス 使用症例数	0	0	0
計	6	11	7

(4) 医療機器修理件数

①年度別修理件数



②修理処理件数内訳

(件)

部署名	修理件数	修理内訳				
		院内修理	院外修理	修理分類別		
				新品交換	異常なし	修理不能
内科外来 (総合・消化器・循環器・呼吸器・アレルギー・血液・腫瘍・腎臓)	48	2	37	8	1	0
糖尿病・内分泌内科	3	0	3	0	0	0
小児科外来	4	0	4	0	0	0
外科外来 (一般・小児・肛門・移植・呼吸器・心臓・血管・麻酔)	0	0	0	0	0	0
形成外科	1	0	1	2	0	0
整形外科	9	0	7	0	0	0
皮膚科	27	0	23	4	0	0
泌尿器科	16	0	16	0	0	0
産婦人科	18	0	18	0	0	0
耳鼻いんこう科	24	0	24	0	0	0
眼科外来	20	1	19	0	0	0
脳神経外科・脳神経内科外来	3	0	3	0	0	0
歯科口腔外科外来	7	0	7	0	0	0
病理診断科	1	0	1	0	0	0
放射線科	1	0	0	1	0	0
外来治療センター	12	4	8	0	0	0

予防医療センター	4	0	4	0	0	0
入退院支援センター	1	0	1	0	0	0
感染症管理センター	0	0	0	0	0	0
総合案内	25	1	14	10	0	0
総合生殖	0	0	0	0	0	0
東2	43	2	33	8	0	0
西2	69	5	60	4	0	0
東3	82	8	60	14	0	0
西3	71	3	59	9	0	0
総合周産期病棟	73	11	49	11	2	0
東5	66	5	55	6	0	0
西5	54	3	43	8	0	0
東6	45	2	36	7	0	0
西6	49	3	38	6	2	0
東7	48	2	42	4	0	0
西7	70	4	58	8	0	0
東8	63	2	52	9	0	0
西8	46	4	31	10	1	0
東9	37	0	33	3	1	0
西9	42	3	31	7	1	0
南病棟	48	45	2	0	1	0
放射線技術室	311	0	303	6	2	0
放射線治療室	0	0	0	0	0	0
画像検査(看護局)	56	0	55	1	0	0
中央臨床検査室	58	0	58	0	0	0
薬局	21	0	21	0	0	0
臨床工学室(ME)	129	1	123	3	0	2
血液浄化センター	19	1	18	0	0	0
新生児医療センター(NMC)	88	10	70	7	1	0
救命救急センター	55	5	41	9	0	0
中央滅菌材料室	84	0	83	1	0	0
リハビリテーションセンター	20	1	19	0	0	0
栄養管理室	3	0	3	0	0	0
医局	0	0	0	0	0	0
看護局	1	0	0	1	0	0
管理課(庶務担当)	7	0	7	0	0	0
医事課	4	1	2	1	0	0
医療情報課	6	1	3	2	0	0
物品事務室	0	0	0	0	0	0
手術センター	622	5	605	11	1	0
医療安全	0	0	0	0	0	0
計	2,614	135	2,283	181	13	2

(5) 臨床工学室が管理する医療機器台数

* 各科で購入されているが、保守点検を臨床工学室が行っている機器を含む

(台)

管理機器名称	管理台数
人工心肺装置	1
人工心肺用遠心ポンプコントローラー	1
心筋保護液供給装置	1
人工心肺用ヒータークーラーユニット	2
自己血回収装置	2
遠心ポンプ式補助循環装置(PCPS)	2
IABP	3
成人・小児用人工呼吸器	23
新生児用人工呼吸器	13
在宅用 人工呼吸器(リース機含む)	60
成人用NIPPV	7
小児・新生児用NIPPV	10
可搬型人工呼吸器(パラパック)	2
パーカッションベンチレーター	2
MRI対応型人工呼吸器	1
多人数用血液透析患者監視装置	17
手術ナビゲーションシステム	3
個人用血液透析患者監視装置	4
個人用RO装置	3
持続的血液ろ過透析装置	2
血漿交換装置	1
腹水濾過濃縮装置	1
除細動装置	17
AED	25
AED解析装置	1
閉鎖式保育器(多機能型4台含む)	15
開放式保育器(インファントウォーマー)	12
搬送用保育器	4
輸液ポンプ	320
輸注ポンプ	324
経腸ポンプ	29
医薬品注入コントローラー(ドリップアイ)	15
PCAポンプ	9
6連式シリンジポンプユニット	3
セントラルモニター	28
ベッドサイドモニター	164
無線式送信機台数	172
携帯型受信機	14
心電計	29
血液成分分離装置	1

全身麻酔器	17
低圧持続吸引器	31
連続心拍出力計	16
体外式ペースメーカー(DDD式を含む)	10
ネブライザーヒーター	60
手術支援ロボットシステム(ダヴィンチX,Xi)	2
計	1,479

(6) 人工呼吸器稼働台数および平均装着日数

診療科別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
外科	74	413	5.6
脳神経外科	113	536	4.7
心臓血管外科	37	79	2.1
呼吸器外科	3	10	3.3
循環器内科	58	274	4.7
呼吸器内科	30	218	7.3
消化器内科	28	581	20.8
脳神経内科	34	372	10.9
血液内科	3	5	1.7
腎臓内科	9	52	5.8
糖尿病・内分泌科	3	14	4.7
整形外科	28	295	10.5
リウマチ科	0	0	0.0
泌尿器科	9	39	4.3
産婦人科	7	13	1.9
形成外科	0	0	0.0
皮膚科	1	3	3.0
耳鼻いんこう科	23	113	4.9
歯科口腔外科	4	14	3.5
小児科	74	892	12.1
移植外科	0	0	0.0
総合内科	0	0	0.0
救急科	20	20	1.0
計	558	3,943	7.1
前年度	326	3,040	9.3

※転科を含む

病棟別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
南1	2	18	9.0
南2	0	0	0.0
西2	25	242	9.7
東2	75	917	12.2
西3/ICU	400	1,654	4.1
東3	9	21	2.3
西4	0	0	0.0
東4	0	0	0.0
西5	10	158	15.8
東5	10	113	11.3
西6	14	369	26.4
東6	8	159	19.9
西7	9	70	7.8
東7	3	5	1.7
西8	3	25	0.0
東8	10	178	17.8
西9	1	2	2.0
東9	4	72	0.0
救急外来	20	20	0.0
計	603	4,023	6.7
前年度	359	3,078	8.6

※西病棟3階から病棟転症された症例を含む

※在宅人工呼吸療法中で入院した症例も含む

(7) 人工呼吸器稼働台数および平均装着日数（マスクを除く）

病棟別 人工呼吸器稼働（日常点検）台数の報告

病棟	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間365日計算	
	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数
南1	0	0.0	0	0.0	16	0.5	2	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18	0.6
南2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西2	24	0.8	0	0.0	39	1.3	9	0.3	15	0.5	19	0.6	25	0.8	62	2.1	49	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	242	8.0
東2	87	2.9	118	3.8	126	4.2	124	4.0	97	3.1	69	2.3	67	2.2	40	1.3	76	2.5	51	1.6	28	1.0	34	1.1	917	30.0
ICU	100	3.3	93	3.0	170	5.7	120	3.9	114	3.7	157	5.2	188	6.1	126	4.2	207	6.7	156	5.0	120	4.3	103	3.3	1654	54.4
東3	0	0.0	0	0.0	1	0.0	1	0.0	4	0.1	2	0.1	2	0.1	1	0.0	6	0.2	4	0.1	0	0.0	0	0.0	21	0.6
西4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
東4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西5	30	1.0	18	0.6	0	0.0	0	0.0	15	0.5	15	0.5	54	1.7	26	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	158	5.2
東5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	18	0.6	21	0.7	0	0.0	7	0.2	55	2.0	11	0.4	113	3.9
西6	30	1.0	31	1.0	30	1.0	31	1.0	31	1.0	30	1.0	33	1.1	30	1.0	31	1.0	31	1.0	30	1.1	31	1.0	369	12.2
東6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	15	0.5	31	1.0	30	1.0	33	1.1	31	1.0	19	0.7	0	0.0	159	5.3
西7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	0.3	0	0.0	21	0.7	0	0.0	9	0.3	30	1.0	2	0.1	0	0.0	0	0.0	70	2.4
東7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.1	0	0.0	1	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.1
西8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	15	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	0.2	3	0.1	0	0.0	0	0.0	25	0.8
東8	1	0.0	5	0.2	2	0.1	0	0.0	0	0.0	4	0.1	17	0.5	30	1.0	31	1.0	31	1.0	28	1.0	29	0.9	178	5.8
西9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1
東9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	0.3	5	0.2	28	1.0	31	1.0	72	2.5
救急外来	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	2	0.1	2	0.1	2	0.1	2	0.1	4	0.1	2	0.1	20	0.8
合計/平均稼働台数	272	9.0	265	8.6	384	12.8	296	9.6	291	9.4	337	11.2	437	14.2	378	12.6	482	15.8	328	10.5	312	11.2	241	7.8	4023	132.7

マスク式人工呼吸器 症例数/延べ使用日数	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		成人 小児 比較 日数(日)
	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	延べ	延べ	
総数	25	204	13	119	19	82	5	10	11	50	14	38	15	105	15	49	21	113	23	75	18	38	26	88	205	971	
(内訳)成人	22	165	12	99	14	55	4	8	9	30	10	21	10	56	12	38	18	99	21	67	15	29	22	63	169	730	4.3
(内訳)小児	3	39	1	20	5	27	1	2	2	20	4	17	5	49	3	11	3	14	2	8	3	9	4	25	36	241	6.7
一日平均装着日数(日)	8.2		9.2		4.3		2.0		4.5		2.7		7.0		3.3		5.4		3.3		2.1		3.4		4.7		

栄養管理室

1. 概要

栄養管理室では、患者の病状や状態、年齢などに合わせた常食、やわらか食、糖尿食など40分類の食種を用意しており、食事の味や内容について、医師と管理栄養士が検食で確認して改善に努めている。また、選択メニューなど喜んで食べていただける食事や、食事療法を行うための食事を提供することでQOLの向上に努めている。家庭においても栄養管理や食事療法が行えるよう、栄養指導や糖尿病教室などを通して患者の支援をしている。

入退院支援センターに2020年4月から管理栄養士を1名配置し、入院前に栄養状態などの確認を行い、医師へ適切な食事を提案することで入院時から患者の病状に応じた食事の提供や栄養指導ができるようにした。

入院患者の栄養状態について看護師とともにスクリーニングを行い、栄養管理計画書を作成し、医師が確認している。また、栄養サポートチーム（NST）の専従者を1名配置しており、栄養状態の悪い患者にNST回診を行い、複数の医療職種で患者の栄養状態の把握や栄養状態改善の提案を行うことで治療に貢献している。他にも褥瘡対策チーム、呼吸療法ケアチームなど、チーム医療の一員としても活動している。

（室長 山口 育男）

（文責 室長補佐 藤田 克宣）

「取得している認定資格等」

資格	認定団体
栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会

2. 活動報告

(1) 実績

区分		令和2年度	令和元年度	平成30年度	
食種及び食数	一般食	363,901	418,096	405,065	
	特別食	加算食	133,016	133,603	124,933
		非加算食	3,889	4,507	4,713
		小計(食)	136,905	138,110	129,646
	合計(食)	500,806	556,206	534,711	

選択メニュー	実施日数(日)		365	366	365
	実施食種	一般食	常食	51,246	63,255
軟菜食			19,626	23,909	23,305
小計(人)			70,872	87,164	86,741
治療食		糖尿食	13,975	14,396	13,873
		心臓食	7,092	5,363	4,831
		肝臓食	367	464	330
		すい臓B食	1,328	1,298	1,197
		小計(人)	22,762	21,521	20,231
		合計(人)	93,634	108,685	106,972

栄養食事指導	外来患者栄養食事指導	1,280	857	1,060
	糖尿病透析予防管理	141	126	79
	入院患者栄養食事指導	2,376	1,544	1,618
	乳児栄養食事指導			21
	小計(件)	3,797	2,527	2,778
	糖尿病教室	117	137	110
	合計(件)	3,914	2,664	2,888

※乳児栄養相談（加算無し）は、令和元年度から必要な場合は栄養指導として実施（加算有り）。

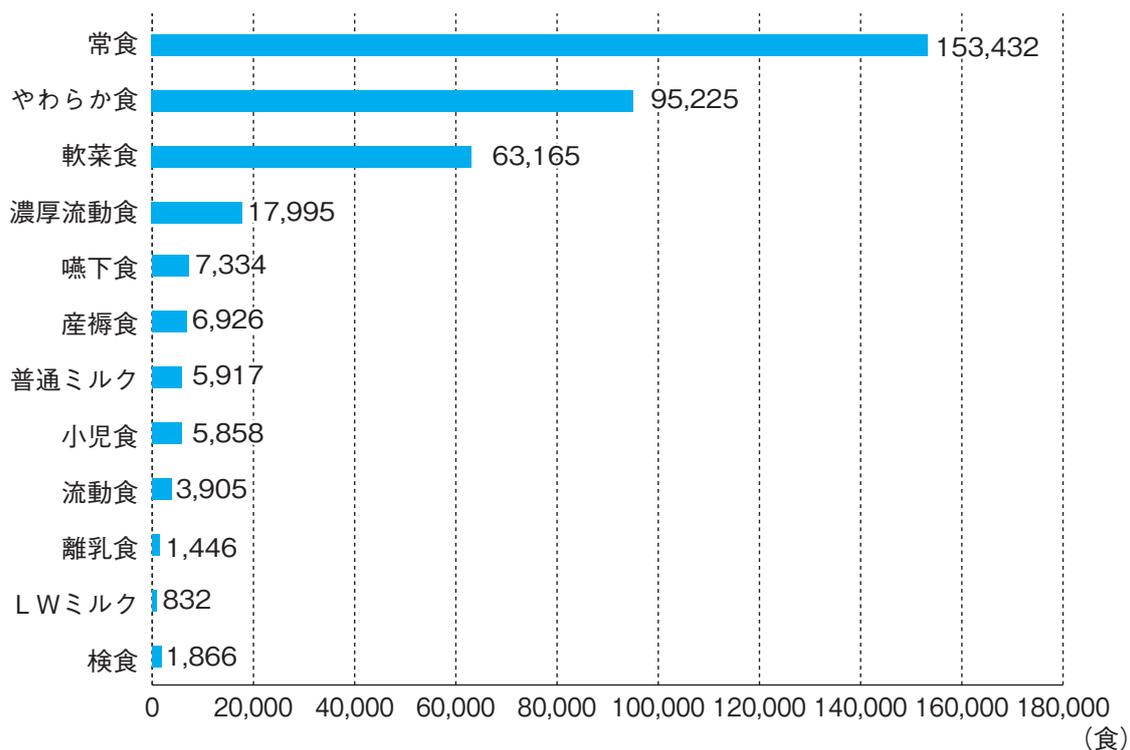
NST業務	栄養管理計画書(件)	22,561	24,038	22,722
	栄養サポートチーム加算(件)	1,046	992	814

NST定期教育講演会	実施回数(回)	0	7	7
	参加者(人)	0	441	405

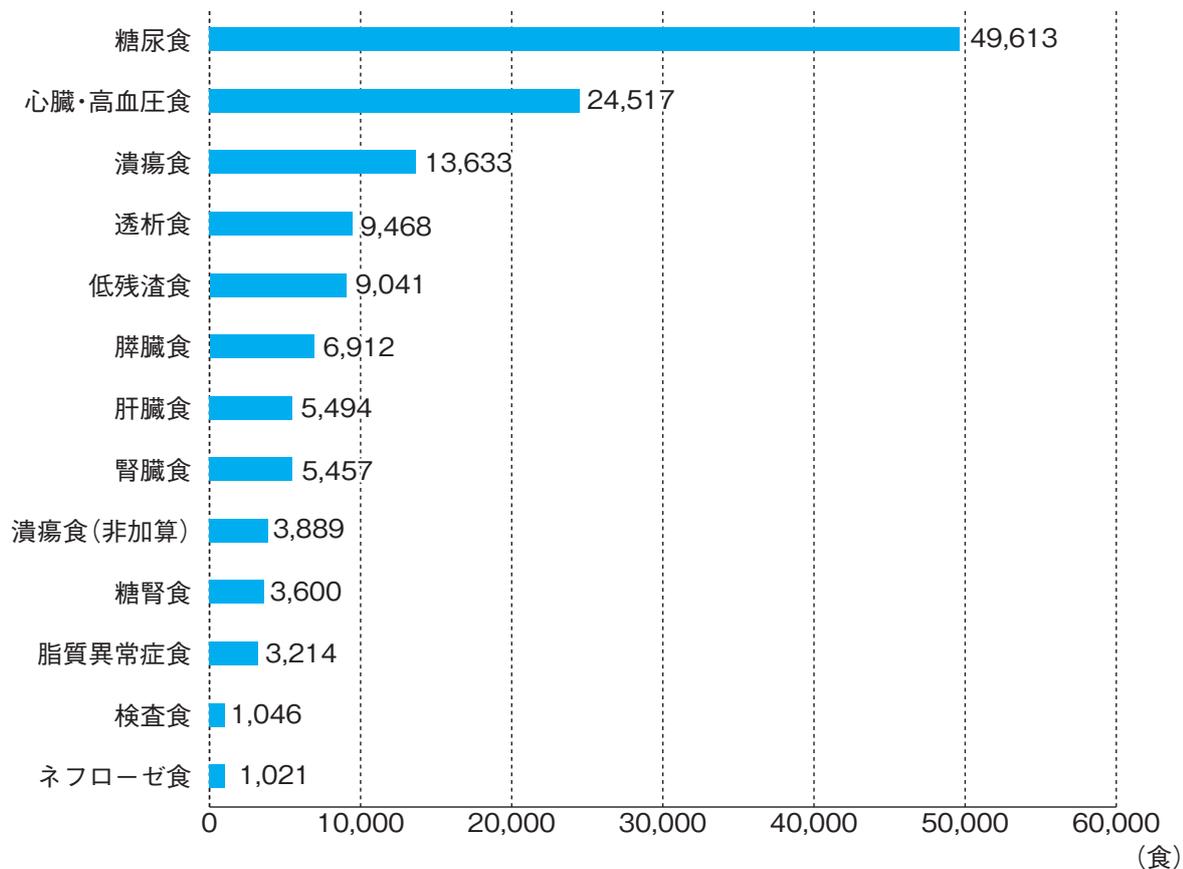
NST教育カリキュラム	実施回数(回)	0	1	1	
	受講者(人)	院外	0	3	6
		院内	0	4	1

(2) 食種詳細

①一般食 363,901食



②特別食 136,905食



薬局

1. 概要

薬局は薬の専門家として薬物治療および医療安全に貢献することを目標に各部局と連携し業務を行っている。セントラル業務として調剤・麻薬、注射、管理、製剤・注射調製、医薬品情報の5グループからなる基本組織と治験管理センターを設けている。

病棟では、薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務を行い、服薬指導や副作用発現のチェック、他の医療職への情報提供などを実施し、薬物療法における有効性・安全性の向上に貢献している。手術室サテライト薬局では麻薬、筋弛緩薬などの薬品供給・管理を、外来治療センターではがん患者の薬剤指導や副作用管理を常駐して実施している。今年度より乳がんの外来内服治療患者に対し、薬剤師外来として診察前面談を開始した。

また、薬剤師の専門資格の取得を積極的に奨励し、がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、栄養サポートチーム専門療法士、日本糖尿病療養指導士、スポーツファーマシスト等の資格を取得しチーム医療に寄与している。

(局長 柳沼 妙子)

2. 活動報告

(1) 患者数及び処方箋枚数

区分		年度		1日平均	令和元年度(対前年度)		1日平均	平成30年度(対前年度)		1日平均	
		令和2年度(対前年度)									
外来	患者数(人)	441,527	91.9%	1,817	480,575	101.8%	2,002	471,981	100.1%	1,891	
	院内	処方箋枚数(枚)	45,077	91.0%	186	49,511	105.2%	206	47,053	98.2%	181
		平均投薬日数(日)	15.7	99.4%	/	15.8	102.6%	/	15.4	102.7%	/
	来院外	注射処方箋枚数(枚)	20,997	99.3%	86	21,148	108.8%	88	19,438	101.7%	62
		処方箋枚数(枚)	145,355	91.5%	598	158,918	98.8%	662	160,846	100.4%	675
	平均投薬日数(日)	33.3	98.2%	/	33.9	100.6%	/	33.7	99.3%	/	
入院	患者数(人)	231,804	89.3%	635	259,438	103.1%	709	251,669	100.1%	691	
	処方箋枚数(枚)	105,136	90.9%	288	115,659	100.5%	316	115,096	103.3%	313	
	平均投薬日数(日)	6.5	91.5%	/	7.1	104.4%	/	6.8	108.2%	/	
	注射処方箋枚数(枚)	122,849	92.4%	337	132,946	104.9%	363	126,772	101.1%	343	
備考		外来日数243日 入院日数365日		外来日数240日 入院日数366日		外来日数244日 入院日数365日					

(2) 薬剤管理指導実績

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
薬剤管理指導件数(件)	22,004	21,242	21,987
麻薬加算件数(件)	526	347	345

(3) 無菌製剤処理料実績

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
無菌製剤処理料件数(件)	15,457	15,881	14,318

(4) 外来及び入院の科別処方箋枚数

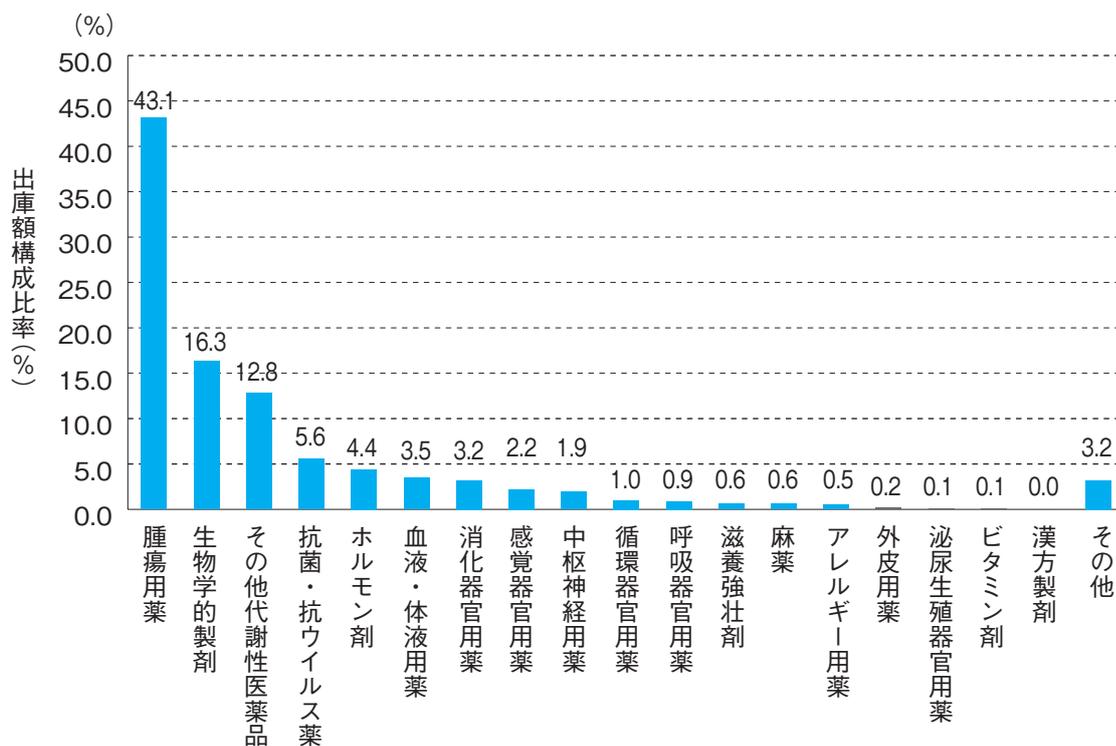
科名	外来			入院	
	処方箋枚数(枚)		全処方箋枚数に対する科別比率(%)	処方箋枚数(枚)	全処方箋枚数に対する科別比率(%)
	院内	院外			
総合内科	462	1,247	0.9	853	0.8
一般外科	4,219	7,281	6.0	9,403	8.9
整形外科	1,497	5,400	3.6	8,340	7.9
脳神経外科	342	3,335	1.9	7,060	6.7
産婦人科	1,962	7,011	4.7	7,811	7.4
小児科	2,277	9,627	6.3	4,218	4.0
耳鼻いんこう科	1,061	7,465	4.5	5,145	4.9
皮膚科	2,695	14,063	8.8	1,965	1.9
泌尿器科	1,252	8,032	4.9	4,804	4.6
眼科	847	7,119	4.2	491	0.5
放射線科	61	490	0.3	1	0.0
こころのケア科	1,008	3	0.5	0	0.0
形成外科	42	173	0.1	2	0.0
歯科口腔外科	439	4,238	2.5	1,332	1.3
リハビリテーション科	6	9	0.0	0	0.0
麻酔科	22	0	0.0	0	0.0
救急科	8,081	24	4.3	-	-
呼吸器内科	1,171	10,674	6.2	14,177	13.5
消化器内科	5,247	14,950	10.6	9,911	9.4
循環器内科	1,663	10,155	6.2	5,487	5.2
アレルギー内科*	0	0	0.0	-	-
腎臓内科	908	4,478	2.8	2,740	2.6
糖尿病・内分泌内科	3,455	10,860	7.5	2,367	2.3
脳神経内科	543	5,986	3.4	5,863	5.6
血液・腫瘍内科	3,852	4,826	4.6	10,596	10.1
小児外科	13	249	0.1	33	0.0
移植外科	50	658	0.4	332	0.3
リウマチ科	1,536	5,449	3.7	254	0.2
脊椎外科	0	0	0.0	0	0.0
呼吸器外科	235	443	0.4	811	0.8
心臓血管外科	131	1,110	0.7	1,140	1.1
合計	45,077	145,355	100.0	105,136	100
	190,432				

※処方箋枚数：外来の肛門科は一般外科、臨床検査科は総合内科、心臓血管・呼吸器外科は呼吸器外科に含む。入院の膠原病内科は糖尿病・内分泌内科に含む。

(5) 抗がん薬及びTPN調製本数

	区 分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
抗がん薬(本)	入 院	6,798	7,146	7,142
	外 来	17,467	17,276	14,708
TPN(本)	入 院	1,189	1,137	657

(6) 薬効別出庫薬品



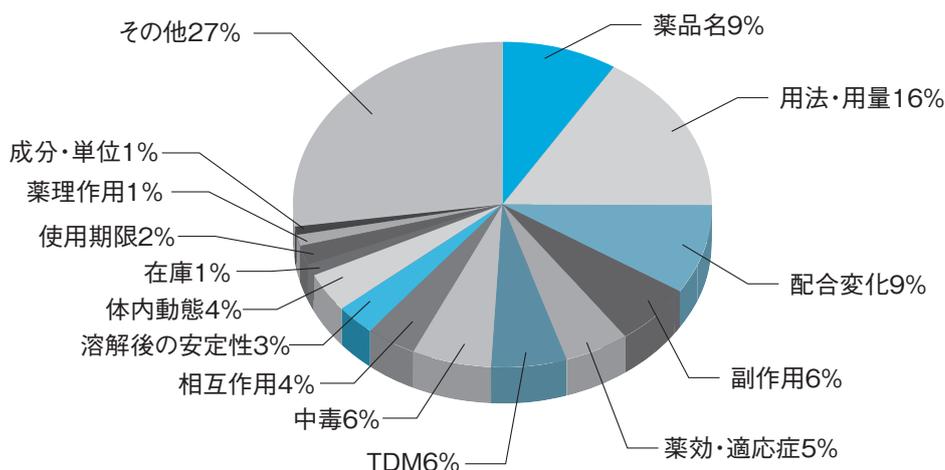
(7) 院内特殊製剤（一部抜粋）

剤形	製剤名(出庫単位)	適応症等	主な使用科	払出し量
坐剤・ 腔坐剤	チラージンS坐薬50 μ g	甲状腺機能低下症(内服不可能時)	糖尿病・内分泌内科等	178本
	リファンピシン坐薬450mg	結核治療薬(イレウス等で内服困難時)	呼吸器内科	29本
注射剤	0.606%グルタルアルデヒド液(52mL)	胸部外科手術による心膜固定	心臓血管外科	12本
	シリコンオイル眼注(10mL)	増殖硝子体網膜症の硝子体手術における眼内充填物	眼科	28本
	10%フェノールグリセリン注射液(2mL)	難治性の会陰部痛, 腰部の痛み	一般外科	1本
	滅菌墨汁(5mL)	内視鏡的點墨法	消化器内科	161本
	2%滅菌パテントブルー注(5mL)	悪性リンパ腫のリンパ管染色	皮膚科	6本
	眼科用マイトマイシン液(5mL)	繊維柱帯切除術(トラベクレクトミー)、小シャーレ中でMQAを細かく切ってMMC液に浸し、これを強膜弁下に正確に3分間留置	眼科	20本
点眼剤	0.5%デノシン点眼液(5mL)	サイトメガロウイルス角膜内皮炎	眼科	4本
	バンコマイシン点眼液(5mL)	M R S A 陽性患者への眼科感染症	眼科	37本
	0.125%ピロカルピン液(4mL)	瞳孔緊張症	眼科	6本
	1%ブイフェンド点眼液(5mL)	角膜真菌症	眼科	1本
	0.5%硫酸アトロピン点眼液(5mL)	診断または治療を目的とする散瞳と調節麻痺	眼科	23本
	0.25mg/mLブリリアントブルーG点眼液(5mL)	黄斑円孔、黄斑前膜等に対するガラス体手術での内鏡膜剥離時の染色	眼科	82本
	2.5%滅菌フルオレセインNa液(20mL)	眼圧検査・検査時にベノキシール点眼液に調製後1回1~2滴点眼する	眼科	13本
	1%ローズベンガル点眼液(5mL)	シェーグレン症候群の診断、角膜上皮欠損部の確認	眼科	17本
内用剤	セレン内服液(10 μ g/mL)	セレン欠乏症	小児科	13,400mL

外用剤	SAD液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	4,000mL	
	0.05%キシロカインB液	鼻の中の吸引をする際、器具挿入の痛みを止める	耳鼻いんこう科	3,400mL	
	鼓膜麻酔薬	鼓膜麻酔	耳鼻いんこう科	35mL	
	1.5%酢酸液	内視鏡観察時胃内散布（腫瘍との境界を明確にするため）	消化器内科	900mL	
	3%酢酸液	コルポスコピー下で行う子宮頸部の組織検査（癌検査用）	産婦人科	6,700mL	
	耳水	耳垢栓塞の軟化・1日1～2回点耳	耳鼻いんこう科	130mL	
	80%トリクロロ酢酸	焼灼作用によるアレルギー性鼻炎 滅菌綿棒にて鼻腔内下鼻用介に塗布	耳鼻いんこう科	80mL	
	2%滅菌硝酸銀	粘膜の殺菌or収れん	小児科	275mL	
	10%滅菌硝酸銀	鼻出血症・口内炎への塗布	耳鼻いんこう科	90mL	
	2%滅菌HPC液	肉芽組織の清浄化と形成促進剤	血液・腫瘍内科等	5,000mL	
	1%滅菌トリジンブルー液	内視鏡下の食道がんの精査 1回2～3mL使用する。(色素散布法)	消化器内科	70mL	
	0.02%滅菌ボスミン液	外傷・鼻・抜歯後など局所出血	耳鼻いんこう科	44,600mL	
	1%滅菌ピオクタニン青液	消毒・手術野の線引き	手術室、その他	1,100mL	
	軟膏剤	0.05%滅菌ヒビテングルコネート液	皮膚の創傷部位の消毒、手術室の消毒	眼科	4,100mL
		0.05%滅菌ヒビテングルコネート青液	手術部位の消毒	手術室のみ	24,600mL
1%ヨウ素ヨウ化カリウム液		カメラ室における検査薬	消化器内科	8,600mL	
	40%尿素軟膏	爪白癬の角質除去	形成外科	120g	
	5%ヒドロキノン軟膏	メラニン色素の破壊・生成抑制	形成外科等	1,880g	
	Mohs氏ペースト	Mohs surgeryにおける組織の固定	一般外科等	800g	

(8) 医薬品情報室への問い合わせ状況

総件数：794件



(9) 医薬品情報提供

医薬品集	1回
Drug Information News	12回
薬局ニュース	12回
緊急安全性情報・安全性速報	0件
適応症に関する情報	54件
使用上の注意に関する情報	37件
用法・用量に関する情報	11件
安全性情報	29件
薬物血中濃度解析	38件

(10) 持参薬鑑別

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
薬剤鑑別件数(件)	12,447	13,552	13,240

(11) 治験実施数 (令和2年度)

治験/製造販売後	相	件数	予定症例数	実施症例数
治験	ph I / II	2	4	4
	ph II	4	11	8
	ph II / III	2	8	6
	ph III	20	55	31
	ピボタル	1	4	1
	—	1	1	0

(12) 副作用報告

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
厚生労働省報告件数	9	10	18
プレアボイド報告件数	767	829	228

(13) 年間麻薬使用量

薬品名	令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	院内	院外	院内	院外	院内	院外
オピスコ注(本)	0	-	2	-	8	-
ペチジン塩酸塩注(本)	0	-	3	-	0	-
モルヒネ塩酸塩注10mg(本)	1,404	-	1,348	-	2,011	-
モルヒネ塩酸塩注50mg(本)	196	-	301	-	421	-
モルヒネ塩酸塩注200mg(本)	114	-	65	-	241	-
フェンタニル注0.1mg(本)	10,832	-	10,540	-	9,844	-
フェンタニル注0.5mg(本)	6,052	-	6,135	-	5,958	-
アルチバ静注用2mg(瓶)	3,259	-	3,636	-	3,884	-
アルチバ静注用5mg(瓶)	2,294	-	2,280	-	1,784	-
ケタラル静注用200mg(瓶)	446	-	542	-	512	-
オキファスト10mg(本)	1,148	-	1,243	-	1,200	-
オキファスト50mg(本)	1,174	-	804	-	444	-
プレベノン注100mgシリンジ(本)	229	-	75	-	72	-
ナルベイン注2mg(本)	154	-	207	-	-	-
ナルベイン注20mg(本)	0	-	96	-	-	-
MSコンチン錠10mg(錠)	1,463	988	2,315	1,096	3,335	1,251
MSコンチン錠30mg(錠)	530	288	563	1,380	929	0
モルベス細粒2%10mg(包)	2,037	1,334	1,721	475	1,270	1,046
モルベス細粒6%30mg(包)	1,004	294	200	14	1,026	0
モルヒネ塩酸塩錠10mg(錠)	1,087	6,568	2,377	5,556	2,471	1,804
オプソ内服液5mg(包)	3,356	2,744	4,586	1,602	2,998	2,115
オプソ内服液10mg(包)	2,014	2,045	2,626	3,295	2,980	416
オキシコンチン錠5mg(錠)	-	-	-	-	20,595	23,917
オキシコンチン錠20mg(錠)	-	-	-	-	3,126	4,326
オキシコンチン錠40mg(錠)	-	-	-	-	1,339	2,730
オキシコドン徐放錠5mg(錠)	14,089	17,569	26,182	49,316	12,833	15,736
オキシコドン徐放錠20mg(錠)	2,000	2,531	4,996	10,582	1,838	2,316
オキシコドン徐放錠40mg(錠)	1,302	1,334	3,059	3,771	516	238
オキシコドン徐放錠5mgNX(錠)	18,097	18,860	-	-	-	-
オキシコドン徐放錠20mgNX(錠)	3,239	3,857	-	-	-	-
オキシコドン徐放錠40mgNX(錠)	1,141	1,885	-	-	-	-
オキノーム散2.5mg(包)	5,692	3,980	5,300	6,624	5,565	5,305
オキノーム散5mg(包)	8,310	6,966	5,254	8,127	5,681	4,514
オキノーム散10mg(包)	11,467	4,349	8,599	6,237	4,810	5,087
イーフェンバツカル錠50μg(錠)	393	130	492	20	160	293
イーフェンバツカル錠100μg(錠)	358	0	247	20	525	130
イーフェンバツカル錠200μg(錠)	267	290	702	50	765	590
タペンタ錠25mg(錠)	1,555	662	1,474	168	424	14
タペンタ錠100mg(錠)	42	96	84	52	173	0
メサペイン錠5mg(錠)	262	0	75	0	54	21
メサペイン錠10mg(錠)	974	0	183	0	678	840
ナルサス錠2mg(錠)	632	820	1,128	732	-	-
ナルサス錠6mg(錠)	975	992	608	308	-	-
ナルラピド錠1mg(錠)	388	890	694	873	-	-
ナルラピド錠2mg(錠)	1,038	970	444	310	-	-
アンベック坐薬10mg(本)	57	0	124	0	220	10
アンベック坐薬30mg(本)	0	0	0	0	0	0
フェントステープ0.5mg(枚)	693	203	174	37	-	-
フェントステープ1mg(枚)	2,561	1,499	3,648	1,510	3,668	2,811
フェントステープ2mg(枚)	3,854	2,223	4,995	1,806	4,099	2,616
フェントステープ6mg(枚)	476	575	1,544	658	2,389	348
アヘンチンキ(mL)	1,478.70	3,391.50	2,347.00	2,979.00	2,806.00	3,660.00
1%塩酸モルヒネ液(mL)	33.85	0	0	0	0	0
10%塩酸コカイン液(mL)	2	0	1	0	15	0

※ 年度の設定は麻薬関係法令上、令和元年10月1日～令和2年9月30日までとする。

看護局

1. 概要

看護局の重点目標として以下の4つを掲げ活動に取り組んだ。

- 1) 良い看護をするために、それぞれの立場で行動する。
- 2) 看護における診療密度の向上を図る。
- 3) 各部署で働き方改革に向け検討し、改善する。
- 4) 信頼できる職場環境を維持し、向上させる。

令和2年度はコロナ禍でイレギュラーな事が多かった。しかしながら、ピンチをチャンスに変えいつも患者のことを考え看護にあたり、やるべきことを速やかに行いそれぞれの目標を達成させた。これは看護師が個々の役割に対し懸命に取り組んだ成果である。特にインターバル確保に向けた勤務形態を工夫し、ミックス勤務を取り入れる部署が増えたことは働き方改革の一助になった。

(局長 間瀬 有奈)

2. 看護局の状況

(1) 職員の動向

職員数 961人 助産師38人 看護師827人 准看護師10人
看護補助者 70人 助手 13人 保育士 3人
退職者 55人 (定年退職者6人含む)

(2) 看護師確保対策

① 採用試験

2020年度新規採用試験 4回実施 (新卒63人)

2020年度中途採用試験 (7人)

② ガイダンス (4回実施 284人参加)

日 程	開 催 名	参加人数
2021年1月6日	ナース専科webガイダンス(於:第1会議室)	108人
2021年2月7日	マイナビ就職セミナー「MEGA」 (於:ポートメッセ名古屋)	51人
2021年2月27日	中日新聞社主催「看護師のたまごオンライン病院合同説明会」web(於:第1会議室)	46人
2021年3月27日	豊橋市民病院就職ガイダンス	79人

③ インターンシップ (1回実施19人)

開 催 期 間	研 修 名	参加人数
2020年8月 5日～8月23日	夏のインターンシップ研修	中止
2021年3月1日～3月19日	春のインターンシップ研修	19人

④ 施設見学 コロナウイルス感染症拡大のため中止

⑤ 学校訪問 コロナウイルス感染症拡大のため中止 14校に採用募集パンフレット郵送

⑥ 看護師等再就職チャレンジ支援研修 コロナウイルス感染症拡大のため中止

⑦ 看護体験

高校生看護体験 COVID19感染症拡大のため中止

中学生職場体験 COVID19感染症拡大のため中止

⑧ 育児休業中職員向けに「ぶっちゃけママトーク」開催 24人

(3) 認定看護師

① 認定看護師数 (28人)

感染管理 (3) 救急看護 (2) 皮膚・排泄ケア (3) がん化学療法看護 (2)

がん性疼痛看護 (2) 緩和ケア (1) 集中治療ケア (1) 新生児集中ケア (1)

摂食・嚥下障害看護 (1) 脳卒中リハビリ看護 (1) 認知症看護 (2) 訪問看護 (1)

透析看護 (1) 手術看護 (1) 看護管理 (1) 糖尿病看護 (1) 小児救急看護 (1)

がん放射線療法看護 (1) 乳がん看護 (1) 慢性心不全看護 (1)

② 2020年度 認定看護師活動実績 (資料1)

4. 教育活動

① クリニカルラダー認定者数

レベルⅠ 650人 レベルⅡ 263人 レベルⅢ 55人 レベルⅣ 2人

② 2020年度 研修受講状況 (資料2)

③ 病棟看護補助者研修 6回 196人参加

5. その他

医療安全管理者養成研修修了者 14人

専任看護教員養成講習会修了者 17人

愛知DMAT隊員養成研修修了者 3人

災害派遣医療チーム研修修了者 (日本DMAT隊員) 7人

愛知県看護協会災害支援ナース登録者 18人

日本DMATインストラクター 2人

【資料1】2020年度 認定看護師活動実績

【感染管理】

1) 実践

- ① 医療関連感染サーベイランス（耐性菌・ウイルス、CLABSI、CAUTI、VAP、SSI）
- ② 職業感染予防対策の推進（抗体価測定、ワクチン接種事業、他）
- ③ 職員健康外来の開催と診療介助（発生件数53件 受診者のべ人数50人）
- ④ ICトピックスの配信
- ⑤ 豊橋市民病院だより「青竹」投稿 No.86
- ⑥ 院内感染対策委員会の運営
- ⑦ 院内感染対策チーム（ICT）活動（週1回感染対策カンファレンス・院内ラウンド）
- ⑧ 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動（週1回患者カンファレンス）
- ⑨ 豊橋市民病院地域支援委員会 講演
- ⑩ IASR（国立感染症研究所 病原体微生物検出情報）投稿
- ⑪ 発熱スクリーニング外来の創設
- ⑫ 新型コロナワクチン接種プロジェクトチーム発足、ワクチン接種の実施
- ⑬ 愛知県看護協会『クラスター発生時の看護師等派遣支援制度（第1陣）』要請への対応（市内住宅型有料老人ホームの視察）

2) 指導

- ① 新規採用者オリエンテーション：講義
- ② 基礎看護技術演習：講義&演習
- ③ 薬学生への感染対策：講義、院内ラウンド（計2回）
- ④ 感染対策リンクナース会：講義
- ⑤ 再就職チャレンジ支援研修：講義
- ⑥ 中途採用者オリエンテーション：講義（計3回）
- ⑦ 豊橋市立看護専門学校 看護第1・2科：講義（計30時間）
- ⑧ 豊橋准看護学校：講義（2クラス計10時間）
- ⑨ 院内感染対策講習会：講義（計3回）
- ⑩ 救急医学講座（初期研修医指導）：講義
- ⑪ 病棟勉強会：講義（3病棟）
- ⑫ 事務職員対象の感染対策勉強会（計2回）
- ⑬ 病棟助手研修：講義・演習
- ⑭ 他施設での感染対策講習会（3施設）
- ⑮ 院内ポスターセッション（認定看護師急性期グループ）

3) 相談

年間相談件数： 10～15件/日（約2500件以上/年）

【皮膚・排泄ケア】

1) 実践

- ① 褥瘡ラウンド（週1回：310件）
- ② 褥瘡フォローアップ回診（週1回：234件）
- ③ 褥瘡ハイリスク患者のリスクアセスメント・予防計画書立案・ラウンド・評価

- ④ ストーマ外来でのケア（週3回：598件）、病棟看護師におけるストーマ外来（62件）
- ⑤ 排尿ケアラウンド・カンファレンス（週1件：110件）
- ⑥ 在宅訪問（褥瘡：2件、ストーマ1件）

2) 指導

- ① 褥瘡勉強会：WEBで資料確認1回、褥瘡ミニレクチャー勉強会（実践）：6回
- ② 終末期や病棟の個別性にあったポジショニング勉強会：6部署52名
- ③ 褥瘡ラウンドを通して、褥瘡予防・褥瘡ケアについてスタッフへ指導
- ④ 基礎看護技術演習：講義・演習「安楽な体位の工夫」
- ⑤ 排尿ケア勉強会：年1回
- ⑥ 院内ポスターセッション（認定看護師急性期グループ）
- ⑦ ストーマラダーⅡ・Ⅲ：Ⅱ 28名（4回）、Ⅲ 8名（2回）

3) 相談

年間相談件数：96件/年（鈴木9件、春名85件、名倉2件）

【がん性疼痛看護】

1) 実践

- ① 緩和ケアチームラウンド（921件/年）
- ② 緩和ケア外来（128件/年）
- ③ がん患者指導管理員におけるIC同席（11件/年）
- ④ がん患者指導管理員における心理的支援（24件/年）
- ⑤ がん相談支援センターにおけるがん相談（40件/年）
- ⑥ 他部署倫理カンファレンスへの参加（4回/年）
- ⑦ 他部署合同カンファレンスへの参加（5回/年）
- ⑧ 他部署の退院前カンファレンスへの参加（7回/年）

2) 指導

- ① 看護臨床倫理・緩和ケアリンクナース会（2回/年）
- ② 地域多職種連携退院調整会議「ACP ～もしもの時の人生会議～」講演
- ③ 第10回日本在宅看護学会学術集会「急性期病院におけるACPの取り組みと課題」講演
- ④ がん看護セミナー：もしバナゲーム「人生の最期を考えるきっかけ作り」（9病棟）
- ⑤ フレッシュ研修「緩和ケアにおける医療用麻薬の使用法」

3) 相談

年間相談件数：20件/年

【緩和ケア】

1) 実践

- ① 緩和ケアチームラウンド（921件/年）
- ② 泌尿器科病棟がん患者の全人的ケア、家族ケア、倫理カンファレンス開催

2) 指導

- ① 看護臨床倫理・緩和ケアリンクナース会（2回/年）
- ② がん看護セミナー：アドバンス・ケア・プランニングについて
- ③ 病棟勉強会「倫理カンファレンスについて」西病棟8階

3) 相談

年間相談件数：5件/年

【脳卒中リハビリテーション看護】

1) 実践

- ① 脳卒中再発予防指導（自部署以外15件）
- ② 脳卒中再発予防パンフレット「脳卒中で入院された方へ」の改定（第3版製本）
- ③ 和みケア（7月～西病棟2階にて毎週水曜日15～16時：7～1月でのべ108人参加）
- ④ 脳卒中患者対象のパス作成・運用
運用開始：9月～脳出血保存 作成中：軽症脳梗塞・軽症脳出血（東病棟5階・南病棟共同）
- ⑤ 脳卒中患者の症状や今後に対する不安への対応や退院調整
- ⑥ 麻痺肢の管理（ポジショニングや疼痛コントロール）とセルフリハビリ指導
- ⑦ 高次脳機能障害患者の生活支援
- ⑧ 食事開始や摂食条件の確認と調整
- ⑨ 経腸栄養剤（アイソカルサポート）の試行・評価
- ⑩ 看護をつなごうレター執筆
5月「脱水から患者様や利用者様を守ろう」・2月「コロナの影響から患者さんを守ろう」

2) 指導

- ① 脳卒中再発予防パンフレット改訂内容とマニュアルについて
対象：西2階・東5階・東9階・南病棟・脳神経外科外来
- ② 東病棟9階 脳卒中患者の生活習慣について
- ③ 東病棟9階 脳卒中患者のリハビリについて
- ④ 西病棟3階 急性期脳卒中患者の体位変換・ポジショニング・関節可動域訓練について
- ⑤ 豊橋市立看護専門学校2科2年生 脳神経看護講師（全8時間）
- ⑥ 西病棟2階 臨地実習生 脳画像の見方・受け持ち患者の画像診断解説

3) 相談

相談件数 4件

- ① 東病棟2階 脳梗塞 再発予防指導
- ② 東病棟9階 脳梗塞 高次脳機能障害への対応・退院指導
- ③ 東病棟9階 脳梗塞 再発予防指導への無関心・退院支援
- ④ 救急外来 麻痺のある患者の体位と移乗のポイントについて

【糖尿病看護】

1) 実践

- ① 院内インスリンシステム看護部門のマニュアル作成・院内ラウンド
- ② 糖尿病対応難渋患者への看護介入
- ③ 糖尿病対策委員会・サポートチーム会の運営
- ④ 院内糖尿病関連インシデント分析・対策支援
- ⑤ 糖尿病内分泌内科外来での療養指導（1回/週 35件）

2) 指導

- ① 新人基礎看護技術研修「血糖測定、インスリン自己注射」講義・演習
- ② 看護学校講義「内分泌・代謝疾患の看護」（10時間）

③ 准看護学校講義「内分泌・代謝疾患の看護」(6時間×2クラス)

3) 相談

年間相談件数4件/年

- ① フットケア2件
- ② インスリンインシデント1件
- ③ 血糖自己測定1件

【小児救急看護】

1) 実践

- ① 呼吸器使用患児家族へマスクバギング指導 (計4回)

2) 指導

- ① 病棟勉強会「小児一次救命処置演習」(東病棟2階)
- ② 病棟勉強会「挿管介助と気管カニューレ管理」(東病棟2階)
- ③ 病棟勉強会「災害対応」(東病棟2階)
- ④ 病棟勉強会「自殺企図患者の対応」(東病棟2階)
- ⑤ 院内ポスターセッション (認定看護師急性期グループ)

3) 相談

0件

【救急看護】

1) 実践

- ① 病棟における看護実践を通じて看護の質の向上に努めた
- ② 病棟のアクションカードの見直し
- ③ 病棟急変のカルテを振り返り、担当看護師にフィードバックを行った

2) 指導

- ① 急変時の対応、フィジカルアセスメント I の講義
- ② 病棟の新人看護師に心静止の4つの波形、対応について指導
- ③ 災害時の発生について指導

3) 相談

相談件数 0件

【認知症看護】

1) 実践

- ① 認知症や加齢により心身の安寧が得られていない患者に対する症状マネジメント
- ② 高齢者のせん妄患者に対する症状マネジメント
- ③ 認知症のある患者の家族支援
- ④ 認知症サポートチームラウンド (週1回および適宜臨時203例)
- ⑤ 高齢患者・せん妄患者へのアクティビティ

2) 指導

- ① 認知症サポートチームラウンドを通して、認知症看護についてスタッフに指導
- ② 看護スキルアップリンクナースの活動について指導
- ③ 認知症・せん妄勉強会：西病棟5階

- ④ 認知症対策委員会主催勉強会（3回）
 - ・「認知症ケアについて～非薬物的ケアを中心に～」
 - ・「ユマニチュードを学ぶ」
 - ・「いわゆる不穩のタイジ術～認知症の人を病棟・地域で支えるために～」

3) 相談

年間相談件数：5件/年

【摂食・嚥下障害看護】

1) 実践

- ① 認定看護師嚥下回診 介入件数：18件
- ② 病棟内の摂食・嚥下障害患者の把握と定期的な評価
- ③ 嚥下カンファレンス（週1回） 実施件数：61件
- ④ 特殊な間接訓練の実施 介入件数2件
- ⑤ 看護をつなごうレターの執筆
11月「食べるための筋肉を維持しよう」

2) 指導

- ① 基礎看護技術の講義と演習
- ② 豊橋准看護学校の講義（呼吸器疾患の患者の看護）（4時間×2クラス）
- ③ 高齢者の口腔ケアについての講義（西病棟8階）
- ④ 高齢者の口腔ケアについての講義（東病棟6階）
- ⑤ 脳卒中患者の口腔ケアと食事介助についての講義（東病棟9階）
- ⑥ 高齢者の食事介助と口腔ケアについて講義（西病棟5階）

3) 相談

年間相談件数：5件/年

- ① 嚥下反射惹起遅延患者の食事介助方法について（東病棟7階）
- ② 食道入口部開大不全患者の間接訓練方法について（東病棟7階）
- ③ アンジェルマン症候群患者の直接訓練について（東病棟2階）
- ④ 水飲みテストの実施について（東病棟7階・西病棟6階）
- ⑤ 食事形態の変更について（東病棟7階）

【がん化学療法看護】

1) 実践

- ① 血管外漏出の対応と予防について（外来治療センター）
- ② 乳がん術後患者の血管穿刺についてフローチャート作成（外来治療センター）
- ③ 化学療法に伴う副作用や安全な投与管理に関する院内ラウンド（7部署）

2) 指導

- ① 外来治療を受ける患者への副作用対応
- ② 外来治療センターでの抜針指導の現状説明と注意点

3) 相談

- ① 抗がん剤治療における日業務での疑問と対応（東病棟2階）
- ② 発熱性好中球減少症時の対応と血管外漏出時の対応セットについて（西病棟6階）
- ③ 病棟でのオリエンテーション用紙の内容相談と血管外漏出時の観察と対応（西病棟7階）

- ④ 化学療法による悪心・嘔吐の症状マネジメントと看護ケア（東病棟7階）
- ⑤ GC/GCa療法の投与管理と退院指導（西病棟8階）
- ⑥ バックプライミングの方法と実際（西病棟9階）
- ⑦ CVポート穿刺困難患者への穿刺方法

【手術看護】

1) 実践

- ① 脊椎外科手術の顔面皮膚保護について自部署で取り組んだ
- ② 特殊体位手術における皮膚保護剤の使用について皮膚排泄ケアと協働してマニュアル作成と看護記録記載の徹底に取り組んだ
- ③ 新規術式導入（鏡視下食道手術）のシミュレーションに立ちあい助言を行った

2) 指導

- ① 院内ポスターセッション（認定看護師急性期グループ）
- ② 豊橋市立看護専門学校看護第1科 成人看護援助論Ⅰ講義（試験含め10時間）
- ③ 豊橋市立看護専門学校看護第2科 成人看護援助論Ⅱ講義（試験含め10時間）

3) 相談

- ① 麻薬性貼付剤を使用した患者の看護について（局所麻酔手術での疼痛緩和について）

【訪問看護】

1) 実践

- ① 退院前訪問 6件
- ② 退院後訪問 10件
- ③ 外来患者への訪問 3件

2) 指導

- ① ラダー退院支援Ⅰ「退院支援のながれ」講義
- ② ラダー退院支援Ⅱ「退院支援と必要な多職種連携」講義

3) 相談

相談依頼 なし

【集中ケア】

1) 実践

- ① 呼吸ケアサポートチーム活動（RST）
人工呼吸器装着患者の早期呼吸器離脱を目指した活動

2) 指導

- ① 新人研修
「呼吸と循環のアセスメント・体位ドレナージ」講義
- ② 院内講習会
認定看護師セミナー「COVID-19患者の看護」
RSTセミナー「人工呼吸器装着患者の体位変換」

3) 相談

相談依頼件数：2件/年

人工呼吸器装着患者に対する看護ケアについて

【透析看護】

1) 実践

- ① 糖尿病内科での透析予防指導実践 53件
- ② 糖尿病内科外来でのフットケア 8件

2) 指導

- ① 慢性腎不全療養指導看護師受験希望スタッフへのレポート作成指導
- ② 造影剤腎症についての機序と予防策について部署内勉強会開催

3) 相談

- ① 腹膜透析導入に関する相談：2件

【新生児集中ケア】

1) 実践

- ① COVID-19、疑似母体から出生した児の蘇生と看護
- ② 新生児医療センターの看護実践を通しアセスメント能力、看護の質向上

2) 指導

- ① NIPP装着児の褥瘡予防に向けたデバイス選択と固定について（新生児医療センター）
- ② 新生児のポジショニング（新生児医療センター）
- ③ デイベロップメンタルケアの概念をもとにした看護（新生児医療センター）
- ④ 効果的な光線療法について（東2階）
- ⑤ 新生児看護（豊橋市立看護専門学校第1科授業）

3) 相談

2件/年

【放射線看護】

1) 実践

- ① 放射線治療患者看護（新患+再患）：671件
- ② 婦人科・放射線科合同カンファレンス：（月1回）
- ③ 学会発表：日本放射線腫瘍学会第33回学術大会

2) 指導

- ① 「全脳照射と看護」についての学習会（西病棟5階）
- ② がん看護セミナー「照射範囲から考える看護」（4部署）
- ③ 放射線治療患者に対するオリエンテーションのポイントについて（部署内勉強会）

3) 相談

年間相談件数：8件/年

- ① 放射線治療範囲の確認方法について（東病棟5階）（東病棟7階）
- ② 治療開始後の膀胱留置カテーテルの挿入と放射線治療の影響について（西病棟5階）
- ③ 照射終了後の痰がらみが強い患者の看護介入について（東病棟7階）
- ④ 照射開始後の軟膏の使用と放射線治療の影響について（西病棟9階）
- ⑤ 放射線治療の有害事象に伴う吐き気の強い患者に対する看護介入について（西病棟8階）
- ⑥ 照射範囲内におけるガーゼの固定方法について（東病棟5階）（東病棟7階）

【慢性心不全看護】

1) 実践

- ① 毎週木曜日に行われる「心不全カンファレンス」のファシリテート
- ② 本年度より開始した「心不全カンファレンス」実施後に、カンファレンス内容が病棟看護師へ上手くフィードバックできていない問題点があったため、情報共有ができるよう記録方法や伝達方法の調整を行った
- ③ 心不全stage Dの終末期患者における心不全の緩和ケアについて症例を通し検討
- ④ 多職種心不全チームにおける各職種の知識やモチベーションの向上を目的として、他県での取り組みなどを学ぶ機会を設けるためにZoomによるミーティングの実施や研修会の実施・調整を行った

2) 指導

- ① 心臓リハビリテーションにおける「心不全リハビリプログラム」の導入にむけて勉強会を東病棟3階で実施中

3) 相談

- ① 成人先天性心疾患患者の退院に向けた支援と精神面のフォローについて相談を受けたため、病態・病期を踏まえた患者の状態をアセスメントし、主治医と病棟看護師の支援を行った
- ② 入退院を繰り返し心不全が増悪して亡くなった患者の看護に対し、病棟看護師から「自分たちの関わりがどうであったのか」相談を受けたため、デスカンファレンスについて勉強会を行い、実際に症例のカンファレンスを実施

(資料2) 研修受講状況

	日付	研修名	延参加人数	内 容
フ レ ッ シ ュ 研 修	4/6 4/7 4/8	情報研修	63名	・電子カルテの操作方法
	4/13 4/15 4/16 4/17 5/7	基礎看護技術研修 (5日間)	295名	・感染対策 検査について 中央滅菌材料 室見学 ・膀胱留置カテーテル オムツ交換 ・採血 血糖測定 インスリン注射 ・呼吸循環のアセスメント 酸素 吸引 体位ドレナージ ・皮下、筋肉内注射 点滴静脈内注射法 ・安楽な体位の工夫 外傷性の止血 ・重症度、医療・看護必要度 栄養評価 (NST)
	5/7	高齢者の看護 高齢者と薬	58名	・高齢者の特徴 ・高齢患者に対する薬物療法の注意点と副 作用
	5/14	ME研修①	58名	・輸液ポンプと輸注ポンプの取り扱い
	5/25	新人フォロー振り返り 研修	58名	・働き始めて困ったこと、SBARを用いた報 告の仕方
	6/4 7/2 8/6 9/3 10/1 11/5	BLS研修	58名	・気道確保、胸骨圧迫などの蘇生方法 ・AED(自動体外式除細動器)の使用方法
	6/15	医療安全	58名	・KYT ・新人が起こしやすいインシデントと改善 策
	6/23	退院支援	58名	・退院支援の基礎知識
	6/23	リフレッシュ研修①	58名	・自己の振り返りとリアリティショックの 緩和 ・アロマセラピー、ハンドマッサージ ・感染予防対策、手指衛生チェック
	7/8	消防研修 災害時の初期対応	58名	・院内消防設備の講義と消火用散水栓・消化 器の取り扱い ・災害時の初動訓練、エアストレッチャー体 験
	8/17	輸血・血液製剤の取り 扱い	57名	・輸血、血液製剤の取り扱いと輸血時の看護
	8/17	緩和ケアにおける麻薬 の管理	55名	・麻薬の種類、用法の理解と管理 ・麻薬使用時の看護
	8/17	リフレッシュ研修②	55名	・理学療法士によるストレッチ ・漸進的筋弛緩法によるリフレッシュ
	9/14	フィジカルアセスメン ト I 急変時の対応	53名	・胸骨圧迫法とAEDの操作 ・救急カート内の物品の使用法、気管内挿 管の介助 ・12誘導心電図の装着と波形の理解
	10/22 10/23 10/26	シミュレーション研修	53名	・多重課題シミュレーション ・優先順位の考え方と対応
	11/11	ME研修②	53名	・人口呼吸器の取り扱いと看護
	3/23	看護過程の展開	52名	・看護過程の基本的な考え方
	3/23	プリセプターシップ	52名	・一年の振り返りと次年度への課題

レベルⅠ	6/1 9/7	退院支援Ⅰ	71名	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援の基礎知識 ・退院支援に向けた看護ケア
	7/27	フィジカルアセスメントⅡ	52名	<ul style="list-style-type: none"> ・生命維持の基本とショック及び急変時の対応 ・患者の変化を予測した情報収集と判断
	9/28 11/16	看護ケアのマネジメント	82名	<ul style="list-style-type: none"> ・看護ケアと看護サービス ・看護ケアのマネジメントの実際
レベルⅡ	6/8 8/4	リーダーシップ	61名	・リーダーシップに必要な能力と理論
	7/13	退院支援Ⅱ	51名	・退院支援とチーム医療、多職種連携
	8/12	人材育成	54名	・人材育成に必要な能力
	11/30	看護理論	37名	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の主要概念をふまえた看護リフレクション ・看護観の明確化
	12/7	フィジカルアセスメントⅢ	48名	・患者の症状と状況からの意図的な情報収集、判断と対応
レベルⅢ	6/22 8/3	問題解決アプローチ	62名	<ul style="list-style-type: none"> ・問題抽出の手法 ・問題解決策立案に向けてのプロセス
	7/20	コンフリクトマネジメントⅠ	43名	<ul style="list-style-type: none"> ・コンフリクトとは ・コンフリクトのプロセスと対応
レベルⅣ	8/5	SWOT分析	15名	・SWOT分析の手法の理解
	10/21	コンフリクトマネジメントⅡ	14名	<ul style="list-style-type: none"> ・コンフリクト ・協調的アプローチの方法
実地指導者	6/10 10/7 3/8	実地指導者研修	44名 44名 46名	<ul style="list-style-type: none"> ・実地指導者の役割認識と効果的な指導 ・新人が育つ環境作りについて ・効果的な指導について

研修名	コマ数	人数
フレッシュ	31コマ	1,252名
レベルⅠ	5コマ	205名
レベルⅡ	6コマ	251名
レベルⅢ	3コマ	105名
レベルⅣ	2コマ	29名
実地指導者	3コマ	134名
総合計	55コマ	1,976名

1. 概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、国は、社会機能を維持することを目的として、「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」及び「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を創設し、地域の実情に応じて感染拡大防止や医療提供体制の整備が柔軟かつ機動的に実施できるよう地方公共団体の支援を行った。

こうした状況の中、当院は、県から新型コロナウイルス感染症患者専用の病棟を設定する「重点医療機関」に指定され、陽性患者等の受け入れのため、紫外線照射装置の設置など感染症対策を充実させるとともに、院内感染防止のため、来院時の検温などのスクリーニングや入院患者への面会制限、全身麻酔による手術を予定している患者に対しての抗原検査などを行った。

本年度の主な事業としては、東三河の急性期医療を担う中核病院として、高度専門医療を充実させるため、手術支援ロボットシステムを2台体制とした。また、外来患者の待ち時間の負担軽減を図るため、内科診察室を増室したほか、建物の長寿命化を図るため、東及び南病棟の外壁改修等工事を行った。さらに、第2次豊橋市民病院改革プランの計画期間終了に合わせ、2025年問題、感染症への対応などの課題や環境の変化に対応し、今後も切れ目のない改革を推進するため、「第3次豊橋市民病院改革プラン」を策定した。

(局長 渡辺 英仁)

2. 活動報告

(1) 収益的収入及び支出

区分		令和2年度			令和元年度			平成30年度			
		金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	
収益的 収入	医業 収益	入院収益	16,679,951,202	56.5	49.1	17,729,834,798	58.3	54.3	16,583,528,220	60.1	55.5
		外来収益	11,557,867,953	39.1	34.0	11,389,553,143	37.5	34.9	9,777,592,324	35.4	32.7
		その他 医業 収益	1,287,159,430	4.4	3.8	1,291,785,612	4.2	4.0	1,246,517,457	4.5	4.2
		小計	29,524,978,585	100.0	86.9	30,411,173,553	100.0	93.2	27,607,638,001	100.0	92.4
	医業外 収益	受取利息	7,860,076	0.0	0.0	8,448,892	0.0	0.0	4,938,267	0.0	0.0
		他会計負担金	811,596,410	2.7	2.4	864,809,075	2.8	2.7	915,881,844	3.3	3.1
		他会計補助金	301,000	0.0	0.0	0	-	-	0	-	-
		国庫補助金	111,357,000	0.4	0.3	25,362,000	0.1	0.1	22,799,000	0.1	0.1
		県補助金	2,246,765,290	7.6	6.6	48,196,000	0.2	0.1	46,712,000	0.2	0.2
		長期前受金戻入	544,526,885	1.8	1.6	556,642,990	1.8	1.7	590,383,216	2.1	2.0
		その他医業外収益	225,740,434	0.8	0.7	232,375,059	0.8	0.7	242,780,582	0.9	0.8
		小計	3,948,147,095	13.4	11.6	1,735,834,016	5.7	5.3	1,823,494,909	6.6	6.1
	特別 利益	長期前受金戻入	503,990,837	1.7	1.5	483,736,487	1.6	1.5	448,663,537	1.6	1.5
		小計	503,990,837	1.7	1.5	483,736,487	1.6	1.5	448,663,537	1.6	1.5
	計		33,977,116,517	115.1	100.0	32,630,744,056	107.3	100.0	29,879,796,447	108.2	100.0
収益的 支出	医業 費用	給与費	13,109,763,132	44.4	40.4	13,053,398,438	42.9	40.5	12,566,260,189	45.5	42.9
		材料費	11,183,842,483	37.9	34.5	11,151,324,242	36.7	34.6	9,335,455,912	33.8	31.9
		経費	4,321,756,634	14.6	13.3	3,970,847,305	13.1	12.3	3,667,242,224	13.3	12.5
		減価償却費	2,374,566,696	8.0	7.3	2,411,812,776	7.9	7.5	2,375,453,582	8.6	8.1
		資産減耗費	60,145,866	0.2	0.2	150,977,660	0.5	0.5	60,454,647	0.2	0.2
		研究研修費	76,565,533	0.3	0.2	114,254,951	0.4	0.4	103,387,706	0.4	0.4
		小計	31,126,640,344	105.4	95.9	30,852,615,372	101.5	95.8	28,108,254,260	101.8	96.0
	医業外 費用	支払利息	311,345,817	1.1	1.0	363,907,268	1.2	1.1	414,188,509	1.5	1.4
		保育費	47,308,298	0.2	0.1	36,697,206	0.1	0.1	44,810,442	0.2	0.2
		貸倒引当 金繰入額	22,496,000	0.1	0.1	24,878,400	0.1	0.1	29,563,600	0.1	0.1
		雑損失	874,719,105	3.0	2.7	739,408,741	2.4	2.3	685,404,543	2.5	2.3
		小計	1,255,869,220	4.3	3.9	1,164,891,615	3.8	3.6	1,173,967,094	4.3	4.0
	特別 損失	引当金繰入額	62,214,549	0.2	0.2	0	-	-	0	-	-
		過年度損 益修正損	0	-	-	202,951,885	0.7	0.6	0	-	-
		小計	62,214,549	0.2	0.2	202,951,885	0.7	0.6	0	-	-
計		32,444,724,113	109.9	100.0	32,220,458,872	106.0	100.0	29,282,221,354	106.1	100.0	
当年度純利益(△純損失)		1,532,392,404	-	-	410,285,184	-	-	597,575,093	-	-	
前年度繰越利益剰余金 (△繰越欠損金)		1,266,658,535	-	-	1,024,373,351	-	-	1,023,798,258	-	-	
その他未処理 欠損金変動額		597,000,000	-	-	242,000,000	-	-	704,000,000	-	-	
当年度未処分利益剰余金 (△未処分欠損金)		3,396,050,939	-	-	1,676,658,535	-	-	2,325,373,351	-	-	

※各項目は表示単位未満を四捨五入で処理しているため、合計と内訳の数値が一致しない場合がある。

(2) 行為別入院収益・外来収益

区 分		令和2年度		
		金額(円)	前年度比(%)	構成比(%)
入院 収益	投 薬 収 入	143,042,252	93.3	0.9
	注 射 収 入	446,571,793	82.1	2.7
	処 置 及 び 手 術 収 入	4,501,749,614	91.7	27.0
	検 査 収 入	228,581,774	115.6	1.4
	放 射 線 収 入	40,778,674	102.6	0.2
	入 院 料	10,527,017,438	95.2	63.1
	給 食 収 入	333,829,351	90.2	2.0
	そ の 他	458,380,306	100.0	2.7
	計	16,679,951,202	94.1	100.0
外 来 収 益	初 診 料	112,585,563	75.0	1.0
	再 診 料	883,112,413	98.5	7.6
	投 薬 収 入	1,239,513,470	105.8	10.7
	注 射 収 入	5,658,296,896	106.4	49.0
	処 置 及 び 手 術 収 入	334,328,465	89.3	2.9
	検 査 収 入	1,773,001,203	95.3	15.3
	放 射 線 収 入	1,224,681,697	94.1	10.6
	そ の 他	332,348,246	105.2	2.9
	計	11,557,867,953	101.5	100.0

(3) 資本的收入及び支出

(円)

区 分		令和2年度	増 減	令和元年度	増 減	平成30年度	増 減
資本 の 収 入	企 業 債	-	-	-	△ 1,370,400,000	1,370,400,000	1,332,800,000
	他 会 計 出 資 金	18,000,000	18,000,000	-	-	-	-
	他 会 計 負 担 金	1,351,431,893	59,302,096	1,292,129,797	34,268,482	1,257,861,315	283,013,132
	国 庫 補 助 金	14,846,000	14,846,000	-	-	-	-
	県 補 助 金	133,113,710	133,113,710	-	-	-	△ 12,927,000
	固 定 資 産 売 却 代 金	-	-	-	-	-	-
	投 資 回 収 金	8,420,000	△ 3,908,000	12,328,000	1,864,000	10,464,000	2,136,000
	損益勘定留保資金	1,853,456,255	△ 61,160,689	1,914,616,944	△ 797,033,418	2,711,650,362	963,395,647
	減債積立金取崩額	597,000,000	355,000,000	242,000,000	△ 462,000,000	704,000,000	△ 813,000,000
	消費税及び地方消費税 資本の収支調整額	3,414,649	885,708	2,528,941	△ 3,923,015	6,451,956	△ 577,739
	計	3,979,682,507	516,078,825	3,463,603,682	△ 2,597,223,951	6,060,827,633	1,754,840,040
資本 の 支 出	施 設 改 良 費	327,459,000	6,867,850	320,591,150	△ 1,193,426,481	1,514,017,631	773,444,182
	資 産 購 入 費	1,352,466,340	359,858,093	992,608,247	△ 659,115,914	1,651,724,161	△ 361,445,444
	長 期 貸 付 金	28,756,000	△ 886,800	29,642,800	△ 6,774,400	36,417,200	1,502,400
	投 資 有 価 証 券	-	-	-	△ 791,242,618	791,242,618	791,242,618
	企 業 債 償 還 金	2,271,001,167	150,274,435	2,120,726,732	53,310,472	2,067,416,260	550,086,521
	補 助 金 返 還 金	-	△ 34,753	34,753	24,990	9,763	9,763
	計	3,979,682,507	516,078,825	3,463,603,682	△ 2,597,223,951	6,060,827,633	1,754,840,040

(4) 貸借対照表 (令和3年3月31日)

(単位:円)

		資 産 の 部		
1	固 定 資 産			
(1)	有 形 固 定 資 産			
	イ 土 地		6,385,451,623	
	ロ 建 物	20,036,814,021		
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 9,198,494,794</u>	10,838,319,227	
	ハ 附 属 設 備	17,397,725,361		
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 12,401,587,335</u>	4,996,138,026	
	ニ 構 築 物	1,603,886,296		
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 823,083,711</u>	780,802,585	
	ホ 器 械 備 品	11,378,822,461		
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 7,675,551,481</u>	3,703,270,980	
	ヘ 車 両	17,991,211		
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 13,856,870</u>	4,134,341	
	ト 放 射 性 同 位 元 素	17,946,000		
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 0</u>	17,946,000	
	チ リ ー ス 資 産	1,770,067,809		
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 1,098,151,061</u>	671,916,748	
	リ 建 設 仮 勘 定		5,147,169	
	有 形 固 定 資 産 合 計			27,403,126,699
(2)	無 形 固 定 資 産			
	イ 電 話 加 入 権		7,041,831	
	ロ ソ フ ト ウ ェ ア		477,579,674	
	ハ そ の 他 無 形 固 定 資 産		11,912,535	
	無 形 固 定 資 産 合 計			496,534,040
(3)	投 資 そ の 他 の 資 産			
	イ 投 資 有 価 証 券		792,347,373	
	ロ 長 期 貸 付 金	106,490,000		
	貸 倒 引 当 金	<u>△ 78,878,000</u>	27,612,000	
	ハ 出 資 金		500,000	
	ニ 破 産 更 生 債 権 等	110,158,592		
	貸 倒 引 当 金	<u>△ 110,158,592</u>	0	
	投 資 そ の 他 の 資 産 合 計			820,459,373
	固 定 資 産 合 計			28,720,120,112
2	流 動 資 産			
(1)	現 金 預 金		5,299,683,525	
(2)	未 収 金		6,021,475,793	
	貸 倒 引 当 金	<u>△ 15,668,449</u>	6,005,807,344	
(3)	貯 蔵 品		31,075,613	
(4)	前 払 金		745,810	
	流 動 資 産 合 計			11,337,312,292
	資 産 合 計			<u>40,057,432,404</u>

負 債 の 部

3	固 定 負 債				
	(1) 企 業 債				
	イ 建設改良費等の財源 に充てるための企業債	11,911,460,535			
	企業債合計			11,911,460,535	
	(2) リース債務			350,424,298	
	(3) 引 当 金				
	イ 退職給付引当金	4,648,989,046			
	引当金合計			4,648,989,046	
	固定負債合計				16,910,873,879
4	流 動 負 債				
	(1) 企 業 債				
	イ 建設改良費等の財源 に充てるための企業債	2,325,590,921			
	企業債合計			2,325,590,921	
	(2) リース債務			377,984,892	
	(3) 引 当 金				
	イ 賞与引当金	647,178,021			
	ロ 法定福利費引当金	119,251,379			
	引当金合計			766,429,400	
	(4) 未 払 金			3,142,423,554	
	(5) 未払消費税及び地方消費税			19,411,100	
	(6) 預 り 金			120,337,636	
	流動負債合計				6,752,177,503
5	繰 延 収 益				
	(1) 長 期 前 受 金				
	イ 受贈財産評価額	13,745,551			
	収益化累計額	△ 10,056,056	3,689,495		
	ロ 補 助 金	1,287,647,785			
	収益化累計額	△ 847,089,374	440,558,411		
	ハ 負 担 金	16,875,496,223			
	収益化累計額	△ 14,323,776,097	2,551,720,126		
	長期前受金合計			2,995,968,032	
	繰延収益合計				2,995,968,032
	負債合計				26,659,019,414

資 本 の 部

6	資 本 金		9,212,942,341
7	剰 余 金		
(1)	資 本 剰 余 金		
	イ 受 贈 財 産 評 価 額	258,564,805	
	ロ 負 担 金	120,854,905	
	資 本 剰 余 金 合 計		379,419,710
(2)	利 益 剰 余 金		
	イ 減 債 積 立 金	410,000,000	
	ロ 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	3,396,050,939	
	利 益 剰 余 金 合 計		3,806,050,939
	剰 余 金 合 計		4,185,470,649
	資 本 合 計		13,398,412,990
	負 債 資 本 合 計		40,057,432,404

(5) 主な経営財務分析

区 分	算 式	令和2年度	令和元年度	平成30年度
1. 平均在院日数 (施設基準上の算定) (日)	$\frac{\text{在院患者数}}{1/2(\text{新入院患者数} + \text{退院患者数})}$	11.6	11.7	11.5
2. 病床利用率 (一般病床) (%)	$\frac{\text{入院患者数}}{\text{許可病床数}} \times 100$	80.1	90.5	87.9
3. 入院患者1人1日 当たり収入額 (円)	$\frac{\text{入院収益額}}{\text{入院患者延数}}$	71,957	68,340	65,894
4. 外来患者1人1日 当たり収入額 (円)	$\frac{\text{外来収益額}}{\text{外来患者延数}}$	26,177	23,700	20,716
5. 剖 検 率 (%)	$\frac{\text{解剖数}}{\text{院内死亡患者数}} \times 100$	2.9	2.3	3.0
6. 100床当たり職員数 (人)	$\frac{\text{職員数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	159.3	151.4	148.9
7. 100床当たり医師数 (人)	$\frac{\text{医師数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	28.6	23.4	23.1
8. 100床当たり 看護師数 (人)	$\frac{\text{看護師(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	94.8	93.4	92.1
9. 100床当たり器械備品額 (年度末) (千円)	$\frac{\text{器械備品額(減価償却累計額控除額)}}{\text{許可病床数}} \times 100$	462,909	474,049	527,883
10. 人 件 費 率 (%)	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	44.4	42.9	45.5
11. 流 動 比 率 (%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	167.9	166.4	176.7
12. 総 資 本 利 益 率 (%)	$\frac{\text{当年度純利益}}{1/2(\text{期首総資産} + \text{期末総資産})} \times 100$	3.8	1.0	1.4

医師事務作業補助者

1. 概要

医師事務作業補助者は、医師の事務作業軽減を目的として2008年に誕生した職種である。当院では、2009年から採用を開始し、現在48人工となった。主な業務内容は以下の4つである。

- ①文書作成補助業務：保険会社の入院証明書・通院証明書、介護保険に伴う主治医意見書、傷病手当一時金、障害年金審等の診断書作成補助を行っている。当院は、ドクタークラークと称している。
- ②臨床データ登録業務：診療に関するデータの抽出・整理・登録業務、薬品市販後調査、患者を他院に紹介するための画像CDの作成補助をしている。当院は、ドクタークラークと称している。
- ③がん登録：地域がん診療連携拠点病院の義務である、診断年ごとのがん患者の抽出・登録システムへの入力を行っている。
- ③外来代行入力業務：電子カルテへの代行入力を行っている。当院は、外来クラークと称している。

これらの業務は、医師事務作業軽減部会で管理をしている。事務職でありながら、医師の働き方改革において欠かせない存在であるが、より広く多様な業務支援を担うにあたり、医師事務作業補助者のスキルアップという課題に取り組まなければならない。今後も医師の要望を取り入れ、医師の事務作業の軽減に努めたい。

(部会長 小山 典久)

2. 活動報告

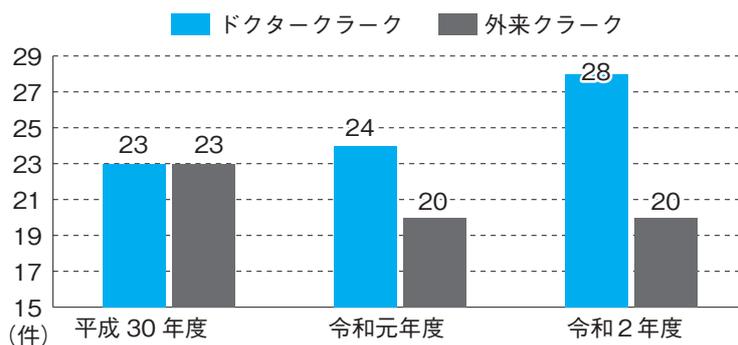
(1) 従事者数 (人工)

①ドクタークラーク

チーム名(主な業務)	人数(人工)
Aチーム (入院証明作成)	6
Bチーム (その他書類作成)	6
Cチーム (データの抽出・整理)	6
Dチーム (市販後調査の補助)	6
Eチーム (がん登録の登録支援)	4
計	28

②外来クラーク

診療科	人数(人工)
内科	3
糖尿病・内分泌内科	1
外科	2
整形外科	3
脳神経外科	2
小児科	2
産婦人科	1
産婦人科(生殖医療)	1
耳鼻いんこう科	1
眼科	1
泌尿器科	2
放射線科	1
計	20



(2) ドクタークラーク実績

①入院証明作成補助業務（担当者 6人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
入院証明書(患者申込数)	682	571	686	651	627	663	726	623	623	683	617	745	7,897
中止件数	3	2	3	1	3	2	3	2	5	9	2	2	37
入院証明書(実質作成数)	679	569	683	650	624	661	723	621	618	674	615	743	7,860

②その他書類作成補助業務（担当者 6人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
特定疾患診断書(更新) 特定疾患診断書(新規)	20	15	18	15	17	15	16	10	13	17	16	17	189
介護保険主治医意見書	85	119	124	128	100	128	127	138	113	126	93	112	1,393
自賠責保険診断書	121	91	88	101	102	106	139	114	109	112	108	131	1,322
傷病手当金請求書	181	159	167	150	151	143	175	170	163	164	164	187	1,974
労災休業給付申請書	48	30	34	42	30	33	45	38	37	38	30	41	446
生活保護医療要否意見書	61	70	61	58	70	59	68	69	68	74	66	60	784
B型C型肝炎患者医療給付事業 受給者票認定に係わる診断書	8	2	0	5	4	2	4	4	5	7	4	4	49
肝疾患インターフェロン 治療効果判定報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出産一時金支給申請書	3	4	1	3	2	4	7	0	2	3	2	4	35
出産手当金支給申請書	7	3	6	6	3	4	9	2	4	6	4	9	63
訪問看護指示書	27	40	49	32	42	29	46	31	47	22	31	55	451
障害認定医師意見書	4	10	12	3	6	8	6	3	8	7	9	9	85
自立支援	18	11	3	4	3	6	3	1	1	6	7	11	74
結核定期病状調査報告書	0	19	10	8	6	13	9	12	13	6	7	0	103
小児慢性特定疾病	3	8	6	0	3	5	6	159	82	40	13	10	335
障害年金診断書	12	9	17	13	7	3	9	8	4	9	18	17	126
身体障害者診断書 (神経内科) (H30.12.3~脳神経外科) (H31.2.6~整形外科) (R1.8.7~外科W5Dr柴田)	8	10	14	9	12	10	8	9	10	11	11	10	122
特別児童扶養手当認定 診断書	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4	3	2	12
受診状況等証明書	8	8	11	13	9	6	6	7	8	11	9	9	105
計	614	608	621	590	567	575	683	776	688	663	595	688	7,668

③他院紹介・学会用CD作成業務（担当者 6人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
転院・紹介用(申請書あり)	110	87	151	145	130	137	127	111	123	92	79	125	1,417
学会・研究用(申請書あり)	9	15	5	1	1	3	5	6	5	8	4	3	65
転院・紹介用(Dr作成)	532	441	629	641	547	652	705	639	702	624	643	717	7,472
学会・研究用(Dr作成)	0	14	4	17	5	7	2	11	2	3	3	4	72
計	651	557	789	804	683	799	839	767	832	727	729	849	9,026

④薬品別市販後調査票作成業務（担当者 3人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
調査票記入数	19	13	17	36	27	28	25	17	21	21	20	23	267
製薬会社提出数	0	0	2	1	1	0	2	2	5	2	1	2	18

⑤症例登録・抽出業務（担当者 12人 ※③・④・⑥担当者兼務）

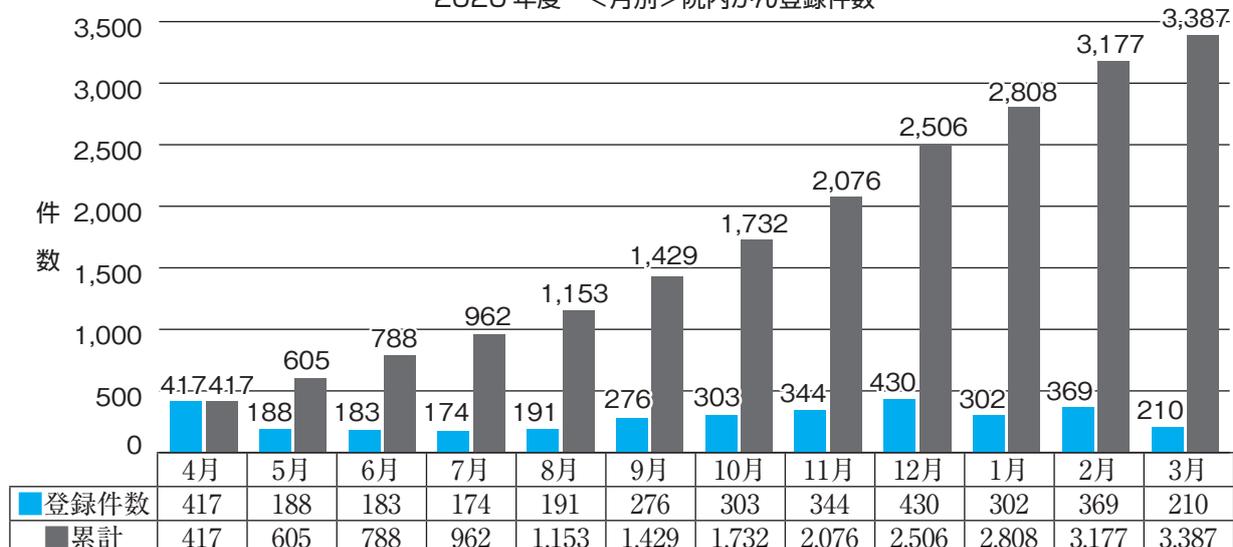
業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
DWHを使用したデータ抽出・作成	8	7	5	3	4	10	10	4	5	6	10	11	83
血液学会疾患登録(血液・腫瘍内科)	97	73	10	12	8	99	84	22	0	13	86	77	581
血液学会疾患登録(小児科)	2	0	2	0	1	0	1	1	0	0	1	0	8
NCD症例登録(一般外科)	124	97	130	103	130	132	128	140	141	109	118	141	1,493
NCD症例登録(先天性心臓外科・血管外科)	4	0	9	0	0	12	6	0	15	10	0	0	56
NCD症例登録(成人心臓外科)	4	3	7	0	0	1	3	5	6	3	6	1	39
JND症例登録(脳神経外科)	132	92	133	144	96	142	107	103	80	178	157	112	1,476
NCD症例登録(循環器内科)	27	20	10	19	15	12	27	22	28	24	23	18	245
NCD症例登録(移植外科)	0	7	0	0	19	3	19	11	5	23	0	0	87
NCD症例登録(呼吸器外科)	10	10	13	18	10	6	11	22	0	10	12	20	142
NCD症例登録(泌尿器科)	48	24	58	31	41	76	40	46	34	43	49	46	536
分娩件数登録	62	121	113	111	120	108	132	99	103	125	73	70	1,237
計	518	454	490	441	444	601	568	475	417	544	535	496	5,983

⑥各診療科の患者データベース作成業務（担当者 12人 ※③・④・⑥担当者兼務）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
脊椎外科	23	19	28	19	14	31	18	27	26	18	14	27	264
呼吸器外科	9	9	6	5	1	4	3	2	4	16	14	11	84
心臓外科・血管外科	2	2	3	6	5	5	6	3	2	5	5	0	44
歯科・口腔外科(外傷)	0	0	0	64	29	0	34	0	0	39	0	0	166
歯科・口腔外科(口腔)	0	0	0	0	477	0	1,277	675	62	0	0	0	2,491
消化器内科(内視鏡検査)	29	17	27	23	16	9	36	20	15	21	6	24	243
産婦人科(助産録分娩件数)	83	102	118	0	52	74	123	8	63	0	88	56	767
産婦人科(がん登録)	287	0	0	0	0	25	0	49	38	0	0	0	399
泌尿器科	62	121	113	111	120	108	132	99	103	125	73	70	1,237
リウマチ科	40	43	48	34	34	46	40	39	46	45	46	36	497
放射線科	0	0	0	0	0	0	708	0	0	0	0	0	708
小児科(新生児)(新規)	7	0	2	1	3	3	2	4	4	5	0	1	32
小児科(新生児)(予後)	0	10	12	11	13	5	2	0	0	0	0	0	53
小児科 小児救急重篤疾患登録調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科 川崎病全国調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	98	0	0	98
呼吸器内科 COVID-19	0	0	0	15	12	13	13	12	14	27	31	24	161
消化器内科(RFA)	1	6	1	5	4	3	2	3	0	2	2	9	38
整形外科(学会用)	15	15	11	9	11	15	25	9	0	33	13	12	168
整形外科(パス会議用)	16	16	11	9	13	13	28	10	0	35	13	11	175
整形外科(JOANR)	0	0	39	96	95	125	97	133	115	95	82	113	990
救急科(日本外傷データベース)	0	0	0	0	0	0	20	18	21	41	27	19	146
脳神経外科 Close The Gap-Stroke	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科 杉田クリップ後向き観察研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	574	360	419	408	899	479	2,566	1,111	513	605	414	413	8,761

⑦院内がん登録支援業務（担当者 4人）

2020年度 <月別>院内がん登録件数



VI 研究・業績

～解説～

①医局

(1) 2020年1月1日～2020年12月31日の業績を掲載しています。

②診療技術局・薬局・看護局・事務局

(1) 2020年4月1日～2021年3月31日の業績を掲載しています。

学会発表（医局）

（呼吸器内科）

1	竹山 佳宏.化学放射線療法中に腫瘍内に仮性動脈瘤の形成を認めた肺扁平上皮癌の一例.第116回日本肺癌学会中部支部学術講演会.豊橋市.2020/2/8
2	福井 保太.Afatinib が奏功した EGFR uncommon mutation L747P 陽性肺腺癌の1例.第116回日本肺癌学会中部支部学術講演会.豊橋市.2020/2/8

（消化器内科）

1	松原 浩.痔瘻早期診断における内視鏡的経鼻腭管ドレナージ留置下腭液細胞診の有用性.第106回日本消化器病学会総会.広島市.2020/08/11-2020/08/13
2	加納 佑一.当院における表在型食道扁平上皮癌に対する集学的治療の現状と成績.第99回日本消化器内視鏡学会総会.大阪府.2020/09/02-2020/09/03
3	足立 賢吾.レンバチニブ投与直後に急速な腫瘍壊死をきたした巨大肝細胞癌の1例.第242回日本内科学会東海地方会.名古屋市.2020/10/18
4	山田 雅弘.クローン病に対するUstekinumab の治療成績.第62回日本消化器病学会大会.神戸市.2020/11/05-2020/11/08
5	加納 佑一.当院における切除不能進行肝細胞癌に対するLenvatinib の有害事象の検討.第62回日本消化器病学会大会.神戸市.2020/11/05-2020/11/08
6	内藤 岳人.肝外病変を伴う進行肝細胞癌に対するレンバチニブの治療成績.第43回日本肝臓学会東部会.岩手県.2020/12/03-2020/12/05

（循環器内科）

1	深谷 兼次.急性上腕動脈塞栓症に対してEVTで救肢し得た1例.第43回 CVIT 日本心血管インターベンション治療学会 東海北陸地方会.名古屋市 (Web).2020/10/9
---	--

（糖尿病・内分泌内科）

1	七原 佳洋.妊娠後期に繰り返し発症した中枢性尿崩症が疑われる1例.第240回日本内科学会東海地方会.名古屋市.2020/2/16
2	岡田 則男.「甲状腺の内部エコー不均一は甲状腺自己抗体陽性者における抗PD-1抗体関連甲状腺障害の高リスクマーカーとなる」.第93回日本内分泌学会学術総会.Web(浜松市).2020/07/20-2020/08/31
3	武内 陽子.確定診断までに9年を要した異所性ACTH産生腫瘍の一例.第93回日本内分泌学会学術総会.Web(浜松市).2020/07/20-2020/08/31
4	山守 育雄.確定診断までに9年を要した異所性ACTH産生腫瘍の一例.第93回日本内分泌学会学術総会.Web(浜松市).2020/07/20-2020/08/31
5	七原 佳洋.エベロリムス投与により血糖値が増悪し大量のインスリンを要した1例.第242回 日本内科学会東海地方会.Web.2020/10/18

（血液・腫瘍内科）

1	早川 輝.EBウイルス初感染を契機に急激な経過を辿った血球貧食性リンパ組織球症の1例.第240回日本内科学会東海地方会.名古屋市.2020/2/16
2	大野 裕文.トシリズマブが有効であったTAFRO症候群の1例.第240回日本内科学会東海地方会.名古屋市.2020/2/16
3	鈴木祐太郎.当院における中枢神経原発悪性リンパ腫(PCNSL)19例の解析.第82回日本血液学会学術集会.Web.2020/10/09-2020/10/11
4	黒川 貴司.JAK2変異陰性多血症患者における睡眠時無呼吸症候群精査の有用性.第82回日本血液学会学術集会.Web.2020/10/09-2020/10/11

（一般外科）

1	権田 紘丈.食道癌術後に門脈ガス血症を伴う腸管気腫症に対して保存加療を行った1例.第53回愛知臨床外科学会.名古屋市.2020/2/11
2	浅井真理子.診断にPET-CTが有用であった糖尿病性乳腺症を合併した副乳癌の一例.第53回愛知臨床外科学会.名古屋市.2020/2/11
3	長谷川琢哉.ロボット支援腹腔鏡下直腸切除術後,ポートサイトヘルニアを来した一例.第53回愛知臨床外科学会.名古屋市.2020/2/11
4	平松 和洋.胃内腔発育型C-Kit陽性GISTに対する単純くり抜き法の成績 .第120回日本外科学会定期学術集会.横浜市.2020/08/13-2020/08/15
5	青葉 太郎.80歳以上の高齢者に対する高難度肝胆膵手術症例の検討 .第120回日本外科学会定期学術集会.横浜市.2020/08/13-2020/08/15
6	柴田 佳久.当院におけるc-KIT陰性GIST症例の検討 .第120回日本外科学会定期学術集会.横浜市.2020/08/13-2020/08/15
7	伊藤 量吾.当院における90歳以上高齢者腹部緊急手術症例の検討.第120回日本外科学会定期学術集会.横浜市.2020/08/13-2020/08/15

8	柴田 淳平.胸部皮下脂肪面積が埋め込み型中心静脈リザーバー留置術後の合併症発生に与える影響.第120回日本外科学会定期学術集会.横浜市.2020/08/13-2020/08/15
9	大宮康次郎.急性胆嚢炎のMRI所見と病理学的変化の検討—手術困難症例の予測—.第120回日本外科学会定期学術集会.横浜市.2020/08/13-2020/08/15
10	平松 和洋.当院の甲状腺手術における術中上喉頭神経外枝神経モニタリングの経験.第32回日本内分泌外科学会学術集会.長崎市.2020/09/17-2020/09/18
11	浅井真理子.組織学的皮膚浸潤とリンパ節転移の関連性について Relationship between histological skin invasion and lymph node metastasis.第28回日本乳癌学会学術総会.Web.2020/10/09-2020/10/31
12	伊藤 量吾.有害事象によりPalbociclibからAbemaciclibに変更した症例の検討 Examination of patients who received Abemaciclib after Palbociclib due to adverse even.第28回日本乳癌学会学術総会.Web.2020/10/09-2020/10/31
13	荒川 拓也.浸潤性乳癌に対する補助化学療法のRelative dose intensity において臨床・病理学的因子が与える影響の検討 Analysis of Relative dose intensity of adjuvant chemotherapy for infiltrating breast cancer.第28回日本乳癌学会学術総会.Web.2020/10/09-2020/10/31
14	吉原 基.進行・再発乳癌におけるCDK4/6阻害剤使用例のエベロリムスの前使用の有無による検討Effect of CDK4 / 6 inhibitor use after Everolimus use in metastatic breast cancer.第28回日本乳癌学会学術総会.Web.2020/10/09-2020/10/31
15	柴田 佳久.脾 Inflammatory pseudotumor-like follicular/fibroblastic dendritic cell (FDC/FRC)sarcoma の1切除例と経過観察中自然消失した脾炎症性偽腫瘍の1例.第82回日本臨床外科学会総会.大阪市.2020/10/29-2020/10/31
16	Taro Aoba.Laparoscopic Liver Resection in patients with previous upper abdominal laparotomy.14th World Congress of the Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA).Melbourne/Australia.2020/11/27-2020/11/29
17	Kojiro Omiya .Preoperative MRI Assessment for Predicting Surgical Difficulty during Laparoscopic Cholecystectomy for Acute Cholecystitis.14th World Congress of the Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA).Melbourne/Australia.2020/11/27-2020/11/29
18	Kazuhiro Hiramatsu .Pancreatic resection for metastatic tumors to the pancreas.14th World Congress of the Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA).Melbourne/Australia.2020/11/27-2020/11/29
19	柴田 佳久.大腸癌術後周術期クリニカルパスでの早期エレンタール飲用の検証.第75回日本消化器外科学会総会.和歌山市.2020/12/15-2020/12/17
20	大宮康次郎.術前 MRI を用いた急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の難度予測.第75回日本消化器外科学会総会.和歌山市.2020/12/15-2020/12/17

(呼吸器外科)

1	野亦 悠史.胸腔内出血により出血性ショックを呈したVon Recklinghausen病の1例.第116回日本肺癌学会中部支部学術集会.豊橋市.2020/2/8
2	野亦 悠史.大量血胸を来したVon Recklinghausen病の2例.第37回日本呼吸器外科学会総会.東京都Web.2020/9/29
3	野亦 悠史.肺転移巣の生検で診断し得た潜在性前立腺癌の1例.第61回日本肺癌学会総会.岡山市.2020/11/13

(移植外科)

1	長坂 隆治.膀胱拡大術後の代用膀胱形態を術前画像評価し腎移植に至った症例.第53回日本臨床腎移植学会.東京都.2020/2/21
---	--

(整形外科)

1	藤田 護.脛骨ベースプレートとその部品のゆるみを生じて再置換術を行った人工膝関節全置換術の1例.第50回日本人工関節学会.福岡市.2020/2/22
2	山内 健一.Impaction bone graftで再建した寛骨臼骨折.第50回日本人工関節学会.福岡市.2020/2/22

(リウマチ科)

1	平野 裕司.背景の異なる骨粗鬆症に対するゾレドロン酸治療成績比較-12ヵ月治療成績-.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
2	平野 裕司.治療目標を達成していない関節リウマチの特徴を探索するための横断的研究.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
3	平野 裕司.初診関節リウマチ患者における骨粗鬆症罹患および治療介入の調査.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
4	平野 裕司.身体機能評価の観点からの関節リウマチにおける生物学的製剤治療の評価-2年間追跡-.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
5	皆元 裕子.関節リウマチ患者の第2・第5手指MCP関節の超音波検査におけるプローブの当て方の検討.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
6	小杉山裕巨.関節リウマチ患者におけるPatient-reported outcomeの検討.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
7	小杉山裕巨.間質性肺炎を合併した関節リウマチ患者におけるアバタセプトの臨床成績.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
8	平野 裕司.AbataceptのRA頸椎病変進行抑制効果について~多施設研究登録症例(TBCR)におけるABT・MTX投与例との2年経過例における比較検討~.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
9	平野 裕司.実臨床における早期関節リウマチに対する治療選択と短期成績~多施設前向きコホート研究NICER-Jより~.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25

10	平野 裕司.リウマチ性疾患女性患者に対する抗TNF剤を用いた治療についての意識調査:日本とオーストラリアの比較.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
11	平野 裕司.関節リウマチ治療におけるバリシチニブの治療開始1年後の関節破壊抑制効果.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
12	平野 裕司.バリシチニブの治療中に帯状疱疹を発症した関節リウマチ症例の検討.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/23-2020/4/25
13	Yuji Hirano.Effects of Biological Disease-Modifying Anti-Rheumatic Drug Treatment on Physical Activity, Muscle Power, Agility and Inhibition of fall in patients with Rheumatoid Arthritis -The 2-year Results-.European Congress of Rheumatology 2020.オンライン.2020/6/5
14	Yuji Hirano.Goal-directed Treatment of Osteoporosis in Patients with Rheumatoid Arthritis using Denosumab for Five Years.European Congress of Rheumatology 2020.オンライン.2020/6/6
15	平野 裕司.初診関節リウマチ患者における骨粗鬆症罹患および治療介入の調査.第93回日本整形外科学会学術集会 -オンライン学術集会-.オンライン.2020/6/11-8/31
16	平野 裕司.関節リウマチにおける先行抗TNF3製剤の長期継続率の調査 -Toyohshi RA Database (TRAD)より-.第93回日本整形外科学会学術集会 -オンライン学術集会-.オンライン.2020/6/11-8/31
17	Yuji Hirano.Treatment with Zoledronic Acid in Patients with Osteoporosis Who Have Various Characteristics : Results in 12 Months.American Society of Bone and Mineral Research 2020.オンライン.2020/9/11-2020/9/15
18	平野 裕司.実臨床における治療目標を目指した関節リウマチの骨粗鬆症における薬物治療-多施設研究TBCR-BONEよりデノスマブ5年の治療成績-.第22回日本骨粗鬆症学会.オンライン.2020/10/9-2020/10/11
19	平野 裕司.関節リウマチの骨粗鬆症に対するテリパラチド連日投与製剤の効果に対する、生物学的製剤、経口グルココルチコイド、またはその両方の併用が与える影響.第22回日本骨粗鬆症学会.オンライン.2020/10/9-2020/10/11
20	平野 裕司.背景の異なる骨粗鬆症に対するゾレドロン酸治療成績比較-12ヵ月治療成績-.第22回日本骨粗鬆症学会.オンライン.2020/10/9-2020/10/11
21	平野 裕司.関節リウマチにおけるエタネルセプト先行品からエタネルセプト後続品への変更の治療成績.第35回日本臨床リウマチ学会.オンライン.2020/11/27-2020/11/29
22	平野 裕司.ベフィシチニブからバリシチニブへの変更を行った関節リウマチの4症例.第35回日本臨床リウマチ学会.オンライン.2020/11/27-2020/11/29
23	長谷川純也.直前の生物学的製剤が有害事象で中止になった関節リウマチ症例に対するアバタセプト使用の有効性と安全性.第35回日本臨床リウマチ学会.オンライン.2020/11/27-2020/11/29
24	長谷川純也.骨粗鬆症に対するロモソズマブの6ヶ月治療成績.第35回日本臨床リウマチ学会.オンライン.2020/11/27-2020/11/29

(脳神経外科)

1	雄山 博文.椎骨動脈、前下小脳動脈の圧迫による片側顔面痙攣に対し、神経血管減圧術を施行したところ、同側の外転神経麻痺、聴力低下を来した1例.MVD2020 第22回日本脳神経減圧術学会.浜松市.2020/1/9
2	雄山 博文.重症頭部外傷に於けるクリオプレシビテートの有用性について.第43回日本脳神経外傷学会.箱根町(Web).2020/3/6-2020/3/7
3	雄山 博文.総頸動脈狭窄症に対する血栓内膜摘出手術の経験.第49回日本脳卒中の外科学会学術集会.Web.2020/8/23-2020/9/24
4	雄山 博文.出血発症の脳動静脈奇形の治療方針.第49回日本脳卒中の外科学会 学術会.Web.2020/8/23-2020/9/24
5	橋田 美紀.神経精神全身性エリテマトーデス(NPSLE)が疑われた2例.第45回日本脳卒中学会学術集会.Web.2020/8/23-2020/9/24
6	雄山 博文.Vein of middle cerebellar peduncle の損傷による、中小脳脚、橋外側の障害により、術後小脳症状、顔面神経麻痺を生じた前庭神経鞘腫の1例.第25回日本脳腫瘍の外科学会.名古屋市.2020/9/11-2020/9/12
7	福井 隆彦.右舌癌によるCarotid blowout syndromeに対し緊急塞栓術を行った一例.第98回日本脳神経外科学会中部支部 学術集会.Web.2020/9/19
8	雄山 博文.腫瘍コントロールに放射線照射が有効であったatypical teratoid/rhabdoid tumor の1例.日本脳神経外科学会 第79回学術集会.岡山市(Web).2020/10/15-2020/10/17
9	山本 諒.左半身麻痺を呈した特発性頸椎硬膜外血腫の2例.日本脳神経外科学会第79回学術集会.岡山市(Web).2020/10/15-2020/10/17
10	伊藤 真史.ステントリトリバーを用いた血栓回収術後の慢性期に血管狭窄病変を生じた1例.第79回日本脳神経外科学会総会.岡山市.2020/10/15
11	雄山 博文.頸椎損傷に伴う椎骨動脈損傷について.第35回日本脊髄外科学会.Web.2020/11/9-2020/11/10
12	伊藤 真史.ステントリトリバーを用いた血栓回収術後の慢性期に血管狭窄病変を生じた1例.第36回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会.京都市.2020/11/19

(小児科)

1	小山 典久.「ABO血液型の問題解決と製剤選択 赤血球型検査(赤血球系検査)ガイドラインの改訂について」.輸血検査技師リフレッシュコース 第68回日本輸血・細胞治療学会総会.札幌市.2020/5/30
---	--

(産婦人科・女性内視鏡外科)

1	梅村 康太.骨盤解剖の理解と手術～子宮悪性腫瘍手術の応用と内膜症病変への対応～.第41回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会.下関市.2020/1/19
2	永井 智之.婦人科ロボット支援手術における第3アームの有効な活用法に関する検討.第42回日本産婦人科手術学会第5回日本婦人科ロボット手術学会.京都市.2020/2/22
3	國島 温志.肥満症例・痩せ症例におけるロボット支援下子宮全摘術の検討.第42回日本産婦人科手術学会第6回日本婦人科ロボット手術学会.京都市.2020/2/22
4	梅村 康太.子宮体癌に対する低侵襲手術—現状と展望 (ワークショップ) 子宮体癌に対するロボット支援下手術～癒着症例に対する工夫～.第42回日本産婦人科手術学会第7回日本婦人科ロボット手術学会.京都市.2020/2/22-2020/02/23
5	河合 要介.ロボット手術における子宮内膜症・高度骨盤内癒着 (ワークショップ) 子宮内膜症・高度骨盤内癒着症例に対するロボット支援下手術のTips&Pifalls.第42回日本産婦人科手術学会第8回日本婦人科ロボット手術学会.京都市.2020/2/23
6	野崎 雄揮.出生前に周産期型低フォスファターゼ症が疑われた2症例.第140回東海産科婦人科学会.Web.2020/03/14-2020/03/15
7	河合 要介.子宮内膜症・高度骨盤内癒着症例に対するロボット支援下手術の適応拡大.第140回東海産科婦人科学会.Web.2020/03/14-2020/03/15
8	宮本絵美里.卵巣原発癌肉腫 (heterologous) の1例.第140回東海産科婦人科学会.Web.2020/03/14-2020/03/15
9	河合 要介.リスク・ベネフィットバランスを考慮したジエノゲストの使用法、当院におけるジエノゲストの処方状況より.第140回東海産科婦人科学会.Web.2020/03/14-2020/03/15
10	河合 要介.癌性腹膜炎を伴う子宮体癌と鑑別を要した子宮結核の1例.第72回日本産科婦人科学会学術講演会.東京都(Web).2020/04/23-2020/04/28
11	河合 要介.子宮内膜細胞診が診断の契機となった子宮結核の1例.第61回日本臨床細胞学会総会(春期大会).Web.2020/06/20-2020/07/19
12	岡田真由美.羊水検査で45X/46XXモザイクが判明し分娩した一絨毛膜二羊膜双胎一児cystic hygroma子宮内胎児死亡症例のカウンセリング経験.第44回日本遺伝カウンセリング学会学術集会.沖縄県(Web).2020/07/03-2020/07/05
13	白石 佳孝.出生前診断におけるder(13;14)(q10;q10)均衡型ロバートソン転座に対する遺伝カウンセリング.第44回日本遺伝カウンセリング学会学術集会.沖縄県(Web).2020/07/03-2020/07/05
14	服部 渉.外性器異常より性分化異常を疑い出生前に羊水検査を行った46XY、矮小陰茎の一例.第44回日本遺伝カウンセリング学会学術集会.沖縄県(Web).2020/07/03-2020/07/05
15	古井 憲作.21trisomyが続いた両親に対する次子へのカウンセリングについて.第44回日本遺伝カウンセリング学会学術集会.沖縄県(Web).2020/07/03-2020/07/05
16	國島 温志.子宮頸部すりガラス細胞がんの1例.第58回日本癌治療学会学術集会.京都市(Web).2020/10/22-2020/10/24
17	河合 要介.BRCA1変異を有する卵巣原発癌肉腫 (heterologous) の1例.第58回日本癌治療学会学術集会.京都市(Web).2020/10/22-2020/10/24
18	河井 通泰.入院患者における点滴・注射業務に関するエラーの分析とその改善の試み-アクシデント・インシデントレポートを用いた分析-.第15回医療の質・安全学会学術集会.Web.2020/11/22-2020/11/23
19	河井 通泰.入院患者における点滴・注射業務に関するエラーの分析とその改善の試み-輸液ポンプ使用時のエラーの減少へのはたらきかけ.第15回医療の質・安全学会学術集会.Web.2020/11/22-2020/11/23
20	藤本 真徳.核型46,XY,der(18)t(11;18)(p15.3;q21.1)を示したBeckwith-Weidemann症候群の1例.第56回日本周産期・新生児医学会学術集会 .Web.2020/11/28-2020/12/11
21	梅村 康太.シンポジウム 子宮体癌に対する腹腔鏡手術(術式選択やセンチネルリンパ節生検含む).第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会.大阪府(Web).2020/12/14-2021/01/05
22	河合 要介.ロボット支援下腹腔鏡下子宮全摘術の習熟と高難度症例への適応拡大.第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会.大阪府(Web).2020/12/14-2021/01/05
23	植草 良輔.ロボット支援下仙骨固定術(RSC)の導入について.第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会.大阪府(Web).2020/12/14-2021/01/05

(産婦人科(生殖医療))

1	Hisao Ando.Evaluation of the embryos derived from mild/post-operative endometriosis using a time-lapse incubator combined with automated software analysis. Japan Society of Endometriosis and Taiwan Endometriosis Society Joint Session.第41回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会 日台ジョイントセッション.下関市.2020/1/18
---	--

(耳鼻いんこう科)

1	小澤 泰次郎.右側頭筋内に転移した子宮頸がんの一例.第30回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会.宜野湾市.2020/1/31
2	福島 諒奈.診断に苦渋した喉頭線維肉腫の1例.第30回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会.宜野湾市.2020/1/30

(泌尿器科)

1	Akiyuki Yamamoto.Propensity score matched comparison of docetaxel and androgen receptor axis-targeted (ARAT) agents in castration-resistant prostate cancer patients with intraductal carcinoma of the prostate (IDC-P).Genitourinary Cancers Symposium.San Francisco/USA.2020/2/13
2	永山 洵.当院におけるERAS導入後の膀胱全摘術周術期成績の検討.第58回日本癌治療学会学術集会.京都市.2020/10/22-2020/10/24
3	山本 晃之.Intraductal carcinoma of the prostate (IDC-P)の生検時の陽性本数と予後の関係.第58回日本癌治療学会学術集会.京都市.2020/10/23
4	永山 洵.尿路上皮癌以外の組織型および組織学的亜型を有する膀胱癌(non-pure UC)の全摘症例における検討.第70回日本泌尿器科学会中部総会.金沢市.2020/11/12/202011/14
5	金澤 秀幸.根治切除不能な腎細胞癌に対しイビリムマブ、ニボルマブ併用療法を施行した14例の報告.第70回日本泌尿器科学会中部総会.金沢市.2020/11/12/202011/14
6	吉澤 賢祐.当院における陰茎癌11例の検討.第70回日本泌尿器科学会中部総会.金沢市.2020/11/12/202011/14
7	金澤 秀幸.ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験.第34回日本泌尿器内視鏡学会総会.岡山市.2020/11/19-2020/11/21
8	吉澤 賢祐.当院におけるロボット支援腎部分切除術(RPN)の初期経験.第34回日本泌尿器内視鏡学会総会.岡山市.2020/11/19-2020/11/21
9	小嶋 一平.高齢前立腺癌患者における内分泌治療に対するブレドロン酸の治療効果.第108回 日本泌尿器科学会総会 .神戸市.2020/12/22-2020/12/24
10	永山 洵.BioJet®システムを使用したMRI/TRUS融合画像に基づいた前立腺生検の初期経験.第108回 日本泌尿器科学会総会 .神戸市.2020/12/22-2020/12/24
11	山本 晃之.時代背景によるCRPC患者の予後の検討 新規ホルモン治療薬(ARAT)登場後の新時代に予後は改善しているのか?.第108回 日本泌尿器科学会総会 .神戸市.2020/12/24

(救急科)

1	新田 鉦一郎.狂犬病の1例.日本救急医学会総会.岐阜市.2020/11/18
2	大野 裕文.開放性骨盤輪骨折に対して人工肛門造設を行った1例.日本救急医学会総会.岐阜市.2020/11/18
3	古山 剛広.Von-Recklinghausen 病の妊婦に発症した特発性血胸の1例.日本救急医学会総会.岐阜市.2020/11/18

(放射線科)

1	石原 俊一.声門癌に対する放射線治療成績.第44回日本頭頸部癌学会.Web.2020/07/17-07/27
2	石原 俊一.当院における非小細胞肺癌の根治的放射線治療成績.日本放射線腫瘍学会 第33回学術大会.Web.2020/10/01-10/03

研究会発表（医局）

（呼吸器内科）

1	大館 満.「菌種性非結核性抗酸菌症の一例」.第88回東海呼吸器感染症研究会.名古屋市.2020/1/1
---	---

（循環器内科）

1	成瀬 賢伸.CAD合併AF患者の抗血栓療法について考える.東三河 CAD合併心房細動について考える会.豊橋市.2020/1/30
2	成瀬 賢伸.慢性完全閉塞病変コース.第27回東海ライブ研究会.豊橋市.2020/2/8
3	深谷 兼次.分岐部 CTO like 病変に対する治療戦略.第8回 Mikawa Challenging Conference in Toyohashi.豊橋市.2020/2/14

（血液・腫瘍内科）

1	倉橋 信悟.新規3剤緩解導入療法を用いた初発多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植の成績.第25回東海骨髄腫フォーラム.名古屋市.2020/1/25
2	井本 直人.ITPの治療中にトキソプラズマ肺炎の急速な増悪を認めた一例.第42回三河血液疾患診療ネットワーク.安城市.2020/2/7

（一般外科）

1	青葉 太郎.当院における急性虫垂炎の治療方針と成績.第64回名古屋腫瘍外科 内外研究会.名古屋市.2020/1/11
---	--

（呼吸器外科）

1	橋本久美子.“Hospital to Hospital” exchange program.Uniportal VATS.Web.2020/10/16
2	橋本久美子.-This is our style-.Uniportal VATS.Web.2020/10/28

（リウマチ科）

1	小杉山裕亘.関節リウマチ患者におけるPatient-reported outcomeの検討.第57回東三河リウマチ研究会.豊橋市.2020/2/15
2	平野 裕司.当科の関節リウマチと骨粗鬆症の診療状況～2009年度-2019年度～.第58回東三河リウマチ研究会.豊橋市.2020/10/17
3	長谷川純也.当科におけるリウマチ性多発筋痛症の診療状況について.第58回東三河リウマチ研究会.豊橋市.2020/10/17

（小児科）

1	伊藤 剛.頭部外傷による急性硬膜下出血後、偶然に慢性硬膜下血腫が明らかとなった血友病Bの1例.愛知県小児血友病懇話会～県内の小児血友病診療の連携～.名古屋市.2020/1/21
2	伊藤 剛.院内学級でのより良い病弱児教育を目指した愛知県病弱児療育研究会の取り組み.第8回日本小児診療多職種研究会.静岡市.2020/2/1
3	若野 泰宏.喉頭・気管・気管支鏡外来はじめました.東三河小児科医会 令和2年度症例検討会 ミニレクチャー.豊橋市.2020/10/21
4	加藤 丈典.小児科新臨床研修医制度について.東三河小児科医会 令和2年度症例検討会 ミニレクチャー.豊橋市.2020/10/21
5	村松 幹司.先天性サイトメガロウイルス感染症.東三河小児科医会 令和2年度症例検討会 ミニレクチャー.豊橋市.2020/10/21
6	田中 達之.FGMが有用であったバセドウ病糖尿病同時発症APS 3型の男児例.第30回臨床内分泌代謝Update.Web開催.2020/11/13
7	伊藤 剛.高流量鼻カニューラ酸素療法を施行した閉塞性細気管支炎症候群の1例.第62回東海小児造血細胞移植研究会.Web開催.2020/11/27

座長・司会 (医局)

(呼吸器内科)

1	菅沼 伸一.第88回東海呼吸器感染症研究会.第88回東海呼吸器感染症研究会.2020/1/1
2	竹山 佳宏.殺細胞性抗癌剤.第116日本肺癌学会中部支部学術講演会.2020/2/8
3	牧野 靖.「COPD・ACOに対する診断と治療 ～当院における考え方～」.豊橋内科医会Web研修会.2020/11/26
4	牧野 靖.『イミフィンジを用いた進展型小細胞肺癌の新しい治療戦略』.愛知県東部エリア肺癌講演会.2020/12/18

(消化器内科)

1	山本 英子.胃癌薬物療法 後方ラインのトピックス.第18回東三河消化器癌治療セミナー.2020/2/21
2	浦野 文博.膵疾患Frontline～膵外分泌機能不全と栄養を考える～.東三学術講演会.2020/7/1
3	山田 雅弘.「UCにおける局所治療の現状」.東三河IBD WEB セミナー.2020/10/9
4	浦野 文博.DAA 時代のC 型肝炎診療とPitfall.～Web セミナー～.東三学術講演会.2020/11/4
5	松原 浩.日常診療における疑問について共に考えましょう！.膵がんウェブセミナー.2020/12/4

(循環器内科)

1	成瀬 賢伸.特別講演:名古屋大学医学部附属病院 重症心不全治療センター 副センター長 循環器内科 病院講師 奥村貴裕 「左室駆出率の低下した心不全治療戦略 ～急性期から慢性期へ～」.東三河地区 循環管理セミナー.2020/2/18
2	成瀬 賢伸.特別講演:岐阜県総合医療センター 内科・総合診療科 医長 岡田英之 「総合診療医からみた肺動脈性肺高血圧症の早期発見・早期診断」.第6回東三河PHカンファレンス .2020/11/6

(糖尿病・内分泌内科)

1	山守 育雄.運動指導の現状と運動について～運動に求める成果～.東三学術講演会.2020/1/29
2	山守 育雄.当院での高度肥満症に対するスリーブ状胃切除術の経験と本邦の肥満手術の現状について.東三学術講演会.2020/1/29
3	山守 育雄.Sweet & Suit weekly GLP-1 therapy.Diabetes&Incretin Seminar in豊橋.2020/2/4
4	山守 育雄.新型コロナウイルス拡大下におけるCOPD吸入療法の重要性.豊橋内科医会研修会.2020/7/9
5	山守 育雄.コロナに負けるな！今から実践する糖尿病運動療法.豊橋内科医会研修会.2020/7/9
6	山守 育雄.1型糖尿病診療のエッセンス2020～SGLT2阻害薬の適正使用を含めて～.Diabetes Online Symposium 2020明日から活かせる糖尿病治療セミナー.2020/10/13
7	山守 育雄.進化する糖尿病治療～GLP-1受容体作動薬の使用経験を通して～.豊橋GLP1研究会.2020/11/24

(血液・腫瘍内科)

1	杉浦 勇.抗体薬併用の作用機序から考える投与のタイミング.第25回東海骨髓腫フォーラム.2020/1/25
---	---

(呼吸器外科)

1	成田久仁夫.ランチョンセミナー.第116回日本肺癌学会中部支部学術集会.2020/2/8
2	成田久仁夫.呼吸器外科における現状と将来展望～肺癌から肺移植に至るまで～.第46回 MCRフォーラム.2020/10/14
3	成田久仁夫.高齢者.第61回日本肺癌学会総会.2020/11/13

(リウマチ科)

1	平野 裕司.関節リウマチ診療に必要な知識と技術～寛解の向こう側にたどり着くために～(岡野匡志先生).三遠リウマチカンファレンス～ふだん聞けない関節リウマチの話～.2020/1/11
2	平野 裕司.ディスカッション.豊橋リウマチ診療講座.2020/1/25
3	平野 裕司.高齢社会におけるリウマチ治療(綾部敬生先生).リウマチWEBセミナー.2020/6/29
4	平野 裕司.腎機能障害を合併するRA患者の治療～バリシチニブの現状と課題～(服部陽介先生).第1回臨床JAK Web Meeting.2020/9/15
5	平野 裕司.関節リウマチにおける筋肉の重要性～サルコペニアRAを予防する～(多田昌弘先生).第58回東三河リウマチ研究会.2020/10/17
6	平野 裕司.治療に難渋した関節リウマチ患者にウパダシチニブが奏功した1例(福井孝洋先生).東三河RA Expert Meeting(対面式+Web配信).2020/11/7
7	平野 裕司.骨粗鬆症治療の最近の話題～COVID-19による学会の提言をふまえて～(中村幸男先生).第14回三河骨粗鬆症研究会.2020/11/14
8	平野 裕司.Withコロナ時代におけるRA治療～患者に寄り添う治療を目指して～(佐藤宗春先生).リウマチWebセミナー.2020/11/17
9	平野 裕司.JAK阻害薬の最適な使用方法について.JAKi Expert Seminar.2020/11/20

10	平野 裕司.関節エコーが導く関節リウマチの的確な早期診断～迷医から名医へ～(谷泰弘先生).リウマチWEBセミナー.2020/12/8
11	平野 裕司.PPPとGPPにおけるGuselkumabのポジショニング(杉浦一充先生).PPP&Psoriasis Web Seminar.2020/12/9

(脊椎外科)

1	吉原 永武.Session 4:整形外科に学ぶ頰椎低侵襲手術.第14回NSG頰椎セミナー.2020/2/8
2	吉原 永武.『より良い生活に向けて「痛み」とどう向き合うか～ミロガバリンへの期待～』.東三学術講演会.2020/2/19

(放射線科)

1	石原 俊一.Lecture.Radiation Therapy Planning 名古屋 ～III期非小細胞肺癌の根治を目指して～.2020/8/20
---	---

(こころのケア科)

1	古水 克明.特別講演『がん患者の精神症状のケア』.第73回豊橋がん診療フォーラム.2020/12/4
---	--

講演（医局）

（総合内科）

1	稲垣 大輔.「地域がん診療連携拠点病院におけるACP普及の取り組み」[緩和ケアチーム・ACP事例].豊橋・生と死を考える会.豊橋市.2020/8/22
---	---

（消化器内科）

1	山田 雅弘.クローン病治療の現状～Ustekinumab の位置づけ～.Crohn's disease Web Seminar.豊橋市.2020/2/20
2	加納 佑一.胃がん・3次治療以降における当院の化学療法の実際.第18回 東三河消化器癌治療セミナー.豊橋市.2020/2/21
3	松原 浩.当院における慢性膵炎診療.東三学術講演会.豊橋市.2020/7/1
4	山田 雅弘.潰瘍性大腸炎におけるStelara の有用性の検討.潰瘍性大腸炎WEB セミナー.豊橋市.2020/11/30

（糖尿病・内分泌内科）

1	山守 育雄.甲状腺疾患の診断と治療 -開業医でもここまでできる-.豊橋内科医会研修会.豊橋市.2020/2/14
2	山守 育雄.ガイドライン2019で大きく変わった糖尿病の食事療法.東三学術講演会.豊橋市.2020/9/30

（リウマチ科）

1	平野 裕司.『骨折の危険性の高い骨粗鬆症』を考える-2020update-.東三河整形外科医会学術講演会.豊橋市.2020/1/23
2	平野 裕司.関節リウマチの診断について.豊橋リウマチ診療講座.豊橋市.2020/1/25
3	平野 裕司.関節リウマチと骨粗鬆症.令和元年度リウマチの治療とケア教育研修会(東海・北陸地区).名古屋市.2020/2/2
4	平野 裕司.関節リウマチ診療における大関節破壊の抑制の意義.第9回整形外科アクティブカンファレンス.東京都.2020/2/8
5	平野 裕司.高齢関節リウマチ患者の生物学的製剤治療.第6回リウマチ治療セミナー in SASEBO.佐世保市.2020/2/19
6	平野 裕司.関節リウマチ診療の更なる向上を目指して～治療困難例とJAK阻害薬の期待～.難治性関節リウマチWEBシンポジウム.オンライン.2020/3/25
7	平野 裕司.RA患者の骨粗鬆症とその長期治療戦略.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.オンライン.2020/4/25
8	平野 裕司.関節リウマチ薬物治療におけるイグランチモドのポジショニング.Eisai Immunology Internet Live Seminar.オンライン.2020/5/13
9	平野 裕司.新時代を迎えた関節リウマチのIL-6阻害療法.Sarilumab Web Seminar.オンライン.2020/7/2
10	平野 裕司.MTX partial responder に対する次の一手を考える～Shared Decision Making of Treatment Drug～.Lilly RA Web Conference.オンライン.2020/7/7
11	平野 裕司.背景の異なる骨粗鬆症に対するゾレドロン酸治療.BONE RESEARCH FORUM in OSAKA -ONLINE MEETING-.オンライン.2020/7/10
12	平野 裕司.関節リウマチによる大関節破壊を防ぐには?.第93回日本整形外科学会学術総会-オンライン学術総会-ランチョンセミナー3.オンライン.2020/7/22
13	平野 裕司.関節リウマチ診療の更なる向上を目指して～治療困難例とJAK阻害薬への期待～.難治性関節リウマチSkypeシンポジウム.オンライン.2020/7/30
14	平野 裕司.バリシチニブの有効性と安全性.第4回RA-BETTER WEB研究会.浜松市.2020/7/31
15	平野 裕司.MTX partial responder に対する次の一手を考える～Shared Decision Making of Treatment Drug～.RA Online Seminar.オンライン.2020/8/5
16	平野 裕司.骨粗鬆症の薬物治療 UPDATE.豊橋氏薬剤師会集合研修会.豊橋市.2020/8/27
17	平野 裕司.肺呼吸器障害を考慮した関節リウマチの薬物治療-2020 Update-.リウマチエリアWEBセミナー.オンライン.2020/9/3
18	平野 裕司.当科における乾癬性関節炎診療の実際-2020 Update-.中東遠地区 PsA病診療連携を考える会 On-Web.オンライン.2020/9/10
19	平野 裕司.新時代を迎えた関節リウマチのIL-6阻害療法.ケブザラWeb講演.オンライン.2020/9/30
20	平野 裕司.新時代を迎えた骨粗鬆症の薬物治療～抗スクレロチン抗体の意義～.骨粗鬆症治療up to date～新しい骨粗鬆症治療を考える～.オンライン.2020/10/13
21	平野 裕司.関節リウマチ・リウマチ性多発筋痛症・RS3PE症候群の診断と治療.第48回日本関節病学会.オンライン.2020/10/31
22	平野 裕司.若手整形外科医のための関節リウマチの診断セミナー.第48回日本関節病学会.オンライン.2020/10/31
23	平野 裕司.MTX partial responder に対する次の一手を考える～Shared Decision Making of Treatment Drug～.高知県整形外科医会(三木会)学術講演会.高知市.2020/11/12
24	平野 裕司.実臨床における関節リウマチ治療の中でゴリムマブの使いどころ.リウマチWebセミナー.オンライン.2020/11/17
25	平野 裕司.骨粗鬆症の薬物治療 UPDATE.東三学術講演会.オンライン.2020/11/18
26	平野 裕司.関節リウマチの診断を再考する.関節リウマチを考える会～オンライン講演会～.オンライン.2020/11/21
27	平野 裕司.関節リウマチ診療のさらなる向上を目指して～治療困難例とJAK阻害剤～.Interactive Web Conference～JAK阻害剤の適正使用～.オンライン.2020/11/24

28	平野 裕司.MTX partial responder に対する次の一手を考える～Shared Decision Making of Treatment Drug～.静岡リウマチ治療を考える会 online seminar.オンライン.2020/11/25
29	平野 裕司.実臨床における関節リウマチ治療の中でゴリムマブの使いどころ.リウマチWebセミナー.オンライン.2020/12/8

(脊椎外科)

1	岡田 裕也.『頸部神経根症 ～保存治療を再考する～』.第48回東三河脊椎カンファレンス合同研修会..2020/2/7
---	--

(脳神経外科)

1	伊藤 真史.脳卒中治療への取り組み、工夫について.脳卒中急性期治療を考える会.愛知県.2020/10/9
2	大多和 賢登.治療方針に難渋した解離性脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血の一例.INS 三河の会.Web(岡崎市).2020/10/29
3	大多和 賢登.内頸動脈瘤破裂によるDirect CCFの一例.エンボクラブ.Web(名古屋市).2020/11/27

(小児科)

1	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊川市.2020/4/2
2	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊川市.2020/4/3
3	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊川市.2020/4/7
4	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊川市.2020/5/1
5	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊橋市.2020/5/22
6	田島 巖.「食物アレルギーの理解と学校における対応」.豊橋市教育委員会 食物アレルギー研修会.豊橋市.2020/6/12
7	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊橋市.2020/6/25
8	小山 典久.「新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 保育現場での対応・注意点」.豊橋保育協会講演会.豊橋市.2020/7/28
9	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊橋市.2020/7/30
10	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊橋市.2020/7/31
11	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊橋市.2020/8/6
12	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊川市.2020/8/7
13	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊橋市.2020/8/27
14	田島 巖.「食物アレルギーの緊急時対応」.学校食物アレルギー講習会.豊川市.2020/10/15
15	田島 巖.「小児アレルギー科医が伝えたい保湿剤と軟膏の使い方」.豊橋市薬剤師会 研修会.豊橋市.2020/10/15
16	小山 典久.「新生児・小児輸血 特有の病態と問題点」.第27回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム 認定輸血検査技師更新必須講座.Web講演.2020/10/24

(産婦人科)

1	河合 要介.漢方のすゝめー服薬指導を含めた産婦人科の立場からー.静岡県病院薬剤師会中部支部例会.静岡市.2020/2/19
2	梅村 康太.どう変わる？婦人科悪性腫瘍手術の今後の展望(ランチョンセミナー)婦人科悪性腫瘍を切る～ロボット支援下手術の特性を活かす～.第42回日本産婦人科手術学会.京都市.2020/02/22-2020/02/23
3	梅村 康太.婦人科悪性腫瘍に対するロボット手術手技セミナー セッティングから実践まで 骨盤リンパ節郭清術の手技.第42回日本産婦人科手術学会.京都市.2020/02/22-2020/02/23
4	永井 智之.子宮悪性腫瘍におけるがん検診.令和2年度医療機関子宮頸がん/子宮体がん検診講習会.豊橋市.2020/2/29
5	梅村 康太.生涯研修プログラム(ロボット手術) ロボット支援下手術の特徴・教育・普及について.第72回日本産科婦人科学会学術講演会.東京都(Web).2020/04/23-2020/04/28
6	梅村 康太.共催セミナー(ランチョンセミナー) 合併症0目指して～切開・止血～.第72回日本産科婦人科学会学術講演会.東京都(Web).2020/04/23-2020/04/28
7	梅村 康太.共催セミナー(ランチョンセミナー) ロボット子宮全摘～ラパロとの違いを考える～.第72回日本産科婦人科学会学術講演会.東京都(Web).2020/04/23-2020/04/28
8	梅村 康太.ロボット子宮全摘術～手技習得のため エキスパートの秘訣～.第1回Gynecology Channel WEB セミナー.豊橋市(Web).2020/7/8
9	梅村 康太.ロボット子宮全摘術 良性疾患に対するアプローチ法.第2回Gynecology Channel WEB セミナー.豊橋市(Web).2020/7/31
10	梅村 康太.教育講演 ロボット手術をセンチネルの導入の経験.第43回日本産婦人科手術学会.札幌市(Web).2020/11/09-2020/11/23
11	梅村 康太.内視鏡技術認定合格へのコツ・ロボット支援下手術の実際.第1回 兵庫GYN WEBINAR.豊橋市(Web).2020/11/13

12	梅村 康太.悪性手術と良性手術～どう始める・どう極める～.第3回Gynecology Channel WEB セミナー.豊橋市(Web).2020/12/15
----	---

(健診科)

1	大橋 信治.【AI内視鏡診断への備え】.令和2年度医療機関胃内視鏡検査講習会.豊橋市.2020/2/15
---	--

(こころのケア科)

1	古水 克明.『認知症ケアについて ～非薬物的ケアを中心に～』.豊橋市民病院認知症研修会令和2年度第1回.豊橋市.2020/8/18
---	---

論文・著書 (医局)

(消化器内科)

1	松原 浩.血流障害による腫瘍壊死で造影画像診断に難渋した胆嚢癌の1例.胆道. 2020; 34: 115-121.
2	Hiroshi Matsubara.Usefulness of endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy for the diagnosis of autoimmune pancreatitis using a 22-gauge Franseen needle: a prospective multicenter study.Endoscopy. 2020; 52: 978-985.
3	浦野 文博.髄膜炎、感染性心内膜炎を発症したアトピー性皮膚炎患者に対する僧帽弁置換術の1例.胸部外科. 2020; 73: 679-682.
4	松原 浩.【これ一冊ですべてわかる消化器超音波検査】(第Ⅲ章)胆膵領域 胆管癌診断における超音波検査の役割.臨消内科. 2020; 35: 1025-1030.
5	山本 英子.日本人遺伝性血管性浮腫患者の長期発作予防のための定期的及び発作時の治療を目的としたC1-INH 静脈内投与の有効性、薬物動態、薬力学的作用及び安全性評価のための第Ⅲ相非盲検試験.アレルギー. 2020; 69: 192-203.
6	山田 雅弘.KeyWordキーワード No.30 6-TGN.消病サイエンス. 2020; 4: 49-49.

(糖尿病・内分泌内科)

1	山守 育雄.非専門医による甲状腺疾患・糖尿病外来診療の実際 -万年研修医と専門診療科医との対話から-.株式会社 金芳堂. 2020.
2	山守 育雄.薬の使い方・使い分け(注射編).かゆいところに手が届く!まるわかり糖尿病塾.医学書院. 2020; 68-86.

(血液・腫瘍内科)

1	Isamu Sugiura.Ultra-high sensitivity HBsAg assay can diagnose HBV reactivation following rituximab-based therapy in patients with lymphoma.J Hepatol. 2020; 73: 285-293.
2	Isamu Sugiura.A survey of blood transfusion errors in Aichi Prefecture in Japan: Identifying major lapses threatening the safety of transfusion recipients..Transfus Apher Sci. 2020; 59: 102735.
3	Isamu Sugiura.Prospective evaluation of prognostic impact of KIT mutations on acute myeloid leukemia with RUNX1-RUNX1T1 and CBFβ-MYH11..Blood Adv. 2020; 4: 66-75.
4	Isamu Sugiura.Final results of a phase I study of carfilzomib, lenalidomide, and dexamethasone for heavily pretreated multiple myeloma..Int. J. Hematol. 2020; 111: 57-64.
5	Daisuke Koyama.Multi-Lineage BCR-ABL Expression in Philadelphia Chromosome-Positive Acute Lymphoblastic Leukemia Is Associated With Improved Prognosis but No Specific Molecular Features..Front Oncol. 2020; 586567.
6	杉浦 勇.Ⅱ 急性リンパ性白血病 B.治療 3 Ph+ALLの治療.急性白血病診療テキスト エキスパートに学ぶ 220-231.
7	Isamu Sugiura.Once-weekly vs. twice-weekly carfilzomib dosing in a subgroup of Japanese relapsed and refractory multiple myeloma patients from a randomized phase 3 trial (A.R.R.O.W.) and comparison with ENDEAVOR..Int. J. Hematol. 2020; 1-12.
8	Isamu Sugiura.Combination of clofarabine, etoposide, and cyclophosphamide in adult relapsed/refractory acute lymphoblastic leukemia: a phase 1/2 dose-escalation study by the Japan Adult Leukemia Study Group..Int. J. Hematol. 2020.
9	Shingo Kurahashi.Prospective evaluation of alternative donor from unrelated donor and cord blood in adult acute leukemia and myelodysplastic syndrome..Bone Marrow Transplant. 2020; 55: 1399-1409.
10	小山 大輔.濾胞性リンパ腫を背景に発症したループスアンチコアグラント低プロトロンビン血症症候群.臨血. 2020; 61: 745-749.

(一般外科)

1	Kazuhiro Hiramatsu.Novel use of the Nathanson liver retractor to prevent postoperative transient liver dysfunction during laparoscopic gastrectomy.Asian J Endosc Surg. 2020; 13: 293-300.
2	野中有紀子.腹部刺創33例の検討.日腹部救急医学会誌. 2020; 40: 29-34.
3	Jumpei Shibata.Gastric remnant necrosis secondary to cholesterol crystal embolization after distal gastrectomy in a gastric cancer patient: a case report.BMC Surg.. 2020; 20 .
4	柴田 淳平.転移性肝癌が疑われた落下胆石による腹腔内膿瘍の1例.外科. 2020; 82: 389-394.
5	Kojiro Omiya.Preoperative MRI for predicting pathological changes associated with surgical difficulty during laparoscopic cholecystectomy for acute cholecystitis.BJS Open. 2020; 4: 1137-1145.
6	権田 紘丈.腹部大動脈瘤人工血管置換術後の非吻合部仮性動脈瘤に対してステントグラフト内挿術を施行した1例.東三医学会誌. 2020; 42: 18-20.
7	Hirotake Gonda.Primary Cardiac angiosarcoma resection and reconstruction with pedicled autologous pericardium: A case report.Int J Surg Case Rep. 2020; 69: 61-63.
8	権田 紘丈.後腹膜気腫をきたした重症急性膵炎の1例.日腹部救急医学会誌. 2020; 40: 585-588.

9	権田 絃丈.乳癌後腹膜リンパ節転移にて治療中に開腹生検で悪性リンパ腫と診断した1例.乳癌の臨. 2020; 35: 25-28.
10	権田 絃丈.FDG-PET/CTが有用であった副乳癌合併糖尿病性乳腺症の1例.臨放. 2020; 65: 1407-1410.

(心臓外科・血管外科)

1	Masashi Toyama.Early cardiac surgery for infective endocarditis with acute extensive cerebral infarction.Indian J Thorac Cardiovasc Surg. 2020; 36: 412-415.
2	外山 正志.胸骨縦切開による大動脈弁置換術中に発生した片側性肺水腫.胸部外科. 2020; 73: 417-422.
3	外山 正志.髄膜炎,感染性心内膜炎を併発したアトピー性皮膚炎患者に対する僧帽弁置換術の1例.胸部外科. 2020; 73: 679-682.
4	外山 正志.抗生剤による梅毒治療後に手術を施行した梅毒性大動脈瘤の1例.日血管外会誌. 2020; 29: 293-297.

(移植外科)

1	長坂 隆治.高カルシウム血症により精神症状を呈した原発性甲状腺機能亢進症の高齢患者症例.東三医会誌.2020; 42: 15-17.
---	--

(リウマチ科)

1	桑原悠太郎.メトトレキサート投薬中に妊娠に至った関節リウマチの2例.中部リウマチ. 2020; 49: 26-28.
2	平野 裕司.関節リウマチにおけるゴリムマブ治療成績-開始時疾患活動性による比較検討-.日関節病会誌. 2020; 39: 109-118.
3	平野 裕司.実臨床における治療目標を目指した関節リウマチの骨粗鬆症における薬物治療-多施設研究TBCR-BONEよりデノスマブ3年の治療成績-.日骨粗鬆症会誌. 2020; 6: 343-351.
4	Yuji Hirano.Predictors of glucocorticoid-free remission in patients with polymyalgia rheumatica treated with prednisolone.Int J Rheum Dis. 2020; 23: 1581-1586.

(脊椎外科)

1	岡田 裕也.治療に難渋した結核性脊椎炎の1例.ournal of Spine Research. 2020; 11: 758-763.
---	---

(脳神経外科)

1	Masato Otawa.A case of internal trapping to a thrombosed giant rapidly growing aneurysm at the posterior cerebral artery .Nagoya J Med Sci. 2020; 82: 557-566.
---	--

(小児科)

1	Takahiro Sugiura.Summary of Japanese Neonatal Cardiopulmonary Resuscitation Guidelines 2015.Pediatr Int. 2020; 62: 128-139.
2	小山 典久.血液製剤の院内分割マニュアル 改訂2.0.日輸血細胞治療会誌. 2020; 66: 517-523.
3	小山 典久.赤血球型検査(赤血球系検査)ガイドライン(改訂3版).日輸血細胞治療会誌. 2020; 66: 695-717.
4	小山 典久.新生児の交換輸血およびその使用血液に関する実態調査.日新生児成育医会誌. 2020; 32: 376-381.
5	戸川 泰子.交換輸血中の児.with NEO 2020年秋季増刊号 新生児のフィジカルアセスメント メディカ出版. 2020; 292-296.
6	小山 典久.新生児の輸血・交換輸血.今日の小児治療指針 第17版 医学書院. 2020; 104-105.
7	杉浦 崇浩.第4章 新生児の救急搬送.病院前新生児蘇生法テキスト メディカ出版. 2020.
8	松林 広樹.一過性骨髄異常増殖症を併発し, GATA1遺伝子変異を有した血球細胞が消失した正常表現型の一例.日周産期・新生児会誌. 2020; 56: 163-167.
9	望月 聡.母乳による後天性サイトメガロウイルス感染症の早産児例.日周産期・新生児会誌. 2020; 56: 315-319.
10	Tomoko Suzuki.A Novel α -Spectrin Pathogenic Variant in Trans to α -Spectrin LELY Causing Neonatal Jaundice With Hemolytic Anemia From Hereditary Pyropoikilocytosis Coexisting With Gilbert Syndrome..J. Pediatr Hematol Oncol. 2020;
11	野村 幸伸.後天性乳び胸に対しOK-432の胸腔内投与を行った超低出生体重児の2例.日新生児成育医会誌. 2020; 32: 410-416.
12	Tatsushi Tanaka.Clinical and genetic investigation of 136 Japanese patients with congenital hypothyroidism.J Pediatr Endocrinol Metab. 2020; 33: 691-701.
13	小山 典久.血液製剤の使用指針改訂にともなう新生児・小児輸血.日産婦新生児血会誌. 2020; 29: 39-45.
14	杉浦 崇浩.新生児蘇生 新生児蘇生法 (NCPR).周産期医. 2020; 50: 426-428.
15	Takahiro Sugiura.Sample-multiplexing by derivatization using multiple analogous reagents for enhancing throughput in LC/ESI-MS/MS assay of steroids; Plasma 17 α -hydroxyprogesterone as an example..J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2020; 1146-122117.

(産婦人科)

1	河合 要介.思春期女性に発生した巨大子宮頸部ポリープの1例.日婦腫瘍会誌. 2020; 38: 31-37.
2	堂山 瑤.悪性腫瘍との鑑別が困難であった巨大卵巣莖膜細胞腫の1例.東三医会誌. 2020; 42: 35-37.
3	梅村 康太.特集 エキスパートから学ぶ婦人科ロボット手術 各論 子宮体癌に対するロボット手術.産婦の実際. 2020; 69: 355-361.
4	山田友梨花.卵巣悪性腫瘍におけるヒト精巢上体蛋白4(HE4)の有用性の検討.臨検. 2020; 64: 614-619.
5	長尾有佳里.当院における子宮頸部腺癌pT1b1症例の後方視的検討.産と婦. 2020; 87: 1215-1220.
6	植草 良輔.傍大動脈リンパ節郭清術を施行した腹腔鏡下手術および開腹手術による子宮体癌症例の治療成績の検討.東海産婦人科内視鏡手術研究会雑誌. 2020; 8: 49-53.
7	梅村 康太.第72回日本産科婦人科学会・学術講演会 生涯研修プログラム6 ロボット手術 ロボット支援科手術の特徴・教育・普及について.日産婦会誌. 2020; 72: 1647-1651.
8	尾瀬 武志.良性腫瘍におけるロボット支援下子宮全摘術と腹腔鏡下子宮全摘術との比較検討について.産婦の実際. 2020; 69: 651-657.
9	宇井 葉月.NIPT(新型出生前検査)導入後の当院における羊水検査数の推移.東三医会誌. 2020; 42: 32-34.
10	篠田 真実.暴行タンポナーデで発症し血管塞栓術により治療を行った腎動静脈瘻合併妊娠の一例.東海産婦誌.2020; 57: 95-100.
11	野崎 雄揮.周産期低ホスファターゼ症との感傷が問題になった胎児骨系統疾患の2症例.東海産婦誌.2020; 57: 137-142.
12	鈴木 邦明.子宮血管周囲性類上皮細胞腫瘍(PEComa)を術前に推定したため子宮温存が可能であった一例.東海産婦誌.2020; 57: 253-258
13	國島 温志.子宮摘出後の骨盤臓器脱に対して腹腔鏡下仙骨室固定術を施行した6例.東海産婦誌.2020; 57: 433-437.

(産婦人科(生殖医療))

1	安藤 寿夫.卵巣過剰刺激症候群.今日の治療指針2020年度版.医学書院.. 2020; 1341-1343.
---	--

(泌尿器科)

1	Akiyuki Yamamoto.Propensity score-matched comparison of docetaxel and androgen receptor axis-targeted agents in patients with castration-resistant intraductal carcinoma of the prostate.BJU Int. 2020; 125: 702-708.
---	---

(歯科口腔外科)

1	Atsuo Kaetsu.Antimicrobial susceptibility surveillance of bacterial isolates recovered in Japan from odontogenic infections in 2013.J Infect Chemother. 2020; 26: 882-889.
---	--

学会発表（経営企画室・医療安全管理室・診療技術局・薬局・看護局・事務局）

（医療安全管理室）

1	山本 実.入院患者における点滴・注射業務に関するエラーの分析とその改善の試みーアクシデント・インシデントレポートを用いた分析ー.医療の質・安全学会.Web.2020/11/22
2	白井 敏江.入院患者における点滴・注射業務に関するエラーの分析とその改善の試みー輸液ポンプ使用時のエラー減少へのはたらきかけー.医療の質・安全学会.Web.2020/11/22

（放射線技術室）

1	市川 肇.核医学における被ばく線量の適正管理のためのSPECT総合画像評価ファントムの作製.第13回金沢核医学技術検討会.金沢市.2020/9/5
2	Hajime Ichikawa.Implementation of an automatically quantification package (Hone Graph) for phantom-based image quality assessment of bone SPECT: Computerized self-classification of detectability using a novel index.第13回金沢核医学技術検討会.金沢市.2020/9/6
3	市川 肇.高精度骨SPECTファントムを用いたxSPECT Bone画像の最適化に関する研究.第13回金沢核医学技術検討会.金沢市.2020/9/6
4	Hajime Ichikawa.Implementation of an automatically quantification package (Hone Graph) for phantom-based image quality assessment of bone SPECT: Computerized self-classification of detectability using a novel index .European Association of Nuclear Medicine '20. virtual (Vienna, Austria).2020/10/23
5	市川 肇.骨SPECT自動評価ソフトウェアにおける物理評価指標の再現性および繰り返し性の検証.第40回日本核医学技術学会総会学術大会.神戸市.2020/11/12
6	市川 肇.骨SPECT自動評価ソフトウェアにおける自動検出能評価指標の精度の検証.第40回日本核医学技術学会総会学術大会.神戸市.2020/11/12
7	市川 肇.球体およびボディファントムを用いた核医学イメージング専用シミュレーションコードの妥当性.第40回日本核医学技術学会総会学術大会.神戸市.2020/11/13
8	市川 肇.モンテカルロシミュレーションによるファントム精度検証-骨SPECT評価用ファントム-.第40回日本核医学技術学会総会学術大会.神戸市.2020/11/13
9	阪野 友哉.心疾患を疑って99mTc-ピロリン酸シンチを施行した症例.第106回東三河RI技術検討会.豊橋市.2020/11/21
10	加藤 豊大.東三河地域での骨シンチグラフィにおけるSPECT適用患者の実態調査.第40回日本核医学技術学会総会学術大会.神戸市.2020/11/13
11	Hajime Ichikawa.Optimization of becquerel calibration factor for quantitative bone SPECT without attenuation and scatter correction in the lumbar spine: Head-to-head comparison with attenuation and scatter correction.第14回金沢核医学技術検討会.金沢市.2021/3/14
12	Hajime IchikawaAutomatic quantification package for phantom-based image quality assessment in bone SPECT: Computerized automatic classification of detectability.第14回金沢核医学技術検討会.金沢市.2021/3/14

（中央臨床検査室）

1	皆元 裕子.関節リウマチ患者の第2・第5手指MCP関節の超音波検査におけるプローブの当て方の検討.第64回日本リウマチ学会総会・学術集会.Web.2020/8/17
2	手嶋 充善.専門分野が教える豆知識～ピットフォールに陥らないために～.スキルアップ研修会.Web.2021/2/1
3	森下 拓磨.2020年度愛臨技精度管理調査報告 免疫血清検査部門.生物化学分析検査研究会.Web.2021/2/6
4	森下 拓磨.2020年度愛臨技精度管理調査報告 免疫血清検査部門.2020年度愛知県臨床検査技師会精度管理調査報告会.名古屋市.2021/3/15

（リハビリテーション技術室）

1	鈴木一輝.当院における心不全患者の再入院に対するリスク因子の検討.第29回愛知県理学療法学術大会.名古屋市(Web).2020/8/9
2	山元神太郎.大腿骨転子部骨折術後の合併症と歩行進行状況の関係.第29回愛知県理学療法学術大会.名古屋市(Web).2020/8/9
3	森嶋直人.異なるプログラムによる末梢性顔面神経麻痺に対するリハビリテーションの効果とその後の検討.第43回日本顔面神経学会.松山市.2020/9/29
4	森嶋直人.球脊髄性筋萎縮症の3症例ー筋力の長期経過について-.第50回日本臨床神経生理学大会.京都府(Web).2020/11/27
5	真田将太.多発骨折のある末期多発性骨腫瘍症例の理学療法の経験.第3回愛知がん・リハビリテーション医学研究会講演会.名古屋(Web).2021/1/9
6	真田将太.化学療法による血液腫瘍患者の筋量と筋力の変化.第9回日本がんリハビリテーション研究会.名古屋(Web).2021/1/9

(臨床工学室)

1	庄 章弘.患者入れ替え時間の短縮を目指したda Vinci Siのドレーピング法変更トライアル.第30回日本臨床工学会.愛知県.2020/9/30
---	---

(薬局)

1	中村 宗一郎.アバスタチンとDOAC併用における出血関連有害事象の評価.第30回日本医療薬学会.Web.2020/10/24-11/01
---	--

(看護局)

1	坂田美枝子.産科病棟看護職が行う品胎初産婦に向けた宿泊型産後ケアの実際.第51回日本看護学会学術集会..2020/11/1~30
2	市川礼子.28日間持続的に抗がん剤注入療法が必要な白血病患者の在宅支援.第10回日本在宅看護学会..2020/11/14-15
3	安形仁美.小児病棟における入院患者とその家族への入院時要望確認の現状.第10回日本在宅看護学会..2020/11/14-15
4	白井敏江.入院患者による点滴・駐車業務に関するエラーの分析とその改善の試み～アクシデント・インシデントレポートを用いた分析～.第15回医療の質・安全学会..2020/11/23
5	鈴木恵里.早期乳がんに対する乳房温存手術後の残存乳房へ放射線療法を実施した患者の急性期皮膚障害と乳房の整容性の検討.第33回日本放射線腫瘍学会..2020/10/1-3
6	鈴木宏昌.全身麻酔で手術を受ける患者の入院時の不安の程度とそれに関連する要因.第16回日本クリティカルケア学会学術集会..2020/7/1-12/31
7	尾崎悦崇.ICUにおける人工呼吸器装着患者に対する身体抑制フローチャート導入への取り組み.第16回日本クリティカルケア学会学術集会..2020/7/1-12/31
8	加藤美樹.オープンICUでの早期リハビリテーションを目指した多職種カンファレンスの効果.第16回日本クリティカルケア学会学術集会..2020/7/1-12/31

座長・司会（経営企画室・医療安全管理室・診療技術局・薬局・看護局・事務局）

（放射線技術室）

1	市川 肇.核医学領域の線量管理は進んでいますか？－現状と今後の対策について.第76回日本放射線技術学会総会学術大会.Web.2020/5/14-6/14
2	市川 肇.第80回核医学部会「State-of-the-art technologies in nuclear medicine」.第76回日本放射線技術学会総会学術大会.Web.5/14-6/14
3	市川 肇.Phantom and clinical evaluation of bone SPECT/CT image reconstruction with xSPECT algorithm.日本放射線技術学会核医学部会オンラインセミナー.Web.2020/10/6
4	市川 肇.一般研究演題ポスター発表「骨 臨床・定量」.第40回日本核医学技術学会総会学術大会.神戸.2020/11/13
5	市川 肇.特別講演「収集・画像処理の基礎と最新技術の応用へ～低投与量・高定量化を目指して～」.第106回東三河RI技術検討会.豊橋.2020/11/21
6	市川 肇.心臓核医学検査における被ばくについて.第30回日本心臓核医学会学術大会.名古屋.2020/12/19
7	加藤 豊大.一般演題・症例検討、テクニカル基礎講座.第106回東三河RI技術検討会.豊橋.2020/11/21
8	市川 肇.東三河PET技術セミナー.東三河PET技術セミナー.Web.2021/3/5

（中央臨床検査室）

1	手嶋 充善.令和2年度愛臨技精度管理報告.愛臨技生理検査研究会.名古屋市.2021/2/20
---	--

（リハビリテーション技術室）

1	森嶋 直人.シンポジウム1 フィジカルセラピーの新展開.第43回日本顔面神経学会.松山市.2020/9/30
---	--

（事務局）

1	原瀬 正敏.医療経済・統計情報から考える画像診断の医療制度－公的統計・レセプトデータを例に－.第76回日本放射線技術学会総会学術大会 専門部会講座⑭ 医療情報(入門編).Web.2020/5/23
2	原瀬 正敏.データの質を担保するための放射線システムを考える.第76回日本放射線技術学会総会学術大会 第35回医療情報部会.Web.2020/5/23
3	原瀬 正敏.2020年度医療画像情報精度管理士セミナー.日本放射線技師会 2020年度医療画像情報精度管理士セミナー(WEB).Web.2021/2/28

講演（経営企画室・医療安全管理室・診療技術局・薬局・看護局・事務局）

（放射線技術室）

1	市川 肇.合同シンポジウム「骨SPECT定量のために必要な技術と知識」.第40回日本核医学技術学会総会学術大会.神戸市.2020/11/13
2	市川 肇.SPECTの最適な撮像条件を考えるためのポイント.第106回東三河RI技術検討会.豊橋市.2020/11/21
3	市川 肇.核医学検査における追加撮像の実態調査および有用性に関する研究.日本放射線技術学会 核医学部会 第2回オンライン抄読会.Web.2021/1/15
4	加藤 豊大.NEMA bodyファントムの作成方法.東三河PET技術セミナー.Web.2021/3/5

（中央臨床検査室）

1	山本 優.新型コロナウイルス遺伝子検査総覧.数多ある選択肢からどのように選ぶか.愛知県臨床検査技師会 微生物検査研究班.遺伝子染色体検査研究班 研究会.Web.2020/11/2
2	山本 優.尿培養の釣菌基準を考える.愛知県臨床検査技師会 微生物検査研究班 研究会.Web.2021/1/16
3	内田 一豊.血液形態カンファレンス-マルクの世界へようこそ-.シスメックス研修会.Web.2021/1/24

（リハビリテーション技術室）

1	沢入 豊和 .心不全再発・再入院予防に向けた地域連携.令和2年度第2回在宅リハビリテーション連絡会世話人会.豊橋市(Web).2020/9/24
2	森嶋 直人.顔面神経麻痺に対するフィジカルセラピーの現状 —ミニマムスタンダードは何か—.第43回日本顔面神経学会 シンポジウム1 松山市.2020/9/30
3	森嶋 直人.顔面神経麻痺-リハビリテーションのエビデンス・チーム医療・保険診療まで-.第121回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会シンポジウム「少子高齢社会におけるリハビリテーション」.岡山市(Web).2020/10/6
4	神谷 猛.NICUリハビリテーション-新生児期に理学療法介入する原点-.日本理学療法士協会学習動画特設サイト.Web.2020/11/1
5	内藤 善規.鈴木 一輝.中西 哲也.急性期脳卒中の理学療法で工夫していること ~原疾患の病態理解/病態理解に基づいたリスク管理/リスク管理に基づいた可及的早期離床/離床後の歩行再建~.第194回豊橋リハビリテーション連絡会.豊橋市.2020/12/2
6	神谷 猛.ガイドラインからみたパーキンソン病のリハビリテーション.第195回豊橋リハビリテーション連絡会.豊橋市(Web).2021/2/3
7	馬渡 敬介.「慢性腰痛」へのアプローチ ~実践編~.職員健康講座.豊橋市.2021/2/16
8	森嶋 直人.リハビリテーションと地域連携について.第4回豊橋市民病院地域医療支援委員会.豊橋市.2021/2/18
9	上村 晃寛.当院におけるCOVID-19対策について.第3回急性期呼吸ケア・リハビリテーション研究会.浜松市(Web).2021/3/27

（薬局）

1	中神 博充.注射薬について.リスクマネジメント講習会.豊橋市.2020/6/22
2	坂野 博紀.抗がん薬について.リスクマネジメント講習会.豊橋市.2020/6/22
3	橋本 雅子.処方薬について.リスクマネジメント講習会.豊橋市.2020/6/15
4	大川 昌宏.麻薬について.リスクマネジメント講習会.豊橋市.2020/6/15
5	坂野 博紀.当院の連携充実加算に向けた取り組み.豊橋薬業連携研修会.豊橋市.2020/12/10
6	村上 仁志.経口抗がん薬(カベシタピン・エスワン)の適正使用と管理.豊橋薬業連携研修会.豊橋市.2020/12/10
7	森 章典.AMRアクションプラン~当院の5年間~新型コロナウイルスワクチンについて.院内感染対策講習会.豊橋市.2021/2/4

（事務局）

1	原瀬 正敏.経営面を考慮したPACSの更新.第76回日本放射線技術学会総会学術大会.Web.2020/5/23
2	原瀬 正敏.事業継続計画(IT-BCP)~「突然のシステム障害・停止、対応できますか? (コロナ禍対策含む)」~.日本放射線技術学会 第1回 医療情報Webinar.Web.2020/8/22
3	原瀬 正敏.豊橋市民病院が電子カルテシステムに求めたものは、キャノンメディカルシステムズ ヘルスケア ITWebセミナー.Web.2020/9/5
4	原瀬 正敏.基礎から学ぶ困ったときの知恵袋~「知っておきたいガイドラインの紹介」.日本放射線技術学会医療情報部会 第12回ベシックセミナー in Webinar.Web.2020/11/28
5	原瀬 正敏.豊橋市民病院におけるDWHシステム導入の効果.令和2年度 CLISTA! ユーザー会.Web.2020/12/9

論文・著書 (経営企画室・医療安全管理室・診療技術局・薬局・看護局・事務局)

(放射線技術室)

1	Hajime Ichikawa.Phantom and clinical evaluation of bone SPECT/CT image reconstruction with xSPECT algorithm.European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging Reseach. 2020; 10: -.
2	Hajime Ichikawa.Optimization of a Bayesian penalized likelihood algorithm (Q.Clear) for 18F-NaF bone PET/CT images acquired over shorter durations using a custom-designed phantom.European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging Physics. 2020; 7: -.
3	Hajime Ichikawa.Multicenter study of quantitative SPECT imaging: reproducibility of 99mTc quantitation using a conjugated gradient minimization reconstruction algorithm.Journal of Nuclear medicine technology. 2021; 48: -.
4	Hajime Ichikawa.Experimental evaluation of the GE NM/CT 870 CZT clinical SPECT system equipped with WEHR and MEHRS collimator.Journal of Applied ClinicalMedicalPhysics. 2020; 12: 165-177.
5	市川 肇.デジタルファントムを用いた核医学イメージングにおけるシミュレーションコードの妥当性.日放線技会誌. 2021; 77: 41-47.
6	市川 肇.骨SPECT定量のために必要な技術と知識.核医技. 2021; 41: 61-64.
7	Hajime Ichikawa.Current state of oncologic 18F-FDG PET/CT in Japan: A nationwide survey.Asia Oceania Journal of Nuclear Medicine & Biology. 2021; 9: 1-9.
8	加藤 豊大.技術奨励賞(核医学部門).日本放射線技術学会中部支部. 2021; :-.
9	市川 肇.第3章SPECT(ガンマカメラ)画像に発生するアーチファクト.放射線医療技術叢書(38) アーチファクト・アトラス. 2021; : 86-90.

(中央臨床検査室)

1	内田 一豊.一般検査 穿刺液検査.品質保証・精度保証 教本. 2020; 1: 147-151.
2	内田 一豊.穿刺液検体の検査法-細胞数と細胞分類を中心に-~胸水、腹水、心嚢水、CAPD排液~.医学検査. 2020; 69: 701-710.
3	近藤 由香.誤差要因と対策「白血球」.愛知県臨床検査標準化ガイドライン「CBCの誤差要因と対策」. 2020; : 1-2.

(リハビリテーション技術室)

1	森嶋 直人.Effect of muscle strengthening on peripheral facial palsy: A randomized controlled trial.Physical Therapy Research. 2020; 23: 59-65.
2	森嶋 直人.顔面神経麻痺に対するフィジカルセラピーの現状 —ミニマムスタンダードは何か—.FACIAL NERVE RESEARCH JAPAN. 2020; 40: 17-18.
3	森嶋 直人.異なるプログラムによる末梢性顔面神経麻痺に対するリハビリテーションの効果とその後の検討-筋力強化は禁忌か-.FACIAL NERVE RESEARCH JAPAN. 2020; 40: 84-87.
4	内藤 善規.Association between out-of-bed mobilization and complications of immobility in acute phase of severe stroke: A retrospective observational study.Journal of stroke and cerebrovascular diseases. 2020; 29: 1-5.
5	内藤 善規.主幹動脈閉塞や狭窄を伴う急性期脳梗塞患者の運動麻痺悪化に関する後方視的調査.愛知理療会誌. 2020; 32: 99-105.
6	鈴木 一輝.人工膝関節全置換術後患者に対するNon-Gravity ROM Machine®の効果.愛知理療会誌. 2020; 32: 36-40.
7	神谷 猛.重症心身障害に対する理学療法NICU.小児リハ. 2020; 7: 8-13.

(看護局)

1	青木 真理.壮年期患者への導入期教育.透析ケア2020年冬季増刊号. 2020; : 14-18.
2	間瀬 有奈.各部署へのリンクナース配置・活用による成果.看護のチカラ2020no.534. 2020; 534: 42-48.
3	福井 道仁.気になる洗浄・滅菌管理、環境調整、材料管理Q&A.手術看護エキスパート5月号q. 2020; 14: 2-6.

(事務局)

1	原瀬 正敏.今そこにある危機 放射線診療のBCPを考える III サイバー攻撃に打ち勝つBCP 2. 放射線部門におけるサイバー攻撃対策.INNERVISION. 2021; 36: 33-35.
---	--

Ⅶ 院内委員会の 活動記録

1. 幹部会

日付	内容等
2020年4月6日	2020年度 第1回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② 新型コロナウイルス感染症に係る生活施設への病院職員の派遣について ③ 令和2年2月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ④ 病院内に常設されている委員会の委員長について ⑤ その他 新型コロナウイルス感染の拡大防止に向けた取り組みについて 総合医療情報システム更新に伴う診療制限に関する協力依頼について 時間外・休日労働に関する協定届(36協定)の締結について 長時間勤務者の対策報告書について
2020年4月13日	第2回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② その他 新型コロナウイルス感染の拡大防止に向けて 豊橋市民病院における新型コロナウイルス感染症対策について 令和2年度 空調(冷房運転)について 病院機能評価「期中の確認」の結果について
2020年4月20日	第3回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② 病院内に常設されている委員会の委員長について
2020年4月27日	第4回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② 令和2年3月分 病院事業活動状況(速報版) ③ 市民からの寄附物品の取り扱いについて ④ その他 新型コロナウイルスRNA定性(委託検査)について
2020年5月11日	第5回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② 令和2年3月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ③ 診療科別重要経営指標 ④ リビングウィルとDNAR同意書の院内周知について
2020年5月18日	第6回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② DPC医療機関別係数の修正について
2020年5月25日	第7回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② 令和2年4月分 病院事業活動状況(速報版) ③ その他 令和2年度患者満足度調査の実施について 新型コロナウイルス感染症に関する情報提供

2020年6月1日	<p>第8回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年4月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>③ 各種行事等の自粛の一部緩和について</p> <p>④ その他 新型コロナウイルス感染症対策に係る調査結果(情報提供)</p>
2020年6月8日	<p>第9回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p>
2020年6月15日	<p>第10回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② その他 受動喫煙防止の徹底について 東及び南病棟外壁改修等工事について 5月活動状況(見込)について</p>
2020年6月22日	<p>第11回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 紹介患者に対する返書管理の運用開始について</p> <p>③ その他 「豊橋市新型コロナ通知システム」について</p>
2020年6月29日	<p>第12回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 愛知県新型コロナウイルス感染症対策事業補助金に係る重点医療機関の指定希望について</p> <p>③ 令和2年5月分 病院事業活動状況(速報版)</p>
2020年7月6日	<p>第13回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年5月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>③ 第3次豊橋市民病院改革プランの策定について</p> <p>④ その他 平成30年度・令和元年度 経営状況比較</p>
2020年7月13日	<p>第14回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 外線用PHSの携帯電話への切替について</p> <p>③ 救急入院センター当直医について</p>
2020年7月20日	<p>第15回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年度第2期(8月～11月)36協定について</p> <p>③ 静脈血栓塞栓症リスク評価について</p>
2020年7月27日	<p>第16回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年6月分 病院事業活動状況(速報版)</p> <p>③ 手術患者のCOVID-19のPCR検査について</p> <p>④ 静脈血栓塞栓症リスク評価について</p> <p>⑤ その他 新型コロナウイルス感染拡大防止における不要不急の外出自粛について WEB会議システムの利用開始について</p>

2020年8月3日	<p>第17回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年6月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>③ 全身麻酔下での手術患者における術前COVID-19検査について</p> <p>④ その他 新型コロナウイルス感染拡大防止における不要不急の外出自粛について 時間外・休日労働に関する協定届(36協定)の締結について</p>
2020年8月17日	<p>第18回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 静脈血栓塞栓症リスク評価について</p> <p>③ 診療費の後払いサービスの導入について</p>
2020年8月24日	<p>第19回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② その他 新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金の交付事業について</p>
2020年8月31日	<p>第20回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年7月分 病院事業活動状況(速報版)</p> <p>③ 外傷・マイクロサージャリーセンターの設置について</p> <p>④ その他 気管切開術後早期管理マニュアルの作成について</p>
2020年9月7日	<p>第21回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年7月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>③ 第3次豊橋市民病院改革プランの策定について</p> <p>④ その他 勤務時間中の私語について</p>
2020年9月14日	<p>第22回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② その他 新型コロナウイルス感染症に関する病院経営影響度追加調査(情報提供)</p>
2020年9月28日	<p>第23回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年8月分 病院事業活動状況(速報版)</p> <p>③ 遺伝子パネル検査運用フローについて</p> <p>④ リハビリテーション療法士の病棟専従拡充について</p> <p>⑤ 令和2年度 医療安全推進週間の取り組みについて</p> <p>⑥ 令和2年度 インフルエンザワクチン接種について</p> <p>⑦ 愛知病院への職員派遣予定について</p> <p>⑧ その他 新型コロナウイルス感染拡大防止における緊急事態措置対象区域の縮小について 手術支援ロボットシステム2台体制の報道発表について</p>

2020年10月5日	<p>第24回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年8月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>③ 静脈血栓塞栓症リスク評価について</p> <p>④ その他 令和2年度 病院に対する立入検査の実施について</p>
2020年10月12日	<p>第25回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p>
2020年10月19日	<p>第26回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② その他 令和2年度 空調(暖房運転)について 令和2年度決算見込及び令和3年度予算について 豊橋市立看護専門学校の授業時間変更について 新型コロナウイルス感染症専門病院の受け入れ患者等について</p>
2020年10月26日	<p>第27回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年9月分 病院事業活動状況(速報版)</p> <p>③ 院外からの迷惑電話対策について</p> <p>④ その他 糖尿病週間啓発イベントについて</p>
2020年11月2日	<p>第28回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年9月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>③ 診療科別重要経営指標</p> <p>④ その他 院内グループウェア用パソコンの更新について</p>
2020年11月9日	<p>第29回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② インスリンシステムの新規稼働について</p>
2020年11月16日	<p>第30回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年度第3期(12月～3月)36協定について</p> <p>③ その他 令和2年度 患者満足度調査結果報告書について 令和2年度 保険診療に関する講習会の開催について</p>
2020年11月30日	<p>第31回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年10月分 病院事業活動状況(速報版)</p> <p>③ 時間外・休日労働に関する協定届(36協定)の締結について</p> <p>④ その他 新型コロナウイルス感染拡大防止における不要不急の外出自粛及び多人数での懇親会の開催自粛について 新市長名の表記について</p>

2020年12月7日	<p>第32回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年10月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>③ その他</p> <p>「2020 医療安全推進週間」ポスター一次投票結果 医薬品談合について(情報提供)</p>
2020年12月14日	<p>第33回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② その他</p> <p>医師の長時間勤務者への産業医面談について 院内公衆無線LAN利用可能エリアの拡充について</p>
2020年12月21日	<p>第34回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② その他</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止における不要不急の外出自粛について(対象 区域変更)</p> <p>入院申込書等の押印の見直しに伴う様式の変更について</p>
2020年12月28日	<p>第35回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年11月分 病院事業活動状況(速報版)</p> <p>③ その他</p> <p>「令和元年10月の消費税率10%引上げに伴う補てん状況の調査」結果(情報提供)</p>
2021年1月4日	<p>第36回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 感染症病棟整備事業に係る作業部会の設置について</p> <p>③ その他</p> <p>喫茶室運営事業者選定結果について</p>
2021年1月18日	<p>第37回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② その他</p> <p>令和元年度 Q I 推進事業(日本病院会)結果報告について 吸引設備改修作業について 令和2年度 豊橋市民病院災害対策訓練概要 看護局認定看護師について</p>
2021年1月25日	<p>第38回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年12月分 病院事業活動状況(速報版)</p>
2021年2月1日	<p>第39回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症に関する報告</p> <p>② 令和2年12月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>③ その他</p> <p>院外メール添付ファイル自動暗号化の開始について 愛知県新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金給付時期について</p>

2021年2月8日	第40回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告
2021年2月22日	第41回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② 令和3年1月分病院事業活動状況(速報版)
2021年3月1日	第42回 ① 新型コロナウイルスに関する報告 ② 令和3年1月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ③ 病理組織検体の取扱いについて
2021年3月8日	第43回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② 紹介率・逆紹介率について
2021年3月15日	第44回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② その他 せん妄ハイリスク患者ケア加算算定の開始について
2021年3月22日	第45回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② 時間外休日労働に関する協定(36協定)について ③ その他 植木鉢の賃借について レセプト未請求件数・点数一覧表について 令和3年4月1日付職員の昇格及び異動について
2021年3月29日	第46回 ① 新型コロナウイルス感染症に関する報告 ② 令和3年2月分 病院事業活動状況(速報版) ③ 病院内に常設されている委員会の委員長について ④ その他 ドクターカーの導入について 診療費後払いサービスのサービス開始について 令和3年度 職員必携について

2. 不正防止対策委員会

【未開催】

3. 運営会議

日付	内容等
2020年4月14日	2020年度 第1回 ① 令和2年2月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(2月15日～3月13日)の集約 ③ 各委員会からの報告 ④ 入退院支援・地域連携について
2020年5月12日	第2回 ① 令和2年3月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(3月14日～4月14日)の集約 ③ 各委員会からの報告 ④ 施設基準の届出状況と算定に伴う注意点について ⑤ 令和元年度診療科別重要経営指標
2020年6月9日	第3回 ① 令和2年4月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(4月15日～5月15日)の集約 ③ 各委員会からの報告 ④ リハビリテーションセンターの取り組みについて
2020年7月14日	第4回 ① 令和2年5月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(5月16日～6月16日)の集約 ③ 各委員会からの報告 ④ 看護必要度Ⅱへの移行について
2020年8月11日	第5回 ① 令和2年6月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(6月17日～7月14日)の集約 ③ 各委員会からの報告 ④ 診療報酬の根拠となる記載について
2020年9月8日	第6回 ① 令和2年7月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(7月15日～8月14日)の集約 ③ 各委員会からの報告 ④ 診療材料ベンチマーク分析について ⑤ 第3次豊橋市民病院改革プランの策定について
2020年10月13日	第7回 ① 令和2年8月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(8月15日～9月15日)の集約 ③ 各委員会からの報告 ④ 放射線治療室の取り組みについて ⑤ 2020年度上半期-入院支援の取り組み報告

2020年11月10日	<p>第8回</p> <p>① 令和2年9月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>② 提案箱(9月16日～10月16日)の集約</p> <p>③ 各委員会からの報告</p> <p>④ 中央臨床検査室における管理料について</p> <p>⑤ 診療科別重要経営指標</p> <p>⑥ インスリンシステムの新規稼働(全病棟、全診療科への展開)について</p>
2020年12月8日	<p>第9回</p> <p>① 令和2年10月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>② 提案箱(10月17日～11月13日)の集約</p> <p>③ 各委員会からの報告</p> <p>④ 臨床工学室の取り組みについて</p>
2021年1月12日	<p>第10回</p> <p>① 令和2年11月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>② 提案箱(11月14日～12月15日)の集約</p> <p>③ 各委員会からの報告</p> <p>④ 薬局の取り組みについて</p>
2021年2月9日	<p>第11回</p> <p>① 令和2年12月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>② 提案箱(12月16日～1月15日)の集約</p> <p>③ 各委員会からの報告</p> <p>④ 医療安全管理室の取り組みについて</p>
2021年3月9日	<p>第12回</p> <p>① 令和3年1月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>② 提案箱(1月16日～2月12日)の集約</p> <p>③ 各委員会からの報告</p> <p>④ 栄養管理室の取り組みについて</p>

4. 倫理委員会

日付	内容等
2020年7月16日	<p>2020年度第1回</p> <p>① 脳死判定医の選出について</p>

5. 臨床倫理検討委員会

日付	内容等
2020年4月24日	<p>2020年度 第1回</p> <p>① リビングウィルとDNAR同意書の院内周知について</p> <p>② 倫理コンサルテーションについて</p> <p>③ 専門チームの設置について</p> <p>④ その他</p>

2020年7月31日	第2回 ① 専門部会の活動について ② DNAR院内周知後について ③ 今年度の講演会について ④ その他
2019年7月25日	第3回 ① DNARに関する同意フォーム、運用指針について ② ACP記載フォーム、運用指針について
2020年11月12日	令和2年度 臨床倫理講習会 テーマ:「医療現場における法と倫理 ～終末期医療の在り方について～」 講師:中京大学法務総合教育研究機構教授 稲葉一人先生
2020年12月15日	名古屋第二赤十字病院 倫理コンサルテーションチーム見学 (医局、看護局、事務局各1名)
2021年1月29日	第4回 ① 今後の倫理コンサルテーションについて ② ACPボタンの変更について ③ 専門部会からの提案事項

6. 臨床研究審査委員会

日付	内容等
2020年5月21日	2020年度第1回 議題なし
2020年7月16日	第2回 議題なし
2020年9月17日	第3回 議題なし
2020年11月19日	第4回 ① リキッドバイオプシーを用いた切除不能RAS野生型大腸癌に対する抗EGFR抗体の効果予測
2021年1月21日	第5回 ① 切除不能遠位胆道悪性閉塞を伴う膵癌に対する10mm径および12mm径金属ステントの無作為化比較第Ⅲ相試験
2021年3月18日	第6回 議題なし

6-1. 臨床研究事前審査会

日付	内容等
2020年4月8日	2020年度第1回 ① 全国放射線治療症例に基づく放射線治療の実態調査および質評価 ② 実臨床における間質性肺炎を合併した関節リウマチに対するアバタセプトの臨床成績 ③ 早期乳がんに対する乳房温存手術後の残存乳房へ放射線療法を実施した患者の急性期皮膚障害と乳房の整容性の検討 ④ 急性骨髄性白血病を対象としたクリニカルシーケンスの実行可能性に関する研究 ⑤ 日本整形外科学会症例レジストリー(JOANR)構築に関する研究 ⑥ 前立腺がん患者の診断時背景因子と初期治療および治療経過に関する実態調査研究 ⑦ 豊橋市民病院泌尿器科 NCD症例登録 ⑧ 我が国のGIST治療におけるイマチニブ使用の実態に関する研究
2020年4月16日	第2回 ① COVID-19に関するレジストリ研究
2020年5月13日	第3回 ① 造血細胞移植および細胞治療の全国調査 ② 日本産科婦人科学会周産期委員会 周産期登録事業及び登録情報に基づく研究 ③ AIによる画像診断(病理・放射線)についての研究 ④ 肺疾患患者の入院での食事摂取状況と栄養指標変化の検討 ⑤ 再発・難治性FLT3遺伝子変異陽性急性骨髄性白血病におけるギルテリチニブの有効性とその感受性規定因子に関する研究 ⑥ びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫におけるMYCおよびBCL2またはBCL6の再構成を伴う高悪性度B細胞リンパ腫の網羅的同定の検討 ⑦ EGFR遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対するアファチニブとオシメルチニブの後方視的観察研究(CJLSG 1903) ⑧ JROAD-DPCを使用した、劇症型心筋炎の疾患登録とその解析 ⑨ AIを用いた頭頸部癌予後解析に関する多施設研究 ⑩ 慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)における筋萎縮の研究 ⑪ アダリムマブ(ADA)とメトトレキサート(MTX)併用時のMTX減量による臨床的効果の比較 ⑫ 関節リウマチ患者の治療継続性からみた至適医療に関する臨床研究 ⑬ 早期関節リウマチ患者における初期治療効果反応性による治療強化の予後予測に関する研究 ⑭ 関節リウマチ患者の新規椎体骨折発生に対するゾレドロン酸とデノスマブの有効性の検討 多施設共同非盲検ランダム化比較試験 ⑮ 固形がん患者に対する化学療法後のHBV再活性化リスク:多施設共同後方視的観察研究 ⑯ 切除不能な進行・再発非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブの多施設共同前向き観察研究

2020年6月3日	<p>第4回</p> <p>① 当院で経験した妊娠関連乳癌症例の妊娠分娩管理、治療および予後</p> <p>② 入院患者における点滴・注射業務に関するエラーの分析とその改善の試み — アクシデント・インシデントレポートを用いた分析 —</p> <p>③ 入院患者における点滴・注射業務に関するエラーの分析とその改善の試み — 輸液ポンプ使用時のエラー減少へのはたらきかけ —</p> <p>④ 育児休業から復帰した看護師の継続就業に関する研究</p> <p>⑤ 特発性中大脳動脈閉塞症(Twig-like middle cerebral artery)の異常血管網と脳卒中に関する研究</p>
2020年6月12日	<p>第5回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症の遺伝学的知見に基づいたCOVID19ワクチンの開発と評価系の構築</p>
2020年7月1日	<p>第6回</p> <p>① 関節リウマチにおけるイグラチモドの治療成績 — 併用薬パターン別の比較 —</p> <p>② National Clinical Databaseを用いた日本における未破裂脳動脈瘤の治療成績に関する後向き観察研究</p> <p>③ 28日間持続的に抗がん剤注入療法が必要な白血病患者の在宅支援</p> <p>④ 悪性リンパ腫合併妊娠の多施設共同後方視的観察研究</p> <p>⑤ 非血縁臍帯血移植および非血縁末梢血幹細胞移植においてGVHD予防法とanti-thymocyte globulin投与が移植後免疫再構築へ及ぼす影響についての検討</p> <p>⑥ 血液疾患登録</p> <p>⑦ 熱中症患者の医学情報等に関する疫学調査</p> <p>⑧ ダ・ヴィンチSi手術システムを用いたロボット支援腹腔鏡下胃手術の有用性と安全性を検討する臨床研究</p> <p>⑨ 当院における高齢者に対する高難度肝胆膵手術の検討</p> <p>⑩ 下垂体腫瘍組織からの細胞株樹立と細胞株が産生する物質を用いた研究および臨床応用</p> <p>⑪ 融解胚移植周期における天然型エストラジオール経口剤と経皮吸収貼付剤による無作為割付け前向き比較対照臨床試験</p>
2020年8月5日	<p>第7回</p> <p>① がん化学療法患者のステロイド累積投与量による糖尿病発症率とリスク因子についての検討</p> <p>② 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究</p> <p>③ 骨盤骨折治療における外側大腿皮神経損傷合併の調査</p> <p>④ 骨盤骨折手術における合併症対策に対する研究</p> <p>⑤ コラーゲン使用吸収性神経再生誘導材(リナーブ®)の臨床調査</p> <p>⑥ 小児前腕骨骨幹部骨折における術後合併症の調査</p> <p>⑦ 小児科病棟における入院患児とその家族への入院時要望確認の現状</p> <p>⑧ SPECT総合性能評価ファントムの開発</p> <p>⑨ 胆膵領域の腫瘍性疾患に対する超音波造影剤Sonazoid®を用いた造影超音波検査の有効性の検討</p> <p>⑩ インタクトPTHの各アッセイ間比較</p> <p>⑪ 骨髄増殖性腫瘍における遺伝子異常と臨床経過の解析</p> <p>⑫ 副甲状腺癌多発家系におけるHPRT2遺伝子変異の検討</p>

<p>2020年9月2日</p>	<p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① てんかん・熱性けいれんの遺伝子研究 ② 日本小児がん研究グループ血液腫瘍分科会(JPLSG)における小児血液腫瘍性疾患を対象とした前方視的研究 ③ 家族性糖尿病の遺伝子解析 ④ 我が国のGIST治療におけるイマチニブ使用の実態に関する研究 ⑤ 内科系医療技術負荷度調査 ⑥ 関節リウマチ患者の新規椎体骨折発生に対するゾレドロン酸とデノスマブの有用性の検討 多施設共同非盲検ランダム化比較試験 ⑦ エミシズマブ定期投与中のFVIIIインヒビターを保有しない先天性血友病A患者における、身体活動及び出血イベント、日常生活の質、安全性を評価する多施設共同、前向き観察研究(20歳以上) ⑧ エミシズマブ定期投与中のFVIIIインヒビターを保有しない先天性血友病A患者における、身体活動及び出血イベント、日常生活の質、安全性を評価する多施設共同、前向き観察研究(20歳未満) ⑨ AIを用いた頭頸部癌予後解析に関する多施設研究 ⑩ 日本外傷データバンクへの外傷患者登録と登録データを用いた臨床研究 ⑪ 救急医療機関におけるアナフィラキシー患者の実態調査 ⑫ 球脊髄性筋萎縮症における筋力の長期経過 ⑬ 豊橋市民病院 産婦人科 NCD症例登録 ⑭ ろ紙血を用いた新生児腎不全スクリーニング ⑮ 消化器内視鏡及び腹部超音波に対する人工知能を用いた画像診断システムの開発研究
<p>2020年10月7日</p>	<p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺摘出術の疫学調査、登録制度 ② 脊椎疾患(頸椎胸椎後縦靱帯骨化症・黄色靱帯骨化症・脊柱変形・腫瘍)の治療法を検証する前向き多施設調査 ③ 精神疾患合併妊産婦のより適切な管理法の開発 ④ COVID-19に関するレジストリ研究 ⑤ 新型コロナウイルス感染症の遺伝学的知見に基づいたCOVID19ワクチンの開発と評価系の構築 ⑥ 高齢者急性硬膜下血腫に対する内視鏡下血腫除去術の有用性に関する研究 ⑦ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に脳卒中を発症した患者の臨床的特徴を明らかにする研究 — 今後拡大が予測されるCOVID-19への対策の模索 — ⑧ 原発性自然気胸に対する胸腔鏡下ブラ切除後の再発リスク低下に最も有効な追加手技に関する研究 ⑨ 高悪性度B細胞リンパ腫の臨床病理学的検討 ⑩ 前向き観察研究に登録された骨髄異形成症候群における、同種移植までの橋渡し治療と移植成績の検討 ⑪ JAK2変異陰性多血症患者における睡眠時無呼吸症候群検査の有用性 ⑫ 中枢神経系原発非ホジキンリンパ腫に対する大量MTX療法と全脳照射療法の単施設における後方視的観察研究 ⑬ 骨シンチグラフィにおける検査時の問診の有用性に関する研究 ⑭ 切除不能な進行・再発非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブの多施設共同前向き観察研究

2020年11月4日	<p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 多分野合議による間質性肺炎診断に対する多施設共同前向き観察研究 ② 特発性間質性肺炎の前向きレジストリの構築とインタラクティブMDD診断システムを用いた診断標準化に基づく疫学データの創出 — AI診断システムと新規バイオマーカーの開発 — ③ 先天代謝異常症症例の遺伝子変異を同定後、経過観察調査をおこなう研究 — 研究として遺伝子診断を行う疾患 — ④ カテーテルアブレーション症例全例登録プロジェクト ⑤ がん診療均てん化のための臨床情報データベース構築と活用に関する研究 ⑥ ミトコンドリア病におけるレジストリ事業を中心とした疫学研究、及び診療ガイドライン策定や特殊診断の確立などに関する臨床研究 ⑦ 杉田クリニックを用いて治療した患者の術後評価(観察研究)多施設共同単群後向き研究 ⑧ 手術を受ける患者の不安、ストレスの調査
2020年12月2日	<p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 再発・難治性FLT3遺伝子変異陽性急性骨髄性白血病におけるギルテリチニブの有効性とその感受性規定因子に関する研究 ② 急性期脳卒中患者のmodified Rankin Scale別合併症発生率について ～離床・歩行により転倒の増加なく感染症が減少するか～ ③ 初発再生不良性貧血に対する免疫抑制療法におけるエルトロンボパグ併用の有用性の検討 ④ 気道異物による窒息に対する多施設前向き観察研究 ⑤ 患者情報システムを用いた集中治療部の機能評価 ⑥ 術前MRIを使用した急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の手術難度予測 ⑦ 慢性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の手術困難リスク因子 ⑧ BMI40以上の帝王切開の麻酔管理
2021年1月6日	<p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 血液疾患登録 ② TKIが使用されたJALSG Ph+ALL臨床試験とTRUMPデータの統合による予後因子解析 ③ レセプト等情報を用いた脳卒中・脳神経外科医療疫学調査 ④ MEFV(Pyrin) 遺伝子の解析 ⑤ 直前の生物学的製剤が有害事象で中止になった関節リウマチ症例に対するアバタセプト使用の有効性と安全性の評価 ⑥ 呼吸器外科の低侵襲手術における創(ポート)の数や挿入肋間部位と術後疼痛に関する調査 ⑦ 骨SPECTにおけるCT減弱補正を用いない定量方法の精度の検証 ⑧ 消化器内視鏡に関連する疾患、治療手技データベース構築 ⑨ 研究参加施設に新たに発生する全ての成人ALL症例を対象とした5年生存率に関する前向き臨床観察研究 ⑩ 日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究 ⑪ 成人急性骨髄性白血病の発症・進展および治療反応性、副作用に関係する遺伝子異常の網羅的解析 ⑫ ポナチニブのPK/PD/PGxに基づく適正使用と安全性情報に関する研究

2021年2月3日	<p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 造血細胞移植および細胞治療の全国調査 ② ファビピラビル等の抗ウイルス薬が投与されたCOVID-19患者の背景因子と治療効果の検討 ③ 高悪性度B細胞リンパ腫の臨床病理学的検討 ④ 切除不能肝細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害薬と分子標的治療薬治療における治療効果と安全性に関するバイオマーカー探索研究 ⑤ 病理診断にもとづく成人ランゲルハンス細胞組織球症(LCH)の疫学研究 ⑥ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の長期合併症の実態把握と病態生理解明に向けた基盤研究 ⑦ 当院における食道癌の放射線治療成績 ⑧ 深層学習を用いたPET画像の画質改善および特徴量抽出 ⑨ ダ・ヴィンチSi手術システムを用いたロボット支援腹腔鏡下胃手術の有用性と安全性を検討する臨床研究
2021年3月3日	<p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① EGFR遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対するアファチニブとオシメルチニブの後方視的観察研究(CJLSG1903) ② 第26回川崎病全国調査 ③ 先天奇形症候群における遺伝的要因の探索 ④ 一側感音難聴の実態調査 ⑤ 潰瘍性大腸炎患者における抗TNF-α抗体薬中止時の免疫調節薬併用と再燃率の検討 ⑥ 救急外来における菌血症予測モデル ⑦ National Clinical Database(日本臨床データベース機構, NCD)における症例登録事業
2021年3月26日	<p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 周産期型および乳児型低ホスファターゼ症の病勢を反映する臨床的マーカーの探索

7. 業務改善委員会

【未開催】

7-1. 医師事務作業軽減部会

日付	内容等
2020年5月21日	<p>2020年度第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和元年度 医師事務作業補助者の現状について ② 令和元年度 医師事務作業補助者業務計画の実績について ③ ドクタークラークの支援業務に関する方針について ④ 医師事務作業補助者業務計画について
2020年7月16日	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医師事務作業補助業務依頼申請(循環器内科)について ② 書類の軽微な修正について ③ 新規で医師事務作業補助業務依頼申請があった場合の決議方法について

8. 接遇委員会

日付	内容等
2021年1月18日	2020年度第1回 ① 接遇研修の業者選定について ② 令和3年度接遇目標の募集について
2021年 3月	第2回(書面開催) ① 令和3年度接遇目標の選定について

8-1. 患者満足度調査検討会

日付	内容等
2020年5月15日	2020年度第1回 ① 調査の実施スケジュールについて ② 患者満足度調査の概要について 入院中の食事の満足度について 外来患者用駐車場について 外来診療の待ち時間について 患者総合支援センターについて ③ 今年度調査の実施方針について

9. 災害対策検討委員会

日付	内容等
2020年11月26日	2020年度第1回 ① 災害対応マニュアルの改訂について ② 災害対応訓練について

9-1. 地震対策部会

【未開催】

9-2. DMAT運営部会

日付	内容等
2020年6月16日	2020年度第1回 ① 年間スケジュール(各研修・訓練参加者確認) ② EMIS新バージョンリリースおよび一時利用停止について
2020年9月25日	第2回 ① 年間スケジュール(各研修・訓練参加者確認) ② DMAT出動の流れについて ③ DMAT隊用無線機の更新について ④ EMIS操作確認について
2020年12月18日	第3回 ① DMAT出動基準について ② PCの管理について ③ その他
2021年3月19日	第4回 ① 令和3年度年間スケジュール(各研修・訓練参加者確認) ② その他

10. 年報編集委員会

日付	内容等
2021年3月19日	2020年度第1回 ① 病院年報第30巻(2020年版)について ② 病院年報第30巻(2020年版)作成スケジュール ③ 病院年報第30巻(2020年版)の原稿提出依頼について ④ 編集後記執筆者について

11. 広報紙編集委員会

日付	内容等
2020年5月13日	第25回 青竹第85号の編集について
2020年8月12日	第26回 青竹第86号の編集について
2020年11月11日	第27回 青竹第87号の編集について
2021年2月5日	第28回 青竹第88号の編集について

12. 院内感染対策委員会

日付	内容等
2020年5月12日	第296回 ①「新型コロナウイルスRNA 定性」検査の運用について ②「電話再診 フロー」新型コロナウイルス感染症に伴う臨時的対応
2020年6月9日	第297回 ① 抗菌薬適正使用支援サーベイランス AST活動集計 (2020.1~2020.3) ② 狂犬病症例 ③ 令和2年度 第1回 院内感染対策講習会について
2020年7月14日	第298回 ① カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE) 東2(小児科)症例について ② 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)発生時における診療継続計画(案)
2020年8月11日	第299回 ①新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について
2020年9月8日	第300回 ① 東病棟6階におけるカルバペネム耐性腸内細菌(CPE) について ② 東病棟9階における職員の水痘曝露事例について ③ 抗菌薬適正使用支援サーベイランスについて ④ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について ⑤ JANIS手術部位感染部門((SSIサーベイランス)還元情報2019年1月~6月 半期報について
2020年10月13日	第301回 ① 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について ② 感染防止対策地域連携加算相互訪問における他者評価 ③ 第1回 院内感染対策講習会について ④ 第2回 院内感染対策講習会 開催予定について
2020年11月10日	第302回 ① 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について ② COVID-19冬期対策 発熱外来開設について ③ ICT巡回ラウンド環境培養調査 結果報告 ④ 抗菌薬使用ガイドライン第6版改訂について
2020年12月8日	第303回 ① 抗菌薬適正使用支援サーベイランス 活動集計 ② 抗菌薬使用ガイドライン第6版改訂について ③ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について
2021年1月12日	第304回 ① 抗菌薬使用ガイドライン第6版改訂について ② 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について COVID-19陽性患者入院状況 東病棟3階におけるCOVID-19の職員発症事例 東病棟4階におけるCOVID-19の職員発症事例 死亡時の家族面会について ワクチン接種について ③ 令和2年度 第2回 院内感染対策講習会について ④ 令和2年度 第3回 院内感染対策講習会について

2021年2月9日	<p>第305回</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) について COVID-19陽性患者入院状況 西病棟8階におけるCOVID-19の職員発症事例 東病棟7階におけるCOVID-19の職員発症事例</p> <p>② 令和2年度 第3回 院内感染対策講習会について</p>
2021年3月9日	<p>第306回</p> <p>① 西病棟2階におけるMRSAのアウトブレイク事例</p> <p>② COVID-19陽性患者入院状況</p> <p>③ 南病棟におけるCOVID-19の職員発症事例</p> <p>④ 使用届出集計(カルバペネム系、セフェム系)2020.7~2020.12</p> <p>⑤ 使用届出集計(抗MRSA薬)2020.7~2020.12</p> <p>⑥ AST(カルバペネム)活動集計(2020.10~2020.12)</p> <p>⑦ AST(血培陽性)活動集計(2020.10~2020.12)</p> <p>⑧ AMRアクションプラン2016~2020</p>

13. 脳死判定委員会

日付	内容等
2020年7月13日	<p>2020年度第1回</p> <p>① 法的脳死判定医の選出について</p>

14. 救命救急委員会

日付	内容等
2020年6月16日	<p>2020年度第1回</p> <p>① 報告事項(令和2年2月~4月分)</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症関連</p> <p>③ ドクターカーの現状</p> <p>④ 緊急性のないウォークイン患者対応について</p> <p>⑤ 救急ベッドの運用状況報告</p> <p>⑥ 救急入院センター当直医の在り方について</p> <p>⑦ 今後の開催について</p>
2020年9月25日	<p>第2回</p> <p>① 報告事項(令和2年5月~7月分)</p> <p>② 救急科アンケートについて</p> <p>③ ドクターカーの導入について</p> <p>④ ICU利用者率について</p> <p>⑤ 救急入院料1の算定について</p> <p>⑥ その他</p>

2020年12月18日	<p>第3回</p> <p>① 報告事項(令和2年8月～10月分)</p> <p>② COVID-19、インフルエンザ検査についてのERの方針について</p> <p>③ ドクターカーの運用について</p> <p>④ 現在行っているBriefing、Debriefingシート運用状況について</p> <p>⑤ NursePractitionerについて</p> <p>⑥ 外傷部会の設立について</p> <p>⑦ ICLS、JPTECを救命救急委員会の部会とする案について</p>
2021年3月19日	<p>第4回</p> <p>① 報告事項(令和2年11月～令和3年1月分)</p> <p>② ドクターカーの運用について</p> <p>③ 充実段階調査について</p> <p>④ ICU・救命ベッドの有効利用について</p>

15. 集中治療室運営委員会

日付	内容等
2020年6月16日	<p>2020年度第1回</p> <p>① 集中治療室運営委員会報告</p>
2020年9月25日	<p>第2回</p> <p>① 集中治療室運営委員会報告</p>
2020年12月18日	<p>第3回</p> <p>① 集中治療室運営委員会報告</p>
2021年3月19日	<p>第4回</p> <p>① 集中治療室運営委員会報告</p>

16. 診療材料選定委員会

日付	内容等
2020年12月14日	<p>2020年度第1回</p> <p>「全国共同購入事業」への参画(管理課)</p>
2020年12月21日	<p>第2回</p> <p>誤接続防止コネクタ導入(経腸栄養分野)関連診療材料 (医療安全管理室)</p>

17. 手術センター運営委員会

日付	内容等
2020年4月27日	2020年度第1回 ① 令和元年度 第12回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(3月手術件数等・令和元年度手術件数) ③ インシデント事例報告について ④ 吸引ポンプ設備故障に伴う対応について ⑤ 休日の準緊急症例の対応について ⑥ 気管切開の術前検査について ⑦ 新型コロナ対応に伴う部屋移動と入力について ⑧ 手術予定表について ⑨ その他
2020年5月25日	第2回 ① 令和2年度 第1回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(4月手術件数等) ③ インシデント事例報告について ④ 滅菌ガウンについて ⑤ アンケート調査の結果について ⑥ 新型コロナ対策について ⑦ 男女更衣室の噴霧処理について ⑧ 手術予定表について ⑨ その他
2020年6月22日	第3回 ① 令和2年度 第2回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(5月手術件数等) ③ 5月活動状況について ④ インシデント事例報告について ⑤ 全身麻酔に伴う禁煙の同意書について ⑥ da Vinci購入の現況について ⑦ 手術予定表について ⑧ その他
2020年7月27日	第4回 ① 令和2年度 第3回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(6月手術件数等) ③ アクシデント・インシデント事例報告について ④ 手術センター棟の空調について ⑤ da Vinciの手術オーダー入力について ⑥ 全身麻酔に伴う禁煙の同意書について ⑦ 手術予定表について ⑧ その他
2020年8月24日	第5回 ① 令和2年度 第4回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(7月手術件数等) ③ アクシデント・インシデント事例報告について ④ da Vinci Xi稼働に向けてのスケジュールについて ⑤ 手術センターでの体温測定について ⑥ 手術予定表について ⑦ その他

2020年9月28日	<p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和2年度 第5回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(8月手術件数等) ③ アクシデント・インシデント事例報告について ④ 手術センター棟空調機停止について ⑤ 硬麻キット、TAPキットのディスプレイ化に向けて ⑥ 外科、泌尿器科でのキット直前展開の運用開始について ⑦ 手術予定表について【11月からダヴィンチ枠の変更あり】 ⑧ 手術センター男女更衣室の噴霧処理について ⑨ その他
2020年10月26日	<p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和2年度 第6回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(9月手術件数等) ③ アクシデント・インシデント事例報告について ④ 硬膜外カテーテルコネクターカバーについて ⑤ COVID-19のPCR・抗原検査の運用について ⑥ DVTのチェックについて ⑦ 外注器械の運用について ⑧ 手術予定表について ⑨ その他
2020年11月30日	<p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和2年度 第7回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(10月手術件数等) ③ アクシデント・インシデント事例報告について ④ 同意書の確認について ⑤ 手術に同席する業者の体温測定について ⑥ 手術予定表について ⑦ その他
2020年12月21日	<p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和2年度 第8回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(11月手術件数等) ③ アクシデント・インシデント報告 ④ 予定手術の術前COVID検査について ⑤ 年末年始の手術部屋床修理について ⑥ 予定手術の輸血オーダーについて ⑦ 手術予定表について ⑧ その他
2021年1月25日	<p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和2年度 第9回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(12月手術件数等) ③ インシデント事例報告について ④ 手術センターにおける手術同意書の運用変更について ⑤ 膀胱留置カテーテルについて ⑥ 手術予定表について ⑦ その他

2021年2月22日	第11回 ① 令和2年度 第10回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(1月手術件数等) ③ インシデント事例報告について ④ 入室時の手術同意書の確認について ⑤ 予防抗菌薬投与時間について ⑥ 手術予定表について ⑦ その他
2021年3月22日	第12回 ① 令和2年度 第11回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について(2月手術件数等) ③ インシデント事例報告について ④ COVID対応について ⑤ 手術室の室温調整と新棟の除湿工事について ⑥ 手術予定表について ⑦ 令和3年度手術センター運営会議予定表について ⑧ 外注インプラントLOT管理について ⑨ その他

18. 医療器械・備品機種選定委員会

日付	内容等
2020年6月22日	2020年度第1回 手術支援ロボットシステム(手術センター)
2020年9月14日	第2回 センチュリオンビジョンシステム(眼科)
2020年9月28日	第3回 X線コンピュータ断層撮影装置(放射線技術室) 血管内超音波画像診断装置(循環器内科) 臨床用ポリグラフ(循環器内科)
2020年10月5日	第4回 生体情報モニタ(小児科(新生児))
2020年10月12日	第5回 生体情報モニタ(ICU)
2020年12月7日	第6回 フローサイトメーター(中央臨床検査室)
2020年12月21日	第7回 紫外線照射装置(感染症管理センター) 生体情報モニタ(臨床工学室)
2021年3月29日	第8回 注射薬自動払出システム(薬局)

19. 図書委員会

日付	内容等
2020年7月9日	2020年度第1回 ① 令和元年度 決算報告について ② 令和2年度 予算執行状況について ③ 令和3年度購読雑誌の変更について ④ 電子ジャーナル利用統計による購読中止の検討について ⑤ 図書・雑誌の除籍について

20. 研修委員会

日付	内容等
2020年6月3日	2020年度第1回 ① 卒後臨床研修センター長あいさつ ② 臨床研修の理念と基本方針について ③ 研修委員会名簿について ④ 令和2年度 オリエンテーション評価について ⑤ 平成30年卒研修医(修了者)の指導環境評価について ⑥ 平成31年卒 研修医評価について ⑦ 令和2年卒 研修医評価について ⑧ 新たな臨床研修制度について ⑨ 令和3年度採用 初期臨床研修医選考について ⑩ 令和2年度 委員会等予定について
2020年10月7日	第2回 ① 研修医の評価について ② 2020年度 新たな臨床研修制度について ③ 卒後臨床研修評価機構 受審について ④ 医師臨床研修マッチング 中間発表について ⑤ レジナビFair オンラインについて
2021年3月3日	第3回 ① 平成31年卒研修医の評価等について ② 令和2年卒研修医評価について ③ マッチング結果について ④ 研修医アンケートについて ⑤ 卒後臨床研修プログラム 変更について ⑥ 令和3年卒1年次研修医ローテートについて ⑦ 令和2年卒2年次研修医ローテートについて ⑧ 令和3年度 オリエンテーションについて ⑨ 令和3年度 委員会等予定について

20-1. 研修医評価委員会

【未開催】

21. 研修管理委員会

日付	内容等
2020年7月22日	2020年度第1回 ① 院長あいさつ ② 卒後臨床研修センター長あいさつ ③ 研修医リーダーによる研修状況説明 ④ 平成30年卒研修医(修了者)指導環境評価について ⑤ 平成31年卒 研修医(研修医2年次)について ⑥ 新たな臨床研修制度について ⑦ 令和2年卒 研修医(研修医1年次)について ⑧ 院内病院説明会について(報告) ⑨ 令和3年度採用 初期臨床研修医選考について ⑩ 令和2年度 研修管理委員会 委員名簿について ⑪ 令和2年度 研修管理委員会開催日程について
2020年11月11日	第2回 ① 院長あいさつ ② 研修医による研修状況説明 ③ 平成31年卒 研修医(研修医2年次)について ④ 令和2年卒 研修医(研修医1年次)について ⑤ 新たな臨床研修制度 各診療科での研修について ⑥ 卒後臨床研修評価機構 受審について ⑦ 令和3年度採用初期臨床研修医 マッチング結果について ⑧ レジナビFair オンラインについて
2021年3月10日	第3回 ① 院長あいさつ ② 研修医リーダーによる研修状況説明 ③ 平成31年卒研修医の評価等について ④ 令和2年卒研修医評価について ⑤ 令和3年度 当院の研修理念と基本方針について ⑥ 卒後臨床研修プログラム 変更について ⑦ 令和3年度卒1年次研修医ローテートについて ⑧ 令和2年度卒2年次研修医ローテートについて ⑨ 令和3年度 オリエンテーションについて ⑩ 令和3年度 委員会等予定について

22. 安全衛生委員会 (労働安全)

日付	内容等
2020年4月23日	2020年度第1回 ① 令和2年度市民病院安全衛生管理体制について ② 4月の実施状況について ③ 5月の実施目標について ④ 令和元年度事業及び活動報告 ⑤ 令和2年度市民病院交通事故削減目標について ⑥ 長時間勤務対策報告書 ⑦ 新型コロナウイルスへの対応について ⑧ その他(交通事故等発生状況等)

2020年5月28日	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 5月の実施状況について ② 6月の実施目標について ③ 令和元年度事業及び活動報告 ④ 長時間勤務状況 ⑤ 令和元年度豊橋市民病院交通安全目標について ⑥ 「交通安全標語」募集について ⑦ その他(交通事故等発生状況等)
2020年6月25日	<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 6月の実施状況について ② 7月の実施目標について ③ 「交通安全に関する標語」優秀作品の選考について ④ 令和元年度1回目 労働基準監督署への報告書について ⑤ ストレスチェックの集団結果の共有範囲について ⑥ 交通安全キャンペーンの実施について ⑦ 長時間勤務状況 ⑧ その他(交通事故等発生状況等)
2020年7月30日	<p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 7月の実施状況について ② 8月の実施目標について ③ 院内インフルエンザワクチン接種対象者について ④ ストレスチェック検査の実施について ⑤ 長時間勤務対策報告書について ⑥ 令和2年度レクリエーションについて ⑦ その他(交通事故等発生状況等)
2020年8月27日	<p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 8月の実施状況について ② 9月の実施目標について ③ ストレスチェック関係について ④ 院内インフルエンザ接種の日程追加について ⑤ 新型コロナウイルスワクチン接種について ⑥ 人間ドッグ置き換えの周知について ⑦ 長時間勤務の対策案の共有 ⑧ その他(交通事故等発生状況等)
2020年9月24日	<p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 9月の実施状況について ② 10月の実施目標について ③ 4種抗体価の通知について ④ 交通安全講座の実施について ⑤ 長時間勤務の対策案の共有 ⑥ その他(交通事故等発生状況等)

2020年10月22日	<p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 10月の実施状況について ② 11月の実施目標について ③ 作業環境測定結果報告について ④ 長時間勤務の対策報告書について ⑤ 長時間勤務の対策の提案について ⑥ 労安開催時間の変更について ⑦ 院内レクリエーションについて ⑧ その他(交通事故等発生状況等)
2020年11月26日	<p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 11月の実施状況について ② 12月の実施目標について ③ 労安の実施時間の変更について ④ 巡視・中央臨床検査室のロッカールームについて ⑤ ワクチン接種時の副反応について ⑥ 長時間勤務が月100時間を超える医師への面談について ⑦ 長時間勤務の状況共有について ⑧ ストレスチェック後の所属長研修とコンサルティングの実施について ⑨ 院内健診の法定項目の不足について ⑩ その他(交通事故等発生状況等)
2020年12月24日	<p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 12月の実施状況について ② 1月の実施目標について ③ ストレスチェック後のコンサルティングの実施について ④ 令和2年度ワクチン事業について ⑤ 院内職員健診の見直しについて ⑥ 令和2年度インフルエンザワクチンの接種報告 ⑦ 長時間勤務対策報告書など共有 ⑧ その他(交通事故等発生状況等)
2021年1月28日	<p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1月の実施状況について ② 2月の実施目標について ③ 結核感染調査のための血液検査実施状況 ④ 新型コロナウイルスワクチンの希望状況と接種計画の共有 ⑤ 職員健康診断の外部委託にした際の見積もり結果 ⑥ 令和元年度2回目 労働基準監督署への報告について ⑦ 長時間勤務者の対策報告書等共有 ⑧ 交通安全キャンペーンの途中経過について ⑨ その他(交通事故等発生状況等)
2021年2月25日	<p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2月の実施状況について ② 3月の実施目標について ③ 新型コロナウイルスワクチンの状況報告 ④ 長時間勤務者の対策報告書等共有 ⑤ 交通安全キャンペーンの結果について ⑥ 来年度健康講座の検討について ⑦ 院内職員健診の省略対象の変更について ⑧ その他(交通事故等発生状況等)

2021年3月25日	<p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 3月の実施状況について ② 4月の実施目標について ③ 令和3年度市民病院安全衛生委員会年間計画について ④ 長時間勤務者の対策報告書等共有 ⑤ 令和3年度ストレスチェックに関して ⑥ 職員健診後の保健師面談について ⑦ 令和3年度ワクチン接種について ⑧ その他(交通事故等発生状況等)
------------	---

23. 教育・研究委員会

【未開催】

24. 省エネルギー推進委員会

【未開催】

25. 情報セキュリティ委員会

日 付	内容等
2020年6月22日	<p>2020年度第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 今年度の事業実施内容及びスケジュールについて 情報セキュリティ職員研修の実施 情報セキュリティ内部監査の実施 その他事業の実施 ② 情報セキュリティインシデント等の発生状況について
2020年12月7日	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 情報セキュリティ研修(管理者向け) ② 令和2年度情報セキュリティ内部監査の実施について ③ 新規導入システム等のセキュリティ運用について ④ 情報セキュリティ研修(全職員対象)の受講状況について ⑤ 疑似メール送付訓練の実施状況について ⑥ 不審電話への対応について(非通知電話拒否)
2021年3月15日	<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 情報セキュリティポリシー対策基準及び手順書の改正について ② 情報セキュリティマネジメントの実施について(来年度目標の設定) ③ 情報セキュリティ研修(自己点検)及び疑似メール訓練の結果について ④ 内部監査の結果について ⑤ 来年度の予定について ⑥ 情報セキュリティ研修(全職員向け)自己点検確認シートのデジタル化について

25-1. 研修医評価委員会

日付	内容等
2020年5月29日	2020年度第1回 ① 部会の目的について ② 情報セキュリティマネジメントの実施方法 ③ アクシデント等の発生状況と再発防止策の有効性を検討 ④ 会議体の開催スケジュール
2020年7月17日	第2回 ① 第一回部会の宿題確認 ② アクシデントの発生状況と再発防止策の有効性を検討 ③ インシデントの発生状況と再発防止策の有効性を検討
2020年9月18日	第3回 ① 前回(第二回)の宿題確認 ② アクシデント等の発生状況と再発防止策の有効性を検討 ③ 患者情報誤渡しの対応策についての提案
2020年11月20日	第4回 ① 前回(第二回)の宿題確認 ② アクシデント等の発生状況と再発防止策の有効性を検討 ③ アクシデント・インシデント発生件数推移の共有
2021年2月19日	第5回 ① 前回(第二回)の宿題確認 ② アクシデント等の発生状況と再発防止策の有効性を検討

26. 医療情報委員会

日付	内容等
2020年6月18日	2020年度第1回 ① 令和2年度における情報システム開発改修関連事業一覧 ② 院内グループウェアのハードウェア更新について ③ 院内グループウェアのネットワークについて ④ ホームページのリニューアル計画について
2020年8月28日	第2回 ① 来年度予算要求について
2020年12月18日	第3回 ① 行政手続等における押印の見直しについて ② 調剤支援システム改修業務について ③ 豊橋市民病院ホームページリニューアル業務の方向性について ④ オンライン資格確認システムの導入について

27. 診療記録管理委員会

日付	内容等
2020年4月24日	2020年度第1回 ① 令和2年度 診療記録監査実施方針、監査項目及び実施計画について ② 「豊橋市民病院 説明と同意に関する記載についての手順書」の新規制定について ③ 「豊橋市民病院診療記録に関する記載規約」の改定について ④ 紹介状作成画面のテンプレートの変更について
2020年7月17日	第2回 ① 令和2年度 第2回診療記録監査 実施計画について ② 令和2年度 第1回診療記録監査 結果報告について ③ 紹介状作成画面テンプレートの変更について
2020年11月17日	第3回 ① 「豊橋市民病院診療記録に関する記載規約」の改定について ② 退院時サマリの2週間以内記載の徹底について ③ 院内紹介の宛先指定表示方法の変更について
2021年1月29日	第4回 ① 令和2年度第2回診療記録監査結果報告について ② 令和2年度診療記録監査結果総括について ③ 令和3年度診療記録監査実施計画及び実施方針について ④ 診療記録監査実施要綱の見直しについて

28. がん診療委員会

日付	内容等
2020年10月29日	第12回 ① 地域がん診療連携拠点病院の指定更新について ② 各部会からの取り組み報告について がん登録部会、教育部会、化学療法部会、緩和ケア・相談支援部会、がん地域連携パス部会 ③ がん診療委員会要綱改訂について ④ 地域がん診療連携拠点病院の要件確認について ⑤ 薬物療法に関するレジメン審査の委員会取り扱いについて

28-1. がん登録部会

【未開催】

28-2. 教育部会

日付	内容等
2021年3月23日	令和2年度 第1回 ① 令和元年度・2年度の豊橋がん診療フォーラム開催状況について ② 令和3年度の豊橋がん診療フォーラム開催について 開催テーマ・担当診療科の決定、開催準備等

令和2年度 豊橋がん診療フォーラム

日付	内容等
2020年12月4日	第73回 参加人数 46人 ① がん患者の精神症状のケア ② 地域と病院をつなぐACP 緩和ケアチームの事例報告

28-3. 化学療法部会

日付	内容等
2020年5月13日	2020年度第1回 ① 前回議事録の確認 ② 外来治療センター 治療実績 月別集計表 外来治療センター 曜日別集計表 外来治療センター 希望日以外の予約件数 外来治療センター 1日平均治療件数 外来治療センター 月別治療件数 外来治療センター 時間外オーダー一覧表 外来治療センター 化学療法患者数 抗がん剤調製本数推移 ③ PDCAサイクル(B型肝炎再活性化への対策) ④ 時間外オーダー入力件数(外来処方) 締切り後のオーダー入力件数(入院処方) 入院化学療法予定患者のオーダー入力状況 ⑤ その他 外来治療センター当番医の設定 免疫チェックポイント阻害剤投与情報表示の機能強化について 代務医師のレジメンオーダーにおける「調剤確定」の取扱いについて 豊橋市民病院がん診療委員会化学療法部会設置要綱

2020年7月8日	<p>第2回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② 外来治療センター 治療実績 月別集計表 外来治療センター 曜日別集計表 外来治療センター 希望日以外の予約件数 外来治療センター 1日平均治療件数 外来治療センター 月別治療件数 外来治療センター 時間外オーダー一覧表 外来治療センター 化学療法患者数 抗がん剤調製本数推移</p> <p>③ PDCAサイクル(B型肝炎再活性化への対策)</p> <p>④ 時間外オーダー入力件数(外来処方) 締切り後のオーダー入力件数(入院処方) 入院化学療法予定患者のオーダー入力状況</p> <p>⑤ その他 レジメンオーダーDo登録時の設定について 外来治療センター当番医について</p>
2020年9月9日	<p>第3回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② 外来治療センター 治療実績 月別集計表 外来治療センター 曜日別集計表 外来治療センター 希望日以外の予約件数 外来治療センター 1日平均治療件数 外来治療センター 月別治療件数 外来治療センター 時間外オーダー一覧表 外来治療センター 化学療法患者数 抗がん剤調製本数推移</p> <p>③ PDCAサイクル(B型肝炎再活性化への対策)</p> <p>④ 時間外オーダー入力件数(外来処方) 締切り後のオーダー入力件数(入院処方) 入院化学療法予定患者のオーダー入力状況</p>
2020年11月11日	<p>第4回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② 外来治療センター 治療実績 月別集計表 外来治療センター 曜日別集計表 外来治療センター 希望日以外の予約件数 外来治療センター 1日平均治療件数 外来治療センター 月別治療件数 外来治療センター 時間外オーダー一覧表 外来治療センター 化学療法患者数 抗がん剤調製本数推移</p> <p>③ PDCAサイクル(B型肝炎再活性化への対策)</p> <p>④ 時間外オーダー入力件数(外来処方) 締切り後のオーダー入力件数(入院処方) 入院化学療法予定患者のオーダー入力状況</p> <p>⑤ その他 連携充実加算について</p>

2021年1月13日	<p>第5回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② 外来治療センター 治療実績 月別集計表 外来治療センター 曜日別集計表 外来治療センター 希望日以外の予約件数 外来治療センター 1日平均治療件数 外来治療センター 月別治療件数 外来治療センター 時間外オーダー一覧表 外来治療センター 化学療法患者数 抗がん剤調製本数推移</p> <p>③ PDCAサイクル(B型肝炎再活性化への対策)</p> <p>④ 時間外オーダー入力件数(外来処方) 締切り後のオーダー入力件数(入院処方) 入院化学療法予定患者のオーダー入力状況</p> <p>⑤ その他 レジメンオーダー時のお願い 当日診療後の注射抗がん剤調製依頼の徹底について 免疫チェックポイント阻害薬(ICI)診療フローチャート</p>
2021年3月10日	<p>第6回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② 外来治療センター 治療実績 月別集計表 外来治療センター 曜日別集計表 外来治療センター 希望日以外の予約件数 外来治療センター 1日平均治療件数 外来治療センター 月別治療件数 外来治療センター 時間外オーダー一覧表 外来治療センター 化学療法患者数 抗がん剤調製本数推移</p> <p>③ PDCAサイクル(B型肝炎再活性化への対策)</p> <p>④ 時間外オーダー入力件数(外来処方) 締切り後のオーダー入力件数(入院処方) 入院化学療法予定患者のオーダー入力状況</p> <p>⑤ その他 薬物療法(レジメン)オーダーの投与量計算式追加について 連携充実加算の算定に向けて</p>

28-4. 緩和ケア・相談支援部会

日付	内容等
2020年9月1日	<p>2020年度第1回</p> <p>① 昨年度の実績について (1) 緩和ケアチームの実績 (2) オピオイドの使用状況 (3) がんサロン及びピアサポートの実績</p> <p>② 緩和ケアチームによるACP推進活動について</p>

29. 保険診療委員会・DPCコーディング委員会

日付	内容等
2020年5月20日	第157回 ① 前回議事録の確認について ② 査定の状況について ③ その他 (返戻事例):不適切病名 (査定事例)入退院支援加算1の算定 オプジーポ(免疫チェックポイント阻害剤)投薬開始前のスクリーニング検査 (連絡文書)薬剤の適用について 令和元年度 退院患者包括/出来高比較推移 ④ DPCコーディング委員会 DPCコーディング事例報告について
2020年7月20日	第158回 ① 前回議事録の確認について ② 査定の状況について ③ その他 血液型検査について (査定事例)血液型検査の査定 (査定事例)注入器用注射針加算の査定 令和2年度 退院患者包括/出来高比較推移 ④ DPCコーディング委員会 DPCコーディング事例報告について
2020年9月16日	第159回 ① 前回議事録の確認について ② 査定の状況について ③ その他 (返戻事例)傷病名と詳記の不一致による手術手技の変更 免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎再活性化対策におけるHBV-DNA定量の実施 診療情報提供料Ⅲについて 令和2年度 退院患者包括/出来高比較推移 ④ DPCコーディング委員会 DPCコーディング事例報告について
2020年11月18日	第160回 ① 前回議事録の確認について ② 査定の状況について ③ その他 (返戻事例)PET-CT実施について (返戻事例)麻酔のない創傷処理の算定について 救急医療管理加算1,2の算定もれを防ぐために！！ 令和2年度 退院患者包括/出来高比較推移 ④ DPCコーディング委員会 DPCコーディング事例報告について

2021年1月20日	<p>第161回</p> <p>① 前回議事録の確認について</p> <p>② 査定の状況について</p> <p>③ その他 (返戻事例)医療機器安全管理料2(放射線治療計画)について (査定実例)病名不備によるPET-CTの査定 救急医療管理加算1、2の算定及び査定状況 最近の特定共同指導 令和2年度 退院患者包括／出来高比較推移</p> <p>④ DPCコーディング委員会 DPCコーディング事例報告について</p>
2021年3月17日	<p>第162回</p> <p>① 前回議事録の確認について</p> <p>② 査定の状況について</p> <p>③ その他 【返戻実例】「○○腫瘍」の病名について 部位不明・詳細不明病名について 救急医療管理加算について 令和2年度 退院患者包括／出来高比較推移 レセプト未請求件数・点数一覧表 第2回保険診療に関する講習会の案内</p> <p>④ DPCコーディング委員会 DPCコーディング事例報告について</p>

30. クリニカル・パス委員会

日付	内容等
2020年6月26日	<p>第26回</p> <p>① 令和2年度 事業計画について</p> <p>② 一般外科の新規クリニカルパスについて</p> <p>③ クリニカルパスの手順書について</p> <p>④ クリニカルパス(消化器内科)の見直しについて</p> <p>⑤ クリニカルパス(循環器内科)の見直しについて</p> <p>⑥ その他</p>
2020年10月20日	<p>第27回</p> <p>① 手順書作成作業部会の設置について</p> <p>② クリニカルパスの見直し結果について</p> <p>③ その他 クリニカルパスの整理状況について(報告)</p>
2021年1月22日	<p>第28回</p> <p>① クリニカルパス(皮膚科)の修正案について</p> <p>② クリニカルパス(循環器内科)の見直しについて アブレーション 計2件</p> <p>③ その他</p>
2021年3月12日	<p>第29回</p> <p>① クリニカルパス作成及び運用手順書について</p> <p>② その他</p>
2021年3月26日	<p>第30回</p> <p>① クリニカルパスの審査について</p> <p>② その他 クリニカルパス見直し状況(報告)</p>

31. 健康診断事業運営委員会

【未開催】

32. 患者総合支援センター運営委員会

【未開催】

33. 虐待対策委員会

日付	内容等
2020年5月28日	2020年度第1回 ① 虐待対策委員会 委員について ② 令和元年度実績について ③ 高齢者虐待セミナーについて
2021年3月18日	第2回 ① 虐待対応の実績について ② 高齢者虐待対策セミナーについて ③ 次年度の予定について

33-1. 児童虐待専門部会

日付	内容等
2020年11月13日	2020年度第1回 ① 令和2年度委員について ② 令和2年度児童部会虐待通告について ③ 当院の虐待対策に関する取り組みについて ④ その他(小児の頭部外傷に関する小児科学会の見解について)

33-2. 成人虐待専門部会

日付	内容等
2020年10月22日	2020年度第1回 ① 令和2年度成人部会虐待通告について ② 外来主任会での周知の報告 ③ 令和2年度虐待対策委員会セミナー中止について

34. 退院調整検討委員会

病棟ラウンド 24回開催

35. 呼吸療法運営委員会

日付	内容等
2020年7月15日	第19回 ① 前回議事録の確認 ② 今年度の委員会名簿について ③ RST活動のまとめ ④ 人工呼吸器使用状況からの報告 ⑤ 呼吸ケアチーム加算算定実績について ⑥ その他 気管切開術後早期管理マニュアル 等
2021年3月11日	第20回 ① 前回議事録の確認 ② RST活動のまとめ ③ 人工呼吸器使用状況からの報告 ④ 呼吸ケアチーム加算算定実績について ⑤ その他

36. 医療安全管理委員会・リスクマネジメント部会

日付	内容等
2020年4月2日	2020年度第1回 ① 令和2年度委員会委員について ② 令和2年2月分インシデント報告について ③ 令和2年度年間計画について ④ 医療安全管理の動向について ⑤ その他
2020年5月14日	第2回 ① 令和2年3月分インシデント報告について ② 令和元年度インシデント年間集計について ③ 令和2年度医療安全重点目標について ④ 医療安全管理の動向について ⑤ その他
2020年6月4日	第3回 ① 令和2年4月分インシデント報告について ② 医療安全管理の動向について ③ その他
2020年7月2日	第4回 ① 令和2年5月分インシデント報告について ② 医療安全管理の動向について ③ その他
2020年8月13日	第5回 ① 令和2年6月分インシデント報告について ② 医療安全管理の動向について ③ その他

2020年9月3日	第6回 ①令和2年7月分インシデント報告について ②医療安全管理の動向について ③内部監査について ④その他
2020年10月1日	第7回 ①令和2年8月分インシデント報告について ②医療安全管理の動向について ③その他
2020年11月5日	第8回 ①令和2年9月分インシデント報告について ②医療安全管理の動向について ③その他
2020年12月3日	第9回 ①令和2年10月分インシデント報告について ②医療安全管理の動向について ③その他
2021年1月7日	第10回 ①令和2年11月分インシデント報告について ②医療安全管理の動向について ③その他
2021年2月4日	第11回 ①令和2年12月分インシデント報告について ②医療安全管理の動向について ③その他
2021年3月4日	第12回 ①令和3年1月分インシデント報告について ②医療安全管理の動向について ③その他

医療安全に関する講習会の実施

日付	内容等	受講者数
2020年6月15日	リスクマネジメント講習会 「処方薬・麻薬」	83名
2020年6月22日	リスクマネジメント講習会 「注射薬・抗がん薬」	72名
2020年8月24日	リスクマネジメント講習会 「院内の電源設備・ライフライン」	30名
2020年8月25日	リスクマネジメント講習会 「院内の電源設備・ライフライン」	46名
2020年10月9日	第1回医療安全講習会 「ヒューマンエラー」	160名
2020年10月16日	リスクマネジメント講習会 「MRIに潜む危険性・医療放射線研修」	173名
2020年10月29日	リスクマネジメント講習会 「MRIに潜む危険性・医療放射線研修」	158名

2021年1月19日	第2回医療安全講習会 「今、当院で何が起きているか!？」	83名
2021年1月27日	第2回医療安全講習会 「今、当院で何が起きているか!？」	46名
2021年2月5日	第2回医療安全講習会 「今、当院で何が起きているか!？」	41名

37. 医療機器安全管理委員会・透析機器安全管理部会

日付	内容等
2021年3月5日	第12回 医療機器安全管理委員会 ① 令和2年度医療機器保守実施報告 ② 令和2年度医療機器研修実施報告 ③ 令和2年度AED使用状況報告 ④ 令和3年度医療機器研修・保守管理計画案について ⑤ 単回使用機器の再滅菌申請件数確認 ⑥ 令和2年度PMDA報告事例 ⑦ その他
2020年9月9日	第17回透析機器安全管理部会(血液浄化センター) ① 令和2年度水質管理、細菌検査報告(令和2年度上半期) ② 令和2年度透析機器管理報告 ③ その他
2021年3月26日	第18回透析機器安全管理部会(血液浄化センター) ① 令和2年度水質管理・細菌検査報告(令和2年度下半期) ② 令和2年度水質管理に関する予定報告(令和3年度計画) ③ 令和2年度透析機器管理報告 更新対象機器報告 ④ 令和3年度更新機器更新計画 ⑤ その他

38. 栄養管理委員会

日付	内容等
2020年6月30日	第33回 ① 令和2年度栄養管理委員会名簿について ② 令和元年度食事アンケートの結果について ③ 病院給食改善会議、検討項目集計について ④ その他:栄養指導実績について
2021年2月3日	第34回 ① 令和2年度患者満足度調査(入院中の食事)の結果について ② 令和2年度食事アンケート調査について ③ 病院給食改善会議、検討項目集計について ⑤ 栄養指導について ⑥ その他:医師の検査実施件数及び所見記載件数について

39. 栄養サポートチーム（NST）運営委員会

日付	内容等
2020年6月17日	第39回 ① 令和2年度NST運営委員会名簿について ② 令和元年度NST活動実績について ③ 栄養管理計画書について ④ 栄養サポートチーム加算について ⑤ 令和元年度NST教育カリキュラムの実施について ⑥ NST年間計画について
2021年3月3日	第40回 ① 栄養管理計画書について ② 栄養サポートチーム加算について

40. 褥瘡対策委員会

日付	内容等
2020年6月24日	第38回 ① 前回議事録の確認 ② 今年度の運営要綱について ③ 昨年度の活動状況について ④ 今年度の活動計画 ⑤ その他
2021年2月10日	第39回 ① 前回議事録の確認 ② 今年度の褥瘡発生・治療の実績 ③ 褥瘡対策チーム活動のまとめ ④ その他

41. 薬事委員会

日付	内容等
2020年5月27日	2020年度第1回 ① 前回議事録について報告 ② 採用薬品5品目について審議 ③ 試用薬品7品目について審議 ④ 院外専用薬品2品目について審議 ⑤ 継続審議薬品1品目について審議 ⑥ 変更薬品について ⑦ 削除薬品について ⑧ その他

2020年6月24日	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 試用薬品8品目について審議 ③ 院外専用薬品1品目について審議 ④ 継続審議薬品1品目について審議 ⑤ 後発医薬品への変更について審議 ⑥ 変更薬品について ⑦ 削除薬品について ⑧ その他
2020年8月26日	<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 採用薬品5品目について審議 ③ 試用薬品16品目について審議 ④ 後発医薬品への変更について審議 ⑤ 変更薬品について ⑥ 削除薬品について ⑦ その他
2020年9月30日	<p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 採用薬品3品目について審議 ③ 試用薬品9品目について審議 ④ 院外専用薬品2品目について審議 ⑤ 変更薬品について ⑥ 削除薬品について ⑦ その他
2020年11月25日	<p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 採用薬品15品目について審議 ③ 試用薬品9品目について審議 ④ 院外専用薬品2品目について審議 ⑤ 後発医薬品への変更について審議 ⑥ 変更薬品について ⑦ 削除薬品について ⑧ その他
2021年1月27日	<p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 採用薬品15品目について審議 ③ 試用薬品7品目について審議 ④ 院外専用薬品3品目について審議 ⑤ 後発医薬品への変更について審議 ⑥ 変更薬品について ⑦ 科指定変更薬品について ⑧ 削除薬品について ⑨ その他

2021年2月24日	<p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 採用薬品9品目について審議 ③ 試用薬品5品目について審議 ④ 院外専用薬品1品目について審議 ⑤ 変更薬品について ⑥ 削除薬品について ⑦ その他
2021年3月24日	<p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 試用薬品2品目について審議 ③ 採用区分変更薬品について ④ 変更薬品について ⑤ 削除薬品について ⑥ その他

42. 治験審査委員会

日 付	内容等
2020年5月27日	<p>2020年度第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 初回審議 ③ 安全性に係る報告 ④ 重篤な有害事象に関する報告 ⑤ 治験実施計画の変更 ⑥ 治験実施状況の報告 ⑦ 治験迅速審査の報告 ⑧ 開発中止の報告 ⑨ 製造販売後調査迅速審査の報告(12件) ⑩ その他
2020年6月24日	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 初回審議 ③ 安全性に係る報告 ④ 重篤な有害事象に関する報告 ⑤ 治験実施計画の変更 ⑥ 治験実施状況の報告 ⑦ その他
2020年8月26日	<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 初回審議 ③ 安全性に係る報告 ④ 重篤な有害事象に関する報告 ⑤ 治験実施計画の変更 ⑥ 治験実施状況の報告 ⑦ 治験終了の報告 ⑧ 製造販売後調査迅速審査の報告(16件)

2020年9月30日	<p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 初回審議 ③ 安全性に係る報告 ④ 重篤な有害事象に関する報告 ⑤ 治験実施計画の変更 ⑥ 治験実施状況の報告 ⑦ 治験終了の報告 ⑧ 開発中止の報告 ⑨ 製造販売後調査迅速審査の報告(6件)
2020年11月25日	<p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 初回審議 ③ 安全性に係る報告 ④ 重篤な有害事象に関する報告 ⑤ 治験実施計画の変更 ⑥ 治験実施状況の報告 ⑦ 治験終了の報告 ⑧ 開発中止の報告 ⑨ 製造販売後調査迅速審査の報告(12件)
2021年1月27日	<p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 初回審議 ③ 安全性に係る報告 ④ 重篤な有害事象に関する報告 ⑤ 治験実施計画の変更 ⑥ 開発中止の報告 ⑦ 製造販売後調査迅速審査の報告(6件) ⑧ その他
2021年2月24日	<p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 安全性に係る報告 ③ 治験実施計画の変更 ④ 治験実施状況の報告 ⑤ 治験終了の報告 ⑥ 製造販売後調査迅速審査の報告(12件) ⑦ 重篤な有害事象に関する報告 ⑧ その他
2021年3月24日	<p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録について報告 ② 安全性に係る報告 ③ 重篤な有害事象に関する報告 ④ 治験実施計画の変更 ⑤ 治験実施状況の報告 ⑥ 製造販売後調査迅速審査の報告(12件) ⑦ その他

43. 輸血療法委員会

日付	内容等
2020年4月21日	第154回 ① 前回議事録の確認 ② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管理料 ③ 輸血関連査定：令和元年11、12月、令和2年1月 ④ 廃棄率集計 ⑤ 輸血副作用集計報告 ⑥ 製剤の大量使用・ノークロス依頼事例およびクリオプレシピテート使用状況 期間：令和2年1日～令和2年3月31日 ⑦ 迅速フィブリノゲン測定について ⑧ 大型連休中の血液製剤供給体制 ⑨ その他
2020年6月16日	第155回 ① 前回議事録の確認 ② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管理料 ③ 輸血関連査定：令和2年2月分 ④ 廃棄率集計 ⑤ 輸血副作用集計 ⑥ 製剤の大量使用・ノークロス依頼事例およびクリオプレシピテート使用状況 期間：令和2年4月1日～令和2年5月31日 ⑦ 迅速フィブリノゲン測定延期について ⑧ 「輸血療法の実施に関する指針」の改正について ⑨ 輸血療法院内監査について ⑩ その他
2020年8月18日	第156回 ① 前回議事録の確認 ② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管理料 ③ 輸血関連査定：令和2年3月、4月 ④ 廃棄率集計 ⑤ 輸血副作用集計 ⑥ 製剤の大量使用・ノークロス依頼事例およびクリオプレシピテート使用状況 期間：令和2年6月1日～令和2年7月31日 ⑦ 輸血療法院内監査報告 ⑧ 輸血後感染症検査について ⑨ 輸血前検体保存について ⑩ 輸血療法実施規約の改定について ⑪ 輸血療法同意書の改定について ⑫ その他
2020年10月20日	第157回 ① 前回議事録の確認 ② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管理料 ③ 輸血関連査定：令和2年5月、6月、7月分 ④ 廃棄率集計 ⑤ 輸血副作用集計 ⑥ 製剤の大量使用・ノークロス依頼事例およびクリオプレシピテート使用状況 期間：令和2年8月1日～令和2年9月30日 ⑦ 輸血療法実施規約の改定について ⑧ その他

2020年12月15日	<p>第158回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録の確認 ② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管理料 ③ 輸血関連査定:令和2年8月、9月分 ④ 廃棄率集計 ⑤ 輸血副作用集計 ⑥ 輸血関連急性肺障害 (TRALI) について ⑦ 製剤の大量使用・ノークロス依頼事例およびクリオプレシピテート使用状況 期間:令和2年10月1日～令和2年11月30日 ⑧ 輸血療法実施規約等について ⑨ 使用済み血液製剤バッグの返却について ⑩ 2020年度 第2回輸血療法院内監査について ⑪ 年末年始の血液製剤供給について ⑫ その他
2021年2月16日	<p>第159回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回議事録の確認 ② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管理料 ③ 輸血関連査定:令和2年10月、11月分 ④ 廃棄率集計 ⑤ 輸血副作用集計 ⑥ 製剤の大量使用・ノークロス依頼事例およびクリオプレシピテート使用状況 期間:令和2年12月1日～令和3年1月31日 ⑦ 2020年度 第2回輸血療法院内監査報告 ⑧ 2020年度 臨時輸血療法院内監査について ⑨ 迅速フィブリノゲン測定について ⑩ 委員の変更について ⑪ その他

44. 臨床検査連絡委員会

日付	内容等
2020年8月14日	<p>2020年度第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 定期報告事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 委員名簿 確認 (2) 第48回臨床検査連絡委員会 議事録 (3) 検査実施状況について (4) 令和2年度機器更新について ② 報告および協議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和2年2月ISO15189 定期サーベランス受審 承認を受けた(合格した) (2) 新型コロナウイルスRNA検査(院内PCR)の現状について (3) 採血待ち時間の現状報告と臨床への依頼について (4) APTT(活性化部分トロンボプラスチン時間)の新試薬への変更について (5) ALP・LD測定法変更について (6) その他各科からの要望

45. 剖検・CPC委員会

日付	内容等
2020年11月24日	2020年度第1回 ① 前回の議事録の確認 ② 新委員会メンバーについて ③ 令和元年度解剖数について ④ 剖検結果連絡の現状について ⑤ CPCの運用について ⑥ その他

46. 放射線技術室連絡委員会

日付	内容等
2020年8月5日	第27回 ① 令和2年度放射線連絡委員会について ② 救命3番CT装置の更新について ③ 医療放射線管理委員会より職員研修について

47. リハビリテーションセンター運営委員会

日付	内容等
2020年9月18日	2020年度第1回 ① 西病棟6階にて病棟ADL加算取得(理学療法士1名の専従)を目指す ② COVID19患者のリハビリテーションは適応基準にのっとり実施している ③ 合同カンファレンスの記録もれが多く入力に関する啓蒙を図る

48. 臨床工学室連絡委員会

日付	内容等
2021年3月26日	2020年度第1回 ① 令和2年度臨床工学室連絡委員会委員確認 ② 令和3年度臨床工学室連絡委員会名簿(案)の確認 ③ 臨床工学室実績報告 令和2年4月～令和3年2月実績 ④ 令和2年度医療機器の更新報告 ⑤ 令和3年度医療機器更新(予定)について ⑥ 令和3年度新規事業について ⑦ その他

49. 放射線安全委員会

日付	内容等
2020年6月30日	2020年度第1回 ① 令和2年度放射線安全委員会について ② 令和元年度放射線業務従事者の教育訓練、健康診断の実施報告 ③ 令和元年度管理状況報告書について ④ 令和元年度特定放射性同位元素の所持に係る報告書(線源登録制度)について ⑤ 放射線障害の防止に関する業務の改善について ⑥ 放射線障害措置計画の一部変更について ⑦ 定期検査、定期確認について ⑧ その他

50. PET診療放射線安全委員会

日付	内容等
2020年6月30日	2020年度第1回 ① PET業務従事者の被ばく線量と安全管理について ② その他

51. 特定放射性同位元素防護委員会

日付	内容等
2020年6月30日	2020年度第1回 ① 令和2年度特定放射性同位元素防護委員会について ② 特定放射性同位元素防護委員会運用規則について ③ 令和元年度防護従事者の教育訓練について ④ 特定放射性同位元素の防止に関する業務の改善について ⑤ 特定放射性同位元素に係る緊急時対応手順書一部変更について

52. 医療ガス安全・管理委員会

日付	内容等
2021年3月10日	2020年度第1回 ① 令和2年度医療ガス設備保守点検の結果について ② 液化酸素ガスの保有数量の状況について ③ 医療ガス工事に関する工事について ④ 令和3年度委員及び実施責任者の選任について ⑤ その他

53. 豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

【V診療業務概要、活動報告 患者総合支援センターに記載】

54. 地域医療支援委員会

日付	内容等
2020年5月26日	2020年度第1回(書面会議) ① 地域医療支援病院の取り組み状況について 令和元年度紹介率逆紹介率の状況 令和元年度の地域連携登録医の状況 令和元年度の地域連携登録医による共同利用等の状況 令和元年度の地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修実績 令和2年度地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修計画
2020年8月13日	第2回 ① 地域医療支援病院の取り組み状況について 令和2年度紹介率・逆紹介率の状況 令和2年度の地域連携登録医の状況 令和2年度の地域連携登録医による共同利用等の状況 令和2年度の研修実績計画について ② 豊橋市民病院からの情報提供事項について ③ その他
2020年11月12日	第3回 ① 地域医療支援病院の取り組み状況について 令和2年度紹介率逆紹介率の状況 令和2年度の地域連携登録医の状況 令和2年度の地域連携登録医による共同利用等の状況 令和2年度の研修実績計画について ② 豊橋市民病院からの情報提供事項について ③ その他
2021年2月18日	第4回 ① 地域医療支援病院の取り組み状況について 令和2年度紹介率逆紹介率の状況 令和2年度の地域連携登録医の状況 令和2年度の地域連携登録医による共同利用等の状況 令和2年度の研修実績計画について ② 豊橋市民病院からの情報提供事項について ③ その他 次年度委員の選出及び委員会開催日程について

54-1. 共同利用運営委員会

【未開催】

54-2. 地域医療従事者研修委員会

【未開催】

55. 総合周産期母子医療センター運営委員会

日付	内容等
2020年4月24日	2020年度第1回 ① 委員会設置要綱及び委員名簿(案) ② 2019年度総合周産期母子医療センター活動状況 ③ 症例検討 ④ その他(パースセンター症例)
2020年8月28日	第2回 ① 2020年4月～7月度総合周産期母子医療センター活動状況 ② 症例検討 ③ その他(パースセンター症例、産後ケア入院対象者(宿泊型))
2020年12月11日	第3回 ① 2020年4月～10月度総合周産期母子医療センター活動状況 ② 症例検討 ③ その他(パースセンター症例、産後ケア入院対象者(宿泊型))

56. 認知症対策委員会

日付	内容等
2020年5月19日	2020年度第1回 ① 認知症対策委員会と認知症サポートチームのメンバー変更について ② 年間事業計画(案)について ③ 認知症サポートチームラウンド実績について ④ 令和2年度診療報酬改定について ⑤ その他
2020年8月18日	第1回 認知症研修会 テーマ:「認知症ケアについて～非薬物的ケアを中心に～」 講師:こころのケア科部長 古水克明先生
2020年10月20日	第2回 ① 第2回認知症研修会について ② 認知症サポートチームラウンド実績について ③ せん妄ハイリスク患者ケア加算に向けた進捗状況について
2020年11月6日	第2回 認知症研修会 テーマ:「ユマニチュアを学ぶ」 講師:公立大学法人富山県立大学看護学部講師 青柳寿弥先生
2021年3月25日	第3回 認知症研修会 テーマ:「いわゆる不穏のタイジ術 ～認知症の人を病棟・地域で支えるために～」 講師:おいまつクリニック院長 山崎孝浩先生

57. 臓器提供運営委員会

日付	内容等
2020年6月23日	2020年度第1回 ① ポテンシャルドナーの事例報告 ② 「脳死判定シミュレーション」アンケート結果について
2020年9月15日	第2回 ① ポテンシャルドナーの事例報告
2020年12月22日	第3回 ① 愛知県施設内移植情報担当者会議の状況報告 ② ポテンシャルドナーの事例報告 ③ 臓器提供が行われる際の新型コロナウイルス感染症への対応について
2021年3月26日	第4回 ① 愛知県施設内移植情報担当者会議の状況報告 ② ポテンシャルドナーの事例報告 ③ 臓器提供が行われる際の新型コロナウイルス感染症への対応について

58. ハラスメント防止対策委員会

日付	内容等
2021年3月19日	2020年度第1回 ① パワハラについて ② 防止対策として何ができるか

59. 糖尿病対策委員会

日付	内容等
2020年10月30日	第8回 ① 運営要領及び名簿 ② 前回議事録の確認 ③ 糖尿病予防チームからの活動報告 ④ 糖尿病教育チームからの活動報告 ⑤ 糖尿病イベントについて ⑥ インスリンシステムについて

60. 血液浄化センター運営委員会

日付	内容等
2021年2月19日	2020年度第1回 ① 血液浄化センター実績報告 ② その他

61. 施設基準管理委員会

日 付	内容等
2020年7月17日	第5回 ① 施設基準管理委員会設置要綱及び今年度の名簿の確認 ② 前回(第4回)議事録の確認について ③ 令和2年度の施設基準届出状況について ・施設基準届出状況<7/1現在の一覧表> ・基本診療料リスト ・特掲診療料リスト ・令和2年度【新規】 ④ 施設基準の点検の状況について ・各部局による点検結果等(R2.4~6月) ・適時調査実施要領等 ⑤ その他
2021年3月26日	第6回 ① 前回(第5回)議事録の確認について ② 施設基準届出状況について ・施設基準届出状況<3/1現在の一覧表> ・基本診療料リスト ・特掲診療料リスト ・令和2年度 新規施設基準届出状況 及び 今後の予定 ③ 施設基準の点検の状況について ・各部局による点検結果等 ・施設基準にかかる年間実績報告 ・適時調査実施要領等 ④ その他

62. ゲノム診療委員会

【未開催】

編集後記

第30巻となった病院年報ですが、内容を見ますと新型コロナウイルス感染症の影響が至る所に表れたものとなりました。

今巻は特に、数値や記録だけでは見えてこない、新型コロナウイルス感染症への対応に奮闘する職員の苦労や想いも凝縮されたものになったのではないのでしょうか。

東京オリンピック・パラリンピックの延期など、これまでに経験したことのない出来事が続き、未だ感染症の脅威が払拭されず、様々な面で我慢も強いられる状況ではありますが、この戦いから、学んだことや変化したことを業務に生かし、職員が一丸となって病院運営に取り組んでいけたらと思います。

(編集委員 管理課課長補佐 宮下 卓也)

編集委員

区 分	職 名	氏 名
委 員 長	副院長 兼感染症管理センター長 兼卒後臨床研修センター長	小 山 典 久
編 集 委 員	消化器内科第一部長	松 原 浩
編 集 委 員	糖尿病・内分泌内科部長	山 守 育 雄
編 集 委 員	一般外科第三部長 兼卒後臨床研修センター副センター長 兼専門医研修センター副センター長	青 葉 太 郎
編 集 委 員	麻酔科第三部長 兼卒後臨床研修センター副センター長	中 田 純
編 集 委 員	産婦人科第三部長 兼女性内視鏡外科部長 兼シミュレーション研修センター副センター長	梅 村 康 太
編 集 委 員	放射線技術室主査	寺 部 充 昭
編 集 委 員	中央臨床検査室室長補佐	山 本 恵 子
編 集 委 員	薬局次長補佐	佐 藤 勝 紀
編 集 委 員	看護局管理科長	上 野 厚 子
編 集 委 員	管理課課長補佐	宮 下 卓 也
編 集 委 員	医療情報課主査	倉 知 弥 生
編 集 委 員	医事課課長補佐	佐 藤 秀 信

事 務 局	医療情報課情報管理グループ	小 島 早 智
事 務 局	医療情報課情報管理グループ	小 林 喜 代 美

豊橋市民愛市憲章

わたくしたち豊橋市民は

1. 心をあわせ美しい町をつくりましょう
1. よく働き豊かな町をつくりましょう
1. 愛情をもちあたたかい町をつくりましょう
1. きまりを守り明るい町をつくりましょう
1. 教養をたかめ文化の町をつくりましょう

病院年報 第30巻

令和3年（2021）年□月発刊

発 刊

豊橋市民病院

〒441-8570

豊橋市青竹町字八間西50番地

TEL (0532) 33-6111 (代表) FAX (0532) 33-6177

編 集

豊橋市民病院年報編集委員会

印 刷

共和印刷株式会社



豊 橋 市 民 病 院

〒441-8570 豊橋市青竹町字八間西50番地

TEL 〈0532〉 33-6111

FAX 〈0532〉 33-6177

インターネットホームページ

<https://www.municipal-hospital.toyohashi.aichi.jp>